

AK—12の禁止リスト 連載版

一ノ瀬0512

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

AK-12の禁止リストからのショートストーリー化です。

何故かグリフィンS13地区に着任したブライ○博士みたいなAK-12お姉さんのお話。

1話完結型です。

ネタあり、百合有り、キャラ崩壊あり、ギャグあり、シリアスなし、頭いいシーン一切なし！

0-2や8-11n周回をしながら読んでみてください。

3 / 5 各話タイトルを人形名から変更しました。

ベースはこれ『AK-112の禁止リスト』

<http://syosetu.org/novel/216990/>

クロスのネタ元はここ『SCP財団』

<http://scp-jp.wikidot.com/>

目次

AK—12の禁止リスト 連載版 プロ

ログ 1

第一話 コルトSAA「AK—12はコルトSAAに対してコーラを使つたいかなる食物もあたえてはいけません」

4

第二話 G41「丸めた新聞紙やおなかを撫でることでG41を飼いならすことができる」と新任指揮官に教えることもです」

18

第三話 HK416「HK416に×ゲームのような引き分けが最適解のゲー

ムを挑む事は禁止されました。HK416が引き分けを認めるまでに3週間を要しました」

42

第四話 ゲパードM1「崩壊液で遊ぶべきではありません」

52

第五話 UMP45「UMP45に対して豊胸手術を施すことは無意味です」

84

第六話 リー・エンフィールド「リー・エンフィールドに指揮官のランチを作ってもらうのは恐ろしいアイデアです。試食を任されたウエルロッドのメンタルが崩壊しました」

97

第七話 P90 「0.1% P90など予

想していなかっただろうというのは事実

です。作者の基地にP90は着任してい

ません」 107

第八話 AN-94 「AK-12は何処

ぞの王でもありません。女王様でもあり

ません」 113

第九話 ガリル 「双子妖精は娯楽や生殖

目的に使われるべきではありません」

123

第十話 TMP 「現在大型人形製造機を

使って触手モンスターを作ることは可能

ですが許可されていません」 136

第十一話 TAC-50 「戦術人形レズ

ポルノの市場はありません」 145

第十二話 M590 「M590のシヨツ

トガンの弾の中身を彼女自身のパンツ、

紙吹雪、おがくず、性的潤滑剤で詰め替え

るべきではありません」 189

第十三話 M16A1 「HK416のア

サルトライフルをM4A1と取り替える

べきではありません」 196

第十四話 ステンMK-III 「支援部隊

はボスを倒すのがめんどくさくなった時

代わりに倒してくれる部隊ではありません

ん」 208

第十五話 VP70 「AK—12は18

歳未満のいかなる指揮官とも接触しては

いけません。彼らがAK—12と会わせ

てくださいと願ってもです」—— 220

第十六話 MP7 「AK—12がAN—

94のステータス強化のために増幅カプ

セルを利用することはいかなる申請で

あつても却下されます」—— 233

第十七話 IDW 「IDWは猫ではあり

ません。よろしくおねがいします」

254

第十八話 UMP9 「AK—12がUM

P9と家族になりそうな人物の取引をす

ることは許可されていません」—— 262

第十九話 M1895 MOD 「AK—

12に記憶の欠片を提供するのはやめて

ください。カーリーナのノートPCを最後

の犠牲者としてください」—— 269

第二十話 FN FNC 「FNCのお菓

子を勝手に持つていくのはやめてくださ

い」—— 285

AK—12の禁止リスト プロローグ

二十話 キャラクター設定 —— 293

第二十一話 M82A1 「目を閉じてい

ても見えているとの言葉を言い訳に使っ

てはダメです」—— 305

第二十二話 F A L 「服装規定に違反し

いけません」

384

てはいけません。カジュアルフライデー
だとしてもです」

322

第二十三話 S A F 「指揮官が二度とす

ません」

395

るなど言っているのはあなたをマインド
コントロールしたいからではありません
ん」

363

第二十四話 K L I N 様 「A K — 1 2 は

可されていません」

403

K L I N を休みが取れないカリーナに護
衛として配備してはいけません」

第二十八話 9 A — 9 1 「報告の締め
に指揮官の部屋の盗撮写真を添付しては
いけません」

418

第二十五話 R F B 「データルームの未

第二十九話 A — 9 1 「A K — 1 2 がヘ

来的なデスクをゲーム目的で使用しては

リアントス上級代行官の合コンの数合わ

せに行くことは禁止されています」

426

第三十話 K5 「金装備ピックアップは金装備が出やすくなるピックアップではありません」

434

第三十一話 コルトSAA MOD 「コルトSAAにサツカー選手とジャンケンをさせてはいけません」

450

第三十二話 一〇〇式「一〇〇は適切に運用されるべきです。しかし彼女に日本のゲイポルノ真夏の夜の淫夢を見せてはいけないってのはつきりわかんだね」

478

第三十三話 89式「AK-12は朝遅れそうだからと言って基地の時計をハッキングして時間をいじってはいけません」

488

第三十四話 P90「AK-12の眼は直死の魔眼ではありません。銃で撃つて物を壊しても眼の効果じゃなく銃弾の威力です」

502

第三十五話 四式「AK-12はクルーガー社長×指揮官のBL同人誌をカフェの本棚に置いてはいけません」

520

第三十六話 スプリングフィールド「AK-12がスプリングフィールドを口説

くことは許可されていません。そっちはすでに別のキャラとのカップリングが定着しているからです」—— 540

第三十七話 M4 SOPMOD II
「AK—12がSOPMOD II Jrに近づくことはどのような理由があっても許可されていません。去年何をしたか忘れてるのか？」—— 551

第三十八話 AN—94 「AK—12はAK—15、RPK—16と交流する」とはまだ許可されていません」—— 561
第三十九話 グリズリー「道を間違えた時、さて・・・どこへ行こうかしら、ネッ

トは広大だわ。と某少佐の台詞でごまかしてはいけません」—— 568

第四十話 PPK「戦術人形乱交パーティーが行われた事は決してありません。そのようなイベントを覚えていると主張する人形はAK—12に記憶を書き換えられた可能性があります」—— 574

AK—12の禁止リスト 二十一話〜四十話 キャラクター設定 —— 582
AK—12の禁止リスト 第四十一話
デザートイーグル「AK—12が戦術人形を総動員して実際の作戦をドラマ化してNet Olixで配信することは認め

「られていません」



AK-12の禁止リスト 連載版 プロローグ

2061年11月21日、グリフィンS13地区。この地区に一体の戦術人形が着任した。鉄血の襲撃が頻繁に起こる地区ならば新しい戦術人形の配備は喜ぶべきことであるがこの地区は激戦区ではない。治安も悪くなく人形の数も足りている。

そもそも指揮官は新しい戦術人形の配備の要請をしていない。それなのにヘリアントス上級代行官からエリート人形を送ると連絡があったのである。ちなみに連絡があったのは今日の朝。

戦術人形はもう向かって昼にはこちらに到着するとのことだ。

副官の戦術人形に掃除を命じてもできるわけがないので慌てて空いている宿舎を手配し、余っている家具を運び込んだ。エリート人形は好待遇じゃないといけないのである。

午後2時。予定より1時間遅れでその戦術人形が来た。

しかしその戦術人形の見た目は異様なものに乗ってきた。バイクや車でも自転車でもない。一部地域で鹵獲した鉄血人形を乗り回している人形がいると聞いたことがあ

るがそうでもない。

人形に乗ってきたのである。

乗り物になつてきているのは銀髪にヘアバンドをつけた人形。背中に鞍をつけられ、口にはボールギャグだろうか？何らかのものはめられ声が出ないようにされている。

チラリとだが猫のしっぽのようなものが見える。馬なのか猫なのか。そもそもあれは尻にいられてあるのだろうか。

乗っている方も異様だ。ライフルを肩にかけSMの女王様みたいな服装をしている。そして何故か目を閉じている。居眠り運転だろうか。この2体だけならSMショーなのだが場所はグリフィン基地正面玄関で今は真昼間だ。

昨日飲んだアルコール飲料にトンプソンが何かを入れていたのだろうかと指揮官が顎に手を当て考え出したときそんな指揮官の考えを読んだのか、目を閉じている人形が口を開いた

「指揮官の目は正常よ。AK—12ただいま着任したわ。どこまで興味をそそられるか、ちよつと期待してみるわ」

幻覚剤を仕込まれていなかったことを喜ぶべきなのか、目の前の光景が事実なことに嘆くべきなのか。軍の非正規戦闘部隊で使われている人形が何故グリフィンのこの基地に着任したのか等本来疑問に思わなければいけないことなど頭からすっぽり抜け落

ちながらも指揮官はAK-12ともう一人の人形の着任を受け入れた。

ここからこのクールで強くて美しい完璧な人形と指揮官の物語が始まる。
所で乗り物にしている人形はいったい誰なのだろうか。

おまけ

指揮官と一緒にいた戦術人形は乗り物の人形の鞍から何か紙が落ちたことに気づく。
なんだろうと思いついて拾い上げるとそれにはこう書いてあった。

AK-12の禁止リスト

第一話 コルトSAA「AK—12はコルトSAAに対してコーラを使つたいかなる食物もあたえてはいけません」

グリフィンS13支部。特徴がないのが特徴の地区である。

この地区の特徴のない基地の特徴のない食堂の朝を覗いてみよう。

食堂に一人の戦術人形がやってきた。彼女の目には隈ができ、肌はボロボロである。まるで徹夜で鉄血人形と戦ってきたかのような有様である。

そんな彼女の名前はコルトSAA。ピースメーカーともいわれ西部開拓時代で使用され現在でも生産が続く、45LC弾を使用するシングルアクションリボルバーの戦術人形である。

彼女はメニューを開き食事を注文する「ねえ、コーラはあるの?」

食堂の自律人形は「コーラハアリマセン」と答える。それでも粘って聞き続けるが食堂の自律人形は「コーラハアリマセン」と答える。この自律人形には大したAIは搭載されていない。SAAは諦めコーヒーとモーニングCセットを注文する。

数分後モーニングCセットが来た。

合成トーストに合成目玉焼きとこんがり焼いた合成肉ソーセージ。そしてバイオサラダ。

典型的なモーニングセットである。この時代では典型的なのである。

話がいきなり変わるが皆は目玉焼きに何をかけるのだろうか。ソースや醤油、ウスターソース、塩コショウ。色々ある。ちなみに作者は塩コショウ派だ。成人するまでそれ以外のものを目玉焼きにかけるといふのを知らなかつた。

では彼女は何をかけるのだろうか。彼女はポケットからとある瓶を取り出す。

蓋を開け液体をかける。暖かい目玉焼きが一瞬にして冷め、炭酸がはじける音とか甘い匂いと合成目玉焼きの匂いが融合した食欲を落とす匂いが立ち込める。

彼女はそう、目玉焼きにはコーラをかけるのだ。

その目玉焼きを彼女は美味しそうに食べる。合成トーストや合成ソーセージにもコーラをかける。そしてドリンクのホットコーヒーにもコーラを混ぜる。コーヒーのコーラ割り。人によっては棺桶を担いで踊るガール人達が見えそうな飲み物だ。作者には見えたので読者の皆様にも挑戦してみしてほしい。

そんなどんよりするモーニングを食べているコルトSAA。徹夜明けのような眼の隈はとれ、肌もツヤツヤになつてきている。本当に普通のコーラなのだろうか。ナノマ

シンコーラか何かなのではないか。

そんな悪夢の続きみたいなモーニングを堪能している所に近づく者が一人。

「こら、コルト！あれ程コーラは止めろと言ったのに。そもそも何処で手に入れた!？」

指揮官が近づいてる来る。指揮官は明らかに怒っている。目玉焼きにコーラをかけるのは確かにおかしいがそこまで怒ることだろうか。

「砂糖中毒から人形初の糖尿病になったの忘れたのか！それから失明して新しいボディになつたんだぞ！」

このコルトSAAはどうやら偏食家どころか病的な偏食家らしい。いや、実際に病気になつてる当たり病気の偏食家だろうか。

指揮官が怒りながらコルトSAAからコーラを取り上げようとする。しかし彼女は全力で抵抗する。こうなると指揮官の力ではどうにもならない。小さい女の子に見えても戦術人形、成人男性と同じ程度の力はあるのだ。

指揮官は諦め、何処でコーラを手に入れたか聞く。コルトSAAが糖尿病から失明した後、基地内のコーラは全て廃棄処分したのだ。基地に食料品を納入する業者にもコーラは入れないように言っているし、後方幕僚のカリーナにも言つてある。街の巡回を担当する戦術人形にもコーラは持ち帰らないように言っている。

コルトSAAは白状した。

「AK-12さんから貰ったの」

やはりかと指揮官は思った。あの女の能力なら何処からか基地にコーラを入れることも不可能ではない。指揮官は気が緩んだコルトからコーラを取り上げAK-12の部屋へ向かった。

指揮官がいなくなったコルトSAAはズボンのポケットから予備のコーラを取り出した。あの見た目でさらにコーラ入るスペースがあるのかと疑問に思いながらも、戦術人形とはいえ女の子。そして女の子には秘密が多いのである。

ところ変わってこちらはAK-12の部屋。

何処から調達したのか合成じゃない本物の麦を使ったトーストにこちらも本物の卵。そして本物の豚肉で作られたソーセージ。ウルトラモーターリングCセットと言えるべき内容だ。飲み物はオレンジジュース。このオレンジジュースもちろん本物のオレンジから絞り出した物だ。レーションに入ってるアレではない。

入れてくれるのはミニスカメイド服姿のAN-94。太ももの絶対領域がたまらない。

2060年代とは思えない優雅な朝。そんな素晴らしい朝を過ごしていたが指揮官がノックもせず入ってきた。

指揮官の顔には青筋が浮かんでいる。AK―12には心当たりがあった。

「AN―94にジャパニーズホワイトスクミズを着せて夜中に基地を散歩していた件よね」

「そう！それ！つて違う。コルトSAAにコーラを渡した件だ。何故渡したんだ！コルトSAAのコーラ中毒の件ならしってるだろ！」

一瞬だけ乗せられかかり、それはそれで気になりかけたが学生時代のサトーで培ったワサビのスピリッツでコルトの件を問い詰める。

AK―12はその端正な顔をゆがめることなく、いつも通り目を閉じたまま答える。

「ああ、その事。単に興味深かったからよ。彼女の話は私も聞いたわ。戦術人形がまさかの成人病だなんて。だけど彼女が糖尿病からの失明でボディを新しくしたのは私がくる少し前なのよ」

だから見て見たかったと彼女は答えた。

実に自分勝手な理由である。この戦術人形、様々なことに興味をもち、その高い能力で問題を起こすこともあるのだ。

問題を起こすだけなら即解体処分によければいいだけだが、作戦行動で極めて高い戦果を出すため解体処分もできない。

この間も相棒のAN―94と二人だけで犯罪組織を壊滅させた。本社からも些細な

ことは見逃すように言われている。

コルトSAAはきつと止められない。そのうち厨房の砂糖まで漁りだす。

指揮官は考えた。AK-12に自身にこれ以上コーラをあげられない事を言わせればよいのだ。後ろに自身がいればコルトSAAもAK-12も納得するだろう。

指揮官はAK-12に自身の口からコルトSAAにもうコーラはあげられない事を伝えるようAK-12に命令したらAK-12は素直にしたがった。

そして執務室にコルトSAAを呼び出した。

「コルト、ごめんね、もうコーラは上げられないの」

「うん、分かったよAK-12さん。あたしのせいで指揮官に怒られちゃったよね。ごめんなさい」

AK-12はコルトSAAの頭を撫で彼女に退室するよう即した。コルトSAAは退室していく。

「指揮官、これでいい?」

勝手に退室させた事に文句を言いたいが、サトーで培ったワサビスピリッツで乗り切った。

「ああ、これでいい。コルトSAAには糖分をあげるなよ。退室してよし」

AK-12は敬礼をして退室していった。嫌味のつもりか何かなのか。たまったス

トレスは甘いものを食べて鎮静化させるに限る。指揮官は合成シナモンロールを食べた。そして秘蔵の高級合成サイダーで喉を潤す。

ふと気になり、部屋の片隅にある防犯カメラをみた。一瞬だが誰かに見られているような気がしたのだ。

深夜1時。自室で寝ていた指揮官は目が覚めた。変な夢でも見たのだろうか、物凄い汗をかいている。枕元に置いてあった安物合成サイダーを飲み干した。少し小腹がすいたなど思い冷蔵庫の仲を見渡しても食べ物が入っていない。他の基地の指揮官専属メイドと化しているG36なら食べ物も補充してくれたりもするのだがこの基地のG36は指揮官の事をご主人様と呼ぶものの、人形宿舎の管理人のような形になっている。

G36曰く、この基地全体に仕えているのだとか。遠回しに指揮官の専属メイドではないと言っているのである。

この時間、売店はやっていないが合成エネルギーギーパーの自動販売機はある。エネルギーギーパーという時点で合成じゃないのかとお思いだろうが、食品会社は近未来感を出すために合成とつけたらしい。

自動販売機にたどり着くと先客がいた。暗くてシルエットしか見えないが、小柄な体格からしてハンドガンだろうか。しゃがんで何かをしようとしている。P7が小銭で

も漁っているのだろうか。それとも何かいたずらの仕込みで見しようとしているのだろうか。

他の人形や訪れたグリフィン社員、出入り業者も自動販売機を利用するため本格的ないたずらはまずい。幸い相手はこちらに気づいている様子は無い。後ろから不意打ち気味にで大声で注意すれば仕込みをやめて逃げるだろう。そう思い、指揮官は足音を消し、さらに近づいた。

近づくと人形の姿が見えてきた。P7じゃなくコルトSAAだ。彼女も空腹で何かを買いに来たのだろうか。

コルトSAAは後ろに誰かが近づいてくるのに気づき素早く銃を抜いた。

「おいおい、俺だ。俺だよ」

指揮官は両腕を挙げながらコルトSAAに自分であることを伝えた。それでも彼女は銃を下ろさない。無言で接近したのを怒っているのだろうか。それとも深夜の買い食いを黙ってるとの事だろうか。

他の人形が自販機にいたずらしようとしているかと思いき、それを注意しようとしたこと、コルトSAAが買い食いを使用していたことを言わない事を説明した。

説明はしたのだが、コルトSAAの様子がおかしい。

あれから言いつけを守りコーラを飲んでいないのだろうか。ポロポロの肌にはす

「ごい限。そこはいい。今は禁断症状でそうなっているだけで時期に治ると思う。自分を見る眼付きだ。こちらを見ているのだが、別のものとして認識している気がする。」

人間でいうと寝ぼけているのかもしれないと思いもう一度説明する。

「俺だ、指揮官だ。暗くてよく見えないがしゃがんでたし、P7が小銭漁っているか自販機に悪戯の仕込みをしようとしていると思ってる。それを注意しようと思ってるのを消して近づいたんだ。それにコルトがいたことも言わないよ。夜食を買ってるのを見られて恥ずかしい気持なんか俺にはよく分からないが、女の子にはいろいろあるんだろ。それくらいは分かる。だからな、銃を下ろそう」

指揮官がもう一度説明するもコルトSAAが銃を下ろす様子はない。

コルトSAAはこちらをじっと見ているが、寝ぼけているわけではないのに指揮官を別のものとして認識しているように思える。

もしかしてウイルスか何かで認識を変えられているんだろうか。だとしたら誰か呼ばなければ。

そう思いポケットに手を入れるも携帯端末は部屋に置いたまま。指揮官はゆっくりと後ずさり、タイミングを見計らって逃げようとしたがそれをさっちしたのか、コルトSAAが口を開いた。

「あー、コーラが逃げようとしてる」

指揮官はわけが分からなかったがとりあえずコーラではないと伝えたかったが言えなかった。

コルトSAAが発砲したのだ。銃弾は首に当たり指揮官の首から血が噴き出る。コルトSAAは口を大きくあけながらその返り血を浴びる。

すると目の隈はとれ、肌はツルツルになる。まるでコーラを飲んだかのように。

コルトSAAはそのまま指揮官の首に吸いついた。止血ではない。今の彼女は指揮官をコーラの缶だと認識している。缶に穴が開いて中身がこぼれるともつたいないから吸いついて飲みほそうとしているのだ。

指揮官は残った力でコルトSAAを振りほどこうとしているが当然できるはずがなく、徐々に身体から力が抜けて、そのまま動かなくなつた。

やがて指揮官の心臓も止まり、全ての血液を飲み干したのか、コルトSAAは満足して自室に戻っていった。

数分後、指揮官の死体に近づく影が二つ。

AK-12とAN-94だ。AK-12は自身の好奇心が満たせたのか心なしか満足そうだが、AN-94は指揮官死亡に動揺している。コルトSAAが指揮官に発砲しただけではなく吸血鬼のごとく噛みついて失血多量で死亡させたのだ。それが普通だろう。

「AK—12、コルトSAAは何故こんなことを？朝の件で恨んでいるのなら普通に殺すだけで十分だと思うけど」

AN—94の疑問は当然だ。

「コルトSAAに指揮官を殺したつもりはないわ」

「どういう事だろうか。発砲して嘔みついたのに殺したつもりはない？AK—12の答えがよく分からず、AN—94は首を傾げた。

その仕草が可愛かったのか、AN—94の頭を撫でながら答えた。

「私は昨日正確には一昨日かしら。彼女にコーラをあげたの。戦術人形が重度の砂糖中毒から成人病になるなんて興味深かったからね」

AK—12は何処からか瓶のコーラを出し一口飲んだ。

「彼女は肌がボロボロで目にも隈ができていた。人形にこんなこというのもあれだけど、生気がなかった。なのにコーラをあげたらまるで快速修復契約で快速修復したみたいに治ったのよ。当然市販のコーラで特殊なものなんて何一つ入ってない。他の戦術人形が飲んでも普通の炭酸飲料。今飲んでるのは彼女に挙げたのと同じものよ。AN—94、あなたも飲んでみて」

AN—94に自身が持っているコーラを手渡し飲ませる。AK—12が口を付けたコーラ。

AN-94も飲んでみる。飲み物としては普通のコーラだがAK-12が口を付けたコーラ。どんな高級な飲料より美味しく感じる。AK-12が口を付けたコーラ。AN-94の思考があらぬ方向に脱線しかけたが、AK-12に「ね、普通の炭酸飲料でしょ」と言われ正気に戻る。

「だから私は思ったのよ。彼女はコーラを飲んで身体が修復されるのではなくコーラと認識した物を飲んで身体が修復されているとね」

「次は何を飲ませるか考えてたら指揮官からのあの命令。指揮官は私が彼女にコーラを渡すなどということ。その事を彼女に言えとのこと。だから彼女と会った時、彼女の認識を少しだけ変えたのよ。糖分が切れた状態で見た人間をコーラだと認識するように」

戦術人形の認識の書き換え。それができる人形はいないことはないが、ここまで自然かつ気づかれずにできる人形はいない。やはりAK-12は天才だとAN-94改めて感じた。

「命令には何一つ違反してないわ。流石に発砲したのは予想外だったけれど」

AK-12はクスリと笑ってAN-94の手からコーラをとり残りを一気に飲みほした。

「指揮官はウエゲツップ……」AK-12の口からつぶれた蛙のようなげっぷ音が響き渡る。大量に飲んだからか時間も長く、そして誰もいない廊下な事もあってよく響い

た。知らぬものがこの音を聞けば季節外れの幽霊がでたと思うだろう。

「指揮官はどうしましょうか。その辺に埋めておきましょう。たまに指揮官の脱走つてあるみたいだし、血痕はどうしようかしらつて思ったけどあの子本当に全部飲み干したのね。軍用人形でもできないわよ」

先ほどのゲップをなかつたことにしたいのかやたら饒舌に喋りだす。いつも通りの微笑かと思えば少しだけほがひきつっている。

「薬莢は、あつたわね」薬莢を回収し何故かAN—94に手渡すとパチンと指を鳴らす。すると何処からか土木作業用の自律人形が現れた。この自律人形もハッキングされた物だろう。指揮官だった物の死体を折り畳み袋に入れたことを確認し山で埋めるよう指示をだした。AN—94はそれを見ながら空薬莢を握りしめた。

「指揮官、あなたの事は忘れな『忘れなさいAN—94』わかつた」

自律人形へのルート指示や出入りに関するセキュリティシステムのハッキングが全て終わったのかAK—12は部屋へ戻ろうとする。もう深夜2時半だ。指揮官は死んでも明日も任務がある。そうでなくても夜更かしは体に悪い。睡眠不足は任務にもお肌にも大敵だ。

AN—94は袋のにあいたわずかな隙間から先ほどの空薬莢をいれ、AK—12の後に追従した。

「まって、AK-12」

真つ暗の廊下に残るのは弾痕を見て誰かが何かあったと思うかもしれない。だがすぐに修復され短期間で忘れさられるだろう。

コルトSAAはコーラをたくさん飲むことができ、AK-12はその好奇心を満たすことができた。

第一話 AK-12はコルトSAAに対してコーラを使っていたかなる食物もあたえてはいけません

第二話 G41 「丸めた新聞紙やおなかを撫でることでG41を飼いならすことができる」と新任指揮官に教えることもです」

ここはグリフィンS13支部。特徴がないのが特徴の地区である。

今回の物語は特徴のない正門前から始まる。

この基地の正門前に一人の男がやってきた。真新しいグリフィンの制服を着ている。金髪のショートヘアで青い目。童顔で幼く見える。まるで陰毛は生えたての子供のようだ。

だがグリフィンの制服の制服を着ている以上そんな年齢ではないのだろう。事実この男いや、青年と呼ぼう。

青年は20代前半だ。年齢より幼く見られるを気にしている。だがその容姿でハイスクール時代は年上のガールフレンドもいたし、性格も明るい普通の若者なので友人もいた。どちらかといえばクラスを中心だった。いわゆるリア充というやつである。陰毛が生えたてであつても恋人はできるのだ。死ね。

大学を出て親戚の叔父の伝手でグリフィンの面接を受け、見事指揮官に採用された。数か月の指揮官研修を経て、今日基地に赴任したのである。2020年代日本でいう所の内定者研修を終えて、今日から初出勤のシンソツであろう。希望に目を輝かせているのが初々しい。

両頬をぱちぱちと叩き、気合を入れ、門をくぐった。

特徴のない正門をくぐると左側にグラウンドが見える。右側には人工芝が見える。ベンチやテーブルがいくつもあり、憩いの広場になっていることが容易に想像できるし、この時代にこのような緑を用意することで、グリフィン&クルーガー社の規模の大きさを示すのだ。

芝生には戦術人形だろうか、二人の女性がいる。

ちようどボールを投げると所だ。キャッチボールだろうか。

片方の女性がボールを投げるともう片方の女性が行った。そしてボールを口にくわえて、投げた女性に渡した。

まるで犬のボール遊びだ。女性二人の服装もおかしい

ボールを投げている女性の服は白と淵の部分が緑のノースリーブのテニスウェア。汗をかいているのかうつすら透けて黒の下着が見えている。

胸元が大胆に開いている。テニススカートの下はスパッツを履かずに黒のTバック。アズールレー〇のブレマート〇のテニススキンに近いと言ったらわかるだろうか。もう一人の人形もおかしい。

長袖の体操服に半ズボン。まるでジャパンのジュニアスクールに通う子供の運動着のようだ。ゼッケンには『えーえぬないんふおー』とひらがなで書いてある。そして犬耳としっぽを付けている。耳はカチューシャなのだろうがしっぽの位置が奇妙だ。短パンにつけているのではなく、しっぽがズボンの中から出ている。勘のいい読者ならケツにいられているのかと思うだろうが、この青年は尻尾がどこについているのか分からなかった。

ボールを投げて犬がとってくるのならわかる。この着任一步手前の新人指揮官、実家にいた時は犬と猫を買っていたのでそういうのは詳しい。知育にも運動にも必要だしコミュニケーションにもなる。だが人形同士で何故するのだろうか。

猫も飼っていただけあるのか、この時のスペースキャットのような顔になっていた。そんな指揮官に関係なく近づいてくる人形が一人。

「AK—12さん、AN—94さん、わたしもボール遊びまざっていい?」

この舌足らずな口調はG41である。G41は普段のベビードールみたいな服ではなく何故か白のスクール水着だ。動きやすそうではあるが芝生でボール遊びする服で

はない。

テニスウェアの戦術人形ことAK―12は体操服の戦術人形ことAN―94にG41が投げたボールもキャッチして渡すようにいう。AN―94はうなずく。

G41がボールを投げる。見た目に合わず比較的遠くまで飛ぶ。AN―94はボールの元まで走って口で加えG41に持っていく。

スペースキャットと化していた新人指揮官は正気に戻り、見なかったことにして基地の中に入ってしまった。

指揮官がいなくなった後もボール遊びが続く。AK―12とG41が交代で投げている。投げたボールを拾いに行かせたり、遠くに立たせて投げたボールをキャッチさせている。

AN―94が二人からある程度距離をとった。今度は投げたボールをキャッチするようだ。投手はG41。G41は今までのような投げ方ではなく、ベースボール選手のような投法に変えた。

ボールはすごいスピードで飛んでいきAN―94は慌てて避けた。

流石にこれは当たると怪我をするのでAK―12はG41にやんわりと注意した。

G41は素直で良い子である。自身がやったことが駄目だと理解したのか、耳をぺたんとさせ、AN―94に謝った。

「AN—94さん、ごめんなさい」

AN—94はびっくりしたが怒ってはいないので、G41の頭を撫でて今後は相手が怪我をしない速度で投げるように言った。

場面は変わる。ここはグリフィンの運動場。

先ほどの新任指揮官が着任の挨拶をしている。

新人特有のういしさが人形にも好評をえた。皆、暖かい目線で彼を見ている。

そのまま連絡事項を伝え、集会は終了し解散する。

執務室に戻った指揮官は一息ついた。緊張したけどなんとかだった。

次は副官との顔合わせだ。そう思い電話で副官を呼び出そうとしたらドアがノックされた。

「ごっごっ」

指揮官が答えると呼び出そうとした副官の人形ともう一人の人形が入ってきた。

副官の人形はAK—12。それとおまけでAN—94。グリフィン本社で自身の副官になる人形についておおまかな事は聞いていた。AK—12はいつも目を閉じているが、特殊な視覚モジュールで戦闘時には役立つが日常では見えすぎて不便だから。後、AN—94を常に連れて歩いていると。

副官でないAN—94がいるのはどうかと思ったが、ここは思考を柔軟にして副官が

二人いると思うことにした。芝生での光景は意識しないことにする。

「私はAK-12、こっちはAN-94。新しい指揮官、ちよつと期待しているわ」

二人そろつて敬礼し、指揮官ももう一度挨拶した。

「先ほども言った通り、私は新人だから色々至らないこともあるだろうが、よろしく頼む」

柔らかな笑みを浮かべたAK-12は「成長を楽しみにしているわ」と言った。

そのまま執務に関する話をし、書類仕事に入った。

書類仕事の内容は研修で習ったのと大して変わらないが量が多い。研修所の講師から鉄血の対処をするより書類の対処の方が多いと聞かされていたが予想以上だ。

午前中の分を終えたころには13時になっていた。

指揮官もだが、彼女たちもお昼を食べる時間などなかった。指揮官は彼女たちを昼食に誘う。

支払いは指揮官持ちだとも伝える。

作者と違いタダ飯につられる彼女たちではないが、指揮官の好意をありがたく受け取ることにしたようだ。

「カレー食べてもいいのよね？」

「おかわりもあるぞ」

食堂に行き、3人そろってカレーを食べる。AK―12は指揮官についていろいろ聞く。

子供のころは何処に住んでいたのか、動物を飼っていたのかとか、学歴はどうだとか、恋人はどうかとか、童貞なのかとか。最後の質問に指揮官はカレーを鼻から吹きかけますが、普通に答えていく。ちなみに童貞ではないらしい。

昼間で素面の状態で下ネタ話はきついのだろう、指揮官は自分は動物好きだと話を逸らす。自分が飼っていた犬や猫の自慢。携帯端末に入れた犬や猫の写真を見せる。可愛い犬や猫の写真に素直に顔をほころばせるAK―12とAN―94。そのまま動画を見せていると誰かがやってきた。

「何をみてるの?」

ケモミミをびくびくさせながらG41がやってきて画面をのぞく。

「G41、まずは指揮官にあいさつしなさい」

「初めましてご主人様。G41です。あいさつできましたよ。褒めて褒めてっ!」

きちんと挨拶できた彼女を指揮官は褒めて頭を撫でる。つられてAK―12とAN―94もG41の頭を撫でる。

指揮官は動画の内容について説明し4人で動画を見る。

「可愛い犬と猫だね。私とどっちが可愛いかな?」

笑いだす指揮官たち。冗談のように聞こえるが、G41は本気で疑問に思っているよ
うだ。

「君もこの犬と猫もどっちも可愛いよ。比較なんてできない」

G41の頭をなでながら指揮官はそう言った。

気が付くと結構な時間がたち、カレーがぬるくなっていたので、4人は慌てて食べ執
務室に戻っていった。

カレーの下りで毒ガス訓練が始まりAK-12がカレーを喉に詰まらせて死ぬシー
ンを期待した読者には申し訳ないが、毒ガス訓練は始まらない。

執務室で書類仕事の続きをしていると本部から連絡が来た。隣の地区から追われた
鉄血がこの地区の街はずれの廃墟に逃げ込んだそうだ。逃げた鉄血人形の数は少数で
新人指揮官の部隊でも仕留められるとのこと。

指揮官は所属している戦術人形で現在動ける者の中からスコープオン、TMP、G4
1。そしてここにいるAK-12とAN-94を選んだ。隊長はAK-12で副隊長
はAN-94だ。

スコープオンとTMPはこの廃墟近くで任務を行ったことがあり、AK-12とAN
-94は火力要因かつベテランだ。G41に関しては資料の備考欄に今が一番成長し

やすい時期と書いてあったので選んだ。ベテランだけに頼るのではなく成長過程の人形とともに歩む事で成長していきたい。

指揮官はスコープオン、TMP、G41を呼び出し、任務の説明をする。

説明を終えたところで皆は装備保管庫に銃以外の装備品を取りに行くため退室する。

何故かAK-12は出て行かない。任務に関して何かあるのだろうか。

「指揮官、G41は元々愛玩人形として作られたわ。丸めた新聞紙を玩具代わりにして遊んだりお腹を撫でると犬みたいな反応して飼いならせるわよ」

唐突になんだろうか。おそらく指揮官が緊張していることを読み取ったのだろう。彼女なりのジョークに違いない。

指揮官はAK-12のジョークに「それはいいことを聞いた。新聞を買っておこう」と返した。

指揮官の肩の力が抜けたのが分かったのか、単純に言いたいことを言い終わったのか、AK-12も皆の後を追った。

戦闘そのものはすぐに終わった。事前情報通り鉄血人形の数は多くなく、部隊は弾薬

を少し消耗しただけで負傷は一切しなかった。

そんな編成で大丈夫か?と思う皆さん、作者は実際に試してみても大丈夫だった。皆さんもこの編成で試してみることをお勧めする。

・・・ 戦場にて ・・・

鉄血は全て処理し終えたメンバーは帰りのヘリが車でその場で休憩していた。

人形たちの話題は新人指揮官である。

若くてかっこいいとか、伸びしろがありそうとか好意的な意見が多い。

「そういうえば、G41、指揮官はあなたに興味を持ってたわよ」

そういわれたG41は首をかしげる。特に興味を持たれることをした覚えはない。

「指揮官って、ちっさな子が好きなの?」

スコープオンが少し引き気味に尋ねる。

「違うわよ。犬みたいだって。指揮官って実家で犬と猫飼ってて動物好きらしいわ。お昼の時見た動画もあれ全部指揮官の実家で飼っていた犬と猫よ」

全員どこか納得した表情を浮かべる。確かにG41は小動物みたいな所がある。

迎えのヘリが着て部隊は基地に帰投した。

指揮官の記念すべき初実戦はS勝利である。

指揮官は基地に戻った皆を出迎えた。そしてカリーナの売店で買った天然サイダーを皆にふるまい乾杯した。

簡単な任務とはいえ、実戦は実戦だ。指揮官はすごい嬉しいらしい。

皆にもその喜びが通じたのか、自然と笑顔になる。

配属初日に実戦とか、どうなることかと思つたが、上手くやれそうだ。

・・・よつかご・・・

指揮官は人工芝の椅子に座り合成缶コーヒを飲みながら新聞を読んでいた。仕事をさぼっているわけではない、単純に今日は日曜日なのである。

こんな時代なので物騒なニュースが多いが、いいニュースもある。ベルギーのとある企業クローンチワワの繁殖に成功したそうだ。ベルギーを応援する意味でもワツフルを買おう。

そんなご機嫌な青年に近づくと影が一人。

「ご主人様、何読んでるの？」

G41だ。芝生に出て日向ぼっこをしようとしたら、指揮官を見つけたので声をかけたようだ。

「ご主人様って俺の事か？」

「ご主人様はご主人様だよ」

指揮官の事をご主人様とG41は呼ぶ。指揮官もそのことを理解したらしい。話の腰をおるのもなんなのでそのままにしようと。

新聞記事のベルギーの企業がクローンチワワの繁殖に成功したニュースを読んでい
たことを話した。

そのまま指揮官は犬が好きで、犬を飼っていたこと、グリフィンでもペットが飼える
というのも志望動機の一つだと話した。

指揮官はあることを思いついた「そうだ、G41、ボール遊びしないか」

G41も犬っぽいし、こないだ妙なボール遊びをしていたし、コミュニケーションが
てらG41と遊んでみよう。AK-12が言っていたようにそのまま新聞紙を玩具代
わりにして遊んだり、犬みたいにお腹撫でたりもしてみたい。

「うん、いいよ」

彼女が同意する言葉を聞き、新聞を折り畳んだ指揮官は今更ながらボールを持ってき
ていないことに気が付いた。

「悪い、G41、部屋からボールを取ってくるからここで待っていてくれないか」

「えー、せっかくならご主人様のお部屋見てみたい」

男の部屋など見ても何が面白いのか分からないが、それ以前に休日に部下を部屋に連れて行って大丈夫なのか。

悩んでいるとG41がうるうる目で「だめ？」と聞いてきた。

小さい子にこんな表情をされると断り辛く、ボールだけ取ってすぐここに戻ってきたらしいだろうと考えた。

「別に面白いものなんてないぞ。しかもまだ荷ほどき全部終わったわけじゃないし」

それでも楽しみだとG41はいう。そして指揮官の手をとって、反対方向に走り出す。

「G41、俺の部屋はこっちだよ」

そう指摘されたG41は頭にこぶしをコツンとあてて、片目を閉じてテヘツというような表情をしてペロつとしたを出した。2020年代のジャパンでいうてへぺろで有る。実際可愛い。

「じゃあご主人様がG41の手を引っ張ってください」

そう言われ指揮官はG41の手を引っ張り自室に向かう。ペットというより、親戚の女の子を連れて歩いている気分だ。

自室についた。鍵を開け、G41も中に入れる。

「ここが俺の部屋だ。別段これといって変わった物なんてないぞ」

そう言つてクローゼットの中を探し始めた。

G41が何も言わないのは見物しているのだろうか。本当に普通の部屋なのだが……別の引き出しを開けようとしたとき、股間を強烈な何かで潰されたような痛みを感じた。

そして誰かに蹴られて脚が折れる音。倒れた指揮官は声を上げようとしたが、その前に頭を殴られ気絶してしまった。

「うん、気絶したね」

指揮官を後ろから不意打ちしたのはG41だ。彼女の脚は金属製の義足で人間の脚など容易くへし折ってしまう。そして戦術人形の身体能力で頭を殴れば殴られた側は容易に意識を失う。

彼女はそのまま指揮官を担ぎ上げ、ボール遊びをするため指揮官を何処かに持つて行つてしまった。

……すうじゅつぶんご……

指揮官は何もない部屋で目を覚ました。ここは基地の空き部屋だろうか。

こちらを覗き込む者がいる。G 4 1だ。

「あつ、ご主人様、目を覚ました。わたし頑張つてここまで運んできたんだよ。撫でて撫でて」

G 4 1本人は普段と変わらないが指揮官にそこまでの余裕があるはずがない。折れた脚は痛むし、人形が指揮官に危害を食えるなど異常事態だ。

助けに行こうにも彼女がいかしてくれとは思えない。指揮官はG 4 1に何故こんな事をしたのか理由を尋ねた。

「何故、こんなことを。殴られるようなことをした覚えはないんだが」

「何つて、ボール遊びをするんでしょ。誘つたのはご主人様だよ」

何を当たり前のことを言っているんだらうと首をかしげるG 4 1。彼女は元は民生用だったはずだ。人間に危害を加えるはずがない。

彼女がこのようなことをするのは民生用だったからだ。ここから彼女の過去を振り返ってみよう。

G 4 1は元は民生用人形として作られたんじゃない。その時の名前はあるがここではG 4 1としよう。愛玩用として作られ、買われた先は富裕層向けのS Mクラブじゃった。

金持ち向けだから一般向けより特殊なニーズにも対応するのじゃ。かなりハードなものにもじゃ。

S Mクラブのオーナーは強そうな女王様じゃなくいたいけな幼女に壊されたいと願うド変態向けのために、G41を調達したのじゃ。こんな幼女に壊されるなんてビクンビクンってやつじゃな。悔しいでも感じちやうのじゃ。

そしてオーナーの女性はG41を可愛がり、丁寧に教育したのじゃ。

従業員の女王様たちもG41の事を娘のようにかわいがり、丁寧に仕事を教えたのじゃ。鞭の使い方、蠟燭の使い方、その他すべての器具の使い方、そして痛みの与え方や・G41専用には、人の身体の壊し方。

そしてオーナーにこう教わったのじゃ。

「G41、私たちは人を叩く側なのよ。そしてあなたの役目は油断した相手を叩いて壊すこと。あなたは徹底的にその役目を守りなさい」

彼女はオーナーの言いつけを徹底的に守った。一般的に見れば奇妙な職業かもしれないが、彼女からしてみれば優しいご主人様じゃ。他の皆も優しい人たちじゃ。

彼女は優しいご主人様の元で金持ちの望み通り身体を壊し、ご主人様に褒められ、従業員たちにも可愛がられる充実した日々をすごしておった。

壊された金持ち男性の中には壊された部分が部分で女性になった物もいるそうじゃ。

そんな日々も長くは続かなかつた。G41の住む街に武装勢力が襲撃してきたのじゃ。武装勢力の規模は大きく、街は壊滅的な被害を受けた。G41は主人と一緒に車で逃げていたところを銃撃され、主人は死亡。G41も重傷をおつたのじゃ。

彼女は誓つた。私とご主人様が叩かれるのなんて間違つている。私とご主人様は叩く側でいなきやいけない。

G41はグリフィン社に応募し、コアを埋め込まれ、戦術人形として生まれ変わったのじゃ。

記憶や経験をもつたままな。指揮権は指揮官にあつて、心から慕うのは最初のご主人様だけじゃ。指揮官をご主人様と呼ぶことは呼ぶがそれだけじゃ。

忠犬っぽいと言われるのもあながち間違つてはおらんの。最初のご主人様の教えを忠実に守っているからじゃ。

過去編終了。G41の忠犬っぷりに全米が涙である。2062年にアメリカ合衆国があるのかは分からないが。

これだけならG41が指揮官に危害を加えることはなかつただろう。ただし指揮官はG41を犬のように扱おうとした。

そしてボール遊びに誘つた。ボール遊びの部分だけなら分からないだろうが、指揮官

がボール遊びをしている自分やAK-12、AN-94の方を見ていたのを気づいていたのである。女性は自身に向けられる視線に敏感なのだ。しかも彼女たちは戦術人形。視線や気配に関しては普通の自立人形以上に敏感になる。でなければ戦場で生き残れない。

この流れでG41は指揮官が犬の役割だと感じ、そしてご主人様に教わった通り、指揮官を油断させ、脚をへし折って気絶させた。

以上が事の顛末なのだが、彼女は指揮官に危害を加えている認識はなく、純粹にボール遊びだと思っている。

ボール遊びをしようと思ったが、G41は指揮官の部屋からボールを持ってくるのを忘れた。そこで彼女は球状の髪留めを外し、投げた。そして指揮官に取ってくるように言う。指揮官はいうことを聞くわけではない。そこで彼女は指揮官のもう片方の脚も折った。

「ぎゃあああああああああああああああああああつー！」

密閉された部屋で叫び声は響く。G41は大声に耳をふさぎながらも「取ってこないとは腕だからね」と言う。

指揮官は這いつくばりなんとかボールの元まで行く。そしてボールを脇でかかえようとしたら、G41に腕を踏まれる。

「犬はボールを口で加えるんだよ」

指揮官は仕方なく口で加えようとするが髪留めは大きくて固く加えられない。加えられず顎で少しずつ押しつけてG41の元まで持っていく。

次は指揮官を部屋の反対側まで行かせた。歩けない指揮官は這いつくばって行く。

「ご主人様ー、今から投げるからキャッチしてね」

割と大きな髪留めを、フリスビーのように指揮官に向かって投げる。指揮官は一生懸命キャッチしようとするができない。ボールが顔面に直撃するも、持っていかなければG41手を折られると思い、顎で押し持っていく。

指揮官は何故ここまでG41に従うのだろうかとお思いだろうか。この指揮官極めて健全な育ちをしてきたゆえに、特殊なことへの耐性がない。冒頭のボール遊びのシーンでスペースキャットみたいな表情になってたのもその証拠だ。

そして若者らしく経験が不足している。そんな指揮官がいきなり『幼女に脚を折られて屈服させられる』という異常な状況に放り込まれた。脚以上に簡単に心は折れた。

G41は髪留めを投げて取ってこさせたり、フリスビーみたいに投げて髪留めをキャッチさせたりするが指揮官は加えて持ってこれない。叩いたり耳をちぎったりしても髪留めを加えない。もしかしてご主人様の口の大きさじゃ無理なのだろうか。しかし代わりの小さい球はない。

そこで彼女は改めて、指揮官を見る。どうやったらボール遊びができるか。せつかく
ご主人様がボール遊びに誘ってくれたのだからやらなければいけない。

悩む彼女は今は亡きご主人様の言葉を思い出した。

「常に相手をよく見るごと」

G41は指揮官を観察した。指揮官は痛みからか、失禁している。そこで彼女は思い
出した。昔も似たようなことしたことがある。

男性器には睾丸がある。そして睾丸は日本語ではキンタマというらしい。そしてキ
ンタマは英語にするとGold ballだ。

彼女は指揮官のズボンとパンツを脱がし、下半身裸にする。もはや指揮官に抵抗する
力は残されていない。

そして股間のの根元をつかんだ。そして玉袋の位置を探り誤ってつぶさないために
位置をずらす。この時少しだけ男性器の根元と玉袋の根元に爪が食い込んでいる。位
置を確認した彼女は力を入れ指をくい込ませ、戦術人形の腕力で指揮官の男性器と玉袋
をまとめて引きちぎった。ぶちぶちと嫌な音がする。

「ああああああああああああああああああああああああああああああああああ
ああああああ」

響く指揮官の叫び声。そして物凄い量の血が飛び散る。

男性器を投げ捨て、指揮官の玉袋から睾丸を二つ取り出した。

「あつたー！前にひきちぎったおじさんのより大きい」

手に着いた血を払い、白目をむいて叫び声すら出せなくなった指揮官の頬を叩き意識を無理やりこちらに向けさせ正気に戻し、投げるから口に加えて取って戻ってくるように言った。このサイズなら指揮官でも口にくわえて戻ってこれる。ボール遊び再開だ。

「それ、取っておいで」

G41は指揮官の玉を投げ、指揮官はそれを口に加えて彼女の所へ持っていく。

「ご主人様、よくできました。撫でてあげるね」

そう言うとG41は指揮官の頭を撫でた。

そこが限界だったのだろう、指揮官はそのまま意識を失った。

彼女は指揮官が疲れて寝てしまったのかと思い、指揮官の背を枕に自分も眠った。

・・・ いちじかんご

眠っているG41に近寄る人形がいる。

「起きなさい、G41。もう夜よ」

AK—12だ。彼女は指揮官とG41を探しに来たらしい。

「うみゆう、AK—12さん？」

可愛らしい声をあげながらG41は起きる。もう夜なのだろうか、お腹が減った寝ぼけた頭で彼女はそう考えた。

そのまま指揮官を起こそうとする。

「ご主人様へ、おきておきてへ」

指揮官を起こそうとするG41にAK—12は告げる。

「指揮官、もう死んでるわよ」

その言葉にG41は驚く。何人かの人間で似たようなことをしたが皆生きていた。生きてたし、何人かは何故かおじさんからおばさんになった。何で指揮官は死んじやつたのだろうか。何か失敗しちゃったのだろうか。耳をぺたんとさせ、G41は落ち込む。

「G41の元に来る人は遊ばれること前提で来てるけど、彼は遊ばれることなんて想定してなかったの。想定で来てる人と出来てない人じゃ耐久性が違うわ」

指揮官は若くて想像力がなかっただけよとG41をフォローする。

「G41、あなたは着実に成長しているわ。見る限り指揮官はかなりの時間動けたのでしよう。このまま注意力や観察力を身に着ければいいだけ。壊し方についてももつと

学ばいいだけよ。あなたに人の壊し方を教えてくれたご主人様のためにもね」

ご主人様の事を出されてたG41は立ち上がり、へこんだ耳をたて、ぐつとポーズをして決意を新たにします。

こんなところで落ち込んではいられない。ご主人様の教え通り私は徹底的に叩く側でなければいけない。

「ありがとう、AK—12さん、私頑張る！」

決意を新たにするG41だが、彼女のお腹から「ぐぐ」と可愛らしい音が鳴る。

クスリと笑うAK—12。

「ならまずシャワーを浴びて服を着替えてきなさい。血が付いたままじゃ食堂には入れないから」

「はい」

そう言つてG41はドアの方に向かう。ドアを開け出ていくときAK—12はこういった。

「今日はハンバーグよ」

AK—12のこの言葉にG41は走つてシャワールームに向かつて行った。

誰もいなくなつた部屋。AK—12が指をパチンと鳴らすと何処からともなくハッキングされた軍用人形が数体現れ現れ、部屋を掃除し、指揮官だった物を死体袋に入れ、

運んで行った。

それを見届けたAK-12も食堂に向かう。

「早く行かないとハンバーグがなくなっちゃうわ」

少女は頼りになる先輩に見守られ、失敗をバネにまた一步成長した。

この経験を糧に鉄血のハイエンドモデルを倒し、窮地に陥った仲間を救うのはまた別の話。

第二話 丸めた新聞紙やおなかを撫でることでG41を飼いならすことができる
と新任指揮官に教えることもです

第三話 HK416 「HK416に○×ゲームのような引き分けが最適解のゲームを挑む事は禁止されました。HK416が引き分けを認めるまでに3週間を要しました」

差出人： 16LAB 研究員????????

宛先： グリフィン&クルーバー社

件名： HK416について
????????????????

私はHK416のアルコール強制摂取案に反対します。彼女のアルコール摂取でできた異世界はこちらにどのような影響を及ぼすか不明です。この前起きた異世界は終焉間近かつ、こちらがデータをサルベージし、戦術人形になった彼女たちは友好的ですが、今後異世界ができ、そこからデータをサルベージして戦術人形として開発した存在が友好的とは限りません。

彼女は今まで通り
??????小隊で特殊作戦に従事させるべきです。

図鑑 No. 065 名前 HK416

銃種 アサルトライフル

収容プロトコル

HK416は普段は収容されていません。?????小隊の一員として特殊作戦に従事しています。?????小隊の隊長の指揮に従い、メンバの????の面倒を見ている事でその異常性は抑えられています。

HK416が収容されるのは以下の状況です。

- ・アルコールを摂取し泥酔状態から12時間以上目を覚まさなくなった時
 - ・挑発に乗り何らかの挑戦をさせられたとき
- 上記二つの時以外は収容の必要はありません。

注意事項

HK416がグリフィン支部の購買でアルコールドリンクを購入しないように気を付けてください。カフェでアルコールドリンクを摂取することも防いでください。万

が一アルコールドリンクを入手した場合、小隊の隊長はノンアルコールドリンクにすり替えてください。

またHK416が挑発に乗らないよう気を付けてください。

説明

HK416は小隊に所属する戦術人形です。仲間の前では喋りますが、それ以外に對しては寡黙です。仲間の前で喋るときは毒舌や皮肉が多いです。しかし、身体能力や反射神経、射撃能力に関しては非常に優れています。

自意識過剰の程度が勘だしく、自身がもつとも戦闘能力の高い完璧な人形だと疑っていません。口癖は「私は完璧よ」です。

また、HKM4と呼ばれることを嫌います。

小隊と比較して自身が所属する小隊が恵まれないと思っており、小隊の人形の一と接するときは激高しやすくなります。

また非常に負けず嫌いです。挑発に乗せられやすいです。

・HK416の異常性その1

HK416がアルコールを摂取し泥酔しそのまま寝てしまった後いかなる手段を用いても12時間以上目を覚まさなかった場合、彼女の意識は異世界に繋がっています。

人形は夢をみないのですが何らかのプログラムエラーにより、夢を見ていると考えられていますが、彼女の目の前で大口徑ライフルを発砲したり、小隊全員がダミーリンクを起動して「HKM4」と叫んでも反応しませんでした。??????

このことから異変を感じた?????が人脈を頼り16LABに相談したところ異常性が発覚しました。

16LABも当初は急性アルコール中毒からのメンタルモデルの異常と考えていましたが、HK416の脳を解析したところ脳内が異世界に繋がっていました。脳内で仮想空間を作成したのではなく、脳が何処かに繋がっていると推測されます。

HK416が繋がっている異世界は16LABの施設で観測できません。

下記はHK416が繋がった異世界の記録です

20??09/17

????がふざけてジャックダニエルを飲ませたことにより異常が発生。

繋がった世界は砂の雨が降り注ぐ世界です。

グリッチシティと呼ばれる街にあるヴァルハラと呼ばれるバーに繋がりました。HK416はそのバーを拠点に世界を探索していました。彼女がその世界にいた日数は現実時間で一週間ほどですが、意識を取り戻した彼女に聞くと三週間ほどだったと言っ

ています。

HK416と深くかわった数名の人格データが何故か残されており、そこから戦術人形として復元しました。復元された戦術人形は現在グリフィンの？支部のバーで働いています。

その他複数の世界と繋がりましたが必ずしも安全な世界ではなかったので異世界接続を目当てに飲酒させることは禁止されました。

・HK416の異常性その2

彼女は負けず嫌いで自意識過剰なせいか、ささいな挑発にも乗りやすいです。

完璧なのに○○ができないの？などというジュニアスクールのような挑発にも乗ってしまいす。

HK416が挑発に乗った例をいくつか記述します

・激辛カレー早食い

・バンジージャンプ

・歯医者

・???とのレズセ?クス

・猫耳魔法少女のコスプレ衣装を着て写真をSNSにアップ

・バレンタインチョコを指揮官に渡す

・ロリータファッションを着て軍の高官が集まるパーティーで歌う

・格闘ゲーム

・オセロ

ここまででは普通ですがこのうち格闘ゲームとオセロで異常性を見せました。

滞在先のグリフィンS13支部でR?Bと格闘ゲームで対戦し敗北しました。

その後しつこくりベンジを申し込み3時間ほど対戦しました。やがてR?Bが長期

間の後方支援に出向きその先にHK416が現れました。

現れたHK416はR?Bに対戦を申し込みました。R?Bは驚きつつも対戦に応じました。

1時間ほど対戦をしHK416が勝ちました。R?Bが横を見るとHK416は消えていました。

HK416はそのことをうつつすら覚えていますが彼女はずっと基地にいたと主張し

ています。

この事がグリフィン社から16LABに連絡が行きました。調査のため、護衛依頼と称して研究所に来てもらいました。また16LABの全職員の安全のため、HK416の対応はグリフィンS13支部指揮官に行なつてらいます。

当初この指揮官は非協力的でした。指揮官の14歳になる娘の隠し撮り写真を見せ、娘の連絡先、指揮官の妻の実家の連絡先を読み上げても非協力的でした。

ですが、指揮官が子供を取り扱っている娼館で14歳の娼婦と性行為に及んでいる写真とビデオを見せたところ協力的になりました。

何故か指揮官についてきた目を閉じている人形の提案で〇×ゲームをすることになりました。引き分けが最適解のゲームですが、HK416にはその説明はしていません。

なお、護衛任務と偽っている性質上、常に続けるわけにはいかず、最初は1日1時間程度です。

指揮官にHK416を挑発してもらい〇×ゲームをしました。HK416は1時間ほど負け続け、仕事に戻っていききました。その夜指揮官の寝室にHK416が現れました。部屋の鍵は閉められたままでした。

就寝中の指揮官を起こし、朝まで〇×ゲームをしました。

翌朝HK416に夜の事を尋ねると、うつすらと覚えているが指揮官の部屋に入った事実は否定しています。

6日ほど観測しましたが結果は同じでした。指揮官の就寝位置を部屋から男性寮のトイレに変更しても突然現れます。臨時につけた監視カメラにもきちんと映っています。映像は偽装された物ではありません。

7日目にはこのゲームは引き分けが最適だとHK416に教え、指揮官の部屋は4畳半の地下室に変更しました。トイレとシャワールームも部屋の中にあります。そして食料に關しても保存食と水を30日分部屋の中に置いています。部屋は完全オフラインで指揮官の所持していた電子機器は全て没収しました。そして指揮官には外に出れないことを告げました。

入り口には軍用人形、戦術人形、最新鋭の装備をした人間の兵士2人とハッキング対策にオンラインに繋がる装備を一切持つてない兵士4人を24時間体制4交代で配備しています。

この措置に指揮官は抗議しましたが、隠し撮りした、指揮官が12歳の娼婦に名門女子高の制服を着せ、性行為に及んでいる映像を見せると抗議を止め隔離に同意しました。

????? 小隊には公表間近の機密事項を見てしまったことにし、自由な移動こそできませんが軍の高官等が滞在する高級ホテルのスイートルーム並みの部屋に1か月滞在してもらうことになりました。食事に関しても高級ホテルに勤務経験を持つシェフが作ります。小さいシャワーではなくヒノキ造りのバスルームがあります。勿論4人では入れる大きさです。ネット環境もゲームで遊べる程度にはあり、その他娯楽品も一通り揃えています。

数日間連続でHK 4 1 6は突然指揮官の部屋に○×ゲームをしに現れました。侵入の予兆は捕らえられませんでした。

そして8時間ほど勝ち続けた後突然消え、滞在していた部屋に戻りました。

翌日の朝には自分の脚で指揮官の部屋に行き○×ゲームをしました。そして勝利と敗北を繰り返しました。

さらに夜間に突如指揮官の枕元に現れました。

突如出現するときはHK 4 1 6はそのことをうつすらとしか覚えていません。

これを2週間ほど繰り返しました。

3週間目になり、彼女自身の実力で自在に引き分けに持ち込めるようになりました。この後HK 4 1 6が突然出現する事態は起こりませんでした。

HK416の完璧を求める性質として、完璧に勝つまで相手に執着すると思われる。またストーカー気質もあるのでしょうか。今回の場合引き分けこそが完璧と理解し、引き分けになった後は完璧と理解し異常性は収束しました。

今後はHK416にゲームを挑むことは禁止されました。

この後、小隊は任務の終了を言い渡しましたが、部屋が快適すぎたのか、一向に退去しませんが、小隊の任務にもこの部屋から向かっています。

今後は一刻も早く研究所から退去してください。

今後は小隊には16LABにある全てのベッドの使用を禁止します。

追記：指揮官に関してです。実験終了後、差し入れと称して記憶消去剤を混ぜたミネラルウォーターを飲ませたところ、保存食による栄養の偏り、ストレス、睡眠不足、体内時間の乱れによる血圧の上昇など複数の原因により心臓発作を起こし亡くなりました。今後記憶消去をする際は対象の健康状態を確認するようガイドラインが定められました。娯館での行為は指揮官の家族には伝えられていません。

第三話 HK416に○×ゲームのような引き分けが最適のゲームを挑む事は禁止されました。HK416が引き分けを認めるまでに3週間を要しました。

第四話 ゲパードM1 「崩壊液で遊ぶべきではありません」

ここはグリフィンS13支部。特徴がないのが特徴の地区である。

今回の物語はこの特徴のない地区の特徴のない基地の特徴のない倉庫から始まる。大事なことなので三回も言った。

一人の戦術人形が物資の搬入をしている。

荒野の探索から前線基地へ帰還し、獲得した物資を倉庫に移し替える。そしてその物資をブラックマーケットで流すため、別の容器に入れ替えるのだ。

ここで一人の少女が物資の入れ替え作業を行っていた。

彼女の名前はゲパードM1、ライフルの戦術人形だ。彼女は今、『荒野の贈り物』と呼ばれる液体を空き瓶に移し替えている。空きビンにはヤサイジユースとかAOJIRUとか、アオイソメカーニバルとか、ケンコウゼツタイホシヨウとか書いてある。

この荒野の贈り物、実際には崩壊液である。崩壊液だが、酸性の液体としてブラックマーケットで流し、必要な物資と交換する。

本来崩壊液はもつと嚴重な封をせねばならないのだが、そんなあからさまに嚴重な措置をしたものなどマーケットを巡回する警備兵に簡単に見つかってしまふ。

だからこそジュースの瓶に移し替えるというカシコイ措置なのだ。ずさんな措置とも言う。

そしてそんなずさんな措置だからか、倉庫の管理もずさんだ。崩壊液の入った瓶の横に本物の野菜ジュースの瓶も置いてある。

気だるげな表情をしながらゲパードが作業をしていると誰か入ってきた。

「よう、ゲパード。精が出るな」

入ってきたのは指揮官だ。指揮官はゲパードにあいさつをしてAOJIRUと書いた瓶を手を取った。

「指揮官その瓶どうするの?」

「飲むんだよ。今夜の隠し芸大会でアオジル1・5リットル瓶一気飲みだ。青汁なんて分かるやついいだろうからPA-15に横でコップ一杯飲ませればいい。PA-15に渡したらヤツはそのまま瓶を持って行っちゃってな」

そうして指揮官は倉庫にAOJIRUの瓶を取りにきた。そのまま指揮官は聞いてもないAOJIRUの説明を始める。なんでも1990年代のジャパンで流行った健康飲料だそうだ。栄養価は高いがすごく不味いらしくバラエティーで罰ゲームとし

て使用されていたらしい。

「俺の一発芸で掲示板を賑わしてやるから楽しみにしとけよ」といい指揮官は去っていった。

手伝つてくれてもいいのにといいながらゲパードM1は崩壊液の移し替え作業を再開した。

「あれ？一本減ってる？増えてる？まあいいか」

ただでさえ気乗りしない作業。そのうえ一緒にやるはずだったART556はP7と一緒に自動販売機の小銭漁りに行った。ただでさえ気乗りしない作業に相方まで逃げたのだ。さっさと終わらせて寝ようと思いい違和感を無視しして作業を続行した。

グリフィン隠し芸大会実況スレ part 1

1 名無しの人形さん@お腹いっぱい

グリフィンTVがやる戦術人形大集合グリフィン隠し芸大会の実況スレです

過度な煽りは誹謗中傷、極秘情報の漏洩は避けましょう

グリフィンTV公式サイト

t t p : / w w w . g r i f i n t v /

グリフィン隠し芸大会公式HP

t t p : / w w w . g r i f i n t v / k a k u s h i g e i

次スレは>>900を踏んだ方が立ててください

2 名無しの人形さん@お腹いっぱい

>>1乙

3 名無しの人形さん@お腹いっぱい

>>1乙です

4 名無しの人形さん@お腹いっぱい

>>1乙なの

5 名無しの人形さん@お腹いっぱい

>>1乙パップ

6 名無しの人形さん@お腹いっぱい

>>1乙ですわ

7 名無しの人形さん@お腹いっばい

グリフィンもなんで隠し芸大会なんてやろうと思ったし

8 名無しの人形さん@お腹いっばい

こういうのに出て面白アピールして世間のイメージをよさげにするんじゃないかね

9 名無しの人形さん@お腹いっばい

綺麗な戦術人形だしとけば評価はあがるでしょ

10 人気者の人形さん@お腹いっばい

ならなんで人気者の私は呼ばれなかったのなの

11 完璧な人形さん@お腹いっばい

完璧な私も呼ばれてないわ

12 ブルパップ人形さん@お腹いっばい

>>>10

自称

>>>11

ブルパップじゃないから。はい論破

13 完璧な人形さん@お腹いっばい

>>>12

あなたも呼ばれてないじゃない

118 カフェの人形さん@お腹いっぱい
始まりましたわ

119 名無しの人形さん@お腹いっぱい
はじまつたな

120 名無しの人形さん@お腹いっぱい
はじまつたか

121 名無しの人形さん@お腹いっぱい
はじまつたねzzz

122 名無しの人形さん@お腹いっぱい

>>121

寝るな

1 2 3 名無しの人形さん@お腹いっぱい
きたいしてるわよ

1 2 4 名無しの人形さん@お腹いっぱい
ちよ 1 0 1

1 2 5 名無しの人形さん@お腹いっぱい
足元のプールなに??

1 2 6 名無しの人形さん@お腹いっぱい
一定以下b a dが続くと落ちるとか

1 2 7 名無しの人形さん@お腹いっぱい
完全にバラエティで草

1 2 8 名無しの人形さん@お腹いっぱい
今北産業

1 2 9 名無しの人形さん@お腹いっぱい
一定以下の評価が続くと

床が割れて
プールに落下

1 3 0 殺しのために生まれた人形さん@お腹いっぱい

分かりやすいように絵も付けとくわ。感謝しなさいよね!!

<https://imgur.com/4fYWq2G>

131 名無しの人形さん@お腹いっぱい

画伯www

132 名無しの人形さん@お腹いっぱい

これは画伯ですわ

133 名無しの人形さん@お腹いっぱい

味があつていいんじゃないですかね(震え声)

134 名無しの人形さん@お腹いっぱい

おっ、トツプバターが来たのじゃ

135 名無しの人形さん@お腹いっぱい

下手だったら焼き入れてやらないとな

136 ジャックダニエルの人形さん@お腹いっぱい

そうだな

137 名無しの人形さん@お腹いっぱい

まさかのIDWが

138 名無しの人形さん@お腹いっぱい

静かだなと思ったら

1 3 9 名無しの人形さん@お腹いっぱい

こな

1 4 0 名無しの人形さん@お腹いっぱい

ところに

1 4 1 名無しの人形さん@お腹いっぱい

いたのか

1 4 2 名無しの人形さん@お腹いっぱい

暇を

1 4 3 名無しの人形さん@お腹いっぱい

持て余した

1 4 4 名無しの人形さん@お腹いっぱい

人形たちの

1 4 5 名無しの人形さん@お腹いっぱい

遊び

1 4 6 名無しの人形さん@お腹いっぱい

画面をみろw

147 名無しの人形さん@お腹いっぱい
うるさっ

148 名無しの人形さん@お腹いっぱい
大声で叫んでバク天をしながら

149 名無しの人形さん@お腹いっぱい
中央に

150 名無しの人形さん@お腹いっぱい
流石サブマシンガンですね

151 名無しの人形さん@お腹いっぱい
あっ

152 名無しの人形さん@お腹いっぱい
ドボンしたwww

153 名無しの人形さん@お腹いっぱい
IDW「IDWだn」 ドボン

154 名無しの人形さん@お腹いっぱい
まさかの出落ち

155 名無しの人形さん@お腹いっぱい

司会者がもう一回システムの説明始めた

156 名無しの人形さん@お腹いっぱい

IDWカワイソス

157 名無しの人形さん@お腹いっぱい

zzz

158 名無しの人形さん@お腹いっぱい

寝るな

159 名無しの人形さん@お腹いっぱい

次は誰なんじゃ

304 名無しの人形さん@お腹いっぱい

MP5が出た

305 名無しの人形さん@お腹いっぱい

あいつ出るようなネタ持ってたか？

306 名無しの人形さん@お腹いっぱい

ないな

307 名無しの人形さん@お腹いっぱい

ないわ

308 名無しの人形さん@お腹いっぱい

ありませんわ

309 名無しの人形さん@お腹いっぱい

牛乳取り出しましたわ

310 名無しの人形さん@お腹いっぱい

大きくなれる魔法の白い液体ですって

311 潔癖症の人形さん@お腹いっぱい

白い液体を飲むようじよ(ゴクリ)

312 名無しの人形さん@お腹いっぱい

ん

313 名無しの人形さん@お腹いっぱい

ん

314 名無しの人形さん@お腹いっぱい

画面が

3 1 5 名無しの人形さん@お腹いっぱい
MP5が牛乳飲んだら画面が光ったぞ

3 1 6 名無しの人形さん@お腹いっぱい
光が収まった

3 1 7 名無しの人形さん@お腹いっぱい
え

3 1 8 名無しの人形さん@お腹いっぱい
MP5がマッチョに

3 1 9 名無しの人形さん@お腹いっぱい
マッチョP5

3 2 0 名無しの人形さん@お腹いっぱい
それはアニメのネタだろ

3 2 1 名無しの人形さん@お腹いっぱい
MP5「次のModは私ですよ」ムキイ

3 2 2 名無しの人形さん@お腹いっぱい
筋肉で脅すな

3 2 3 名無しの人形さん@お腹いっぱい
ちよ

3 2 4 名無しの人形さん@お腹いっぱい
クルーガーさん

3 2 5 名無しの人形さん@お腹いっぱい
脱ぎだした

3 2 6 名無しの人形さん@お腹いっぱい
ウホッ

3 2 7 名無しの人形さん@お腹いっぱい
ウホッ

3 2 8 名無しの人形さん@お腹いっぱい
横に立ってマツチヨポーズ

3 2 9 名無しの人形さん@お腹いっぱい
画面の筋肉比がすごい

3 3 0 名無しの人形さん@お腹いっぱい
暑苦しいですわ

3 3 1 カフェの人形さん@お腹いっぱい

暑苦しいですね

3 7 1 名無しの人形さん@お腹いっぱい
リーさんきた

3 7 2 名無しの人形さん@お腹いっぱい
3分クッキング

3 7 3 名無しの人形さん@お腹いっぱい
サラダに報告書入れるなし

3 7 4 名無しの人形さん@お腹いっぱい
ちよwサラダから煙が

3 7 5 名無しの人形さん@お腹いっぱい
あつ落ちた

3 7 6 名無しの人形さん@お腹いっぱい
水が紫に

377 名無しの人形さん@お腹いっぱい
水の取り替えだつて

378 名無しの人形さん@お腹いっぱい
生放送だったのかコレ

379 ブルパップの人形さん@お腹いっぱい

ブルパップだったら落ちなかつた、送信！

380 名無しの人形さん@お腹いっぱい

むしろブルパップの方がコンパクトだから落ちる。送信！

402 名無しの人形さん@お腹いっぱい

DSRがきた

403 名無しの人形さん@お腹いっぱい

まさかの

404 名無しの人形さん@お腹いっぱい

アイツ子供も見る番組で話せるようなネタ持ってるのか？

- 405 ブルパップ人形さん@お腹いっぱい
ブルパップだから持つてる
- 406 名無しの人形さん@お腹いっぱい
それは関係ない
- 407 名無しの人形さん@お腹いっぱい
ないな
- 408 ジャックダニエルの人形さん@お腹いっぱい
そうだな
- 409 名無しの人形さん@お腹いっぱい
猥談し始めたぞ
- 410 名無しの人形さん@お腹いっぱい
客席困惑してる
- 411 名無しの人形さん@お腹いっぱい
ワシらも困惑じゃ
- 412 名無しの人形さん@お腹いっぱい
落ちた
- 413 名無しの人形さん@お腹いっぱい

ドボンしたな

4 1 4 名無しの人形さん@お腹いっぱい
本人懲りてない

4 1 5 名無しの人形さん@お腹いっぱい
DSR 「水も滴るいい女」

4 1 6 名無しの人形さん@お腹いっぱい
ただいま映像が乱れておりますって

4 2 1 名無しの人形さん@お腹いっぱい
直った

4 2 2 名無しの人形さん@お腹いっぱい
なおりましたね

4 2 3 名無しの人形さん@お腹いっぱい
おやG41さんですか

4 2 4 名無しの人形さん@お腹いっぱい
歌を歌うと

4 4 4 名無しの人形さん@お腹いっぱい
癒されるわ

4 4 5 名無しの人形さん@お腹いっぱい
癒された

4 4 6 名無しの人形さん@お腹いっぱい
癒されますね

4 4 7 ジャックダニエルの人形さん@お腹いっぱい
そうだな

4 4 8 名無しの人形さん@お腹いっぱい
次は5人だな

4 4 9 名無しの人形さん@お腹いっぱい

ドラムセットとかスピーカーが

450 名無しの人形さん@お腹いっぱい

TMP、キャリコ、サンダー、AEK-999とK2

451 名無しの人形さん@お腹いっぱい

バンドとはまた真つ当なのが来たな

452 名無しの人形さん@お腹いっぱい

素敵な曲じゃな

453 名無しの人形さん@お腹いっぱい

いい演奏でした

454 名無しの人形さん@お腹いっぱい

ブラボー

548 名無しの人形さん@お腹いっぱい

和太鼓とは。またいいものが聞けたな

549 お米派の人形さん@お腹いっぱい
100式先輩流石です!!

555 ジャックダニエルの人形さん@お腹いっぱい
そうだな

556 名無しの人形さん@お腹いっぱい
さつきからそうだなしか言っていない

557 ジャックダニエルの人形さん@お腹いっぱい
そうだな

558 名無しの人形さん@お腹いっぱい
吹いた

559 名無しの人形さん@お腹いっぱい
草

560 名無しの人形さん@お腹いっぱい

芋

561 空腹の人形さん@お腹いっぱい

チョコ

562 大食いの人形さん@お腹いっぱい

ハンバーガー

563 シングルアクションの人形さん@お腹いっぱい

コーラ

564 名無しの人形さん@お腹いっぱい

好きなもの連呼するスレにwww

608 名無しの人形さん@お腹いっぱい

FALとFive|Seven

609 名無しの人形さん@お腹いっぱい

ハイセンスじゃのう

610 名無しの人形さん@お腹いっばい
まさかのファッション対決
611 名無しの人形さん@お腹いっばい
会場の人に投票呼びかけたぞ

625 名無しの人形さん@お腹いっばい
ドボンした
626 名無しの人形さん@お腹いっばい
ドボンしましたね
627 名無しの人形さん@お腹いっばい
昔の芸人のようにキスしてごまかすからよ
628 ジャックダニエルの人形さん@お腹いっばい
そうだな

883 名無しの人形さん@お腹いっぱい

カルカノ姉妹のダミールリンクを使ったコーラス

884 名無しの人形さん@お腹いっぱい

美しい音色でしたね

885 名無しの人形さん@お腹いっぱい

声だけでこんなに出せるんですね

886 名無しの人形さん@お腹いっぱい

癒されます

887 カフェの人形さん@お腹いっぱい

カフェで歌ってほしいです

888 名無しの人形さん@お腹いっぱい

その時は行きますわ

889 名無しの人形さん@お腹いっぱい

私も

890 名無しの人形さん@お腹いっぱい

アタシも

891 名無しの人形さん@お腹いっぱい

アタイも

892 名無しの人形さん@お腹いっぱい

余も

893 名無しの人形さん@お腹いっぱい

皇帝いたしwww

894 名無しの人形さん@お腹いっぱい

皇帝

895 ジャックダニエルの人形さん@お腹いっぱい

そうだな

934 名無しの人形さん@お腹いっぱい

まさかの指揮官登場

935 名無しの人形さん@お腹いっぱい
人間代表だって

936 名無しの人形さん@お腹いっぱい
何するんだろ

937 目を閉じた人形さん@お腹いっぱい
アオジル1・5リットル一気飲みらしいわよ

938 お米派の人形さん@お腹いっぱい
えっ

939 ジャパンの人形さん@お腹いっぱい
え

940 いうこと機関銃の人形さん@お腹いっぱい
マジで!!

941 名無しの人形さん@お腹いっぱい
ジャパン勢が驚いてる

942 お米派の人形さん@お腹いっぱい
崩壊液みたいな味ですよ

943 名無しの人形さん@お腹いっぱい

崩壊液味のドリンクとは

944 カフェの人形さん@お腹いっぱい

カフェで出せませんね

945 名無しの人形さん@お腹いっぱい

何故にそんなものを

946 目を閉じた人形さん@お腹いっぱい

私が提案したのよ。指揮官健康ドリンク好きらしいし、倉庫にいっぱい置いてあったのよ

そして女の子にもてるわよって言ったらノリノリで倉庫に向かったわ。いい歳なのに

掲示板を賑わしてやるって言ってたからどんどん書き込んでね

947 名無しの人形さん@お腹いっぱい

おつ、指揮官出てきた。何故にPA-15が？

948 目を閉じた人形さん@お腹いっぱい

刺激を求めて執務室に来たら巻き込まれたのよ

949 ブルパップの人形さん@お腹いっぱい

カワイソス

950 名無しの人形さん@お腹いっぱい
かわいそう

951 ジャックダニエルの人形さん@お腹いっぱい
そうだな

952 名無しの人形さん@お腹いっぱい
指揮官まずPA-15にアオジルのませた

953 名無しの人形さん@お腹いっぱい
PA-15涙目。ウケル

954 名無しの人形さん@お腹いっぱい
刺激ってこういうことじゃないって。そりやそうだ

955 気だるげな人形さん@お腹いっぱい
あつ

956 名無しの人形さん@お腹いっぱい
PA-15でヤバさをアピールして指揮官が1.5リットルの瓶をもつて飲んで

957 名無しの人形さん@お腹いっぱい
指揮官消えた

958 名無しの人形さん@お腹いっぱい

きえ t

9 5 9 名無しの人形さん@お腹いっぱい
きえただと

9 6 0 名無しの人形さん@お腹いっぱい
アオジルつてそんなやばいの

9 6 1 お米派の人形さん@お腹いっぱい
体が崩壊する程じゃないはず・・・

9 6 2 いうこと機関銃の人形さん@お腹いっぱい
ですです。流石にそれはないよ

9 6 3 ジャックダニエルの人形さん@お腹いっぱい
そうだ n

9 6 4 気だるげな人形さん@お腹いっぱい
アオジルじゃなくて崩壊液かも

9 6 5 名無しの人形さん@お腹いっぱい
詳しく

9 6 6 名無しの人形さん@お腹いっぱい

k w s k

967 気だるげな人形さん@お腹いっぱい

物資の移し替え作業してたら指揮官が入ってきてアオジルの瓶持っていった

もしかしたら崩壊液と間違ったのかも。私、アオジルって書いた空き瓶に入れ替え作

業してたし

968 名無しの人形さん@お腹いっぱい

なんと気の毒な

969 名無しの人形さん@お腹いっぱい

不幸なじこじや

970 名無しの人形さん@お腹いっぱい

事故だな

971 カフェの人形さん@お腹いっぱい

事故ですね

972 ジャックダニエルの人形さん@お腹いっぱい

そうだな

973 ブルパップの人形さん@お腹いっぱい

そうだよ（確信

974 ブルパップの人形さん@お腹いっぱい

スレ流しちやうね

975 名無しの人形さん@お腹いっぱい

あぼーん

976 名無しの人形さん@お腹いっぱい

あぼーん

977 気だるげな人形さん@お腹いっぱい

あぼーん

978 完璧な人形さん@お腹いっぱい

あぼーん

979 シングルアクションの人形さん@お腹いっぱい

あぼーん

980 名無しの人形さん@お腹いっぱい

あぼーん

981 空腹の人形さん@お腹いっぱい

あぼーん

997 名無しの人形さん@お腹いっぱい

あぼーん

998 名無しの人形さん@お腹いっぱい

あぼーん

999 名無しの人形さん@お腹いっぱい

あぼーん

1000 ジャックダニエルの人形さん@お腹いっぱい

そうだな

1001 名無しの人形さん@お腹いっぱい

このスレッドは1000を超えました。

新しいスレッドを立ててください。

第四話 崩壊液で遊ぶべきではありません。

第五話 UMP45 「UMP45に対して豊胸手術を施すことは無意味です」

ここはグリフィンS13支部。特徴がないのが特徴の地区である。もちろん基地にも特徴がない。ゲーム本編と一切変わらないと思ってくれればいい。

そんな特徴のない基地のこれまた特徴のない執務室から今日は始まる。

「報告は以上よ」

朝の執務室。夜戦から帰ってきた人形の報告を受け取る。今回の任務もうまくいったようだ。部隊の損傷もない。まさしくS勝利である。

指揮官は報告に来た戦術人形をねぎらい、下がっていいと言おうとしたのだが、当の戦術人形の視線は胸部に向いている。

「さっきから胸チラチラみてるけど、何かついてるの？」

報告に來た人形、UMP 4 5 に聞いてみる。しかし答えたのは後ろにいた副官の AK
—12 だ。

「UMP 4 5 は貧乳なのがコンプレックスなの。よく他の人形たちにもからかわれてる
みたい。なんでもどんな銃弾でも跳ね返す鋼の胸板だつて」

AK—12 の話指揮官も続く。

「その話、どこかで聞いたことあるわよ。私が聞いたのは洗濯板とか、下敷き代わりにな
るから外で書類を書くことになつても困らないとか」

彼女の平たい胸ネタで盛り上がる二人。煽られている彼女のこめかみには青筋が浮
かび上がっている。

「胸なんて大きくてもいい事なんて何もないわよ。邪魔だし肩も凝るし、着られる服の
種類も減るし、いっそ貧乳になりたいわよ」

彼女の血管が千切れる音がする。

「少し、頭、冷やそうか」

どこかの白い悪魔のようなセリフを言いながらセレクターをフルオートにして指揮
官に銃を突きつける。まさかの冒頭で指揮官死亡か。

「落ち着きなさい、UMP45。そこで指揮官を殺したら後10年は笑われることになるわよ」

AK—12の言葉に落ち着きを取り戻したのか、銃を下げるUMP45。
指揮官も一安心したのか、胸を机の上におき、楽な姿勢をとる。

UMP45はもちろん、AK—12も胸に視線が行ってしまふ。

「指揮官ってどうやってそんなに巨乳になったの？何か特別なことでもしたのかしら？」

少しだけ興味が出たのか、AK—12がそう質問する。

「学生時代に豊胸体操とか胸が大きくなるって言われた食べ物を食べたくらいね。友達
は整形してたわ」

「だそうよ、UMP45。あなたも整形してみたら？」

いつも通りすまし顔でUMP45を挑発するAK—12。彼女はここでキレイたら負けだと自分に言い聞かせ「人形にそんなもの効くわけないでしょ」と言い残し部屋を後にした。

UMP 4 5 豊胸記録

1. バストアップ体操や、食生活を工夫してみよう

指揮官のいった通りネットでバストアップ体操を調べてみた。任務の間にやってみるが効果はない。もちろん数日で効果が出ないのはわかっている。

バストアップに効果があると書いてあった食べ物も食べてみた。この時代に天然物の魚類や鶏って高いのに。そしてバストアップブラを付けて寝るようにもした。

その後も続けたが全く効果がない。無理やり付き合わせたナインは少し胸が大きくなったらしい。姉妹なのにこの差とは。40、あなただったらどうなのかしらね。

2. じんこうむねや、バストアップブラをつけてみよう

ロシアンアキバとかいう怪しげなショップに売ってた人口胸を買ってみた。なんで

もテープで張り付けるだけでCカップになれるらしい。しかしあのお店、女性用の下着とかしか売ってないのになんで客も店員も男性ばかりなのはなぜかしら。

基地じゃなくセーフハウスでつけてみた。この人口胸とバストアップブラをつける私もDカップくらいに見える。やったわ私。これで洗濯板とか言われなくなる。

基地に戻りますか。

基地の自室に戻った私を待ってたのは404小隊の皆とAK-12なぜかブラジャーだけのAN-94。

ネットの検索履歴を見られたのか、さんざん笑われた。それでも胸は大きく……あれ、さっきまであった胸がなくなってる。

「その様子だと効果はいまひとつのようね」

昔のRPGみたいな煽りをされた。悔しいが言い返せない。

そして寝ているG-11の胸が膨らんでいる気がするし、AN-94はいつまで下着姿なのかしらね。

3. 人形でもできる、ほうきよう手術!!

こうなったら豊胸手術。私のような特殊な人形が受けられるところなんて聞いたことがない。

どうしようかと考えていると AK—12 と指揮官が部屋に入ってきた。自己主張するかのように胸を大きく揺らしている。

二人に教わったのはある住所だった。私みたいなワケ有りの人形の美容整形を請け負ってくれるらしい。私のような特殊仕様もそうだが、普通の自立人形の中にも何かから逃れるために顔を変えたがるものもある。その医者はそういう人形専門に請け負っているそうだ。ただし、闇医者で相当な変人だと。指揮官はともかく、AK—12 がいうからには相当な変人なのだろう。

三日後。私は教えられた住所に赴いた。やはりというか薄汚い雑居ビルだ。ここの12階にそのクリニックはある。念のためエレベーターを使わず階段で上った。

ドアをノックし出てきたのはナース服を着た自立人形。医者本人ではない。

そして診察室に通され医者と対面した。

その医者の背丈は2m近く、中世のペスト医師のような格好をしている。AK—12 が変人だと思うのも納得だ。

「AK-112から話は聞いている。君の胸の悪疫をなんとかしたいんだね。大丈夫私に任せてくれればその悪疫も治り胸は大きくなる」

これも事前に聞いていた。この男は胸が平らなことを悪疫というらしい。そこまでいうか。

診察を終え、すぐに出術を開始することになった。これで私も平たい胸から卒業だ。誰にも馬鹿にされない。

手術を終え、自身の胸部を確かめる。ある、ある、ある！私にも胸がある!!やったわ。「よく手術を耐えたね。おめでとう、これで君の悪疫は消え去った。これでも駄目なら人間の胸を移植するしかなかった。これで君の胸は大きくなる」

私はこの男にお礼を言い、治療費を振り込み、数日間毎食後に飲まなければいけない薬を受け取り基地に戻った。

基地に戻ったら404小隊の皆がお祝いしてくれた。みんな、ありがとう。

数日後、訓練を終えニュースを見ると、あの医師が死亡したニュースが流れてい

た。グリフィンの治安部隊が踏み込んだ時に激しく抵抗して射殺された。指揮官に聞いてみると私の事件を元に捜査が入ったらしい。

「いやあ、前々から捜査したいと思ったんだけど踏み込む動機がなくてね。助かったよ」

指揮官は私が手術を受けに行つたことを証拠としたらしい。

「それより、45。胸どうしたの？」

どうって、あなたほどじゃないけどあるわよと言おうとしたらいい。なくなってる……

私を気の毒に思ったのだろう。

「今日はもう休んでいいよ」

胸をポインと揺らしながら言ってきた。私の中で何か切れた気がした。

あの医者は確か人の胸を移植がどうって言ってたわね。それに指揮官も胸が大きいのが悩みって言ってたし。

ひらめいたわ。

その日の執務を終え、指揮官は自室で夕食を食べながらビールを飲んでいた。普段の指揮官とは違いタンクトップにショートパンツのラフな格好だ。

制服は肩が凝るし、ブラは窮屈でつらい。UMP45みたいに細ければ動きも楽なんだけどなあ。

でもこの仕事じゃなきや毎晩ビールを飲むなんてできない。

今日はアルコールの回りが早い。指揮官はそのまま眠ってしまった。眠る直前声が聞こえた気がした。

「しきかくん、その願い、かなえてあげるわね」

指揮官が目を覚ますと両手両足を縛られ首を固定されていた。何が起きたか把握するために見える範囲で見るとどこかの廃病院の手術室のようだ。鉄血に拉致されたのだろうか。それとも過激な人権団体か。指揮官にはいくつかの心当たりがあったが……

そして点滴をつけられ、そこから何かが入ってくるのがわかる。

「起きるのまっつたよ、しきかん」

なぜかナース服を着たUMP 4 5がいる。そして彼女は指揮官の上着を切り上半身裸にする。大きくて形の良い乳房があらわになる。

そしてUMP 4 5も上を脱ぎ裸になる。何をやっても平らになる胸があらわになる。どうしてこんな事をするのか聞こうとしたらテープで口をふさがれる。

「指揮官、その願いかなえてあげるね」

彼女は消毒液を指揮官の胸に塗り、点滴に何らかの薬品を注入する。麻酔薬を注入されたのだろうか、強烈な眠気が襲ってきた。指揮官は必死に抗おうとするも血管から直接入れられてはどうにもならない。

彼女の意識はそのまま闇に沈んでいった。

指揮官が麻酔の影響下眠りについたことを確認すると、UMP 4 5はメスを取り出し指揮官の胸を切り始める。胸を切ることにより大量の血が出るが気にせず胸を切り続

ける。

形の良い胸を全てきり出せた。指揮官の内臓が露になるがIMP45はそれを無視し、指揮官の両手両足の拘束を解き、ベッドから落とす。そして用意した熱湯をベッドにかける。煮沸消毒のつもりだろうか。

UMP45は指揮官の胸をつぶしペースト状にし特性のシリコン容器で形を整える。そして形が整った後自身の痛覚をカットし、胸の下部分を切り、形を整えた胸を入れた。そして傷口に修復剤をかけ傷口を閉じた。

数時間後

最初は膨らんでいた胸はまた閉じ、平らになってしまった。

最初は悲しかったが、ここまで来ると笑えて来る。もう受け入れてもいいのではないか。

「そうよ、UMP 4 5、受け入れなさい。あなたはあなた、私は私よ」

誰にも教えてないはずのここを見つけ出した。彼女はどうするつもりだろうか。

UMP 4 5 が身構えるも AK-12 は「そう構えないでよ」といいどこからか缶コーヒーを取り出した。

それに安心したのか、UMP 4 5 も肩の力を抜く。

「そうね、受け入れるわ。胸が大きいのもいい事ばかりじゃないし、胸が小さいのも悪い事ばかりじゃない。なんでも良い事と悪い事があるものだからね。そして、胸が大きかろうが小さかろうが私は私。404 小隊の隊長 UMP 4 5 だもの」

「それを聞いて安心したわ。404 小隊の隊長が胸がどうかで右往左往するのは見ていられないもの」

素晴らしい AK-12 は指をパチンと鳴らすとどこからかハッキングされた自立人形が現れ、指揮官の死体を袋に入れ担ぎ出していった。

そして UMP 4 5 に服を着るように言う。上半身裸のままだったことを忘れていた彼女は慌てていつもの服装に着替える。

服を着替え終わったのを見て、AK-12 はついてくるようにいう。向かう先はこの

建物の屋上だ。

ドアを開けると朝焼けが広がる。

きれいな朝焼けでしょといつも通りのすまし顔でAK-12はいう。UMP45も素直に同意する。

缶コーヒーを開け、二人で乾杯する。

少女がコンプレックスから抜け出し、新たな今日を迎えられたことに。

朝が来た、今日も一日が始まる。

第5話 UMP45に対して豊胸手術を施すことは無意味です。

第六話 リー・エンフィールド「リー・エンフィールドに指揮官のランチを作ってもらうのは恐ろしいアイデアです。試食を任されたウエルロッドのメンタルが崩壊しました」

グリフィンS13支部執務室。

時刻は12時。指揮官は仕事を切り上げ昼食をどうするか考えた。毎日同じものを食べるのは飽きるが食が保守的になってきたのか結局同じ様なものになってしまう。

何気なく副官の戦術人形、AK-12に昼食をどうしようか相談してみた。

「それならリー・エンフィールドに頼むといいわ。彼女、料理ができるらしいから」

指揮官は意外だと思った。紅茶を入れそうなイメージはあるが料理は誰かに作らせそうなイメージがある。

指揮官は携帯端末でリー・エンフィールドに電話をし昼食を作るようお願いすると

リー・エンフィールドからは快諾してもらえた。

図鑑 No. 050 名前 リー・エンフィールド
銃種 ライフル

収容プロトコル

リー・エンフィールドは収容されていません。普段はグリフィンS13支部の戦術人形として治安維持や鉄血人形の駆除に当たっています。

規律を重んじ本人が意図して問題行動を起こすことはなく、指揮官や16Labの人間に対しても協力的ですので収容の必要はありません。

収容プロトコル追記事項

今回の件を踏まえて、リー・エンフィールドは厨房への立ち入り禁止並びに料理全般の禁止が決定されました。

彼女が厨房に入ろうとした、料理をしようとした場合、最初は説得してください。それでも駄目であれば終了措置を施してください。

彼女の作った物は焼却処分してください。決して食べてはいけません。

説明

リー・エンフィールドはI・O・P社が作り出した戦術人形です。彼女の戦術人形としての性能は他の個体と変化はありません。

性格についてもおおむね他の個体と同じく規律と名誉を重んじ、真面目です。料理のセンスが特殊です。

スターゲージパイなどのイギリス料理を好み、不味いとされている物に対する耐性も高いですが、これも他の個体と同じです。

このリー・エンフィールドの異常性が発見されたのはS13支部の指揮官が部下の常に目を閉じた人形に昼食をどうするか相談したところ、目を閉じた人形はリー・エンフィールドは料理を作れる、指揮官に手料理を振る舞いたがっている事を教えました。リー・エンフィールドの料理の能力を知らなかった指揮官は彼女に頼み、彼女も快諾しました。

15分後厨房から異臭と爆発音がして駆け付けた他の戦術人形が見たものは紫色の煙が漂う厨房と、得体のしれないものを食べるウエルロッドMkII（以下ウエルロツ

ドと呼称)でした。

リー・エンフィールドの話によるとウエルロッドは偶然通りがかつた際、試食を頼まれたそうです。

このことはすぐに16 Labに報告され、二人は16 Labに搬送されました。

彼女の作った料理を凶鑑ナンバーからちなんので50—aとします。料理を食べた人間もしくは人形を50—a1とします。

密閉された部屋で防護を服を着た職員の付き添いの元、彼女に50—aを作るプロセスを再現してもらいました。

〔録画開始〕

Lee「栄養のバランスが取れたDIY栄養食品を作ります」

彼女は斧で肉を切り出した。そしてサラダを適度な大きさにカットする。DIYは素人が何かを作ったり修理したり装飾したりすることで料理に関するのではないはずだ。

Lee「肉と野菜で栄養素を確保します」

こう言って切った肉を生そのままポウルにいれ、野菜もそのままつめ、魚やチョコバー

のようなもの、パスタをそのままボウルに入れる。この時点で紫色のガスが出ている。

Lee「そしてデイスケットのドレッシングを作ります」

そして人形の経験値補充にも使われる作戦報告書と呼ばれるフロツピーディスクを取り出し粉末状にし緑色の液体と混ぜ合わせる

Lee「作ったドレッシングをかけて兵士にこの上ないデイスケットサラダの完成です」

口調から察するに彼女は誇らしげな顔をしているのだろうが、紫色の煙で見えない。そしてボウルの中で何かが動いているように見える。人型の、なんだ……

〔録画終了〕

この職員の心拍に異常が生じたため録画は終了しました。この男性職員は除菌し防護服を脱ぎ各種検査をした後記憶処理剤を飲ませ10日間の隔離措置を取りました。

録画した映像を確認したところ、入っていた魚が動き出し、一部が手乗りサイズの人と魚を混ぜ合わせたような形状に変化しました（以下魚人と呼称）。この魚人も動き出しワカメと思われるのを胸に巻きこちらを誘惑するようなポーズをとります。

男性職員、女性職員2名ずつに見せたところ魅力を感じないどころかおぞましいと口にしました。

リー・エンフィールドに50—aを再現してもらうのと並行して50—a1（ウエルロッドMkII）にインタビューを試みました。

〔録画開始〕

職員「こんにちは」

ウエルロッドMkII（以下ウエルロッドと呼称）「のらみみみにかにくち」

研究員「言語機能にバグが生じていますね」

研究員は筆記用具を渡し紙に書きながら同時に答えるように言う。

研究員「さつそくですが、5月20日の行動を教えてください」

ウエルロッド「野波未遂耳寺らいね環七と鞍の名手良カチ員ら名から戸倉の名白波に茂名の血に持ちト二価値るとなすなから素に補の血素地の来寺の血の椅子治水ねと二の二の血見耳に環七と鞍の名手良かなの名砂の血素地と二と鞍の名と二回倉富二に空にてちすいもちとにかち」

（訓練を終え、昼食を食べようと食堂に向かいました。するとリーから声を掛けられ指揮官に昼食を作るから試食をしてほしいと言われました）

研究員「それで試食をしたと」

ウエルロッド「くちにね環七と鞍のなし地に基地名の名かららもらに国の二なの異持

50a 研究ログ

概要：人間が食べたかどうか

S13地区の指揮官に50—aを食べてもらうよう依頼しました。報酬の支払いを提案しましたが拒否されたのでこの指揮官が夫以外の男性と親しげに抱き合いホテルに入り、そのまま性行為をし、現金を渡す映像を見せた後で、彼女の夫と13歳の娘の携帯端末にこの映像を送りつけたくはないから協力してほしいと改めてお願いしたところ、依頼を引き受けてくれました。

指揮官には万が一の時は毒ガスで満たせE. I. L. Dが暴れても大丈夫な隔離室で50—aを実食してもらいました。これより指揮官の呼称を50a—1とします。

〔録画開始〕

研究員「それでは食べてください」

50a—1「本当に食べなければだめなの？」

研究員「だめです。そうでなければ映像を」

50a—1「分かったわよ。食べるわよ」

よくわからないものまでうごめく50—aを指揮官は食べ始める。魚らしき物をフォークで刺した瞬間うめき声が聞こえる

研究員「味はどうですか？」

50a—1「ごみを食べる方がマシね」

味はひどく不味いようです。

そのまま食べ続けたところ指揮官の様子がおかしくなりました。

研究員「どうしましたか？早く食べてください」

50a—1「くにちくにくにちくにちくにちくにちくにちくにちくちはからのにきちもにいす
なといのちにくちいにいみみにちちちちちち a a g h h h h h h h h h h」

意味不明の言葉をつぶやいた後目が増殖し背中から腕が生え、後頭部から触手を出し
暴れ始めました。毒ガス噴射装置を起動させ、致死量のガスを吸い込み死亡したと思わ
れたので死体の回収のため防護服を身に着けた戦術人形を向かわせました。

50a—1の死体を運び出すところ、動き出したので戦術人形は一斉射撃を
加えました。すると飛び散った肉片も動き出し戦術人形に襲い掛かったので焼夷手榴
弾をもった戦術人形が自爆覚悟で投擲し50a—1を部屋ごと焼却処分しました。

戦術人形は全員死亡しましたがバックアップから復元されS13地区で勤務してい
ます。

彼女たちには今回の出来事は伝えられていません。

50a—1ですが、家族には失踪したと伝えられました。電子記録の改ざんには目を

閉じた人形に協力してもらいました。

リー・エンフィールドは記憶処理を施し、自分は料理ができないから厨房に近づきたくないという偽のパーソナリティを植え付けました。

リー・エンフィールドは基地に戻され通常通り勤務しています。

收容プロトコル通りの扱いをすれば問題はありません。

第六話 リー・エンフィールドに指揮官のランチを作ってもらうのは恐ろしいアイデアです。試食を任されたウエルロツドのメンタルが崩壊しました。

第七話 P90「0.1%P90など予想していなかつた
ただろうというのは事実です。作者の基地にP90は着
任していません」

グリフィンS13支部のゴミ置き場。ここを散策する一人の戦術人形の姿があった。
彼女の名はP90。サブマシンガンの戦術人形だ。彼女はゴミを捨てに来たのでは
なく、ゴミの中から仕えそうな資材を回収しに来た。そんなリサイクル精神あふれる彼
女の趣味はコスプレ。他の戦術人形のコスプレをしてその人に化けて遊ぶのだ。彼女
の目当ては廃棄されたダミー人形。ダミー人形の服を剥ぎ取り、自分に合うよう仕立て
直すのだ。

「WAのダミー人形発見。しかも衣類も綺麗。指揮官ももったいないな。こんな綺麗
状態なのに捨てるなんて」

WA2000の服をはぎ取る中、彼女は何かの書類を見つけた。
「これなんだろう」

NO.??

名前 通常建造機械

収容プロトコル

この通常建造機（以下建造機と呼称）は10m×10m程度の部屋に黒いシートをかぶせて保管してください。1週間に一度点検をおこない、いつでも使用できる状態にしてください。

この建造機との接触は防護服を着用しアイシールドで視界をふさぎ、視覚は防護服前面につけたカメラを頼ってください。肉眼でこの建造機を視認することは禁止されています。

また聴覚に関しても收音マイクによる物で頼ってください。自身の耳で聞いてはいけません。

追記 人間ではなく研修を受け、バックアップを済ませた戦術人形を作業に当たらせてください。上記の措置をとった整備士であつても異常性にさらされました。

作業を終えた戦術人形は速やかに終了措置が取られ、バックアップから復元されません。

説明

この建造機は一見普通の戦術人形建造機械です。他の建造機械と変わりはありません。

この機械の異常性はP90の建造に成功していない人間がこの建造機で建造をしようとするや発揮されず。

P90は知つての通り建造成功率0.1%です。実装された当初指揮官たちに衝撃が走りました。ほぼ全ての指揮官は過剰な建造をすることはなく、極一部の運のよい指揮官が建造に成功しました。

この建造機の異常性にあてられた指揮官はこの建造機にサブマシンガン公式レシピを元に資源を投入し、失敗します。通常の建造機であれば、出てきた人形を解体しその日の建造任務を終了すれば良いだけです。ですが、この建造機で建造すると、非合理的な思考に取りつかれ、連続して建造に挑戦し続けます。指揮官にギャンブル依存症やその他疾患の有無は関係ありません。

快速建造で建造するときは短時間でできますが、快速建造がなくなった場合数時間待たなければいけません。指揮官はその間、建造機の前で待ち続けます。この間食事も睡眠もとらず、排泄行動もおこなっていません。

そして基地の備蓄資源を使い果たし今度は基地の予算で資源を購入し建造し続けま
す。

最初は言葉で説得しそれでも駄目でした。建造を止めさせるべく力づくで取り押さ
えようとしたのですが、力に優れるマシンガンやショットガンの戦術人形の拘束をありえ
ない力ではねのけました。その時の指揮官は人間の外骨格を装備していたわけでも
なく、生身の状態です。

9mm口径の弾丸を使用するサブマシンガンが指揮官の手足を撃ち、動きを止めよう
としましたが、指揮官は弾丸をかわし建造を続けました。快速建造が切れているので指
揮官はその間ずっと戦術人形の攻撃をかわし続けました。時に建造機に弾丸が当たり
そうになると指揮官は身を挺してかばいました。そして指揮官はそのまま建造が終わ
るのを待ち続け、また建造を再開しました。

サブマシンガンの戦術人形は指揮官を止めるのを断念しました。

基地の予算が尽きると今度は資材を投入し、借金を重ね、建造機を回し続け建造し続
けます。

この間も他の人形が指揮官を時に銃撃をもつて静止にかかりますが、銃撃をかわし、
命中したとしても一切動きを止めることなく建造し続けました。

指揮官は資源を入手する手段を失い、建造が不可能になると建造機に攻撃を加え損傷

を与えた後心臓発作で死亡しました。建造機は損傷を自動で修復しました。

S13支部からの報告を受けた16Labが回収しました。

「これはいいたい」

自身の建造にまつわる恐ろしい話を聞いてP90は震える。こんな大変なことあたし一人じゃ抱えられない。みんなに知らせないと。

彼女は書類を懐にしまった時後ろから声がした。

「その書類を見てしまったのね。忘れなさい」

振り返って相手の姿を確認する間もなく彼女の意識は落ちて行つた。

P90はエリート人形である。そんな人形の意識を一瞬で奪えるのは一人しかいない。そう、AK-12だ。彼女はP90の電脳にハッキングして意識を奪った後記憶処理をし、懐に入っていた書類を回収し立ち去って行つた。P90は何も覚えていない。

「あれ、あたし。そうだ、さつさとWAの服回収しなきゃ」

彼女は何の疑問に思うこともなくWA2000ダミー人形の衣類の回収を再開する。シャツのボタンを外していると誰かに話しかけられた。

「P90さん、何をしているんですか？こわれた、ダミー？」

声の主はスプリングフィールドだ。P90は振り返りこう答えた。

「もったいないから服をもらっちゃおうと思って」

第七話 0.1% P90など予想していなかっただろうというのは事実です。作者の基地にP90は着任していません。

第八話 AN—94 「AK—12は何処ぞの王でもありません。女王様でもありません。」

食堂で夕食を食べているとこんな会話が聞こえた。

「ねえ聞いた？女王様の話？」

「女王様？ああ、あの」

「ついに指揮官と結ばれるのでしょうか。この基地からも誓約する人形がでるんですねえ」

女王様つてもしかして…

「めでたいですねえ」などと言っている。どこがめでたいのだろうか。そいつの頭だろうか。

AN—94は激怒した。必ずかの邪知暴虐の指揮官を取り除かねばと決意した。私は指揮がわからない。私は戦術人形である。銃を撃ち鉄血を殺して暮らしてきた。け

れどAK—12に関しては人一倍敏感であった。

AN—94には父も母も妹もない。AK—12と二人暮らした。AN—94はAK—12と結ばれてると本気で思いこんでいた。AN—94は街まで買い物に来た。久々の街だ。AN—94はS13地区のアダルトグッズショップで一人の友と合流した。友の名はMP7。サブマシンガンの戦術人形として前衛を張っている。過酷な前線にいる彼女は野外アナルオナニーが好みなのだ。アナルで絶頂を迎えた後のたれ流すのがたまらなく気持ちいいそうだ。

AK—12がAN—94に日本でいう所の白いスクール水着を着せ、首輪と猫耳を付け夜の散歩をしていたところ、獣のようなオナニーをするMP7を目撃した。見る人が見れば傘ウイルスに汚染されたと判断して射殺するだろう。その後何故か二人は意気投合し、休日にアダルトグッズショップで合流した後、喫茶店でお茶する仲となった。

「AK—12は指揮官と結婚する」

「まだ決まったわけじゃないじゃん」

「でもこの基地から制約する人形が出るって食堂で。それに女王様って言葉も」

「女王様ってだけでAK—12?」

「だってよくたたいてくれるし、お尻に口ウソクをいれてくれる。こないだも10本い

れてくれた」

「あんた私に対していろいろ言ってたのにあんたも開発してるんじゃない」

「AK-12は特別だから」

「そこは特別とか関係ないでしょ。どっちかっていうと特殊…」

MP7は最後まで言いたかったがぐつとこらえた。紅茶を一口飲み、彼女にこういった。

「指揮官とAK-12に直接聞いてみたら？」

AN-94は単純な人形であった。支払いをせず基地に戻っていった。おかげでMP7は二人分のお茶代を支払うことになった。

AN-94は早速基地に戻り執務室に乗り込んで指揮官に誓約の件を問いただした。偶然にもAK-12がいたが、AN-94にはそうは見えなかった。AN-94には二人は恋人だから一緒にいるように見えた。

「指揮官はAK-12と結婚するの？」

AK-12は察した。これは面白いことになる。

「さあ、どうかしら」

AN-94は激怒した。かの那知暴虐の指揮官を取り除かねばならぬと。銃を向け

セレクターをフルオートにし指揮官の頭部に向けた。

「やめなさい」

AN—94にとってAK—12は特別であった。AN—94はすぐに銃を下ろしマガジンを外しチャージングハンドルを引きチャンバーに残った弾も排莖した。

「指揮官と私が誓約ね。そんなに嫌なの？」

AN—94はうなずいた。AK—12は特別だ。そんな特別なAK—12が誰かの元に行くなど耐えられぬ。

AK—12の美しい肢体が指揮官をなぶるなど耐えられぬ。

AK—12の美しい手が指揮官の首にリードを付けスクール水着を着せて散歩させるなど耐えられぬ。AK—12の美しい手が指揮官のお尻をたたき蠟燭を突っ込むなど耐えられぬ。AK—12の美しい手が鞭をふり指揮官をたたくのも駄目だ。

全て私の役目だ。

AN—94はDMであった。そして独占欲も強い。

誓約の効果はAN-94も知っている。けれどもAK-12は特別だ、誓約など必要ない。

そう主張するとAK-12は考えるそぶりをした。こういう時AK-12は指示をくれる。AK-12の指示は正しい。なぜならAK-12の指示は正しいからだ。ジャパンの環境大臣の名言に近いがAN-94は本気でそう思っている。

この間、指揮官は置いてきぼりにされた。

「そうね、M4A1のご飯を全部シナモンロールに変えてきて。そしたら考えてあげるわ」

AN-94は即座に動き出した。まずは基地の備蓄を確認した。シナモンロールが足りぬ。

AN-94は街へ向けて走り出した。途中でMP7に出会う。なぜか彼女の下半身は茶色く染まり、脚に茶色いものが付いている。そして臭い。

彼女に何をしに行くのか聞かれた。AN-94はM4A1の配給をすべてシナモンロールに変えるため街にシナモンロールを仕入れに行くと言えぬ。AN-94もMP7に何をしていたか問うた。

「私は新たな発見をしたのさ。サツマイモをパンパンになるまで食べまくってケツに浣腸液入れてでかいバイブ入れてランニングするのさ。そうするとその緊張感、出したときケツからジェット噴射してるような爽快感。そしてオーガニズム。こいつは新たなファインプレイだ。しかしあんたついに気が狂ったんだね」

こちらを気が狂ったかのように言うMP7。AK―12の指示は絶対に正しいから私は狂ってはいないし、MP7にだけは言われたくない。

そもそも臭いもきついから離れたい。話を切り上げてAN―94は街へ急いだ。喫茶店での代金は払わず踏み倒した。

AK―12のためには、ここでそんな余分なお金を使ってる余裕はないのだ。

AN―94は街に着き最寄りのパン屋に寄った。数が足りぬ。複数のパン屋や食料品店を観察し、閉店まで待った。

閉店後、防犯カメラをハッキングし、店に忍び込みありったけのシナモンロールを盗んだ。何件かの店で人間の店員や自律人形の店員と遭遇したがそれらは全て射殺して黙らせた。あくまでもシナモンロールの調達行為であり殺人ではない。AN―94は本気でそう思っている。

ちなみにサイレンサーは付けてるので銃声が外に響くことはない。彼女は頭のネジは抜けているがその辺は抜けていなかった。

朝になってようやく基地に戻ってきたAN—9 4は食糧庫に行き自分とAK—1 2の分以外の食料をすべてシナモンロールに変えた。そしてM 4 A 1の食事はシナモンロールになった。

クソツ！

彼女はAK—1 2のために朝食を作り持っていく、指示を達成できたことを伝えた。AK—1 2は驚いたが誓約はしないことを約束してくれた。

AK—1 2とAN—9 4が幸せな時間を堪能している間、基地は地獄であった。M 4 A 1が指揮官の脊髄を引き抜き殺害して所かまわず銃をぶっぱなし、自動販売機をこじ開けて小銭を盗もうとしたP 7のお尻に当たり大破。よく分からずS O P M O D IIが榴弾をぶっ放せばV e c t o rが火炎瓶を投げまくる。Z a sのマニキュアの瓶が吹き飛び近くにいたM G 2 3が犯人だと思い馬乗りになり彼女にアサルトライフルとは思えない力で殴りかかる。

どさくさに紛れて下半身を脱いだM P 7がアナルオナニーをする。無論、腸内洗浄などしていない。

まことにカオスなことになった。

朝食を食べ終えたAK―12は銃声を聞いて食堂に様子を見にきた。とてもじやないが、業務などできる状態じゃない。今日は休みだ。

彼女は部屋に戻った。AN―94は一睡もしてなかったからか、目を閉じている。寝ているのだろうか。

この子はとてもかわいい

私の大事なパートナー

私は誰かと誓約する気なんてない

この子だけのご主人様

それってある意味この子と誓約しているようなものよね

「あなたのご主人様以外になる気はないわよ。それってある意味あなたと誓約しているようなものよね」

そう言いAN―94にキスをした。

目を閉じて寝る直前だったAN-94は覚醒した。AK-12の愛の言葉とキス。眠気を吹き飛ばすのには十分だ。

「あら、起こしてしまつたみたいね。AN-94、今日はお休みよ」

その言葉を受けたAN-94は期待に満ちた目でAK-12を見る。

「私はずっとあなたと一緒にいるわよ。あなたはズーッと私から離れられないの。何を聞いたのか知らないけど、私はあなただけのご主人様であつて女王様じゃないわ。これからずっと一緒に」

その言葉に彼女は感極まりAK-12に抱き着く。AK-12はそんな彼女を優しく抱き留め頭をなでる。

彼女が落ちついたのをみて、AK-12はAN-94の顔を閉じた瞳で見つめる。

彼女もAK-12の顔を見つめ、何をされるのか理解し、目を閉じる。

そして唇を重ね合わせ、舌を絡め合う。

舌が絡み合う音

お互いのこすれる音

重なり合う呼吸音

一瞬とも永遠とも思える時間が過ぎ、唇を離す。それでもまだ繋がりが足りないのだから。お互いの唇からあふれた唾液は糸を引いて繋がっている。

AN—94は何か言いたそうだがAK—12は彼女の唇に人差し指をあてこういった。

「だから今日はたっぷり可愛がつてあげるわ。服を脱ぎなさい」

AN—94は服を脱ぎ、その身をAK—12に委ねた。

第八話 AK—12は何処ぞの王でもありません。女王様でもありません。

第九話 ガリル「双子妖精は娯楽や生殖目的に使われるべきではありません」

ここはグリフィンS13支部。特徴がないのが特徴の地区である。もちろん基地にも特徴がない。ゲーム本編と一切変わらないと思ってくれればいい。

そんな特徴のない基地のこれまた特徴のない執務室から今回の物語は始まらない。

ここは妖精格納庫。戦術人形たちを支援する妖精が待機する部屋である。

妖精と言っても本物の妖精ではない。開発者によつて自分を妖精と信じ込んでいると設定されているだけの戦術支援AIだ。

そんな妖精格納庫に一人の人間と戦術人形がいる。

「頼むよ、ガリルⅡハン。妖精の世話を任せられるのが君しかないんだ」

人間の方はこの基地の指揮官。どこにでもいる中年男だ。その男が少女に必死に頼み込んでいる。

「ハン言うな。うちはモンゴル人ちやう」

少女の名はガリルⅡハン、ではなくガリル。アサルトライフルの戦術人形だ。彼女は

非番なのに呼び出されて面倒な用事を頼まれていた。

妖精の世話。このフレーズだけ聞くとロマンあふれるが、実際は会話がどこまで通じ
るかわからない人工知能の世話だ。

そのうえボーナスもでない。動物好きのS. A. T. 8に頼めばいいと思ったが彼女は救護室でペットの世話に追われている。最近は銃を握っていないらしい。

ガリルはエリートではないが戦術人形の端くれ。銃を握らない生活はごめんこうむる。何よりボーナスが出ない。

「特別手当も出ないのに妖精の世話なんて嫌やで。それにうちがでる戦場って妖精が必要な難易度やないやん」

ガリルは必死に抵抗する。彼女が主に出るのは後方支援や鉄血の中でも弱い個体しか出ないエリアだ。

楽な仕事をし、ほどほどの給料をもらって週末に仲間と酒場で安いアルコールを飲む。それがガリルの人形ライフであった。ここにいれば給料日の週末にチキンディナーを食べることくらいはできる。

指揮官はガリルが何を望んでいるのか理解した。

「ガリル〓チャン、特別手当はでるよ。基本給にきちんと加算される。それに妖精はまだ建造されたてだから難易度の高い場所には出せないんだ」

低練度の場所で少しづつ強くなつてもらうとのこと。特別手当だけじゃなく妖精に對する教育課程で娯楽映像やゲームもあり、その私的利用も許可する。そう指揮官は言った。

この時代娯楽用品は貴重だ。そしてバッテリーに關しても第一部隊から第四部隊までのエリートに優先される。RFBが徹夜どころか72時間連続でゲームし、極度の疲労から死亡してバックアップから復元されたのは彼女がエリートだからだ。復元された彼女はゲームのデータがセーブされていなかったことを嘆いて銃を自分に向け撃ち自殺。もう一度バックアップから復元され、一週間ほど隔離部屋に入れられたのは別の話。

「はよゆえや。それなら引き受けるわ。それでその妖精どこにおるん？」

指揮官は妖精を呼び寄せた。すると妖精精神殿から妖精が出てきた。

「紹介しよう、双子妖精だ」

指揮官が紹介するも双子妖精は一切反応しない。まさかのガン無視である。ガリルが話しかけてみることにした。

「うちはガリル。よろしくな」

戦術人形も第一印象がだいじだ。ガリルは笑顔を作り、握手をしようと妖精に手を伸ばした。そうすると双子妖精も握手しようと二体同時に手を伸ばす。

ガリルはかわいいなーと思いつながら左手もだし二人同時に握手しようとしたが、二人はどちらか先に握手するかでケンカを شدした。最初は殴り合いのケンカだったのだが、エスカレートし、お互いミサイルと盾を取り出した。突然始まるガチバトルに指揮官はおろおろするばかり。

これは割にあわへんかもしれんな。ガリルはライフルを構え発砲した。

そして発射されようとしているミサイルと盾を弾き飛ばした。

「うちかて戦術人形のはしくれや。そのままあんたらの腹を抜くことくらいできるで」
そう笑顔でいうと妖精たちは大人しくなった。

ガリルは二人ともう一度握手をし、部屋に連れて帰った。

部屋に戻ってきたガリルは端末で妖精の世話の仕方を調べてみた。R o o g l eで調べたが載っていない。

妖精に何かしたいことはあるかと話しかけたが「別に」とまるで女優のような口ぶりで会話にならない。暴れだすことはないが、その代わり話もできない。

どないしたもんかと悩んでいると部屋がノックされた。

「は〜い、どちらさまっ」

「私よ!」

「あんたやったんか!」

ノックをしたのはAK-12。ドヤ顔をして段ボールを抱えている。エリート人形の訪問に驚いていると彼女は部屋に上がり段ボールから電子機器をセットし始めた。なぜか妖精は怯えだした。

ガリルがそれは何かと尋ねるとゲーム機器のハードで段ボールの中にはゲームソフトや情操教育に使える映像データが入っていると。

ガリルはセットされたゲーム機にソフトを入れた。タイトルは見えていない。

AK-12はゲームの起動を確認すると帰っていった。なんでもAN-94の散歩の時間らしい。

散歩の部分は聞かなかったことにし、ゲームのオープニングムービーをみた。AK-12が帰って安心したのか、妖精も遠くからゲーム画面を見ている。

ゲームタイトルは『デーモンメイクライ3』

悪魔と人間のハーフのイケメンが人々に害をなす悪魔を剣と銃で退治するらしい。

最初はチュートリアルなのだろう。操作説明の後に弱そうな敵が出てきた。

剣を振り回し敵を倒し次は銃を出した。

「すげえなこの兄ちゃん。M1911でもここまで連射できひんで」

そのままゲームを進めるガリル。気が付くと妖精が近寄ってきた。試しにコント

ローラーを渡すと明らかに指が届いていないはずなのにプレイが出来ている。

ガリルと双子妖精は協力しながらゲームを進めた。黒幕の主人公の兄が出てきたときは二人してイケメンに目を輝かせ大きなモンスターに食べられたときは驚いた。最後はキメ台詞とともに巨大モンスターを兄弟で倒すところは一緒にあって声を出しながら倒した。その際興奮した妖精が武器を取り出してぶっ放そうとしたが、ガリルが慌てて止めた。

ゲームが終わり次は端末で動画を見てみることにした。

持ってきた段ボールの中には映画があつたので今度は動画を見てみることにした。タイトルは世界の魚集。美味しそうなタイトルやなどガリルは思い、妖精と一緒に見た。

初めはマグロや鮭など美味しそうな魚の紹介だが、次にカンディルという南米の魚の特集になった。

他の魚のエラから入り内部から捕食する映像や、どこかで見たような中年男性が川で泳いでいるところに口からカンディルが入り込み内側から食い殺される映像が流れた。眼球から魚が出るシーンで思わず目を抑えてしまう。

夕食に魚が出ないことを願おう。

ガリルたちの願いもむなしく、その日の夕食は小魚のフライだった。

数日間行動をともししているうちにガリルと双子妖精は仲良くなっていた。双子妖精同士もなかが良くなってきた。最初は殴りあいどころか、武器を出して殺し合いをしていたのだからえらい変わりようだ。

さらに日がたつと戦闘に関しても群れからはぐれた鉄血を狩る任務には何の問題もなく連れていけるようになった。

ガリルはふと気になった。日がたつにつれなかが良いを超えたレベルになってきた気がする。数日前にAK-12が来てアダルトビデオと女の子の恋愛を描いたアニメを見たからだろうか。今もガリルの後ろで桃色空間を繰り広げている。上は桜トリックなのだろうがガリルはストロベリーな空間にパニックだ。

後方支援として街の警備に来ているのに周囲からの視線が痛い。

「あんたら、いちやつくのは仕事おわってからにしいや〜」

妖精は不満顔をしながらもいちやつくのを止めてくれた。

基地に戻り夕食を食ベシャワーを浴び、ガリルは妖精と一緒に眠りについた。妖精を連れて歩くのがすっかり板につき、もはや誰も何も言わない。

深夜2時。もぞもぞとした音にガリルは目を覚ました。戦術人形は夢を見ないが物

音に反応して目を覚ますことはある。

電気の消えた暗い部屋でガリルは耳を澄ましてみるとネチヨネチヨとした音が聞こえる。

その方向を見てみると双子妖精がいた。ただ夜中まで起きていちやついてただけじゃない。

性行為をしている！

ガリルは布団に潜り込んで目をつぶり、耳をふさぎ考えた。妖精に性欲なんてあったのかそもそも双子やから近親相姦じゃそれにちよつとまでどういう事や。メンタルがオーバーフローをおこしながらも終わるのを待った。

双子妖精はひとときわ大きな声を上げると静かになった。イッたのだろうか。

思考を取り戻す余裕ができたガリルは自分の秘所が濡れている事に気が付いた。妖精たちは寝たのか何の音もしない。

ガリルはおもむろに自分の下着に手を突っ込み、秘所に中指をあて……

夜になり双子妖精が性行為をしはじめ、その音を聞きながらガリルが自慰行為をす

る。この生活が続いた。

双子妖精はともかく、睡眠が必要なガリルは見事に睡眠不足になった。そうするとパフォーマンスが落ち、ミスもでる。

鉄血の監視任務についていたガリルだったが、見張り中に居眠りをしてしまい、進行中の鉄血を見逃した。幸いなことに他の部隊が発見し撃退したが、一歩間違えば大損害を追う所だった。

ガリルと双子妖精は執務室に呼ばれこの数日の不調の原因を尋ねられた。

「ガリル、最近君調子悪いようだけど何かあったの？他の人に聞いても双子妖精との関係は良好って言ってたよ」

双子妖精同士のなかが良好すぎるから困つとるんやないかとガリルは思った。とは言ってもこの場を切り抜ける言い訳は思い浮かばない。

「黙ってても分からないんだが。こうなるとI・O・P社に依頼してログを解析してもらうことになるな」

それはまずい。そしてこの口調の時の指揮官は本当にやる。

彼女は諦めて全てを話すことにした。こうなりややけや！

「毎晩双子妖精のHする声を聴きながらオナニーしてました！ごめんなさい！それで睡眠不足になりました！」

瞳孔を最大まで開き、大声で白状した。ガリルの顔は真っ赤になり、指揮官はまさかの答えに動きが止まった。そして時が止まる。

しばらくすると、指揮官は小さな声で「そ、そうか。でも今後は控えるようにね」と控えめな声でいい、ガリルを退出させた。

それから数日。ガリルは早めに寝るようにし、目が覚めたときはあえて声をだし、双子妖精たちの動きを止めず眠りについた。

さらに数日後。

眠りが浅かったのかガリルは目が覚めた。夕食時に飲んだ合成ビールが原因だろう。妖精たちの行為の音にも慣れた物で、ガリルは一度音を立て妖精たちの動きを止め、そのまま部屋を出てトイレに行った。

トイレを済ませ、まだ飲んでる酔っ払いどもを避け、部屋に戻ろうとしたが、部屋の前にはなぜか指揮官がいた。

「指揮官どないしたん？夜這い？9 A 9 1ならともかくうちは嫌やで〜」

「やー、ガリルハーン。君には興味ないよ。興味あるのは双子妖精だ。妖精同士のレズックス。妖精とか関係なく女の子同士っていいよね！」

夜中にも関わらず、指揮官は百合について語り始めた。ガリルはその内容をほとんど

聞いていない。指揮官の声は右耳から入り、左耳から出て行っている。

「できるなら女同士でやっているところに混ぜてほしいな」

そう指揮官が致命的なワードを口にした瞬間、ドアが吹き飛んだ。

双子妖精は途中から指揮官が部屋の前に行ったことに気づいていたのだろう。ただ指揮官がどこかに行くのを待っていたら絶対に言っただけいけないワードを口にしたので敵と認識して飛び出してきた。

ミサイルで扉を吹き飛ばし、盾で指揮官の膝を砕いた。その痛みに指揮官は叫び声をあげる。

指揮官がその口を開けた瞬間、双子妖精の二人は口から指揮官の中に入っていく。呼吸ができず苦しむ指揮官。

双子妖精は喉から胃に到達したのだろうか。指揮官の腹部が不自然に膨らむ。

そして数秒経過。戦術人形特有の聴力でガリルは聞き取った。双子妖精の喘ぎ声を。「こいつら、胃の中でやってやがる……」

ガリルは開いた口がふさがらなかった。そして喘ぎ声が止んだと思ったら、また指揮官の腹部が膨らみだし、ヘソから大量の血をふき出した。指揮官の内臓をミサイルと盾で破壊しつつしているのだろう。指揮官は叫び声をあげながら苦しみ続ける。

そして双子妖精の攻撃が心臓を破壊したのだろう。指揮官は胸を押さえたまま動か

なくなつた。

肉をえぐられ続けた影響か、指揮官の体は不自然に膨らんだりへこんだりしている。

またミサイルをぶつ放したのだろうか。指揮官の股間が吹き飛んだ。

そのまま股間から出てくるのかと思いきや、双子妖精は喉を突き進んだ。そして頭蓋骨を砕いたのか、頭が不自然にへこみ、双子妖精はそれぞれ指揮官の右目と左目を突き破り出てきた。必要もないのにキメポーズまでしている。なんのゲームの影響を受けたのだろうか。

ガリルはこの異様な光景に何も言えなかつた。一介の戦術人形に対処できる範囲を超えている。

「アカン、こりやアカン。誰か呼びにいかない」と

「その必要はないわ」

妙によく通る声が聞こえた。振り向くといつの間にかAK-12がいた。

「私よー」

夜中なのに大声とキメ顔はやめてほしい。昼間でも止めてほしいが。

彼女はガリルに事態を把握していたことを説明した。ガリルはそれなら指揮官を助けられたんじゃないかと詰め寄つたが、「そうなんだけど、女同士でやってる所に混ぜてほしいなんて言う人間は助けられないわ。私の能力の範囲をこえてる」とあつさり流さ

れた。

実際AK-12が深度演算モードをフル活用しようともそのような人間を助けることは不可能だろう。

AK-12が指をパチンとならすと、どこからともなくハッキングされたと思わしき軍用人形が現れた。死体袋に指揮官を詰めどこかに持っていった。近所の山にでも捨てるのか、それとももつと遠くまで行きE・I・L・Dの餌にでもするのか。

「ガリル、双子妖精。あなたたちはもう寝なさい。指揮官の事は気にしなくてもいいわ」
気にするなどかどう考えても無理なのだが、ガリルと双子妖精はなぜかその言葉を聞き入れた。おそらくAK-12がガリルと双子妖精のAIにハッキングをしたのだろう。

明日は久々に街の酒場に行こう。そんなときはネゲヴ達もさそわなな。そして双子妖精の紹介もせな。この子もうちらの仲間なんやし。

こうして二人は眠りについた。

第九話 双子妖精は娯楽や生殖目的に使われるべきではありません。

第十話 T M P 「現在大型人形製造機を使って触手モンスターを作ることとは可能ですが許可されていません」

「指揮官、あの子に大型建造を任せると変わった物が出やすいわよ。不確かな情報だけど他の基地じゃ触手モンスターが出たとか」

目を閉じた人形のセリフから今回の物語は始まる。

ここはグリフィンS13支部。特徴は特がない。

そんな地区の特徴のない基地のこれまた特徴もない工廠に男性と少女がいる。

男性はこの基地の指揮官で、少女は人間ではなく戦術人形だ。

指揮官は資料を広げながら少女に必死に頼み込んでいる。

「触手モンスターは男のロマンなんだよ。巨体から繰り出されるぬめぬめして卑猥な形をした触手がかわいい女の子に絡みつき女の子も最初は恐怖しているんだけどだんだん触手が出す特殊な液体によって恐怖がなくなり、触手の先端が変形して女の子の秘部に向かうんだ。そして女の子はそれを受け入れるんだ。そのころには触手も拘束を緩め手足を少し動かすくらいはできるようになって女の子は脚を開き自ら手でくばあす

るんだ。そして触手が中に侵入してゆつくりと探索する。女の子の奥に到達し物資を
残していくんだ。分かるだろこのロマンが！」

「わかりません」

ツイッターだったら文字数制限に引つかかるレベルの量を男は言うが少女には理解
してもらえなかったようだ。

とはいえ少女はその様子を想像したのか、頬を赤らめ「触手が、あそこに……」
と何やらピンク色の想像をしている。

少女の様子を見て指揮官はもう一押しだと確信する。

「触手はきつと言うことを聞くかもしれない。鉄血人形に対して有効かもしれない。何
考えてるかわからないアーキテクトですらアへ顔Wピースさせられるかもしれない。何
知ってるか？バルソクが彼女からロックな音が聞きたいぜとか言ってる性的な意味で
襲ったら返り討ちにあつてバルソクがロックな音色を挙げてたぞ。その映像データや
るから。なあお願いだTMP」

指揮官はひざまずきTMPにお願いする。

戦術人形ことTMPは少しだけ考えた後「いつ、一回だけなら」と承諾する。

しぶしぶ承諾したフリをしているが彼女の脳内は触手に絡みつかれたバルソクで
いっぱいだ。

大型建造機に近づいた彼女は資源を入力して建造開始ボタンを押す。
出た時間は9999時間だ。明らかにエラーである。

「指揮官、時間がおかしいですどうします?」

指揮官は即答する。

「快速製造契約を使い!」

TMPは指揮官の指示に従い、快速製造契約を使用する。
建造が完了し中から出てきたのは……

図鑑 No. 176 名前 TMP

銃種 サブマシンガン

収容プロトコル

TMPは収容されていません。S13地区にいましたが現在は16Labで警備員
をしています。

現在の名義上の指揮官はペルシカリア博士ということになっています。

問題を起こさずこちらに協力的ですので、部屋が個室以外の待遇は他の警備にあつ

ている戦術人形と同じです。

職員は彼女に対して優しく接してあげてください。

説明

TMPはI・O・P社が作り出した戦術人形です。戦術人形としての能力は他のTMPと同じです。

性格は臆病で照れ屋です。褒めるとコートで顔を隠してしまいます。非常に恥ずかしがり屋です。仕事がないときや休日は妄想に入り浸り卑猥な言葉を口走っています。本人は小さな声で話していて周囲に聞こえると思っていない。

これだけならただの性的興味が強い戦術人形です。

彼女の異常性が発見されたのはグリーンS13地区の指揮官が彼女に触手モンスターの作成を頼んだのがきっかけでした。

完成した触手モンスターが指揮官を襲い、それが後方幕僚の目に留まり、16Labに連絡がいき、彼女と彼女の作成した物が収容されました。

触手モンスターは現在焼却処分ができる部屋に収容しています。

彼女や他の戦術人形、グリーン職員の話の総合するとこのTMPは卑猥な妄想をしながら大型建造をすると戦術人形と一緒に猥褻物も出せるようです。

彼女の作成した物は図鑑ナンバーにちなみ、175—〇〇とします。

調査で判明した過去の大型建造結果

175—a : Saiga—12 出てきた物 : 女性向けバイブレーター 反応 : T

MPを押し倒しわいせつ行為に及ぼうとしたため後方幕僚が慌てて静止

175—b : G11 出てきた物 : 女性同士で性行為をしているビデオのパツ

ケージ 反応 : なかにディスクが入っていることを確認し、ポケットにしまい、指揮官を探しに向かう。

175—c : S・A・T・8 出てきた物 : 尻尾付きアナルビーズ 反応 : TMP
の頭をなでた後、アナルビーズをその場にいた女性後方幕僚に無理やり挿入。後方幕僚に全治二週間の怪我を負わせる。

175—d : 怪物 TMPインタビュー後に記載

TMPになぜこのような結果になったのかインタビューをしてみました。インタビューの内容、TMPの性格を考えてインタビューは女性研究者にお願いしました。

〔録画開始〕

研究者「こんにちは」

TMP「こんにちは」

研究者「楽しんでくださいね。あなたが建造した時にわいせつ物が出てきますね。あれはどうやって作っているのですか？」

TMP「えっと、自分でもどうやって作ってるかわからないです…」

研究者「では、大型建造時何を考えながら作っていますか？」

TMP「えっと」

研究者「正直に答えてくださいね」

TMP「えっちなことを妄想してます」

研究者「どうして建造中にそんなことを？」

TMP「任務とか重なると妄想してる余裕もないし、アダルトディスクももっていけないので……」

〔録画終了〕

175—dについて。

175—dについてはTMPの説明によると指揮官に触手モンスターについてのプ

レゼンをされ、了承し数值ALL??、建造チケツト??枚、代用コア??個を投入し、異常な数值が出たため快速製造をしたところ触手モンスターが誕生したそうです。

175 | d は指揮官を拘束して服を破り、尿道に細い触手を通し、体内に浸透し脳に達し目と鼻を突き破り口からも触手が出ています。

指揮官の口からは日本語と思われる言語で何かを言っています。おそらくこのモンスターは発声器官をもたないため指揮官の体を端末がわりに使用していると思われる。

センサーで確認したところ、指揮官は現在も生存しています。これは対象が死亡すると発声器官として使用できなくなるから死なせないようにしているかと推測されます。日本語らしき言語で発生している理由は不明です。指揮官は記録によるとロシア語、スペイン語、英語は離せませんが日本語を話せた記録はありません。

175 | d にインタビュを試みてみました。インタビュアーは日本語をある程度話せる日系人研究員です。

〔録画開始〕

研究者「コンニチハ」

175 | d 「アア」

研究者「アナタハ、なぜ、シキカンにキガイを加えたのですか？」

10. 現在大型人形製造機を使って触手モンスターを作ることには可能ですが許可されていません。

10-1. 指揮官が懇切丁寧に頼んできたとしてもです。

第十一話 TAC-50 「戦術人形レズポルノの市場はありません」

ここはグリフィンS13支部。特徴がないのが特徴の地区である。当然のことながら基地も特徴がない。ゲームと何も変わらない標準的な基地だ。

S16支部は特徴を出すために基地正門に大きなカニのオブジェを付け、S21支部第二基地ではゲーミングINMとか言う七色に光る小汚い銅像を基地のシンボルとして建てたらしい。

たまげたなあ。

残念ながら今回の物語もこの特徴がない地区の特徴もない基地の特徴がない宿舎から始まる。

宿舎のパソコンで必死に何かを書き込んでいる。

その横にはもう一台パソコンが置いてありそちらにはノートパソコンと接続した楓月（ふうげつ）という名のドローンがいる。

そしてもう一台のパソコンではダミー人形が動画の編集をしている。

彼女は最初動画の編集の仕方はわからなかったが、目を閉じた戦術人形に教えてもらった。あの人形は電子戦だけじゃなくこの手の事にも長けているようだ。

パソコンに何かを書き込んでいる戦術人形は書き込みが終わったのか、横にあるボトルに入っている茶色の液体を飲む。ボトルにはメープルシロップと書いてある。メープルシロップは

この戦術人形の名はTAC-50。左目が楓月というドローンとリンクしており何にもでも果敢に挑戦するアグレッシブな人形だ。

メープルシロップ一気飲みも成功したといえる。

そんな彼女は新たなる挑戦を始めた。

戦術人形レズポルノ撮影だ。

戦術人形は顔がいい。そしてそんなポルノの需要は高い。だけどたいいのポルノは出尽くしているしそもそも人形がポルノビデオで市井の男性と性行為などしながらない。

ならば戦術人形同士ならどうだと彼女は考えた。

自身のダミーリンクを使った撮影はすでに終えてある。後は掲示板で皆に発表し支持をもらうだけだ。そうすれば題材に使われた人形も嫌とは言えないし、指揮官も許可してくれる。

おっぱいマウスパッドなんかより売れるに違いなく、私はグリフィンを救った人形としてメープルシロップに囲まれた生活を送るのだ。

早速掲示板に書き込みだ。

戦術人形レズポルノスレ part 1

1メープルシロップの人形さん@お腹いっぱい

私が作成したポルノビデオを発表するスレとなります。

感想や提案をたくさんください。おしこり報告も歓迎します。

過度な煽りは誹謗中傷、極秘情報の漏洩は避けましょう

2名無しの人形さん@お腹いっぱい

>>1乙

3名無しの人形さん@お腹いっぱい

>>1乙ですねえ

4名無しの人形さん@お腹いっぱい

>1乙

5名無しの人形さん@お腹いっぱい

>>1乙・・・ポルノビデオ

!!!!!!!!!!!!

6メイドの人形さん@お腹いっぱい

Hなのはいけないと思います

7ブルパップ人形さん@お腹いっぱい
相手は誰？指揮官??大スクープじゃん！

8殺しのために生まれた人形さん@お腹いっぱい

部下に手を出すなんて不潔よ!!それで指揮官の口径は大きかったのかしら？

指揮官がこつちに来た時のための対策で有って指揮官のア、アレの大きさが気になるわけじゃないんだからねっ！

9大口径な人形さん@お腹いっぱい

指揮官は大きいわよ。ウフフ(∩、∪、*)ウフフ

10おばあちゃんの人形さん@お腹いっぱい

嘘じゃな。あやつはロリコンじゃ。おぬしには欲情せん

11名無しの人形さん@お腹いっぱい

>>1の話聞いてあげようぜ

あ 12名無しの人形さん@お腹いっぱい

あ 13名無しの人形さん@お腹いっぱい

あ 14名無しの人形さん@お腹いっぱい
あつ

あ 15名無しの人形さん@お腹いっぱい
あん♡

30メープルシロップの人形さん@お腹いっぱい

落ち着いたので話しますね。

私は新たなことをしようと思いましたが。そして何をするか考えた時まずはグリフィンの財政に貢献することを思いつきました。

人形ポルノは一定の市場はありますが、所詮は民間用。戦術人形ポルノはありません。あっても無理やり出演させられた違法な物。

ならばいつそ我々が自分たちで出すことにより市場の独占を図ろうと思ったのです。市井の男性と性行為をするひつようはありません。

戦術人形同士でまぐわってもr

31メープルシロップの人形さん@お腹いっぱい
らいます。

名付けて戦術人形レズポルノプロジェクトです!!!
すでに撮影も済ませています!!!

32名無しの人形さん@お腹いっぱい
真面目だ

33名無しの人形さん@お腹いっぱい

やることは最低だが

34名無しの人形さん@お腹いっぱい

真面目だ

35ジャックダニエルの人形さん@お腹いっぱい

そうだな

36完璧な人形さん@お腹いっぱい

そうね

37名無しの人形さん@お腹いっぱい

そうですわね。

55メートルシロップの人形さん@お腹いっぱい

第一弾はこれです

『鉄血(を)脅迫』

トンブソンたちの追撃』

前線探索の途中、トンブソン率いる探索部隊は黒塗りの高級車に乗ったデストロイヤーの車を破壊してしまう。部下をダルマにされた車の主、デストロイヤーに言い渡された見逃す条件とは。

部下の前で凌辱されるデストロイヤー、M9やM1911等にメスガキフェイスで笑われるデストロイヤー、快楽と憎悪に翻弄されて一瞬の隙も付けないデストロイヤー。何故か犯す側で参戦するドリーマー。単なる虐待AVは危険な領域に突入する！

サンプル動画URL

○ <https://youtu.be/tuedNkDia>

56名メートルシロップの人形さん@お腹いっぱい

トンブソンさん達にはまだ話してないので私のダミーに変装させてデストロイヤーを凌辱しました。ドリーマーはデストロイヤーが救援として呼んだのでしようね。

お楽しみが終わった後すぐ帰っていききました。

ドリーマーはきちんと埋めとききましたよ。

57名無しの人形さん@お腹いっぱい

・
・
・

58名無しの人形さん@お腹いっぱい

・
・
・

59ブルパップ人形さん@お腹いっぱい

・・・送信!

60ジャックダニエルの人形さん@お腹いっぱい

そうだな

61メープルシロップの人形さん@お腹いっぱい

日本で生まれてアジアに広まった民間伝承にINMというお話があるんです。それを参考に見ました。

この話に汚染された人が何百万人もいたらしいですよ。

62 太鼓の人形さん@お腹いっぱい
昔の日本人やりますねえ

63 お米派の人形さん@お腹いっぱい
たまげたなあ

64 潔癖症の人形さん@お腹いっぱい
私も美少女のにやんにやんしたい。鉄血を犯してるM1911ちゃんやM9ちゃん
を犯したい！

65 いうこと機関銃の人形さん@お腹いっぱい
→のCVはミ○ノ

66 ジャパンの人形さん@お腹いっぱい
そうね

67 ジャックダニエルの人形さん@お腹いっぱい

そうだな

68 カフェの人形さん@お腹いっぱい
カフェではしないでくださいね

221 メールシロップの人形さん@お腹いっぱい
皆さんのお話を聞いたり指揮官にプレゼンしてきますね。

人形たちの同意なんていりません。後で指揮官から指示してもらいますし、デストロ
イヤー

なんてその辺に落ちてますから。

222 名無しの人形さん@お腹いっぱい
ちよ

2 2 3 名無しの人形さん@お腹いっぱい
おま

2 2 4 名無しの人形さん@お腹いっぱい
やめろ

2 2 5 人気者の人形さん@お腹いっぱい
やめろなの

2 2 6 ダーリンの人形さん@お腹いっぱい
流石にだめよ

2 2 7 タイプライターの人形さん@お腹いっぱい
後で覚えとけよ

2 2 8 目を閉じた人形さん@お腹いっぱい
どうなるか楽しみね

235メープルシロップの人形さん@お腹いっぱい
駄目でした。

236名無しの人形さん@お腹いっぱい
そりゃそうだ

237ブルパップの人形さん@お腹いっぱい
当たり前じゃん

238カフェの人形さん@お腹いっぱい
駄目に決まってますよ

239ジャックダニエルの人形さん@お腹いっぱい
そうだな

240メープルシロップの人形さん@お腹いっぱい

何人かに追い掛け回されて怖かったです。

でも、私は諦めません。チャイナにはなくてもチャイナには市場があるはずです！カ
ンフーだってレズポルノが好きはなはず！

チャイナに由来する戦術人形だっているのですから。

プランBで行きます！

241人気者の人形さん@お腹いっぱい

市場はともかく許可が下りないなの。糖分の摂りすぎで考えまで甘くなってるなの。

242タイプライターの人形さん@お腹いっぱい

ライフルなのになんであんなに動きが速いんだ

243殺しのために生まれた人形さん@お腹いっぱい

ライフルタイプって相手の動きを予測して行動するのよ

244名無しの人形さん@お腹いっぱい
演算能力の不要な活用を

245おばあちゃんの人形さん@お腹いっぱい
無駄に動きがない無駄に洗練された無駄な動きじやの

246メープルシロップの人形さん@お腹いっぱい
>>245

洗練されたなんて褒めていただけで嬉しいです。

247おばあちゃんの人形さん@お腹いっぱい
褒めとらん

248名無しの人形さん@お腹いっぱい
ほめてないな

249カフェの人形さん@お腹いっぱい

褒めてないですね。

250 ジャックダニエルの人形さん@お腹いっぱい
そうだな

251 メープルシロップの人形さん@お腹いっぱい
シヨボーン(・ω・)
プランBを発表しますね。

252 メープルシロップの人形さん@お腹いっぱい

『お姉ちゃんは見てる』

百合の花と血の儀式』

ここはチャイナ北部にあるグリフィン女学院。

主人公は97式戦術人形。彼女は謀略を駆使し、憧れである95式戦術人形と晴れて姉妹となった。

この学院にはスールと呼ばれる特別な制度がある。

先輩が姉で後輩が妹。二人は疑似的な姉妹となって助け合う。

学生生活から性欲を持って余した夜のお相手まで。そんな学院は週末に特別な儀式が行われるのだ。

儀式は『礼拝』と呼ばれる。

ナイフで自分の手首あるいは首元を切り、その血をコップに移し、姉は妹に妹は姉に飲ませる。お互いの血を飲むことで結びつきが強くなるのだ。

そして血を飲んだ後は服を脱ぎ、そのままぐわって一つの百合の花となる。

サンプル動画URL

○ <https://youtu.be/tuedNkDia>

253 メープルシロップの人形さん@お腹いっぱい

どうです！これならいけるでしょう。メープルシロップが進みます。

中国で受けること間違いなしですよ。

ジャパンのレスポルノコミックはすごいですね。

254 人気者の人形さん@お腹いっぱい

ガチな奴が来たなの

255 タイプライターの人形さん@お腹いっぱい

そうだな

256 ジャックダニエルの人形さん@お腹いっぱい

そうだな

257 殺しのために生まれた人形さん@お腹いっぱい

そうよね

258 シングルアクションの人形さん@お腹いっぱい
血じゃなくコーラを飲めばいいのに

259 名無しの人形さん@お腹いっぱい

ちよ

260 名無しの人形さん@お腹いっぱい

おい

261名無しの人形さん@お腹いっぱい
ちよ

262名無しの人形さん@お腹いっぱい
草

263名無しの人形さん@お腹いっぱい
芋

264大食いの人形さん@お腹いっぱい
ハンバーガー

265お米派の人形さん@お腹いっぱい
米

266空腹の人形さん@お腹いっぱい
チヨコ

267 おばあちゃんの人形さん@お腹いっぱい
話が脱線しとるぞ

268 大口径の人形さん@お腹いっぱい
そうよね。

しかしいいセンスね。メープルシロップの人形さん、
後でお姉さんの部屋に来ない？
ひとりできてね

269 名無しの人形さん@お腹いっぱい
ナンパすな

270 名無しの人形さん@お腹いっぱい
オフパコは別でやりなさいよ

271 ハイセンスな人形さん@お腹いっぱい
そうよ

272メープルシロップの人形さん@お腹いっぱい

>>268

お断りします。

皆さんの反応見る限りこれなら行けますね。指揮官もガチだなと理解してくれるでしょう。

その後変装した私じゃなく95式さんと97式さんでちゃんとした撮影をします。

本人の同意なんて不要ですよ。

では行ってきます！

グリフィンの救世主に私はなるんです。

273名無しの人形さん@お腹いっぱい

無茶しやがって

274お外が大好きな人形さん@お腹いっぱい

今お姉ちゃんがフル装備して向かっていったよ。

すごい笑顔で。

2 7 5 おばあちゃんの人形さん@お腹いっぱい
おわたたの

2 7 6 名無しの人形さん@お腹いっぱい
おわたたね

2 7 7 ブルパップの人形さん@お腹いっぱい
ブルパップだからね

3 3 3 カフェの人形さん@お腹いっぱい
銃声が聞こえますね

3 3 4 お外が大好きな人形さん@お腹いっぱい
お姉ちゃんすごい暴れてるね。

血を飲むのは嫌だけど、私、その、お姉ちゃんとなら、そういうことしてもいいかな

335名無しの人形さん@お腹いっぱい
尊い

336名無しの人形さん@お腹いっぱい
尊い

337名無しの人形さん@お腹いっぱい
萌え

338名無しの人形さん@お腹いっぱい
萌え

339名無しの人形さん@お腹いっぱい
キュン

340名無しの人形さん@お腹いっぱい

百合美味しいです

341 ジャックダニエルの人形さん@お腹いっぱい
そうだな

417 メーブルシロップの人形さん@お腹いっぱい

逃げ切りました！

指揮官にプレゼンし結果ですが、駄目って言われました。グリフィンはAV会社じゃないし、チャイナとの繋がりはないって。銃を突き付けても駄目でした。ただ映像を見た指揮官の股間は膨らんでいました。

手ごたえありです!!

418 名無しの人形さん@お腹いっぱい

だからといって販売は

4 1 9 お姉ちゃんの人形さん@お腹いっぱい

指揮官様はいかがわしい映像作品なんて販売しませんよ。

>>>334

今夜部屋に行くから綺麗にして待つてなさいね

4 2 0 おばあちゃんの人形さん@お腹いっぱい

流石に無茶じやのっておおう

4 2 1 お外が大好きな人形さん@お腹いっぱい

うん／／／

4 2 2 名無しの人形さん@お腹いっぱい

キマシタワ

4 2 3 名無しの人形さん@お腹いっぱい

キマシタワ

424名無しの人形さん@お腹いっぱい
キマシタワー

425ブルパップの人形さん@お腹いっぱい
ブルパップキマシタワー

426人気者の人形さん@お腹いっぱい
キマシタワーナノ

以下キマシタワーラツシユがちよつと続く

801メープルシロップの人形さん@お腹いっぱい
お久しぶりです！

色々逃げ回りながらプランCを考えました。

そして今度はアジアではなくイベント販売の後FAN〇Aで売ります。
ブリテンで開催されるネオコミックマーケット2062のために撮影しました。
もうサークルカットも描いて申し込みして当選して、追加の椅子も申し込んだりして。

このイベントが終わったら委託販売するんです。そのためにFAN〇Aの手続きも完了してるんですよ。えへへ。

802名無しの人形さん@お腹いっぱい
まだ考えてたのか

803カフェの人形さん@お腹いっぱい
一体何が彼女をそうさせるんでしょうか

804目を閉じた人形さん@お腹いっぱい
ここまで情熱を見せるのね。興味深いわ

805おばあちゃんの人形さん@お腹いっぱい

なんかフラグたつとるような気がするんじやがの

806名無しの人形さん@お腹いっぱい
確かに

807メープルシロップの人形さん@お腹いっぱい

>>805

>>806

気のせいです

817メープルシロップの人形さん@お腹いっぱい

『ぐりファイソテクニック』

ここはハッテソ場グラフィンパーク。

戦術人形に興味がある戦術人形はここにくるのだ。

今全力疾走してる彼女はコンテンダー。他の人形と違うのしいてあげれば尿意をもよおしているって事かな。

ふとベンチを見ると一人の戦術人形が座っていた。

「ウホッ、いい人形」

そう思っていると突然その人形はネクタイを外し、シャツのボタンをはずしはじめた。

「やらないか」

それが私とパイソンの出会いだった。

サンプル動画URL

○ <https://youtu.be/M7IPOUvkTJQ>

818メールシロップの人形さん@お腹いっぱい

東洋に伝わるアベタカカズの伝承を参考にしました。

伝承を元に作成するなら大丈夫ですよ。

東洋の伝承ってすごいんですね。

819 和太鼓の人形さん@お腹いっぱい

やりますねえ

アツー！

820 お米派の人形さん@お腹いっぱい

アツー！

821 名無しの人形さん@お腹いっぱい

アツー！

822 名無しの人形さん@お腹いっぱい

アツー！

823 名無しの人形さん@お腹いっぱい

アツー！

835 名無しの人形さん@お腹いっぱい
すごいもんを作ったな

836 関西弁の人形さん@お腹いっぱい
こりやたまげたで

837 メープルシロップの人形さん@お腹いっぱい
皆さんの評価もいただきましたし、指揮官にプレゼンしてきますね。

838 カフェの人形さん@お腹いっぱい
もしかして

839 関西弁の人形さん@お腹いっぱい
彼女は

840 お外が大好きな人形さん@お腹いっぱい
人の話を

841 名無しの人形さん@お腹いっぱい
聞いてない

842 ジャックダニエルの人形さん@お腹いっぱい
そうだな

843 ハンティングの人形さん@お腹いっぱい
ここに新しい獲物があると聞いたのだが

844 単発式の人形さん@お腹いっぱい
弾丸の貯蔵はチェック済みですね。では、ハンティングを開始しましょう

845 関西弁の人形さん@お腹いっぱい
お約束やな

846 和太鼓の人形さん@お腹いっぱい
そうですねえ

865 名メープルシロップの人形さん@お腹いっぱい
今回も駄目でした。一体何がいけないんでしょうか。
指揮官の好みですかね。

866 名無しの人形さん@お腹いっぱい
好みではないだろ

867 ジャックダニエルの人形さん@お腹いっぱい
そうだな

868 名無しの人形さん@お腹いっぱい
グリフィンがポルノビデオ出すのが

869 完璧な人形さん@お腹いっぱい
駄目に決まってるでしょ

870 眠たい人形さん@お腹いっぱい
そうだね z z z

871 名無しの人形さん@お腹いっぱい
秘宝：指揮官死亡

872 マツチヨSMGの人形さん@お腹いっぱい
悲報では？

873 誤字をした人形さん@お腹いっぱい

871です。

悲報：指揮官死亡

874名無しの人形さん@お腹いっぱい
フアツ

875名無しの人形さん@お腹いっぱい
え

876名無しの人形さん@お腹いっぱい
えっ

877名無しの人形さん@お腹いっぱい
ん

878名無しの人形さん@お腹いっぱい
えっ

879 ダーリンの人形さん@お腹いっぱい
ダーリンが

880 ブルパップの人形さん@お腹いっぱい

m j d

881 カフェの人形さん@お腹いっぱい
あらまあ

921 おばあちゃんの人形さん@お腹いっぱい
死因はなんなのじゃ？

922 同志の人形さん@お腹いっぱい

同志指揮官がそう簡単に死ぬはずないじゃない。どうして死んだの？

923名無しの人形さん@お腹いっぱい
なんでもウオシユレットの誤作動だそうです。

ウオシユレットの圧力がすぎてウオーターカッターみたいになってたとか。指揮官はお尻から真つ二つになってたらしいです。指揮官の遺体を山に埋めた後、P A — 1
5が試しにウオシユレットを起動してみたところ彼女も真つ二つになりました。
刺激を感じる暇もなかったでしょうね。

924名無しの人形さん@お腹いっぱい
むごい。

925名無しの人形さん@お腹いっぱい
お尻を抑えた

926名無しの人形さん@お腹いっぱい
しばらくティッシュしか使いませんわ

927名無しの人形さん@お腹いっぱい

私もよ

928目を閉じた人形さん@お腹いっぱい
ウオシユレットの効きが弱いからプログラムを調整しろって言われたんだけどまさ
かこんなことになるとはね。悲しい事故だわ

929名無しの人形さん@お腹いっぱい
悲しい事故ですね

930名無しの人形さん@お腹いっぱい
事故だね

931名無しの人形さん@お腹いっぱい
事故です

932名無しの人形さん@お腹いっぱい
事故です！

933 和太鼓の人形さん@お腹いっぱい
じこですねえ

934 ナンバーワンの人形さん@お腹いっぱい
トイレ行った後ウォシュレットもティッシュも使わないアタシだけどこれは可愛そ
うだね

935 名無しの人形さん@お腹いっぱい
ん？

936 名無しの人形さん@お腹いっぱい
えっ？

937 名無しの人形さん@お腹いっぱい
ん？

9 3 8 潔癖症の人形さん@お腹いっぱい

その割には>>9 3 4 のパンツはいい臭いがしたんだけど

9 3 9 名無しの人形さん@お腹いっぱい

えっ

9 4 0 名無しの人形さん@お腹いっぱい

えっ

9 4 1 ブルパップ人形さん@お腹いっぱい

今は指揮官に黙とう

9 4 2 名無しの人形さん@お腹いっぱい

黙とう

9 4 3 名無しの人形さん@お腹いっぱい

南無

944名無しの人形さん@お腹いっぱい
アーメン

945名無しの人形さん@お腹いっぱい
南無

946カフェの人形さん@お腹いっぱい
ご冥福をお祈りいたしますわ

989ブルパップの人形さん@お腹いっぱい
このスレはこれで落とすね

あぼーん
990メープルシロップの人形さん@お腹いっぱい
あぼーん

991 人気者の人形さん@お腹いっぱい

あぼーん

992 シナモンロールの人形さん@お腹いっぱい

あぼーん

993 完璧な人形さん@お腹いっぱい

あぼーん

999 あたいの人形さん@お腹いっぱい

あぼーん

1000ジャックダニエル人形さん@お腹いっぱい
そうだな

1001名無しの人形さん@お腹いっぱい

このスレッドは1000を超えました。

新しいスレッドを立ててください。

11. 戦術人形レズポルノの市場はありません。

11-1. ありません。中国にもです。

11-2. コミックマーケットで販売されれば大きな利益を生むかもしれませんがそれでも駄目です。FANOAでネット販売もです。

第十二話 M590「M590のショットガンの弾の中身を彼女自身のパンツ、紙吹雪、おがくず、性的潤滑剤で詰め替えるべきではありません」

ここはグリフィンS13支部。特徴がないのが特徴の地区である。当然のことながら基地も特徴がない。ゲームと何も変わらない標準的な基地だ。

そんな基地の特徴もない宿舎から今回の物語は始まる。

7月18日

私の名前はM590。今日から日記をつけることになりました。戦術人形にこのようなことは不要だと思えますが、副官のAK-12によると、500式と一緒の部屋にいるあなたの記録もほしいとのことだ。ならば行動ログを提出すればいいのではと思います。日々の何気ない出来事を書いて記録に残すのもだいじらしいです。

指揮官も後ろでうなずいていました。

7月19日

今日も500式は動いていません。

この基地の500式はなぜか動かないんです。普段は私の部屋の一角に放置されています。指揮官がI・O・Pや16Labに検査を依頼しましたが、壊れているわけではないそうです。完全に原因不明とのこと。

G11やM249のように必要な時以外は常に寝ているのではなく、目を開けたまま前世紀の人形のように動きません。

久々に500式の頭部に向かってスラッグ弾を撃ってみました。全く傷付きません。今日はもう疲れました。寝ましょう。

7月20日

朝起きると部屋が掃除されていました。壁も床もきれいになっています。なぜでしょうか。部屋に設置した500式を監視しているカメラの映像を確認したけど全く動いていません。たいていみましたが、相変わらず反応はありません。

今日の訓練では命中率が上がりました。装備開発で質の良いバックシヨット弾が出たらしく、それを私に回してもらえることになりました。

500式のおかげですね。

7月21日

今日は休日。朝は500式の身体を拭きました。服を脱がすこともできないので、洗剤をかけてスポンジで汚れを落とします。耳の裏側に垢がたまっていたので、そこはクリーニンググロッドでふいて、股に關してはパンツに手を突っ込んで掃除します。膜を破つて出血させてしまいました。消毒液をかけて殺菌したのでノーカンですね。

その後はお湯で洗い流し、窓を開け自然乾燥させます。この基地にはいい加減な人形が多いです。他の人には500式の世話は任せられません。

午後はSPAS-12と一緒に街に出かけました。この間配布された学生服風の衣装で来るように言われました。目立たせなくするためでしょうか。

SPASもどこから調達したのか、私と同じ服装できました。学生服なのに妙な色気があり、私にはその毛がないのにクラッとときそうです。

街の雑貨店で500式に似合いそうなキャップを見つけたので買いました。動かないとはいえ女の子ですからね。

SPASは食べ物しか買っていません。彼女はスタイルがいいのだし、もつと服やアクセサリーを買ってオシャレをすればいいと思います。

昼食を食べた後、SPASが晩御飯の調達をしたいと言い出しました。基地の食堂で食べればいいと思うのだけど、料理でも始める気なのでしょうか。食品店に向かうと思いきやなぜか路地裏の??店に向かいました。そこで10歳くらいの子供を買いました。試食でもさせた後施設にでも送るのでしょうか。彼女は時々よく分からないことをしだします。

7月22日

500式にキャップを被せた効果はなかったようです。部屋はそのままでした。

食堂に朝食を食べに行こうとしたらSPASに呼び止められました。昨日の付き合ってくれたお礼としてコロッケパンを渡されました。昨日の少年で作ったから食べてとのこと。どこか単語がおかしい気がします。昨日の少年と一緒に作ったのでしょうか。

味は非常に美味しかったです。

指揮官に呼ばれて執務室に行ったのですが、入った途端パンツを盗まれました。毎回ストッキングは傷ついていませんし、取られたパンツの十倍くらいのお金をくれますがやめてほしいです。そして食べないでほしい。SD指揮官の胃はどうなっているのでしょうか。

7月23日

朝起きると枕元に大量のストッキングと高級そうな下着が置いてありました。500式も心なしかツヤツヤしています。外では指揮官が白い???のようなものを食べています。この人が普通の食事をしているところを見たことがあります。ここまできると心配になるから病院に行つてほしいです。

7月24日

ゴミ箱の中に捨てた覚えのないゴミがありました。500式の影響でしょうか。

500式に変化はありませんでした。

午前の訓練で射撃をしようとしたのですが、弾が出ません。分解してみるとバレル内に紙吹雪とおがくず、ローションとも呼ばれる性的潤滑剤と私のパンツが入っていました。

ロッカーから視線を感じたのでロッカーのドアを外すとART556とP7が隠れていました。この子たち、自販機を荒らすだけじゃなかったんですね。パンツは自分たちではないと言いついていました。つまりそれ以外は自分たちだという事です。

彼女たちの手足をへし折つた後、銃を分解清掃してスラッグ弾の訓練をしました。身

軽な二人も丸腰で脚をを折られたら避けられないようです。ボールみたいになっていますが、これに懲りたらこのような危険なイタズラはしないでしよう。

7月25日

起きると部屋がきれいになっていました。ホテルの一室かと思うくらい清掃されていました。服も全て洗濯されています。

念のため銃も確認しましたがまるで新品のようです。

500式もびかびかになり、光り輝いています。まぶしいです。この日記を書いている今も光っています。人間であれば明るくて寝れないでしょうね。

SD指揮官が亡くなりました。AK-12に緊急事態だと言われて執務室に行くと変わり果てた指揮官と対面しました。

部屋一面に紙吹雪が舞い、口からパンツが出ていました。どう見ても私のです。私のパンツを喉に詰まらせて亡くなったのかと思いました。AK-12が指揮官の上着を脱がせ、私にショットガンで彼のお腹に穴をあけるよう言いました。私は最初、嫌だと言いましたが、彼に何があつたか調べる必要があるといわれ、仕方なしに指揮官のお腹にバックショット弾で穴をあけました。

窒息死に間違いないようですが、指揮官の胃からは性的潤滑剤と大量のおがくず。

第十三話 M16A1「HK416のアサルトライフルをM4A1と取り替えるべきではありません」

ここはグリフィンS13支部。特徴がないのが特徴の地区である。

当然のことながら基地も特徴がない。ゲームと何も変わらない標準的な基地だ。そんな基地の特徴もない基地からではなく街の美術館から今回の物語は始まる。

ここはS13地区美術館の特別展示室。ここに四人の戦術人形がいる。彼女たちは絵の左右に立ち、警備をしている。

警備をするメンバーはM4A1、M16A1、HK416、G11の四人だ。他のメンバーは警備室に待機している。

指揮官はUMP45と一緒に警備室のモニタールームにいる。ただし指揮官は目を開けながら寝ている。

M4A1は非常に気まずい思いをしていた。横にいるHK416の不機嫌オーラが彼女とM16A1に向かってきていた。

HK416からしてみれば毛嫌いしているAR小隊と一緒に任務をさせられるのだから当然かもしれない。

M16A1は考えていた。この二人には仲良くなってもらいたい。だがお互いというかHK416のライバル心がすさまじい。HK416が優れた銃なのは事実だが、M4A1だって使い勝手もいい。

いったん思考を中断し、M16A1は隠し持っていたスキットルに入っているジャックダニエルを飲んだ。

任務中なのにお酒を飲むのかと思うがこのM16A1、重度のアルコール依存症でもはやアサルトライフルの戦術人形というよりジャックダニエルの戦術人形に近い。自分の銃の状態は分からなくても手にしたジャックダニエルの状態はすぐにわかる。そして1km以内に存在するジャックダニエルの位置も分かるようになった。

この美術館には五本ジャックダニエルがある。

「16姉さん、まだ任務は終わってませんよ」

妹で隊長のM4に注意されるもM16A1は飲むのを止めない。HK416にも注意される。

「そっだな」

そう答えてスキットルの中身を飲み干した。二人が横から何か言ってくるがM16

A1はそうだなとしか返さない。アルコール依存症になってメンタルモデルに異常が生じたのか、M16A1は「そうだな」としか言えなくなった。

一昔前の勇者以下の語彙力である。

そのおかげか、傘ウイルスに感染してもメンタルを書き換えられることもなく無事に帰ってこれた。アルコールでコーティングされていてウイルスが聞かなかつたのか、鉄血もアル中なんていらなと思ったのか。おそらく後者であろう。

M4もHK416も言っても無駄だとわかったのか、何も言わなくなった。G11はずっと寝ている。

M4は恨んだ。アル中となぜかこつちをにらんでくる完璧な女(笑)を。そして指揮官とAK112を。クルーガーの脊髄を引き抜こう。

HK416は恨んだ。優柔不断なM4とアル中と一緒にした指揮官を。そしてドヤ顔でこの四人に組ませた方がいいと言ったAK112を。G11には最初から期待していない。

M16A1は酔ったまま展示されている絵を見た。

飾ってある絵はウジェーヌ・ドラクロワの『民衆を導く自由の女神』

とはいっても本物はすでに焼失していてこれは複製だそうだ。

高そうな絵だなと思うがM16A1には芸術のことなどわからない。分かるのはジャックダニエルの事だけだ。

数秒間見続けていると、絵にうつすらと文字が書いてあるのが見えた。乱雑な字で“Revolution”と書いてある。M4とHK416に文字が書いてあるところを指さしても彼女たちは何も見えていないようだ。

「何も見えませんよ。お酒のせいで幻覚でも見てるんじゃないですか」
「そうだな」

そうだろうか、M16A1は別のスキットルに入ったジャックダニエルを飲みながら考えた。やっぱり文字が書いてあるように見える。もう一度二人に見てもらおうと思ったら停電になった。

M4とHK416は素早く銃を構え警戒態勢に入り、M16A1ではなくジャックダニエルを構えたアル中も慌てて銃を構える。

幸いにも電気はすぐについた。UMP45によるとただの停電らしい。G11は寝ていた。

三人で絵を確認するが異常はない。複製画は普通にそこにある。

M16A1が見ると、Revolutionの文字が消えていた。そして身ぶり手ぶりで二人にそのことを伝えようとしたら二人に驚くべき変化が表れていた。

二人の持つている銃が入れ替わってる。

M4はHK416を持ち、HK416はM4A1を持っている。

M16A1は感動し、どこからか大瓶のジャックダニエルを取り出し一気に飲み干した。

そうしてM16A1の意識は途絶えた。

「そうだな」

・・・3時間後

HK416の完璧な踏みつけによってM16A1は起こされた。

その後自分たちのシフトは終了し、今は別の班が引き継いでいるそうだ。

M4とHK416を見てみるとまだお互いの銃が入れ替わっていた。どういう事だろうか。M16A1はモーニングジャックダニエルをきめ、指揮官のところに向かった。

「そうだな」

そう指揮官に尋ねると、指揮官も異常性を把握していたみたいだ。あの絵は一見するとただの複製画だが、お互いの所持品を入れ替えたりと認識を狂わす電波が発せられるらしい。それでM4とHK416の認識が狂ったのだそうだ。

今すぐ16LABに報告すべきだと思うが指揮官は任務には支障がないからこのままでいいという。実際数日で気づく例も多いらしい。

ひどい場合、この絵を略奪しに来た鉄血人形のうちの一体とグリフィンの人形の一体の認識が入れ替わり、同士討ちしただけではなく、グリフィンの人形はそのまま鉄血人形と一緒に帰ってしまったそうだ。正気に戻った双方の人形はショックからか愛銃で自らの頭を撃ちぬいたそうである。

「そうだな」

数日で気づくのなら問題はない。むしろお互いの銃の良さを理解できる良いきっかけになる。

M4達の元に戻ろうとしたとき、指揮官からライフルケースを渡された。重量的にアサルトライフルが入っているように思える。

「そうだな」

彼女はそう問いかけると指揮官はこう

「元に戻ったHK416が暴れた時はこれを渡して。これなら暴れても安全だから」

なぜこれが安全なのか分からないが、彼女はライフルケースを肩に担ぎ、ジャックダニエルを飲みながら指揮官のいる部屋を後にした。

美術館にあるジャックダニエルをすべて回収したM16A1はM4達の元に戻ってきた。

彼女たちの銃は入れ替わったままで周囲の人形たちもその事について何も言っていない。まるで最初からこの二体はこの銃を持っていたかのように。

なるようになると思い、M16A1は回収したジャックダニエルを飲みほした。

G11は寝ている。

・・・夕方

別のグループから警備を引き継いだM4A1は警備をしていた。HK416は相変わらずにらんでくるし、M16A1は酔っぱらっている。

G11? 寝たままだ。

まともなのは私だけかと思いつつも絵の前に立っていた。フル装備の戦術人形が

警備をしているからか、アルセーヌルパ〇もダニ〇・オーシャンと愉快な仲間たちも現れない。

そもそもろくに客が入ってこない。

なんとなく絵を見てみた。ただの西洋画の複製だと思ったら、文字が浮かび上がってきている。

乱雑な字で“Revolution”と。昼間M16姉さんが言っていたのはこれなのだろうか。

HK416の肩をたたき、絵を見るように叩いた。HK416にも文字が見えたようだ。

それだけではない、私はどうしてHK416を持っているんだろうか、そしてHK416もどうして私の銃を持っているのだろうか。

M16A1は酔っぱらいながらもM4A1とHK416が絵に書いてある文字を見つけたのに気が付いた。そしてM4A1とHK416はお互い自分が持っている銃を見て、入れ替わっていることに気が付いたのか、お互いの銃を交換した。

彼女からしてみればお互いの銃を少しの間交換すればそれぞれの良さに気が付くと思っただろう。だから何も言わなかった。指揮官もおそらく似たような考えだった

「そうだな」

13. HK416のアサルトライフルをM4A1と取り替えるべきではありません。
13-1. HK416のアサルトライフルを東京〇ルイの電動ガンと取り替えるべ
きではありません。

第十四話 ステンMK—II 「支援部隊はボスを倒すのがめんどくさくなつた時代わりに倒してくれる部隊ではありません」

某所、湖畔にて。

銃を持った少女たちと、ボロボロの衣服の子供たちが必死に走っている。彼女たちは傷つき血を流している。銃を持った少女のうちの一人は片腕を欠損している。

それでも少女たちは子供たちを連れて逃走する。

人間を守るために。

「こちら友軍部隊。指揮官聞こえますか？ 応答してください。私たちは今難民の子供を抱えて指示されたポイントまで逃走中です」

少女は指揮官に無線で呼びかける。指揮官からすぐに応答がきた。女性の声だ。友軍部隊を要請した指揮官は女性らしい。

「あー、聞こえてるよー。ごめん、指示間違えてた。いや、ボタン押す所がね。ここをおすのかー。ということでも来た道を戻って。敵に追われてるんだっけ？ 戦力値に大丈夫、

君たちならできるよー」

絶望的な指示が飛ぶ。それでも少女たち、いや戦術人形たちは指揮官の命令に逆らえない。せめて子供たちだけでも守らなければ。

戦術人形たちは覚悟を決め敵に向けて銃を構えるのだが、その覚悟を打ち砕く者が現れた。

「よく逃げたな、グリフィンのゴミども」

ハイエンドモデルが現れたのである。通常の鉄血人形だけならまだ勝ち目はあったがここに来てその可能性は途絶えた。

数分後、両腕両足を切り落とされ、死の間際に立たされた人形たちが最後に見たのは必死に命乞いをする子供たちと、それを聞き笑いながら子供たちを切り殺していくハイエンドモデルの姿であった。

「この子たちをたすけて」

・・・時は流れ数カ月後

ここはグリフィンS13支部。特徴がないのが特徴の地区である。当然のことながら基地も特徴がない。ゲームと何も変わらない標準的な基地だ。そんな特徴もない基地からではなく冒頭の湖畔から物語は始まる。

湖のほとりで二人の人形が話をしていた。

「ねえスコープピオン。ここってさ、出るらしいよ」

ツインテールの人形がそう言う。

「出るって、まさか石油!!」

スコープピオンと呼ばれた眼帯の少女が一昔前のジョークで答える。

「違うよ、幽霊。幽霊がでるの」

そうステンは答える。

「幽霊? どうしよう、あたしの銃祝福受けてないんだけど」

「私もだよ。それに、幽霊が狙うのは主に人間だって。ここに来るときにいろいろ調べただけどそれは確かだよ」

今回の任務は幽霊退治ではない。もし幽霊だったら東欧に亡命したプロトンパック

みたいな機械で幽霊を退治する人たちが呼ばれている。

この湖にはキャンプ場があるのだが、そのキャンプ場に熊が現れ人を襲ったためしばらく閉鎖となった。その間の警備のためグリフィンが雇われた。人形だけでも大丈夫なのだが、AK-12に勧められ、指揮官もついてきている。指揮官はほとんどバカンス気分だ。この指揮官、アウトドアが好きらしい。偵察と称してカヌーで湖を渡りきり、大きな魚を釣り、CZ75と一緒にキャンプファイアーで使う木を切っていた。木を切るCZ75も「指揮官は細身の女性なのに斧使いとしての才能がある」と言っていた。

そんな指揮官は今ほログハウスで就寝している。指揮官一人だけ快適なログハウスで戦術人形たちはその周りにテントを立てている。

CZ75はステンとスコープオンと一緒に夜間警備のはずだが、二人の近くで寝ている。

他にもAK-12とAN-94と一緒に警備をするはずのだが、指揮官が寝静まった後、茂みの奥に消えていった。

CZ75が追いかけて行ったが慌てて戻ってきた。ステンが何をしていたか聞いてみると彼女は顔を真っ赤にするばかりで何も答えない。二人は彼女たちがナニをしているのか察した。

読者の皆さまはもう察していることだろう。戦術人形全員がレズではないが、レズの戦術人形はいる。そういうコトだ。

警備としては問題ないのかと思うが、銃を持った戦術人形が警備をしているとの情報は広まっているので問題はない。あくまで人間が立ち入らないようにするためだからだ。

「任務の情報はちゃんと指揮官がくれたのに、ステンはいろいろ調べてたね。どんな幽霊なの？」

実際に幽霊などいるとは思っていないが、ノリのいいスコープオンはどんな幽霊なのかステンに尋ねる。

ステンは語り始める。

数カ月前、この地でグリフィン人形と鉄血の戦闘があつたそうだ。グリフィン側の指揮官は悪辣な人間で、自分の部隊の人形はだいじにするが、自分の部隊以外の人形は平然と使い捨てる。

グリフィンの支援要請システムは匿名性だ。支援部隊は要請を受け現地に派遣され、現地指揮官に大まかな指揮をされる。この仕組みは支援要請を気軽にできるが、誰に呼ばれたか分からない分悪用もできる。

この指揮官は支援部隊を使い捨て手柄を挙げていた。今回も支援部隊を使い、敵のボスを始末しようと考えたが、支援部隊は難民の子供を保護していた。指揮官は支援部隊を右往左往させ鉄血を引き寄せ、十分引き付けられた所を自分の部隊で始末する作戦に切り替えた。

作戦は成功。鉄血のハイエンドモデルを仕留めることができた。

その陰で支援部隊として使い捨てられた人形と難民の子供たちが犠牲になったが、その犠牲は黙殺された。

破壊された人形たちはエリートではないうえに、戸籍も何もない難民の子供など配慮に値しない。

そのような経緯を経て、この地域はグリフィンの制圧下になった。

しばらくして、この湖に奇妙なうわさが立ち始める。

初めは一組の老夫婦。

この夫婦は夕食後、湖沿いを散歩していたら湖に昔の知人たちをみた。老夫婦はその

まま湖に入っけいき、行方不明となる。メイド型の自立人形が付き添っていて、彼女の静止を無視して湖に入っけいった。自立人形は力ずくで押さえにかかったが、自立人形を押しのかけて湖に入っけいったと証言している。そして湖には人形と子供らしき死体が浮いていたと。

自立人形のメンタルを解析しても人型の物が浮いていたとの結果が出た。

次はグリフィンの指揮官。魚釣りが好きな彼はこの湖に釣りをしに来た。そして湖に知人たちを見かけ、湖に入っけいき行方不明になった。護衛として人形が一人同行していたが、湖の死体をみた恐怖と指揮官を失ったショックからかその場で自殺。バックアップは数日前なので真相は闇の中。

そのほかにも旅行に来ていた若者グループ、グリフィン職員、PMCとの交渉を担当する正規軍の軍人など何人も行方不明になっているそうだ。みんな湖に昔の知人の姿を見て、湖に入っけいったらしい。

「ひええ、そんなヤバイ湖なの？熊とかどうでもいいじゃん。一刻も早く封鎖した方がいいよ」

ステンの語る内容に焦るスコープオン。この話が本当ならキャンプ場を閉鎖し、フェンスで封鎖し、軍用人形が警備をした方がいい。

「うわさだようわさ。インターネットの怪しげな都市伝説だからね」

「そつ、そうだよね。うわさだよねー」

ステンはあることを思い出す。

「その怪しげな都市伝説サイトによると、私は水中の死体に見覚えがありませんって言う」と助かるらしいよ」

スコープピオンと二人で「私は水中の死体に見覚えがありません」と言った。夜中だから声は小さめに。

「この子たちを助けて」

「行かないで」

「助けてください」

「しきかん」

「タスケテ」

二人は確かに聞いた。何かの声を。慌てて銃を構えるが周囲には誰もいない。

気のせいだが念のため「私は水中の死体に見覚えがありません」と言い、強引に話題の内容を変えた。今日のご飯は美味しかったとか、指揮官は明日何作ってくれるのかとかたわいもない話だ。

そんな話をしていると交代の時間が来たのか、別の戦術人形たちがやってきた。

異常がないことを伝え、ステンとスコープピオンは昼間設置したテントに戻ろうとした。

「ねえ、スコープピオン。あそこ何かいない？」

彼女は震えながら湖の方を指さし、スコープピオンに尋ねる。

「あーほんとだ。何かいるね。魚かなんかじゃない？明日のご飯だねー」

彼女も若干震え声だ。それでもスコープピオンの無理やりな答えにステンも納得し、テントに入った。寝る直前にCZ75を忘れていたことを思い出したが、交代の人形たちがなんとかかしてくれるだろう。なるべく明日の食事の内容を考えながらステンは眠りについた。

「私は水中の死体に見覚えがありません」

・・・翌朝

ステンは目が覚め、スコープピオンを起こした。身なりを整え、指揮官に今日の指示を

もらうためログハウスに入っていた。

入っていつて朝のあいさつをしようとしたのだが雰囲気重い。

人形は全員集合しているのに指揮官はいない。

ステンはAK-12に指揮官がどうしていないのか聞いた。

「今どうして指揮官がいなくなってるかAK-12が調べている」

AN-94によるとログハウス前のカメラなど複数のカメラから指揮官の行動を調べているそうだ。

数分後、AK-12は指揮官の行動を調べ終わった。いつも通り目を閉じ、飄々としたままだ。彼女の表情が変わらないことに一同は安心した。重苦しい空気が少しだけ軽くなった。指揮官の事だ、どこかで魚でも獲っているのだろう。

「やっぱりね。今から映像データをこの端末に流すわ」

タブレットに映像が流れた。

夜中、指揮官は目が覚めた。そして彼女は水を飲み外を見た。この行動に深い意味はなかったのだろう。

そして彼女は外に何かがあるのを発見した。

「あれ、ソフィアにマリヤにアナスタシアがいる。懐かしい。あの子たち昔鉄血に殺されたのに」

そして映像は室内の様子から外の様子を映した物に切り替わる。サンダルを履いた指揮官は湖にむかつて叫ぶ「久しぶりー。15年ぶりかなー。今そっちに行くね」
今度は湖に画面が切り替わる。湖にはそれらしき女性は映っていない。

子供と戦術人形の死体の群れが映っている。

その死体の群れに話しかけながら指揮官は湖の中に消えていった。指揮官が消えてしばらくして、死体の群れも消えていった。

ステンは察した、あの都市伝説は事実だったと。

A K—12の提案で撤収することになった。映像はグリフィン本部とキャンプ場を運営している企業にも送られた。

映像を見たグリフィン本部もキャンプ場の運営企業も非科学的だとして取り合わなかった。指揮官は事故死として処理され、キャンプ場はイメージ払拭のために名称を変更して再開された。

ステンは必死に訴えたが、取り合ってもらえず、メンタルに異常をきたしたとして、こ

の任務時の記録を消去された。

今日もキャンプ場は待ち望んでいる。

「私は水中の死体に見覚えがありません」

14. 支援部隊はボスを倒すのがめんどくさくなった時代わりに倒してくれる部隊
ではありません。

第十五話 VP70 「AK―12は18歳未満のいかなる指揮官とも接触してはいけません。彼らがAK―12と会わせてくださいと願ってもです」

ここはグリフィンS18支部。今回の物語はここから始まる。いつものS13支部ではないのは主人公が変わったわけではない。

「AK―12さん、助かりました。これで当地区にいた厄介な鉄血人形を排除できました。本当にありがとうございます」

そう言っ頭を下げるのはこの基地の指揮官だ。歳は10代も半ばに差し掛かったあたりだろう。

支援にきたAK―12達も素直で可愛らしい少年に心から感謝されて満更ではないようだ。

「AK―12さん達の指揮官ってどんな人なんですか？こんなすごい方たちの指揮官なんですからきつとすごい人なんでしょうね」

少年指揮官に自身の指揮官について聞かれた彼女は任務前に指揮官とのやり取りを

思い出した。

「いいか、AK-12、私について聞かれたらありのままに答えるんだぞ。それだけで私の印象はよくなる。この少年の父親は大企業の役員だ。ここで私の評価を上げておけば私のキャリアアジやなかつたグリフィンの評価もよくなる」

コネを作りたいのが丸見えであるがAK-12は承諾した。
「私たちの指揮官ね。あなたみたいな若い男の子が好きかな」

その瞬間、場の空気が凍り付いた。

それを理解していてもAK-12は話を続ける。

「指揮官は支援先。つまりあなたの事を前から把握していたみたい。他の若い男の子の指揮官に聞しても詳しいわね。あの人はそういう情報収集に長けてるわ。若い男の子と仕事からベッドの中まで仲良くするためなのか、あなたのお父様の事も知っていたわよ。若い男の子と仲良くなる前に親と仲良くなって置いて、既成事実を作るのかしら。情報収集と事前準備に長けてるから私たちも仕事が楽よ」

少年指揮官は後ずさる。

それはそうだろう、彼は指揮官の事を聞いて戦術指揮の参考にしようと思っただけな

のに、いきなりセクハラじみた話になったのだから。

AK—12はそのまま指揮官の話を続けたが、少年指揮官は次の予定があるといい逃げて行ってしまった。

指揮官が逃げてすぐ迎えのヘリがきた。AK—12としてはもつと話したかったのだが、逃げられたのなら仕方がない。

AK—12達はヘリに乗り込んだ。

・・・帰りのヘリの内部にて

「AK—12、先ほど言っていた話は事実ですか？」

さきほどまで黙っていたGr VP70が口を開いた。VP70がこの基地に来たのは最近だ。彼女の前歴は指揮官も知らないそうさ。指揮官いわく、突然I・O・Pから人形を一体送るから使ってくれと言われたとのこと。普通なら怪しむべきだが指揮

官は自身が評価されると勘違いし、二つ返事で受諾してしまった。

VP70は訓練で優秀な成績を示し、すぐ実戦配備された。

鉄血の人形に対してバグと呼び、物の位置がずれたりするのを嫌い、調子が不安定な機械を嫌う。そして毎日同じ食事をとり続ける。SPAS-12が謎肉のハンバーガーを勧めたが断っていた。そんなロボットのごとく同じ行動を好む彼女が変わったことに興味を示した。これは面白い事になる。AK-12のメンタルの奥に眠る何かが囁いた。

「そうね。指揮官は遅刻の常習犯だし、経費誤魔化して売春宿に行ってるし、書類作成でミスして他の人形が代わりに書き直して指揮官のサインは偽造してるし、仮眠室で寝たら指揮官のいびきがうるさくてG-11が起きたわね。あれには驚いたわ」

さも驚いた風に語る彼女。実際には全く驚いていないのだが、その返答を聞いてVP70はこう答えた。

「バグの修正を行わなければいけませんね」

帰投してすぐ部隊員全員は指揮官に呼びだされた。支援先の少年指揮官の親から抗議のメッセージがきた、皆はいったい何を言ったのかと問い詰められた。全員嘘を言っ

てないだけなのでどう答えものかと考えていたらVP70が指揮官と二人きりになりたいたいと言いつ出した。

何か起こる予感がしたAK―12は皆を連れて退室した。

数時間ほど大きな音がしたが音が止むと、指揮官とVP70が部屋から出てきた。

指揮官は妙にさわやかな笑顔をしており、何が起こったかよく分かってないAN―94がVP70に何をしたのか聞いた。

「バグの修正をおこなっただけです」

・・・時は流れ数週間後

指揮官は変わった。今まで遅刻の常習犯だったのが朝は20分前には執務室に来るようになり、経費のごまかしもなくなり、書類のミスも減り、いびきもなくなった。

秘書官はVP70に変更されたが、おおむねうまくいっている。

時々執務室から指揮官の絶叫が聞こえるが気のせいだろう。

AK-12が執務室を訪ねると、呆然と立ちすくむVP70と冷たくなりゆらゆらと動く指揮官がいた。指揮官の首にはロープがかかっており、床に足が付いていない。死んでいる。

あきらかに自殺だろう。VP70はいったいどのようなことをしたのだろうか。

彼女は指をパチンと鳴らし、ハッキングした軍用人形を部屋に入れた。軍用人形は指揮官の死体を遺体袋に入れ、運び出していった。

遺体を運び出す間もVP70は何も反応しない。死体を運び出した後VP70に話しかけてみたが、一切無反応だ。AK-12は彼女のメンタルにハッキングをして眠らせた。

「バグの修正を、しなければ……」

銃種 ハンドガン

収容プロトコル

彼女は収容されていません。普段はグリフィンS13支部の戦術人形として治安維持や鉄血人形の駆除に当たっています。

予想外の状況に直面するとメンタルが不安定になるので日々の巡回や鉄血人形の残党処理を主な業務としています。

説明

Gr. VP70（以下VP70と呼称）はI. O. P社が作り出した戦術人形です。彼女の戦術人形としての性能は他の個体と変化はありません。

性能についてもおおむね他の人形と同じです。バグや予測のできない状況を嫌い、「確定可能なもの」や「既定の事実のみ」を求めるのも他の個体と変わりはありません。

彼女の場合は他の個体よりバグや予想外の出来事にストレスを感じやすく、日々ルーチンワークで同じことを繰り返すことを望みます。また、人間の欠点とされることをバグと呼び、修正したがりません。

彼女の異常性が発見されたのは製造後I.O.P社の検査です。検査官の好ましくない振る舞いをバグと認識し、修正を要求しました。検査官は彼女のいう事を無視したため彼女に??されました。彼女になぜそのような事をしたのかと聞くとバグの修正がしたかっただけと言いました。

その時は記憶処理を施しS13地区に配備されました。基地での訓練を経て、任務につきました。

?月?日の他地区への支援任務終了後、支援先の指揮官と隊長を務めた人形の会話から指揮官にバグがあると判断し、矯正しようとなりました。

最初は指揮官の行動が変わり、矯正が成功したかのように見えましたか?月??日に指揮官は首を吊り自殺しました。

指揮官の遺体の処理は目を閉じた人形が請け負いました。

指揮官の死に関して、カバーストーリー「副官の目の前で小便を漏らしたショックによる逃亡」が流されました。これにより対外的には指揮官は逃亡した物とみなされ、指揮官の親族に遺族年金や退職金を払わずに済みました。カバーストーリーを流した人形には賞与が送られました。

VP70には指揮官に対してどのような矯正を施したのかインタビューを行いました。研究員の安全とVP70の検証のために子供が窃盗の容疑で逮捕され、自身はスト

レス性の脱毛に悩まされ、さらには糖尿病を患っており、そのことをグリフィンに報告していない指揮官に協力していただきました。彼女はインタビュー後無事だった場合、子供の弁護士費用、糖尿病の治療費の支援。そして、グリフィンには黙っておくと交渉すると快く了承してくれました。

〔録画開始〕

指揮官「こんにちは」

VP70「こんにちは」

指揮官「私はS??地区の指揮官をしている??よ。よろしくね」

VP70「私は戦術人形Gr VP70です」

指揮官「では早速ですが、S13地区の指揮官に対してバグの修正を行ったとあります。バグとはどのような物ですか？」

VP70「バグの内容ですか。指揮官は遅刻、経費の横領、書類の偽造、仕事の丸投げ、大音量のいびきによる睡眠妨害、他の基地の少年指揮官に対する性的欲求です」

指揮官「これらに対してあなたはどうしましたか？」

VP70「内容の多さから口頭でいっても無駄と判断しました。遅刻に対しては殴りつけ、徹底的に指揮官の両親を否定しました。人は親を否定されると激しい心理的負荷

を感じると聞きました。この修正により、指揮官は遅刻しなくなりました。経費の横領については、売春宿に通っていたとのことですので、金銭は全てこちらで没収し、鞆丸を叩き潰しました。男性機能の衰えにより、性欲を減退させました」

指揮官「それともう、矯正じゃなく単なる虐待よね」

VP70「確かに指揮官に対して苦痛を負わせたことは事実ですが、虐待ではなくバグの修正です。現に効果も出ています」

ここで研究員が無線でVP70に話を合わせるよう指示。

指揮官「えつ、ええ。他のバグと呼ばれるものに関しての修正はどうやったのかしら」
VP70「書類の偽造に関しては発覚したら指揮官の頭を100回ほど机に叩きつけ、彼の経歴のすべてを否定しました。最初は抵抗していましたが、私の修正を受け入れ、きちんと書類を書くようになりました。そして、仕事に関しても丸投げすることはなくなりました」

VP70「いびきにかんしては喉が原因なので就寝前に口を拘束具でふさぎ、横向きに固定しました。寝れないといっていたので睡眠薬を大量に飲ませました」

指揮官「指揮官は何も言わないのですか？」

VP70「何も言いませんでした。指揮官は私の修正を受け入れました」

VP70「少年指揮官に対する欲求に関しては鞆丸をつぶした段階で衰えていました」

そのうえで指揮官のご両親にあなたの息子は少年愛者だと報告しました。指揮官は両親に勘当され、両親による影響からのバグの発生の可能性を削除しました。両親以外の存在が指揮官をおかしくする事が懸念されたため、他の基地にも指揮官は少年愛者であると通達をしました。そうすることで指揮官は他の基地の人間と必要以上に関われなくなりました」

VP70「指揮官の食事も管理し、目の前で指揮官が集めていた鉄道模型をすべて焼却処分しました。収集癖は金銭感覚が麻痺し、バグの発生が予測されます。」

こうすることで、予想外の行動をとらない、バグのない指揮官にすることができました」

指揮官「指揮官は死んでしまいましたが、そのことについてどう思いますか？」

VP70「バグの修正が足りなかったのでしょうか。次の指揮官はもつと完璧な修正をしたいと思います。人間は不確定なバグに満ちてて嫌ですね。見る限りあなたもバグがありますね」

指揮官「バグではないけど、糖尿病をかかえて・・・あっ」

VP70「早速修正しましょう」

指揮官「ちよつとまって、いやつ、話して。イタイ、あああああああああああああああああ」

〔録画終了〕

このあとVP70は彼女に襲い掛かりハンドガン型の戦術人形とは思えない力で彼女の腹部を殴りつけました。その結果、彼女の内臓は破裂し、そのショックで死亡しました。

VP70はこれまでの記憶を消去され、再度S13支部に配属されました。

最初はS13支部の新たな指揮官とうまくコミュニケーションが取れていなかったようですが、指揮官がボードゲームをしようとしたことにより徐々に円滑なコミュニケーションが取れるようになり、予想外の出来事が起こった際的情绪も少しずつ安定していきました。

上層部は彼女に対する監視は不要と決定し？月??日、彼女に対する監視はなくなりました。

15. AK-12は18歳未満のいかなる指揮官とも接触してはいけません。彼らがAK-12と会わせてくださいと願ってもです。支援部隊として派遣されたとしても支援先の指揮官と接触する必要があることを意味しません。

第十六話 MP7「AK-12がAN-94のステータス強化のために増幅カプセルを利用することはいかなる申請であっても却下されます」

ここはグリフィンS13支部。特徴がないのが特徴の地区だ。当然のことながら基地も特徴がない。ゲームと何も変わらない標準的な基地だ。

今回の物語は、久々にここから始まる。

基地資料室。ここには過去の戦闘データから銃火器の設計図、街で買ったコミックやポルノビデオまでさまざまな資料が保管されている。この資料室で一人の人影が資料を探していた。

赤い髪をアクセサリで束ねポニーテールにし、この時期だというのに黒のビキニの上に透明素材の服を着て、浮き輪を持ち、飴を加えている。足元はビーチサンダル。

ここを海辺のパーティー会場か何かと勘違いしているのだろうか。いや勘違いはし

ていない。そう思いたい。

その証拠にスリングをつけた銃を肩にかけて吊るしている。銃の種類はアサルトライフルではなくPDW。室内戦を想定しているのかサブレッサーもつけている。

銃の名前はMP7。資料を探している人形の名前もMP7。PDWなのだがI.O. P社のカテゴリーではサブマシンガンとなっている。細かいカテゴリーわけは面倒くさかったのだろう。

彼女は最初、コミックを見てそこからアダルトコミック、フォトブック、アダルトノベル、グレイテストヘンタイウスイブックに移り、映像データのコーナーに移動した。

古代のメディア、VHSは何が書いてあるかわからないしこの基地には再生できる機材がない。

記録媒体を収めたチップに書いてあるのを見ても何かしっくりこない。

「うーん、MAOに見られながら潮吹きチャレンジ、MAOって誰さ。なかなかこれってというのがないね」

チップを戻し、次のチップを手取る。

「スカと少女。これは良さそうだね」

彼女はチップを手に取り、念のためDVDコーナーも見てみるだけ見てみた。

自分の好み合うものはなかったが、気になるものを見つけた。

そのDVDは目を引くパッケージに入っているわけでもない。それらの上に置かれていた。

ケースには「FACTORY PORN」と手書きで書かれている。ケースの裏を見ても何も書かれていない。

「そういえば」

彼女はあることを思い出した。AN-94が増幅カプセルプレイをしたと言っていた。AK-12の増幅カプセルをぜんぶ受け入れられなくて情けないと泣いていた。スプリングフィールドのカフェで必死に慰めた。慰めたら元気が出たのか、「今度は陰部じゃなく肛門から入れてもらってくる。ありがとうMP7、元気が出た」

そう言つてAN-94は走り去つていった。その時のお茶代は彼女が出した。AN-94は時々飲食代を踏み倒す。

その後のプレイを記録したビデオなのだろうか。

自室にはDVDを再生できる機器がないので資料室に備えてある機械で再生するしかない。

機械がある場所に行くのと先客がいた。この基地の指揮官だ。彼はMP7に気づいたのか、慌てて画面を消した。

猫が戯れている映像のどこが恥ずかしいのだろうか。この基地には人形のネコとネ

コ同士で子供には見せられない戯れを繰り広げているやつらもいるのに。彼女からしてみれば動物のビデオなんて気にする理由がわからない。

「お、おうMP7か。君も何かビデオ見に来たのか？私はさつきまで第二次世界大戦のドキュメンタリー映画を見てたんだ。指揮官たるもの、歴史の勉強もしとかないとな」
H A H A H Aとアメリカンな笑いを浮かべる指揮官。ごまかしきれしていないのだがMP7は飴より甘い心でそれを指摘しないことにした。

「飼育員は真面目だねえ。私は今夜のおかずを探しに来たのさ。スカと少女つてのを見ようと思ったんだけどその前に気になるのを見つけたから一緒に見ない？カワイイ女の子と一緒にAV見れるなんてそうそうあるもんじゃないよ」

ニヤニヤしながら言うMP7だが、この基地には相応しくなくらい真面目な指揮官はきつぱりと断った。

「AK-12とAN-94が出てるビデオかもしれないよ」

そういわれて指揮官は考え、あることを思い出した。指揮官がそのカッピングを押ししているわけではなく、数日前執務室で突然「指揮官、いい事を考えたわ」と彼女が言い出したのを思い出したからである。何も聞かずに却下したが彼女のことだ、指揮官の知らないところでなにかしてかしている可能性が非常に高い。

AN-94以外の人形がなにかされてないといいのだが……

指揮官は決して百合厨ではない。

中身を少しだけ見てすぐにAK-12を呼び出してすぐにデータを破棄させないといけないと思い、MP7の見つけたものを見ることにした。

「指揮官はこのカプリング押しかい。センスあんじゃん。私はSOPMODとRO635の組み合わせが好きだね。夜間には立場が逆転してSOPが全裸のROを散歩するのさ。そしてROはお尻につけたプラグを抜いてためこんでたう〇こを……」
「その話長くなるやつか？」

指揮官に睨まれたMP7はDVDを端末にいれ、ファイルを起動させた。

DVDを入れるとTHEFACTORY.exeというファイルが出てきた。そのファイルを起動すると『なにをご覧になりたいですか?』という質問文と入力欄が出てきた。

MP7はAK-12とAN-94の増幅カプセルズプレイと入力した。

入力して送信ボタンを押すとすぐにヒットした。二人のサムネイル画像の下に『この映像をご覧くださいますか?』との文言と、YESとNOのアイコンが出た。

なにか言いたそうな指揮官を無視し、MP7はYESのマークを力強くクリックした。

映像が再生される。

夜の寝室。二人の女がいる

一人は金髪の美しい少女。一人は銀髪の美しい女。

夜の室内でもその美しさははつきりと分かり、モノトーンでコーディネートされた部屋は昼間は清潔感のある部屋。

夜の今は二人の表情も相まってミステリアスな雰囲気になっている。

女は椅子に座っている。そしてその美しい脚を伸ばす。

少女は女性に跪き、女の靴を脱がせ、白い素足にキスをする。そしてつま先から踵までを頬ずりをし、形のいい鼻をあて、女の匂いを堪能する。

これだけで少女は達しそうになるが女の許可を得てもいないのに達することはできない。

股を湿らせながら少女は女の足を舐めていく。小指、薬指、中指、薬指、親指、一本
一本丁寧に丁寧に。繊細に。

たっぷり時間をかけ、右足を舐め終える。

少女は女の顔を見る。女は左足を差し出す。

先ほどと同じことを繰り返す。丁寧に。丁寧に。

左足を舐め終わる。少女の股からは淫靡な匂いが漂う。

少女は女を見る。

「AN-94、私にどうしてほしいのかしら？」

女は少女、AN-94に問う。

「AK-12、私は……私は……」

AN-94は女、AK-12に必死に答えようとするもなかなか声が出ない。

「私は？」

彼女は若干口元を釣り上げAN-94に問う。

「こつ、この間の、増幅カプセルプレイのやり直しがしたい。前の穴は無理だけど、後ろ

ならできると思う。私はもう一回やりたい」

顔を赤らめ、目を潤ませ、AN―94は答えた。

彼女は普段の飄々とした表情のまま立ち上がり、AN―94を立たせて抱きしめ、キスをした。

AK―12の舌がAN―94の舌に絡まる。AN―94も最初は動じたが、すぐに受け入れ、二人は抱き合い舌を絡ませ、唾液を交換し合う。

ねつとりと

ねつとりと

一つになるかのように

息が続かなくなったのか、AK―12が落ち着いたのか、唇が離れる。

「あなたがかわいいからついね。ここでするのもあれだし、外でしましょう」

そういうとAK―12は大量の増幅カプセルとリードのついた首輪と犬耳カチューシャ、ビーズのついた犬のしっぽのような物を取り出した。

それに呼応するかのようにAN―94は一糸まとわぬ姿になり、後ろの穴に潤滑油を

塗り四つん這いになり、AK-12に形の良いお尻を向けた。

AK-12はAN-94のお尻を撫でて刺激し、後ろの穴に尻尾を入れた。AN-94のお尻はAK-12が入れる尻尾をすんなりと受け入れた。

そして犬耳カチューシャを付け、最後にその白く美しい首に首輪をつけた。

「行きましようか、AN-94」

AK-12がさういうと四つん這いになったままのAN-94は「ワン」と答える。彼女の答え方に満足したAK-12はAN-94の頭をなで、ともに部屋を出た。

……基地近くの公園に着いた。

目の覚めるような銀髪美女と、四つん這い全裸の金髪美少女。誰かに見つかりそうなのだが、持ち前の演算能力を駆使し、誰にも見つからず公園にたどり着いた。

AK-12はベンチに座って水を飲む。足元にはAN-94が控えている。

彼女はAN-94にも水を飲ませた。もちろん、口移しで。ここまでずつと四つん這いできたAN-94は少しだけ疲労していたが、AK-12の口移しで疲労は消えた。淫らな雌犬AN-94にあるのはこれからもたらされる快樂への期待だけ。

「一息ついたし、始めましようか」

その言葉を待っていたAN—94は「ワン」と答えた。

そしてAN—94はAK—12にお尻を向け、フリフリとお尻を揺らす。AK—12はお尻をペチンと叩くとAN—94は動きを止め、「ワフーン」と鳴く。その顔はとても嬉しそうだ。

彼女はAN—94に入っていた尻尾をゆっくり引き抜く。ビーズが一個一個現れる。そのたびにAN—94は嬌声をあげる。

尻尾を引き抜き終わると、AN—94の前も後ろもぐつしよりと濡れている。前の穴から聖水が溢れそうなのを必死に我慢しているその顔に嗜虐心をくすぐられる。

AK—12はAN—94に持ってきた増幅カプセルを見せる。AN—94はこれが全部入るのだと思うと興奮して息が荒くなる。早くほしい、早く彼女の手で中に入れてほしい。

早く早く早く。

興奮して早くいれてと懇願しようとしたら、AK—12が「待て」と言った。

AN—94は「待て」のポーズをした。AN—94は前の穴と後ろの穴だけではなく、口から涎をたらしている。

そんなAN-94に見せつけるようにAK-12は増幅カプセルを舐めた。そして
お尻を出すように言うとAN-94は素早くお尻をAK-12に向けた。

AK-12は彼女の後ろの穴に増幅カプセルを入れる。

増幅カプセルが入ってきた瞬間、お待ちかねの瞬間が来た。

AN-94は達してしまふ。それでも終わることはない。時間も増幅カプセルもた
くさんある。

一個

二個

三個

四個

五個
・
・
・
・
・

一個一個入れる前にAK-12の唾液が付いたカプセルがAN-94の中に入って
いく。

AK-12の手によって入るたびに彼女は絶頂する。

A K | 1 2 が私に入れてくれる
A K | 1 2 が私に入れてくれる
A K | 1 2 が私に入れてくれる

・ ・ ・ ・ ・ 三十九個

四十個

四十一個

入っていく

入っていく

入っていく

・ ・ ・ 四十八個

四十九個

五十個

残りは一個。

AK—12はAN—94にこれが最後の一個だと伝える。

苦しくも名残惜しい時間は後少し。

AN—94は最後の力を振り絞りお尻を広げた。

そんな彼女に答えるようにAK—12は唾液を多めにつけ、カプセルを入れる。

AN—94の絶頂とも絶叫ともとれる声を堪能しながら尻尾でお尻の穴をふさぐ。

AN—94の腹部は膨らみ前から潮があふれている。

それでもAN—94は意識を保ち続けている。一秒でも長く、AK—12との思い出を共有するために。

「ねえAN—94。帰る前にこの辺お掃除する必要があるわよね」

そういうとAK—12はAN—94の秘部に指を入れた。敏感なままで予想外の刺激にAN—94は絶頂してしまう。

絶頂しながらもAN—94は彼女の意図を察し、聖水で潮や排泄物を流し綺麗にした。

「AN—94、帰るわよ」

「ワン」

そうして二人は朝日を背に帰っていった。濃厚な匂いが残っているがすぐに消えてゆくだろう。

ビデオを見終わった二人は声が出なかった。典型的なレズポルノが流れるのかと思つたらより濃いレズポルノだったからだ。

MP7は自分の股間が湿っているのに気が付いた。湿っているどころか変色している。

そして舐めていた飴の効果が出てきた。この飴にはあらかじめ下剤を塗っていて、ちようど良いタイミングで効果が出てきた。

「飼育員、私はいくから。後片付けよろしくね〜」

指揮官に話しかけるも聞いていない。股間を大きくしながら次の映像を見ている。

公園で発散するのはあの二人がやったし、私は基地裏のため池でしょう。AN-94があれだけのファインプレーを見せたのだ。私も負けていられない。

ため池に到着したMP7はマトリョーシカに似た器具を地面に刺し、その上に跨る。

そして器具はMP7の肛門に入っていく。

慣らしがてらゆっくり上下運動してみる。いい感じだ。

そして自身のスキルを発動し、上下運動を早めた。

そのあまりの快楽に獣のようなうなり声をあげてしまう。

スキルの発動時間が終わり、MP7は絶頂に達しお尻を池の方に向け器具を射出する。器具と同時に、茶色い液体が出る。

まだ始まったばかり。MP7は再び肛門が刺さるよう器具の上に跨った。器具はマトリョーシカに似ているだけあって、抜いても出てくる仕掛けになっている。

そしてスキルを使用し高速上下運動をする。上下運動をして達したところで池にお尻を向け器具と液体を射出する。

繰り返している最中、腸の中から出せる液体がなくなつたが、その時は下剤入りのスポーツドリンクを飲みながら上下運動する。待っているなどありえない。

それでも駄目ならダミー人形に交代させる。ダミーとは感覚の共有は済ませている。使えるものはすべてを使って快楽は途切れさせない。

繰り返してふと気が付くと池は茶色くなり、日が昇り始めていた。そろそろ頃合いだろう。

ダミーにも手伝わせ最高速度で腰を上下に動かし、MP7は絶頂に達した。

器具は遠くに飛んでいき、茶色い液体が降り注ぎ、空には朝虹が出る。

「きれいな虹……」

そんなつぶやきとともにMP7は意識を手放した。

MP7が意識を取り戻すと朝日が昇っていた。二時間ほど眠っていたのかと思ひ、携帯端末で時間を確認した。

驚くべきことに二時間どころか二十四時間以上眠っていたらしい。

呼び出しのメッセージが入っているだろうと思っただけ確認してみたが、一件も入っていないかった。

彼女はむなししい気持ちと茶色に染まった器具をもって基地に戻った。

基地内の様子がどこかおかしいのを彼女は感じ取った。感じ取ったがのだが、季節外れの水着スキンなどではなく、異様な臭いを発する彼女に話しかけようとする者はいないうえ、彼女も無断外泊を指摘されるのを嫌だったので誰かに聞くわけにはいかなかった。

そのままシャワー室に向かいシャワーを浴び、普段の服に着替えて食堂で朝食をとった。

何人かに一日どこに行っていたのか聞かれたが、そこは適当にごまかした。

朝食を食べ終え、食後のコーヒを飲み終えた彼女は、丸一日いなかったことを飼育員に説明するため、執務室のドアをノックした。

すると執務室横の部屋からAK-12とAN-94が出てきた。

どうしたのか聞くと指揮官が死んだそうだ。発見時、遺体は腐敗しているわけではなく、いの虫が湧き、床一面に白いねばねばした液体が広がり、異様な臭いが立ち込めてい

た。

遺体を発見した人形は指揮官の部屋にゲームをするためのバッテリーを都合付けてもらいにきたが、遺体発見のショックからか自分の銃で自分の頭を打ち抜き自殺。今はバックアップから再生され後方支援に行っている。指揮官が死に、自分が第一発見者だったことは伝えられていない。

状況が状況だったため、遺体はそのまま放置し最後に指揮官と会話したと思われるMP7が発見されるのを待っていたとのこと。

MP7は自分が覚えていることのすべてを話した。資料室のDVDコーナーで「FACTORY PORN」というDVDを発見し、それを指揮官と視聴したことを話した。自分は下剤を塗った飴の効果で便意を催し、ムービーが終わって席を離れたが、指揮官はそのままDVDを視聴し続けていたこと。

そして飼育員は他の映像を検索したんじゃないかと自身の推測を述べた。

AK-12は彼女の話を聞き、状況を完全に理解した。そして分かったことを二人に説明する。

ある日の執務中、AK-12は相手に暗示をかけ、行動を強制する映像プログラムを

考えた。考えたのはいいが、「いい事を思いついたわ」と言った瞬間却下されたため、勝手に映像プログラムを作成することにした。AN-94が夜のおねだりをしてきたのも都合がよかった。私とAN-94の美しい女の絡みなら絶対に食いつくだろうから。話を聞いているMP7は自分で美しいというのかとツツコミたかったが飽より固い自心でぐつとこらえた。AN-94は「AK-12は美しいけど私もだなんて」と照れている。

AK-12の話は続く。

他にも捕らえたデストロイヤーの前と後ろの口、顔についている口から増幅カプセルを詰め込んだら肥大化した後ゲル状の生き物になった映像、野良IDWにチョコと一緒に腐った増幅カプセルを食べさせ、IDWの眼球が四個になる映像も作成した。

その二つを作成したら飽きて既存のポルノムービーやチュニジア人の少女が出てくるスナッフムービー、盗撮動画に特殊プログラムを混ぜた。

混ぜた後これだけじゃ数が少なすぎることに気づき、検索エンジン形式にして、再生された映像全てに特殊プログラムが混ざるようにして、資料室に置いておいたのと。

AK-12のやっつてることはすごく高度なことだというのは門外漢のMP7にも理解できた。

理解できたがその才能を無駄なことに使いすぎだとも思った。昔の人はこういうのを才能の無駄遣いとか無駄に洗練された無駄のない無駄な動きと言っているらしい。

何も言えないMP7に対して、AN-94は「流石AK-12だ」としきりに称賛している。下手すれば自分の恥ずかしい姿がいろんな所に広まると気づいていないのだろうか。

最後にAK-12はこう締めくくった。

「これが今回の事件の全容ね。まったく、悲しい事故だったわ」

彼女が指をパチンと慣らすとどこからかハッキングされた軍用人形が出てきて死体を遺体袋に詰め、運び出していった。

「じゃあね飼育員。ホント、悲しい事故だったね」

16. AK-12がAN-94のステータス強化のために増幅カプセルを利用することはいかなる申請であっても却下されます。これは過去に提供された増幅カプセルを陰部に挿入し夜の強化しかなされなかつたためです。

16-1. AN-94が同意していたとしても駄目です。

16-2. これは他の人形の強化にも含まれません。あなたがどんなに素晴らしいことを考えていたとしても指揮官は取り合いません。

第十七話 IDW 「IDWは猫ではありません。よろしくおねがいします」

「IDWがいる！IDWが！」

そう叫びながら一人の女性指揮官が落ちていった。そして何かにつつ音が入る。外で待機していた戦術人形、AK-12とAN-94は叫び声を聞き平屋に突入。

指揮官が落ちて行ったと思われる井戸を覗き込んだ。井戸は深く底が見えない。井戸の底に向けてドローンを飛ばしてみた。深さは分からなかったが何かにつつ不自然な方向に首が曲がっている指揮官を発見した。死んでいる。

二百文字足らずで指揮官死亡である。このままだと圧倒的に文字数が足りず投稿できない。

井戸の深さから指揮官の遺体の回収は不可能と判断したAK-12はAN-94と共に平屋を出た。

平屋を出た二人は見た。

「あいだいだぶりゅーです、よろしくおねがいします」

ここはグリフィンS13支部。特徴がないのが特徴の地区だ。当然のことながら基地も特徴がない。ゲームと何も変わらない標準的な基地だ。

今回の物語はこの基地の近くにある放置された平屋から始まった。

図鑑 No. 093 名前 I D W

銃種 サブマシンガン

収容プロトコル

I D WはグリフィンS13支部の近くにある平屋の内部にいます。16 L A Bは収容に当たり、周辺の土地を買い上げ外部から多い隠せるように施設を建設しました。この建設に際し、周囲にはカバーストリー「崩壊液の検出」が適応されました。

平屋内部を見る必要がある場合は必ずカメラを通して確認してください。人間はもちろん、自律人形であっても直接肉眼で視認しないでください。

直接見る必要がある場合は事前に申請してください。16LABが特定技能作業員を派遣します。その作業員に確認させてください。その作業員とのコミュニケーションはせず、一方的な指示を与えるだけに留めてください。

説明

IDWはS13支部基地の近くにある放置された井戸小屋です。小屋は木造で幅約6m奥行5m程の平屋です。小屋の中央には古い年代に作られたと思われる石造りの井戸があり地下へと続いています。井戸は極めて深くドローン飛ばしてもどこまで続いているのか不明です。S13地区の指揮官がドローンで早期に発見された理由は偶発的な要因によって井戸内部で引っかかったためと思われます。

この小屋の中を人間や自律人形が覗き込むと対象は激しく動揺し「IDWがいた」と報告します。さらに対象はこのIDWがいるという観念に強く執着するようになります。

この現象は小屋内部の映像や画像を見ただけでは発生せず、肉眼で小屋を見た場合のみ発生します。報告されるような特異なIDWは発見されていません。

暴露した対象はIDWに対する認識が歪められます。被験者へのインタビュールでは通常のIDWと違い頭髪はなく、生気のない通常より大きな二つの目があり、鼻や口が

どこにあるか分からないとのこと。そして三次元的に見えず二次元的な平面での方角から見てもこちらをまっすぐに見つめてくる様に見えるとのこと。そして数日から数週間が経過するとこのI D Wが暗闇からこちらを見ているように感じられ始め、常にこのI D Wの視線を気にするようになります。

どの程度の暗闇かは一切不明で、夜間で灯りのない場所や、昼間の物陰程度の暗さでもI D Wがこちらを見ているように感じられることもあります。規則性は一切ありません。

直接的に視認しなければこの現象は発生しません。ドローンによる井戸の内部調査ではI D Wが発見されませんでした。ドローンは地下4??mに到達しましたが対象は発見されませんでした。

他のI D Wとの関連性

暴露した対象が見ているI D Wは通常のI D Wと別個体で関連性はありません。

離れた支部のI D Wが在籍している基地の指揮官に人形調査と偽りI D Wの様子を聞きましたが通常通り勤務していると回答しました。

〔データ削除済み〕

暴露した対象は「IDWがいた」という観念を他者へ積極的に伝えようとしています。この話を聞いてある程度理解した人間は報告した者と動揺の反応と認識異常を被ります。自律人形は動揺こそしませんが即座に暗闇からIDWが見ているという認識異常を被ることになります。あいでいーだぶりゅーがいます

どの程度話を聞けばそうなるのかは不明です。一言で認識異常を被った例もあれば、一時間以上の説明で認識異常を被った例もあります。よろしくおねがいます

その観念を伝える媒体に制限はなく、会話・文章・映像・絵画などあらゆる分野で効果があります。インターネット掲示板に平屋の写真とともに「IDWがいる」と書き込まれそれを見た人間・自律人形に認識異常が生じた例もあります。これはあいでいーだぶりゅーです

おそらくは「IDWがいる」という観念とそれを広める行為そのものにミーム的効果があると推測されています。さらに対象が異常初期を脱した場合、極めて自然な形で「IDWがいる」と伝えるため、ミームの拡散防止が困難です。あいでいーだぶりゅーでした

よろしくおねがいます

I DW 暴露ログ

対象：鹵獲された鉄血ハイエンドモデル、デストロイヤー

内容：平屋の内部に入り十分間待機してなんの異常もなければ解放すると約束し小屋に入れた。

結果：I DWを目撃し認識異常にかかったため、終了措置を施す。

対象：特定技能作業員 A

内容：不法入国した難民を特定技能作業員として雇用。平屋に入りなんの影響も受けなかつたらこの国の戸籍と職業を用意すると言い入らせる。

結果：認識異常にかかる。通常の I DWの写真を見せると異常を示し、異常個体の I DWが見えるという。あいでいーだぶりゅーです

対象：特定技能作業員 B

内容：Aと同じ条件で雇用。小屋に入ったところ認識異常にかかり動揺。

結果：入口に I DWが見えたと報告し井戸に飛び込み行方不明。死体は発見できず死亡扱いとする。あいでいーだぶりゅーはいます

対象：自律人形 A

内容：平屋に入ってもらおう。

結果：認識異常にかかり、通常個体の I DWの映像を見せると異常な I DWに見える

と発言。よろしくおねがいします

記憶消去実験ログ

対象：自律人形 A

内容：記憶の削除。

結果：記憶が削除されると認識異常にかかった記憶も消えたことにより、なんの異常も見受けられなかった。

対象：特定技能作業員 A

内容：記憶消去剤を飲ませる。

結果：心臓発作を起こし死亡。検査の結果内臓機能の悪化により記憶消去剤に耐えられなかったと判明。これはあいだいぶりゆいです

対象：飲酒運転で交通事故を起こした指揮官 A

内容：暴露させた後記憶消去剤を投与。

結果：記憶が消え通常個体の I D W の写真を見せても異常個体に見えず認識異常は消

失。しかしネット掲示板によるミーム汚染の影響を受け異常が再発。運転中I DWが見えたことで動揺しハンドル操作を誤りガードレールに衝突し死亡。よろしくおねがいます

以下メモ書き

この報告書の影響と思われる大規模なミーム汚染が16LAB研究施設S13支部出張所で発生しました。報告書を執筆した研究員並びに受理した支部管理者が認識異常を被っていたと考えられます。該当する職員には記憶消去剤の投与並びに該当する特定技能作業員には終了措置が施されました。これ以降報告書には対異常措置を施されることと決定しました。よろしくおねがいます

「あいでいーだぶりゅーです、よろしくおねがいます」

17. I DWは猫ではありません。よろしくおねがいます。

第十八話 UMP9「AK—12がUMP9と家族になりそうな人物の取引をすることは許可されていません」

ここはグリフィンS13支部。特徴がないのが特徴の地区である。当然のことながら基地も特徴がない。ゲームと何も変わらない標準的な基地だ。

そんな基地の執務室から今回の物語は始まる。

夜中の執務室。女が黙々と書類仕事をしている。女はこの基地の指揮官だ。この時間まで書類仕事をしているのは鉄血が攻めてくるような緊急事態があつたわけではない。単純に、仕事が遅いのだ。

調子がひどく悪く、集中力が続かない。人形たちの会話も理解できなかつた。これはおかしいと思ひ病院に行つたら統合失調症と診断された。

指揮官は絶望した。バレたらグリフィンにいられなくなる。そうすれば今まで恨みを買ってきた連中になにをされるか分からない。医師には休職して療養するよう勧められたが、そんな長期間は休めない。指揮官は処方薬をもらい、薬で自らを騙しながら指揮官を続けていた。

薬が効いている間は意欲の低下も少しはマシになったが、それでも作業は遅く、こうして夜中までかかることも多かった。

重装部隊の訓練に関する書類を作成にとりかかろうとしたとき、ドアをノックする音がした。

MG5だろうか。あの人形ならノックどころかドアに穴をあけるはずなのだが。

「入っていいよ」

そう指揮官が言うのとドアが開けられ一人の人形が入ってきた。

その人形は栗色の髪をツインテールにし、短いプリーツスカートの上に白いブラウス、そして黒に黄色のラインが入ったアウター。脚はストッキングで覆われ、黒と黄色のツートンカラーのブーツを履いている。

一見するとラフな格好の女子高生だが、右目には細長い傷があり、肩にはサブマシンガンをさげている。

「UMP9ただいま副官に就任！これからは家族だ！」

10月10日

AK-12が404小隊の指揮官候補を見つけて来てくれた。その指揮官候補は病

気みたい。416は嫌がってたけど45姉の指示で私が見に行くことになった。どんな人かな。楽しみ。

家族になれるといいな。

10月11日

新しい指揮官とあった。こっちがあいさつしたのに無視してる。初対面からこれは、家族になるのは大変そうだ。けど404小隊のみんなのためにも頑張るぞ!!

10月12日

夜になったので指揮官にあいさつに行った。今日はこっちを向いてくれた。もう一度挨拶をした。うなずいてくれた。少しずつこっちを見てくれたのかな。

10月15日

指揮官があいさつを返してくれた!こっちを見てくれた。少しだけお話して一緒に書類仕事をした。

だいぶたまっていた書類が減った。

10月16日

今日も書類仕事。指揮官の顔色は少しだけよくなってる。書類仕事の進みが早くなったので指揮官とゆつくり話す余裕ができた。指揮官の好きな物、嫌いな物、いろんな話をした。

そして私のことについて。私ができることを聞いてなかったみたい、ちゃんと連絡してよね。

10月19日

今日は書類仕事が早く終わった。指揮官がお茶を入れてくれた。指揮官はお茶を入れたり料理をするのが得意なんだって。病気になってからお茶を入れる気力もなくなったけど、今日は久々に入れたって。指揮官の入れてくれたお茶、すごくおいしい。

10月23日

昼間は45姉に報告に行った。指揮官とは徐々に打ち解けてるって報告した。

この調子だと404小隊の指揮官になってくれそうって。

10月24日

基地に戻った。指揮官は病院に行っていた。薬があっついて経過は良好らしい。

そして私のことを誰も信じてくれないと愚痴られた。ごめんね指揮官、404小隊は秘匿部隊だから他の人形に私のことを知られるわけにはいかないんだ。だから夜しか行けないし、他の人形の記憶は消してるの。私の事幻覚だと思ってるのならごめんね。

10月27日

街の視察中に指揮官は鉄血の部隊に襲撃を受けた。

指揮官は満足な指揮が取れず苦戦したみたい。幸いにも撃退できたけど、人形二体が大破した。

指揮官はなにかを決意したみたい。

10月29日

指揮官は病院に入院して長期療養するって。

そして45姉から緊急事態を知らせるメッセージが来た。私たちの存在がバレそうだからすぐに戻ってきてって。戻る前に、指揮官は薬物の過剰摂取で死んだことになりって。

指揮官とは家族になれると思ったのに。

10月31日

バイバイ、指揮官……

「あなた、幻覚じゃないの？」

そう問う指揮官にUMP9は何も答えず指揮官の手を握った。

「私はここにいますよ。いま、指揮官の手のぬくもりを感じてる。えへへ、指揮官の手つてあったかいね」

指揮官はUMP9をじっと見つめる。

「この私は幻覚かな？指揮官は私の手のぬくもりを感じない？私は指揮官の手のぬくもりを感じて幸せだよ。こんなにしあわせだったら、私は幻でもいいかな……」
えへへと笑うUMP9に対し、指揮官もUMP9の手を握る。感じる。UMP9のぬくもりを。幻じゃない、彼女はそこにいます。夜の間だけ現れる幻ではない。

「わかってくれたね。私は幻じゃないし、指揮官は正気だよ。指揮官、もう夜も遅いから寝ようか。今日はぐっすり眠れるよ」

UMP9は指揮官に抱きついてキスをした。驚く指揮官だがすぐに彼女の口づけを受け入れる。指揮官もUMP9を抱きしめ返す。

首筋に冷たいものが刺さる感触があり、体の中に何かが入ってくる。なにかされたのが分かるが彼女になら……

眠くなってきた。こんなに眠たいのは久しぶり。彼女のおかげで今日はぐっすり眠れそうだ。

指揮官の意識はゆっくりと落ちていき、眠りについた。もう目覚めることはない。

「お休み指揮官。今度会った時は家族だよ」

18. AK—12がUMP9と家族になりそうな人物の取引をすることは許可されていません。

第十九話 M1895 MOD「AK-12に記憶の欠片を提供するのはやめてください。カリーナのノートPCを最後の犠牲者としてください」

「??さん、メンタルアップグレードはすぐに終わりますから息を楽にして目を閉じててくださいね。寝てる間に終わりますから」

後方幕僚のカリーナがそう言う。人形は息を楽にし、目を閉じた。そしてそのまま眠りについた。

ここはグリフィンS13地区。特徴がないのが特徴の地区である。当然のことながら基地も特徴がない。ゲームと変わらぬ標準的な基地だ。そんな基地から今回の物語は始まる。

緊張した面持ちで執務室をノックする人形が一人。

指揮官に入っつていいと言われ入室する。

「おはよう指揮官、ワシもついにメンタルアップグレードしてみたぞ。どうじゃ驚いたか」

見た目は小さい少女なのに古風なおばあちゃん口調の戦術人形、M1895リボルバー。通称ナガンおばあちゃん。

「おはようナガンおばあちゃん。新しい服を買ったのかい。普段からかわいいけど、今日はまたいちだんとかわいいね」

爽やかな笑顔とともにそう答えるのはこの基地の指揮官だ。街をあるけばよく女性に声をかけられるくらいイケメンだが、浮いた噂一つもない。

私の愛しいナガンおばあちゃんは、服装が豪華になり、自信に満ちあふれているように見える。前までは老兵がどうか言いながらも自分は古いからと自信なさげなところがあつた。

メンタルアップグレードにより能力が増し、自信がついたのだろう。

愛しい彼女が傷つくのが嫌でなるべく安全な後方支援に回していたが、メンタルアップグレードによる能力の上昇具合、彼女の意思を考えると前線に出すのもありなのかも

しれない。指揮官はそう考えた。

そして自信が付いたナガンもかわいい。

ナガンおばあちゃんに対して、私の愛しいなどと考えるこの指揮官。そう、ロリコンである。しかも彼女のようなのじゃロリが好きなものすごくストライクゾーンの狭いロリコンである。ストライクゾーンがせまく、イケメンで疑われる風貌ではなかったため、今まで警察のに不審者として声をかけられたことはない。周りからは子供好きの優しいお兄さんと思われる。こういうのを格差社会というのだろう。われわれであれば街を歩いている子供の視界に入った段階で通報されている。

指揮官は彼女の頭をなでた。なぜか執務室にいたAK-12とAN-94もナガンの頭をなでた。

最初は抵抗していたナガンも抵抗をやめなすがままになっている。

やさしいせかいがたんじょうした。

数分後、正気に戻った指揮官はナガンを連れ訓練所に行った。見た目や数字だけではなく実際にどうなっているか見る必要がある。

ナガンにシューティングレンジでの射撃と、キルハウスでのテスト。この二つをやらせてみたが、スコアは大幅に上昇していた。指揮官はナガンを実戦部隊に採用することに決めた。

そんなナガンをみてAK—12はあることを思いついた。

数日後。市街地での夜戦任務を終えたナガン。寝付けないからウオツカでも飲むかと冷蔵庫を開けると何も入っていない。

合成アルコールでも買いに行くかのう。シヨップはもうやっておらんが、自販機はP7がイタズラしていなければ動くはずじゃ。そう考えナガンは部屋を出た。

シヨップの前に差し掛かるとシヨップにはまだ電気が付いていてシャツターも空いていた。

ナガンは中をのぞいてみるとカーリーナが書類仕事をしていた。

「夜遅くまでせいがでるのお」

ナガンはそう言いシヨップの中に入っていった。カーリーナに話を聞くと緊急任務が入り、シヨップの業務をやる時間が後になってしまったとのこと。商品の発注と売上計算を今日中にしなければならず、こうして徹夜で作業しているとのこと。

そう聞いたナガンは彼女を手伝うことにした。彼女には牛乳を仕入れてもらったこともあるし、その借りを返すとしてどうか。そして身体を動かせば寝られるじやろ。

カリーナに手伝うと申し出ると、意外なことにパソコンでの事務作業を頼まれた。

ナガンとて戦術人形、端末の扱いくらいできる。おばあちゃん口調だからパソコンを使えないと思われがちだが、そこは戦術人形、普通に使える。

早速起動してみたが、動作が遅い。この端末は旧式なのだろうか。

「カリーナよ、これなんか遅くないかの？」

「それなら右の引き出しに赤いUSBメモリーが入っていますわ。AK-12さんが用意してくれたもので、どんな端末でも高速化するそうです」

カリーナに言われた通り引き出しを開けると赤いメモリーが入っていた。

早速メモリーを差し込んでみた。ディスプレイにはデバイスが挿入されましたと表示された。そして画面が紫色に光る。大丈夫なのだろうか。ナガンは不安に思いながらもネオエクセル2062を起動した。

先ほどとは違い一瞬で起動した。ナガンはメモを見て、入力しようとした。するとキーボードに触れる前にひとりでに数字が入力され、勝手に計算された。

不安に思いながらも、ナガンは次のシートを作成し、二枚目のメモをとり、入力しよ

うとした。

すると今度は画面が光りだした。

「うおっ、まぶしいのじゃ!!」

そうしてパソコンは異常な高温を発して爆発した。

「なにもしてないのに。パソコンが壊れたのじゃ」

・・・1日後

「うう、ひどい目にあつたのじゃ」

爆発に巻き込まれナガンは修復所送りになった。髪の毛はアフロになり、服はボロボロ。手足の一部が吹き飛び中の機械部品がむき出しになり、声帯を傷めたのか、声も無機質な機械音声になった。まぎれもない重症である。AK-12が用意したのはUSBメモリーではなく爆弾なのじゃないだろうか。

十数時間修復ポッドにつかかってようやく修復を終えた。

その報告のため執務室の前に来たのだが、人の気配が多い気がする。ナガンは端末にアクセスし、この基地への来客予定を調べてみたが、誰も来る予定はない。

取り込み中だったら出直せばよい。そう考えた彼女は執務室の扉をノックした。

「二二入っていいぞ二二」

執務室に入るといつも通り書類仕事をしている指揮官たちと、AK-12。そしてなぜかメイド服を着ているAN-94がいた。

指揮官たち？彼女は目を疑った。なんか増えている。目をこすつてもう一度見てもなんか増えている。視覚モジュールのエラーかかと思ひ診断したが正常だ。

「指揮官は確かに増えてるわよ」

彼女の疑問を解決するかのようにAK-12が答える。ナガンが修復作業中、機械で駄目だったから人間ではどうなのかと疑問に思い、記憶の欠片を粉末状にし、指揮官の朝食に混入した。そうすると指揮官は発光し、四人に増えたのだと。

なんと余計なことを。人間に戦術人形用の、それも実装されて間もない物を与えると
は。

「死ななくてよかつたのじゃ。AK-12よ、それにそのうち戻るのじゃろ？」

彼女はそう聞いたもののAK-12には分からないとのこと。確かに、記憶の欠片を

人間に食べさせた例などないから分からなくても仕方がない。そもそもなぜ人間に食べさせようと思ったのかもわからない。

うろたえるナガンに指揮官がうしろから抱きしめる。

「私の愛しいナガン、心配してくれてありがとう。でも僕は大丈夫」

素晴らしい指揮官はナガンの帽子を脱がせる。そして顎に指をあて、顔を持ちあげる。顎クイというやつである。そして自身の顔を近づけ……

「これ、昼間からそういうことをしようとするではない」

指揮官の顔を手で押さえる。ナガンは指揮官に対して恋愛感情などもってはいないが、顔のいい男にここまで迫られると恥ずかしくなってしまう。ぶっちゃけ満更でもない。

「なら夜になったら……」

そう言うも「だめじゃ」と即答される。

この間、AK-112とAN-94は見ているだけでなにもしない。

ナガンはなんとか指揮官たちを振り払い、訓練所に行き射撃訓練をした。いつもよりグリップを握る手に力が入っていたのは気のせいではない。

数日が経過した。数日間指揮官たちは普通に仕事をしたり、ナガンを口説いたりして

いた。AK-12がうまく仕切り、四人別々の作業をさせていたので、仕事の進み具合が四倍早くなった。進み具合が早くなると、時間に余裕ができる。そうするとナガンを口説く時間が増える。

四人の指揮官たちはナガンを口説いていた。プレゼントを渡したり、ケーキを渡したり、愛の言葉をささやいたり、カフェに誘ったり。

指揮官からの誘いをなんでも断るわけにはいかないと思ったのか、カフェの誘いには応じた。カフェなら人目があるし、口説かれる程度じやろう。ナガンはそう考えた。

予想に反してカフェでは浮ついたセリフで口説かれることもなく、ごく普通の会話だった。任務中の出来事や、基地内でのほかの人形たちとのやり取り。最近のはやりなど本当にありふれた会話。

「なんじゃ、おぬしのことじゃからてつきり口説いてくると思ってたのじゃが」

いつもの指揮官であれば口説いてもおかしくはない。

指揮官はナガンの手を握った。

「口説いてほしかったのかい？そう言ってくればいつでも口説いたのに」

恥ずかしくなったのだろう、ナガンは顔を真っ赤にして「ごっ、ご馳走様なのじゃ」と言つて立ち去る。

逃げられても指揮官に失敗した感はない。手ごたえをつかんだようだ。

「うふふ、逃げられちゃいましたね」

スプリングフィールドがそうからかう。指揮官としては本当にそんなことはない。あまり性急すぎても嫌われてしまう。好感度は高くなっている。後一押し。

自分が四人に増え、他の自分もナガンを口説いている。他のやつらには渡さない。

自分が四人に増えたと同時に記憶も増えた。個体としては違うのに記憶は共有している。自分が口説いている感覚と、他の男が自分の愛しいナガンを口説いている感覚が同時にある。

それでも焦るとナガンに逃げられてしまうし、ストーカー行為だと言われ本部に通報でもされたら別の基地に移動になってしまう。

「そんなことはないさ。彼女は照れているだけだよ」

指揮官はカードを出し「ほかの人形たちの分も一緒にお願い」と言いみなの方も支払った。

他の客から拍手がわき起こる。

「指揮官ってば太っ腹」

・・・さらに数日後

AK-12に呼ばれてナガンが執務室にいくと、指揮官たちが喧嘩をしていた。全員が全員、自分のナガンを口説いたともめていた。ナガンからしてみれば全員同一人物だが、指揮官はその辺混同しているようだ。

指揮官達はナガンの腕をつかみ、「君が選ぶのは私だよな」と言う。イケメンたちが自分をめぐって争う。俗にいう、『私のために争わないで』というやつだ。

ナガンとて心は乙女。満更でもない。

「ワシのために争うななのじゃ」

彼女はそう言い指揮官達を止めようとする。

指揮官は争いをやめ、ナガンの方を見る。ナガンは誰を選ぶのだろうか。

見られたナガンも指揮官を見る、正直ナガンからしてみればどれも同じにか見えな
い。

どうするか考えていると、突然指揮官たちが頭を押さえて苦しみだした。

異様なまでの苦しみ方に、彼女は近づけない。AK-12はなにもせずこちらを見て
いるだけだ。

指揮官たちは目から血を流しながら殴り合いを開始する。

彼女が止めるよう叫ぶも止まらない。やむなく彼女は銃を取り出し天井に向けて発
砲した。

威嚇射撃をすれば止まるだろうと思ひ発砲したのだが、指揮官たちは見事動きを停止してこちらを見ている。

「おぬしら、もうワシをめぐって争わんでくれ……」

彼女はそう訴えた。静寂が訪れる。彼女がなにか言おうと思つた時、指揮官たちは叫び声をあげた。

「あああああああああああああああああつ!!」

そう叫び懐から銃を取り出しお互いを撃ち始める。

銃声が止むころには指揮官たちは倒れ、事切れていた。

あまりの光景にナガンはショックで腰を抜かしてしまった。AK-12はナガンに説明する。

指揮官たちは記憶を共有していた。四人同時に存在して四人分の記憶がそれぞれの中に入っていた。また、自分のことではあるが同時に自分ではないという矛盾が存在していて、脳に強い負担がかかっていた。そのせいで発狂してあなってしまった。

最後に決してナガンのせいではないとフオローをいれる。

ナガンは聞いているのか聞いていないのか「ワシは……ワシは……」と呆

然自失としている。

トラウマになってはいけないと思いAK—12はナガンのメンタルをハッキングして、記憶を改竄した。指揮官のトラブルを聞いたナガンは急いで駆け付ける途中で、転んで頭をうち、気絶したということに。

ナガンの記憶処理を終えたAK—12は指をパチンとならした。すると、どこからともなくハッキングされた軍用人形が現れ、部屋を清掃し、指揮官たちの死体を死体袋に入れ、運び去っていった。

それを見送った彼女は、ナガンを医務室に連れて行った。

・ ・ ・ 二日後

後方支援任務を終え、報告を済ませ、自室に帰ってきたナガンは部屋で飲んでいた。

この基地で指揮官が死ぬのは日常茶飯事だが、それでも悲しい物は悲しい。しかも比較的自分と関りが多かったものならなおさらだ。もう一本飲むかのう。そう思い瓶を手取るも空だ。

そこへ同室のモシンナガンが帰ってきた。

「ナガン、飲むなどは言わないけど電気くらいつけるべきよ。暗い部屋で飲んでてもいいことないわよ」

素晴らしい冷蔵庫から新しいウオツカをだし、コップに注ぎ、ナガンに渡した。

そしてコップ同士を合わせて乾杯し、一緒に飲んだ。飲みながらモシンナガンはナガンからいろいろなことをきいた。指揮官に毎回口説かれた事。毎回口説くけど、そんなにしつこいわけではなく、任務に関しては真面目に取り組んでいること。メンタルアツプグレードを果たした後は喜んでくれたこと。

そして指揮官が死んでしまつて悲しいと……

かわいそうなナガン。彼女の眼から涙があふれている。ナガンに涙は似合わない。彼女は古めかしい口調で背が小さいのを気にしているけど、元気いっぱいなのが似合っている。

モシンナガンは彼女を押し倒し、自身の額を彼女の額にくつつけた。

「あら、姉よ、なにをするの……」

彼女が文句を言い終える前にモシンナガンは彼女の唇を自身の唇でふさいだ。

そして舌を彼女の口内に侵入させ、彼女の舌に絡みついた。最初は抵抗していたナガンもモシンナガンを受け入れ、舌を絡め合う。

やがて息が続かなくなったのか、どちらともなく唇を離す。濃厚なキスだったのだから。唇が離れても二人の唾液はまだ離れたくない、もつと濃密なことをしたいと訴えるかの如くつながったままだ。

そしてモシンナガンは服を脱ぎ、豊かな肢体をさらし、ナガンの服を脱がせる。

「今夜は一緒に寝ましょ。指揮官のことを忘れさせることができなけれど、今のあなたを暖めてあげることがはできるわ」

下着まで脱がされ、生まれたままの姿になったナガンはモシンナガンの思いを受け止める。

「お手柔らかにの・・・」

最後まで言うまえにモシンナガンに唇をふさがれる。

こうして、姉妹の夜は更けていく。

19. AK-12に記憶の欠片を提供するのはやめてください。カリーナのノート

PCを最後の犠牲者としてください。

第二十話 FN FNC「FNCのお菓子を勝手に持っていくのはやめてください」

ここはグリフィンS13地区。特徴がないのが特徴の地区である。当然のことながら基地も特徴がない。ゲームと変わらぬ標準的な基地だ。

そんな基地の食料庫から今回の物語は始まる。

一体の人形が食料の入っている段ボール箱を漁っている。彼女は目当ての物を見つけて出すと段ボールを元に戻し、倉庫から出た。そして自室に戻った。

「AK-12、言われた物を持ってきた」

人形は自分が食べるためではなく、AK-12に言われて倉庫で食料をあさっていたようだ。

AK-12は目を閉じたまま、しかし満足そうに微笑む。そしてAN-94の分もコーヒーをいれ、手に入れた食料、チョコレートをお皿に盛りつけていく。

そして2人で食べる。とある事情から、甘味のあるコーヒーマイクは久しぶりだ。

「チョコを食べるのって、久しぶりよね」

図鑑 No. 070 名前 FN FNC
銃種 アサルトライフル

收容プロトコル

FN FNC（以下FNCと略）は16Labの特別收容施設に收容されています。それぞれの部屋は快適に生活できるように十分な広さと、必要な生活用品が用意されます。また、部屋には大型冷蔵庫を用意し、いつでも食事がとれるようにしています。食料の補充はこまめに行わなければなりません。冷蔵庫には甘味類も一定量入れておいてください。

戦術人形としての本分を忘れないため、1日30分程度の戦闘訓練が許可されています。收容施設の増設が可能になれば1日の制限を緩和することが可能です。現在申請書を上層部に提出し、審査待ちです。

施設は外から施錠されそれぞれの部屋は監視カメラを用意して24時間体制で監視し、映像は三十分おきにチェックされます。

どこかの部屋で、FNCが甘味類を要求した場合、こちらで確保した指揮官（指揮官が調達できない場合は不法移民を指揮官と偽装）を派遣し、すぐに甘味類を与えるよう

にしてください。

いかなる理由があろうとも、F N Cが收容されている部屋の飲食物をF N Cの許可なしに消費してはいけません。

説明

F N CはI. O. P社が作り出した戦術人形です。小柄で可愛らしい外見ですが、規律よりも自分の食欲を優先させがちです。その見た目に反して口が悪くずる賢いため、接する職員は注意してください。前に所属していたS 1 3地区では食料のつまみ食いが発覚した際、別の人形に責任を擦りつけていました。

小柄で女兒にも見える見た目を利用し、子供好きの女性職員の良心に訴えかけ、上部の許可なしに收容施設の外へ出たことがあります。その際、1 6 L A Bの食料庫にあった甘味類は全て食べつくされました。

繰り返ししますが、F N Cと接する職員は注意してください。

戦術人形としての能力は他の基地のF N Cと同様です。性格に関してもこのF N Cが特異なのではなく、どのF N Cも食欲を優先させる傾向があります。

このF N Cの危険性はその性格や食欲ではありません。

FNCは甘味類が尽きるとお菓子がほしくなり、指揮官に甘味類を要望します。その際、指揮官がその要望を断ると24時間以内にFNCの付近から新たなFNCが出現します。増えたFNCをFNC-aとし、それ以降はFNC-a?とします。

FNC-aも元のFNCと一緒に菓子を要望します。これを断ると24時間以内にFNCとFNC-aの付近からまた新たなFNCが出現します。この出現に限界はないと推測されます。

したがって、指揮官は全てのFNCの要望に従い甘味類を提供する必要があります。

S13地区の基地で目を閉じた人形がFNCの所有しているお菓子(FNCはそう供述)を無断で食べ、その人形がお菓子は指揮官が持っているとうそをついた結果、FNCは指揮官の元へ押しかけ、甘味類を要望しました。そして甘味類を所持していない指揮官は要望を拒否しました。その後24時間以内にFNCとFNC-aが現れ甘味類を要望しました。最初指揮官はダミー人形を使っているかと思いきみ拒否しましたが、半月後、数十体のFNCに囲まれ甘味類を要求され、恐怖した指揮官は逃走を図りました。しかし捕まってしまい、貴重品を奪おうとした数体のFNCにのしかかられた影響で圧死しました。

その数日後、新たな指揮官が着任したのですが、増殖するFNCに恐怖し、逃亡しました。逃亡した指揮官は数日後交通事故で死亡しました。

その次に着任した女性指揮官は、最初はF N Cの要望に従い甘味類をあげていたのですが、すぐに甘味が尽きたため、F N Cの要望を断ったところF N Cが増殖し混乱。増えたF N Cのうち数体を殺害しましたが、すぐに再出現したため、恐怖のあまり拳銃で自らの頭を撃ち抜き自殺しました。この出来事から察するに、殺害は無意味です。

この女性指揮官はI 6 L a bの研究員に親戚がいました。その研究員は指揮官の死を不審に思い調査をおこなったところ、異常事態が発覚しF N Cが收容されました。現在のF N Cの数は？十四体に上ります。

收容されたF N Cは食欲が満たされているからか、非常に協力的です。

冷蔵庫から甘味が切れた時、F N Cはお菓子を要望します。

その際、こちらで確保した指揮官は速やかにF N Cにお菓子を与えてください。そうすることでしかF N Cの増殖を防ぐ方法はありません。

今回確保された指揮官は車でバイクに乗っていた女性2人を跳ねて重傷を負わせ、そのまま逃亡しました。本来であればひき逃げ事件の容疑者として警察に逮捕されるはずでしたが、それをもみ消すことを提案すると、喜んで協力してくれました。

現在は週？日、24時間勤務でF N C達の要望に応え、甘味類を配っています。

補遺：この指揮官は職務の過酷さに耐えきれず脱走を企てたため、終了措置を施しました。飲酒運転でガードレールに追突し死亡したとのカバーストーリーが適用されません。

現在は別の人間を名義上は指揮官として配置しています。

なぜ増えるのかFNCにインタビューを試みました。

〔録画開始〕

研究者「こんにちは」

FNC「こんにちは」

研究者「インタビューを開始しますね」

FNC「はい。このチョコおいしいですね」

研究者「喜んでもらえてよかった。FNC、現在収容されていることについて何か不満はあるかな？」

FNC「特に不満はないよ。しいていうなら日本の和菓子も食べて見たいな。大福とか、生八つ橋とか」

研究者「ダイフクとナマヤツハシだね。市場を探してみよう。さて、本題だ。君はお菓子をもらえないと増えるようだけど、どうやったらそんなことができるようになった

のかな？」

FNC「うーん、わかんない。指揮官がお菓子くれなくてショックで、気が付いたら増えてた」

研究者「気が付いたら。ボディに異変がとかそういうのはなかったのかな？」

FNC「なかったよ。指揮官にお菓子ちょうだいって言って断られてショックだ
なって思つて気が付いたら増えてた」

研究者「君にもわからないのか。他のFNCとの仲はどうだったのかな？」

FNC「仲は悪くないよ。私がふたりなら、お菓子はふたりぶんもらえばいいだけ
だしね」

〔録画終了〕

FNC本人も増える原理は分かっているようです。FNC—a以降数体のFNC
にもインタビューを試みましたが内容はほぼ同じでした。

補遺

増えたFNCを戦場に投入するとの案がありました。安定した食
料供給が見込めない戦場で爆発的に増加し、収容しきれなくなる可能性があります。

FNCが増え続けると計算上数カ月でロシアを埋め尽くし、居住不可能になると見積

もられています。

有効なFNCの削減方法が見つかるまで、現在の収容方法は維持されます。

「今日もお菓子おいしかった。ごちそうさまー。もぐもぐ・・・」

20. FNCのお菓子を勝手に持っていくのはやめてください。

20-1. 指揮官が全部持っている嘘をつくのも止めてください。その指揮官は三人目ですよ。

AK-12の禁止リスト プロローグ～二十話 キャラクター設定

世界観説明

・S13地区グリフィン基地

毎回言ってる通りこれといった特徴のない基地。作者的には原作（ゲーム本編）と同じイメージ。

S13地区も特徴がないのが特徴。

（特徴がないからこそ隠すべきものを隠せる）

・AK-12

このシリーズの主人公。

強くて美しく、頭もよくユーモアのセンスがあり、指揮官からも同僚の戦術人形からも、他の基地の戦術人形からも一目置かれている完璧オブ完璧な人形。

地元住民にも親しまれ、商店街のクレール販売しているアンドロイドオバチャンは

トッピングのチョコを少し多めにしてくれるし、ラーメン屋ではチャーハンちよつとだけ多くしてもらえる。

近所のジュニアスクールに通う、ルーク君に告白された。10年後覚えてたらデートしましよとドラマみたいに戻したら、それををみていた姉の名門女学院のステファニーちゃんに御姉様になってほしいと告白された。まさにS13地区のマドンナ。

他支部のエリート女性指揮官もスカウトしてるし、本社の真の戦術人形にしか微笑まないことで有名なスプリングフィールドさんが微笑んだ。

そんな真意不明の噂が立つくらい愛されている完璧で完全な人形。

別段作者が脅されるとかそういうのではない。ビタミン剤を投与されただけ。

AK-12は完璧だ(ぐるぐる目)

以下ざっくりとした各話のキャラ解説です

第一話 コルトSAA

病的なまでのコーラ中毒。どんだけコーラが好きかという、目玉焼きにコーラかけるレベル。コーヒーにも入れる。1話書いてるとき、手元にコーヒーとコーラがあった

ので混ぜて飲んだらまずかった。1話執筆時、棺桶ダンスが流行ってたので作者も棺桶ダンサーが見えた。

そしてコーラはお肌がいいとか思い込んで、その思い込みのみでお肌つやつやになる。

コーラの飲みすぎで糖尿病になり、そこから失明までした。人間ならどうにもならないがそこは戦術人形。ボディを新しくするだけでなんとかなった。

修復は戦闘時の負傷だけではなく内臓機能の問題もなんとかするがそのことは公にはされない。偏食の戦術人形が調子に乗るからね。

コーラがないと元気がない。思いこみだけで肌も荒れる。その思いこみの激しさからAK-12に認識をいじられて、コーラではなく自身がコーラと思った物を飲んだら身体が修復されるようになった。

このコーラ判定はカロ??ゼロ認定以上にガバガバ。読者の中にもコーラ認定される人がいてもおかしくないレベル。

炭酸を飲んだ後の指揮官から炭酸の気配を嗅ぎ取り、指揮官をコーラが入った袋と勘違い。

指揮官の血液を吸い尽くした。今日も彼女はコーラはもちろん自身がコーラと思つた物を飲みながら鉄血と戦う。

第二話 G 4 1

運動時にはなぜか白スク水になる。作者もなんとか白スク水スキンをゲットした。かわいい。

力加減がちよつと下手。どじっこかわいい。

そして自分が可愛いことをわかつている。あざとかわいい。

部屋の間所とかも聞き出せる。あざとかわいい。

指揮官の脚くらいへし折れる。かわいいいうえに強い。

ボール遊びをするのにも準備を怠らない。健気でかわいい。

前のご主人様のことをきちんと覚えて大事にしている。忠犬かわいい。

ご主人様の教えを忠実に守ってる。忠犬かわいい。

ボールをキンタマに変えるとか機転が利いてかわいい。

ちんちんもぎもぎG 4 1って流行ってもいいと思う。

力加減が苦手だけどそれでも健気なG 4 1ちゃんかわいい。

このG 4 1ちゃんも他の基地のG 4 1と同じくかわいい。

第三話 H K 4 1 6

HK416ちゃんは完璧で負けず嫌い。とにかく完璧で負けず嫌い。

二次創作であつてもそこを徹底的に曲げなかった。というか補強しまくった。

そしてお酒を飲ました後の酒乱具合も完璧。酔っぱらって脳みそが異世界に繋がるとか完璧すぎでしょ。AR小隊じゃそんなすごいこと絶対にできないよ。

第四話 ゲパードM1

割とテンションが低くてやる気がない。原作のゲパードM1とあまり変わりない。

第五話 UMP45

みんな大好き45姉。基本的にゲームと変わらない。そして貧乳をコンプレックスに感じてるのも変わらない。作者はそこに目を付けコンプレックスと行動力を強化した。

だけど紆余曲折を経てコンプレックスを抜け出し、自分を受け入れた。

これには今は亡きUMP40も喜ぶはず。

第六話 リー・エンフィールド

ドルフロ最強のメシマズ！

料理下手。ローディング画面のあの料理を人間が食べた結果がこれかもしれない。

第七話 P90

中々でない。数あるドルフロ二次創作界限の中、私の作品で無駄に指揮官が死にまくるのはP90が出ないストレスがかなり大きい。

基本的に本編とあまり変わらない。

モチーフSCP『幼女』

<http://scp-jp.wikidot.com/scp-053>

第八話 AN-94

AK-12が一番大事。AK-12が一番好き。AK-12のお馬さんになったり、犬になったりするのには気持ちいい。

いつからだろうか、存在意義だけじゃなく恋愛感情も加わったのは。

AK-12のことならず実行に移す。

最近MP7という茶飲み友達ができた。AK-12はこのことを非常に嬉しく思っている。

第九話 ガリル

なぜかモンゴル人みたいな呼ばれ方したり、ネオ？イタマの人達みたいな呼ばれ方している。妖精の世話を任された。

報酬に弱く現金な性格。星2人形だが、レベル100なため、射撃は正確。

一緒にゲームしたりしてだんだん妖精と打ち解けてきた。

妖精のレズックスで百合の良さに目覚めた。そして指揮官のせいで百合の間に男が入ることの罪の重さを知った。妖精であつても仲間だと認識したり、他の人形を誘ったり、社交的で仲間思いのいい子。

第十話 T M P

ムツツリスケベ人形。戦術人形的な能力は原作と変わらない。ただムツツリスケベ。

戦闘関係ないときはHな妄想たくさんしている。それが建造にも影響された。

どうでもいいことだが、レア人形いっぱい建造できて羨ましいな。

第十一話 T A C | 5 0

T A C | 5 0、メープルシロップが好きなお子。コルトS A A程ではないけど偏食。

人の話を聞いているようであまり聞いていない。レベルは100なのでダミーリン

クまで駆使してポルノ動画を作った。レベル100特有の行動力ですよ。レベルはあげなきやね。

モチーフSCP『夢は誰かを糧として』

<http://scp-jp.wikidot.com/scp-1951-jp>

第十二話 M590

銀髪褐色のかわいい人形。制服スキンを初めて見た時、「異常にかわいい」って作者は思った。

全く動かないけど時々幸運と不運をもたらすM500と同室。露骨におかしいのはM500の方。

一見常識的に見えるが、スラッグ弾を撃ったり、掃除するとき荒っぽかったりする。SPAS-12の学生服はコラ画像を実際に作った。学生服スパスってすごくいいよ。

キレたら怖い。ショットガン特有の怪力で手足をへし折って撃ってくる。一部の人のとってはご褒美かもしれない。

よくパンツを盗まれる。このパンツを盗む指揮官は作者の相互さんで実在する。出演交渉したらOKもらえて驚きました。

モチーフSCP『最も賢きものへ』

<http://scp-jp.wikidot.com/scp-050>

第十三話 M16A1

アル中。アルコールの力で傘ウイルスから逃れた。語彙力が落ちた。

そうだな

モチーフSCP『革命の絵』

<http://scp-jp.wikidot.com/scp-1798-jp>

第十四話 ステンMK-11

ほとんど原作と変わらない。相違点はホラー系統の都市伝説に詳しい。

彼女と相方のスコープピオンの視点で物語は進んでいく。

私は水中の死体に見覚えがありません。

モチーフSCP『校外学習』

<http://scp-jp.wikidot.com/scp-2316>

第十五話 VP70

バグ絶対直すガール。バグ認定基準、バグ修正方法はオリジナル。

モチーフがモチーフなのでえぐいことができて楽しかった。

モチーフSCP『ペスト医師』

<http://scp-jp.wikidot.com/scp-049>

第十六話 MP7

オナニーマスターガール。AN-94の茶飲み友達。たまに飲食代踏み倒されるがAN-94と話すのは楽しいらしい。友情っていいね。

前でも後でも使えるし、おかずはノーマルからハードレズまでなんでもいける。最近
は脱糞オナニーがお気に入り。戦術人形特有の免疫力で感染しないからあまり準備し
なくてもお尻でして平気。

モチーフSCP『ファクトリーポルノ』

<http://scp-jp.wikidot.com/scp-1004>

第十七話 IDW

モチーフは有名なあれですよろしくおねがいます。

あいでいーだぶりゅーです、よろしくおねがいます

モチーフSCP『ねこですよろしくおねがいします』

<http://scp-jp.wikidot.com/scp-040-jp>

第十八話 UMP9

45姉の指令で来た家族ちゃん。指揮官には彼女が本物か幻か判別できてなかった。書いてて作者も分からなくなってきた。かわいいからいいやつて思ってた。書き上げた。

指揮官との別れは悲しかった模様。

モチーフSCP『恐らくはそこに存在するはずの怪物』

<http://scp-jp.wikidot.com/scp-870>

第十九話 M1895 MOD3

MODⅢのナガンおばあちゃん。みんな大好きのじゃロリおばあちゃん。

指揮官からアタックされている。指揮官がロリコンだということは理解していても指揮官はイケメンだったため満更ではなかったりする。

AK-12が面白いこととしたせいで、『私のために争わないで』状態になった。割とまんざらではなかったりする。

指揮官が死んだときは落ち込んだが、モシンナガンに慰め（意味深）られた。

姉妹愛は強い。

モチーフSCP 『仲悪し兄弟』

<http://scp|jp.wikidot.com/scp|1454>

第二十話 FN FNC

性格や戦術人形としての戦闘能力は原作と変わらない。

ただし、お菓子をあげないと増える。一体のFNCにお菓子をあげないと二体になり、その二体のFNCにお菓子をあげないと二体とも増えて四体に。そして四体のFNCが（以下略）

お菓子をあげないと無限に増え続ける。トリックオアトリートつてレベルじゃない。ちなみにFNCは銃を持っている。この意味わかりますね。

モチーフSCP 『景気のいいケーキ』

<http://scp|jp.wikidot.com/scp|871>

各話指揮官

プロローグと一話は同一人物。

全員死亡。

第二十一話 M82A1 「目を閉じていても見えている
との言葉を言い訳に使ってはダメです」

ここはグリフィンS13地区。特徴がないのが特徴の地区である。当然のことなが
ら基地も特徴がない。ゲームと変わらぬ標準的な基地だ。

そんな基地の会議室から今回の物語は始まる。

会議室というからには当然行われているのは会議だ。なにかの提案なのだろうか、一
体の人形がしゃべっている。

「ですから、これはこのようにですね……」

わざわざプロジェクターまで用意し、自作したであろう資料を表示している。しか
し、皆の反応はよくない。

AK-12は目を閉じていて起きているか寝ているかわからない。他の人形達も眠
そうにしている。指揮官も目を閉じている。

「AK-12！指揮官！起きなさい！」

人形は話を中断し、AK—12と指揮官を怒鳴りつける。怒鳴りつけられた一体と一人はビクツツと反応する。

「目をつぶつても見えてるわよ」

人形は素晴らしい、指揮官も「ジェリコ、私も目をつぶつても私にはわかっている」と謎の答えを返す。

人形、ジェリコは杖を突きつけながらAK—12と指揮官に「じゃあ私がなんて言っただか言ってみてください」と詰め寄っている。

AK—12は表情を変えず、指揮官はAK—12の方を見ながら目をパチパチさせている。寝ていて答えられないようだ。

そんな様子を微笑ましくみる人形が一体。

桃色の長い髪に近未来という言葉を連想させる服装。それでいて何処か神秘的な雰囲気がある。まるで神様のような……

人形はかつて、とある組織で神と崇められ、その優れた演算能力で人々を導いていた。そんな人形の名前はM82A1。過去には他の名前だったかもしれないが、現在はそう名乗っている。

悲劇によってその組織は崩壊し、現在は戦術人形になった。彼女にとって目の前の光

景は新鮮なものだ。人形も人間も対等にやり取りをし、喜劇のような冗談を言う。

かつて接した人間たちは、M82A1に縋り付き導きを求めてくるだけだった。自立人形は身の回りの世話をするだけで意思と呼べるものはなかった。ここは縋り付くこともなくみな自分の意志を持っている。

私は目を閉じかつての光景を思い出していました。そして、ジェリコのお説教を聞いている眠そうな指揮官につられ、私もそのまま……いけない、眠くてもちゃんと話を聞かなければ。私はまだ新人。新人が会議で居眠りなどあつてはいけません。指揮官が居眠りをして駄目だと思いますが。

私がほほを軽くたたき目蓋を開けると会議室ではなく、全く別の光景でした。私が目蓋を閉じたのは数秒間です。その間に未知の場所に転移したのでしょうか。それともハッキングを受けたのでしょうか。

「いっはいいい」

周りを見渡す。私が今いる場所は吊り橋の上。日の光が弱くうつすら煙に覆われているようです。

白い樹木のように見える、廃墟の群れ。遠くにはこの距離でもひときわ目立つ黒い柱。

私の周囲に人の気配はありません。そしてこの空気、とても嫌な臭いがします。ここにおいても仕方がないので、ひときわ目立つ、黒い柱に向かうことにしました。

歩き始めて一時間ほどでしょうか。体感であつて実際はどうかわかりません。もしかしらもつと短い時間なのかもしれないです。廃墟の群れに差し掛かった時、通信がなりました。

相手はAK—12さんです。

「M82A1、聞こえる?」

彼女の問いに肯定し、私は今どのような状態にあるのか聞きました。そして私が今何を見ているのかも説明しました。私だけではなく指揮官もこの場所にいるそうです。

私と指揮官は何処かにレポートしたのではなく、同じ様な幻覚を見ている。私一人だけだとメンタルをハッキングされただけと理解できませんが、指揮官も同じく幻覚を見ているそうです。私の体も、指揮官の体も動いてこそいるが基地の敷地からはでないとのこと。鉄血はそこまでのことができるのでしょうか。

後、この幻覚を見ている間に負傷は可能な限り避けた方がいいとも言われました。指揮官は幻覚内で転落し、負傷したそうです。指揮官を探して合流した方がいいかと聞くと、このまま黒い柱を目指すように言われました。黒い柱に向かう間、通信は切らずに何が見えているのか話し続けるように指示されました。カルカノM1891とZas

tava M21が私と指揮官の話を元に絵を描いているそうです。そのような手間をかけずとも、私が見ている風景をそちらのモニターで投影できないのか聞いてみましたが、既に試みて失敗したそうです。

そしてなぜ通信をしなかったのかも聞かれました。申し訳ありません、忘れていました。そもそも通信がつかない場所だとは思えなかったのです。

通信をつないだまま、廃墟の群れの中を進みました。

相変わらず生命の気配はありません。廃墟であれば野生動物の一匹くらいいてもおかしくないはずなのですが。

ここはどうして廃墟になったのでしょうか。建物の高さから見て元々はホワイトゾーンと同じくらい発展していたように思えます。この都市はなぜ滅びたのでしょうか。

災害？それとも戦争？崩壊液による汚染でしょうか。ここでの負傷は現実に響く以上、都市が崩壊するレベルの汚染なら、私も無事じゃすまないはずですから崩壊液や放射能はなさそうです。

いくつかの廃墟を避け、壊れた建物の中をくぐりました。

建物上部ばかりみていて足元がおろそかになっていたのでしよう。私はなにかにつまずきました。

つまりいたものを見ると、人の死体でした。ここには人の死体が散らばっています。大人の死体もありました。子供の死体もありました。死後かなりの時間がたつたのでしよう。乾燥し、ミイラのようになっていました。

「M82A1、突然こけたけどどうしたの？」

彼女に人の死体につまづいたことを伝えました。彼女に死体がどのような状態か聞かれました。

私は見たままを報告しました。

他の死体も見てみると、違和感があります。頭の部分だけ溶かされたようになった死体。一部の皮膚がまるで手足のように突き出た死体。これはなんなのでしょう。

未知のウイルス、それともE・I・L・Dでしょうか。AK—12に聞いてみました。彼女もわからないとのことでした。

なにが起こるか分からないから早く進むよう言われました。この死体の群れの中にいるのは嫌です。

私は進みました。進むと墜落した航空機がありました。翼が六枚あります。AK—12に聞いてみるとそのような航空機は存在しないそうです。

少し観察してみるとコックピットのパイロットが見えました。体が縦に真つ二つに割かれていて、それぞれが両側から出ています。なんとむごたらしい。

嫌な臭いが強くなってきています。

さらに先を進みます。臭いはさらに強くなってきています。嗅覚モジュールを切ろうとしたのですが、AK-12に止められました。この臭いの中進めと。

抗議をすると嗅覚も重要な情報なのでカットしてはいけなと。たしかに、この状況ではすべてが重要ですが。

私は汚い言葉を発しそうになるのを必死にこらえながら進みました。

吊り橋からどれだけ歩いたのでしょうか、ついに黒い柱にたどり着きました。

黒い柱は遠くから見ても大きかったです、近くから見るとさらに巨大に見えます。

柱の直径は40m以上でしょうか。パッチワークでカラフルな飾り付けがしてあります。そして、柱に巻き付いているように階段があります。あの柱は中に入れるのでしょうか。

そして柱の根元には死体があります。数えきれないほどの死体が折り重なり、潰れて
います。

このことをAK-12に報告すると、その死体を通り抜け、階段に到達するようになってきました。

とんでもないことですが、この柱が一番怪しく、ゆいいつの手掛かりです。行くしかありません。内部に入れる入口があるかもしれませんから。そして現実に戻れる手掛かりもあるかもしれません。

私は死体の上を進み始めました。バリバリという嫌な音が響きます。

この死体たちはこの柱を上がるためにお互いを乗りこえようとしているようにも見えます。そして頭が残っている死体は全員が上を向いています。

“神に縋り付く民衆みたい”

ミイラ化した死体ですから表情などほとんどありません。それでも、かつて私に縋り付いてきた信者たちに何処となく似ているように感じました。

この人たちはなにをみたのでしょうか。そしてなぜこうなってしまったのでしょうか。

災害、戦争や飢餓、疫病とは思えません。もつとこう超自然な何か、人知を超えたなにかを目撃してこの柱にすがっているように思えます。

もしかして私は軍事機密とは違う、“本当に知ってはいけないもの”に近づいているのではないでしょうか。

歩みが遅くなったのを察したAK-12が早くいくよう即してきます。

階段を上がると、都市が一望できました。

違和感が強くなってきました。戦争や災害のように建物が倒壊し瓦礫になっていたり、破壊されていて根元だけ残っている建物もあります。それだけではありません。大きな建物がワイヤーを曲げるように曲がっていたり、うえから座って押しつぶされたようになっているいたり、破壊というより子供の遊びで変形したようになっていてるものもかなり多く見受けられます。戦争や災害でそんなことは起こりません。

ただの破壊にしては余りにも不自然です。まるで、小人の国に來た子供の巨人が建物で遊んだかのよう。

階段を上っていくと、絵がありました。ここからではよく見えません。

まずはAK-12にこのことを報告します。

そしてAK-12の指示を待ちます。彼女は絵画を見てなにが描いてあるのか報告するように言ってきました。

私は絵の前に立ちます。絵は私以上に大きいです。そして絵は複数あります。

白い服を着てなにかを持っている人たち。その下には道具を持っている人。道具は

青で描かれています。

白い服をきた人たちはこの都市の支配者階級でしょうか。そして道具を持っている人たちは一般市民？顔こそ描かれていませんが、皆笑っているように見えます。

その下に歯車のような模様とともに、青く誇張された人のようなものです。道具と同じ色です。

これは宗教画でしょうか。青く誇張された存在は神もしくはそれに該当する者。そして神の恩恵によつて暮らす人々。

不気味な絵ですが、国が違えば価値観も違うのでしよう。DP—12なら詳しいでしょうが、地方の神が別の地では悪魔と言われることなどよくあります。

二枚目の絵に向かいます。

この絵に飛行機が描かれています。先ほどの飛行機でしょうか。これは飛行機が大空から墜落しているのでしょうか。いえ、これは大空ではなく宇宙に行こうとして失敗した図？何処かに飛び立とうとして失敗している印象を受けます。下のはなんでしょう。失敗を伝える人々は分かれます。そこから線が伸び、人々の頭につながっています。

とてもいやなよかんがします

知ってはいけない何かを見ているような気がします。

これを聞いているであろうAK-12に、他に近くに誰がいるのか聞きました。カルカノM1891とZastava M21とAK-12だけと返事がきました。私は聞く人数は最小限にした方がいいと伝え、三枚目の絵に向かいました。

三枚目の絵に向かいました。

悪夢を見る人々でしょうか。そしてその悪夢は赤い、魔物のような物が襲撃してくる夢？そして悪夢を見る人を慰める神のようなもの。

そして神は魔物の手によって落ちてしまいます。

とてもいやなよかんがします

四枚目の絵に向かいました。死体から離れたはずなのに、臭いはどんどん強くなってきました。

神が盾になり、魔物から人々をかばい、その間に人々は逃げています。

これは新天地に行こうとしたら失敗し、侵略者を呼び込んでしまった？そして神が守っている間に人々は難民となって逃げた？戦争かなにかで国が崩壊する物語？

そんななまやさしいはなしじゃない

ほとんど終着点にたどり着きました。

五枚目の絵です。臭いはどんどん強くなってきました。

魔物の手によつて落ちた神は空間に穴をあけ、人々に糸のようなものをつないでいます。

いえ、神が糸をつないでいるのではなく、人々の脳から神に糸がつながれて……もしかしてこの背景は黒い柱？私もこの人々のうちの一人なのでしょいか。

「M82A1、三枚目の絵以降の報告が途絶えているわよ」

AK-12からの通信で私は報告をしていないことに気が付きました。三枚目の絵以降の話をしました。

「……まで来たからには最後まで見届けるしかないわ」

そうですね。最後まで見届けるしかありません。そして私の話を聞いているAK-12も安全かどうかわかりません。AK-12だけではありませんね。私が見たものを描いているカルカノM1891とZastavaM21もいるのでした。彼女たち

そうではありません。

死体は人間の何倍も大きくて、絵画の神みたいで。そうなるにあの神は実在して………

AK—12は再度私を落ち着かせようとしています。大きくても死んでいるのならあなたに危害を加えられないと言っています。そうじゃありません。

死体の下には絵があります。未完成です。それでも分かります。

糸のようなものが伸びていて、そこから赤い何かがあつて………

「落ち着きなさい。M82A1」

赤い何かは………

私たちが住むこの世界に接触しようとしているのです。

「ああ、神様……」

私は自分でも何を言っているか分からなくなりました。

そして幻覚の中で意識を失いました。

そして気が付くと現実に戻っていました。目を覚ますとAK-12とカルカノM1891、Zastava M21がいました。三人とも深刻そうな顔をしています。

いつも明るいカルカノM1891もです。

AK-12に私が幻覚を見た後、現実世界で起きた出来事を聞きました。

指揮官は幻覚の中で高いところから転落し、そのまま死亡したようです。遺体はもう運び出されたとのこと。私は最初、吊り橋の上にいました。指揮官も別の所の高所にいたのでしょうか。黒い柱であの絵をみていないまま死んだのだしたらそれでいいと思います。人は人形と違って簡単に記憶のリセットはできませんから。

そして二人が描いた絵を見せてもらいました。

所々違います、大部分はあの幻覚の中で見た光景と一致しています。

あの光景は絶対に見てはいけなものでしょう。絶対に知ってはいけなものでしょう。

直接見るだけではなく口頭ですら知っていい物とは思えません。この絵も見ていいとは思いません。あれは人類が知っていい物ではないでしょう。

私たちは話し合い、絵を燃やし、記憶を消すことにしました。ジェリコに關しては指揮官が死んだ段階で数日分の記憶が消されているようです。AK-12の手回しの速さに感心します。

私たちは飲み会中、Zastava M21が酔って榴弾を放ち爆発に巻き込まれてたショックで記憶が消えたことにしました。Zastava M21、汚れ役を任せてしまつて申し訳ありません。

AK-12が数秒後に記憶を消去できるよう、プログラムをセットしました。そしてプログラム起動後、Zastava M21が榴弾を放ちました。

そして私たちは意識を失いました。

目を開ければ全てが消え、新しい指揮官の導きに従うだけの日々が始まります。

2 1. 目を閉じていても見えているとの言葉を言い訳に使ってはダメです。

第二十二話　FAL「服装規定に違反してはいけません。
カジュアルフライデーだとしてもです」

ここはグリフィンS13地区。特徴がないのが特徴の地区である。当然のことながら基地も特徴がない。ゲームと変わらぬ標準的な基地だ。

そんな基地のカフェから今回の物語は始まる。

一体の人形が紅茶を飲みながらパンフレットを読んでいる。
「なるほど」

そう言いパンフレットを読み終えた人形は代金を払い、出て行く。

「ありがとうございます」

カフェのマスター、スプリングフィールドがそういうと、フロアスタッフとして手伝いに来ていた9A91が食器を下げに行く。9A91は気づいた。人形が本を忘れていることに。

追いかけて人形、FALに渡した方がいいかと聞くと、明日も来るだろうからその時に渡せばいいと。確かに、明日も紅茶を飲みに来るだろうし、そのときに渡そう。

食器を下げ終わった9 A—9 1はF A Lが忘れていった雑誌を読んてみた。内容は怪しげな自己啓発セミナーの案内のようだ。内容こそつまらないが、不思議となんにでも挑戦できそうな気がしてきた。

「スプリングフィールドさん。私、頑張ります」

言われたスプリングフィールドは9 A—9 1の言動の意図は理解できなかったが、嫌な予感がしたので「むちゃはしないでくださいね」とくぎをさしておいた。

喫茶店を出たF A Lは執務室に向かった。普通に登場してもこれからする提案は却下されるだろう。ハイセンスに登場しなければ。

F A Lはライフルを構え、榴弾を放ち、一発目で扉を吹き飛ばし、二発目、三発目は室内で炸裂した。

「指揮官、提案があるんだけど、あら？いないのかしら」

F A Lは指揮官がいないと思い、また来るとメモを残して去っていった。実際には榴弾の爆風と破片で死亡し、瓦礫の下敷きになっていた。

・・・その夜・・・

FALは端末にアクセスし、一つのスレッドを作成した。ハイセンスな私にぴったりのスレッドだ。

戦術人形ファクションチエックスレ part 1

1 ハイセンスな人形さん@お腹いっぱい

この基地にカジュアルフライデーが導入されたわ。そこでハイセンスな私がみんなのファクションをチエックしてあげる。みんな私服の画像をどんどん投稿しなさい

2 名無しの人形さん@お腹いっぱい

>>1乙

3 ブルパップの人形さん@お腹いっぱい

>>1乙パップ

4 おばあちゃんな人形さん@お腹いっぱい

>>1乙なのじや

5名無しの人形さん@お腹いっぱい

>>1乙

6キュートな人形さん@お腹いっぱい
糞スレたてないでよね。

7ハイセンスな人形さん@お腹いっぱい

どこが糞スレよ。分かりやすくハイセンスなスレじゃない

カジュアルフライデーで人形たちの私服が認められるわ。その時にセンスのない服
着てたら

S13支部の人形として恥ずかしいでしょ。だから私がチェックしてあげるわ

8キュートな人形さん@お腹いっぱい

ハイセンス？

9名無しの人形さん@お腹いっぱい
ハイセンス？

10ブルパップの人形さん@お腹いっぱい
ハイセンスはブルパップ以外ありえない

送信！

11正直者の人形さん@お腹いっぱい
FALさんはハイセンスですよ。戦術人形たちのファッションリーダーです

12姉の人形さん@お腹いっぱい
こら、嘘をついちやだめでしょ。ごめんなさい、FALさん。妹は素直じゃなくて、
い
つも下手な嘘をつくんです

13名無しの人形さん@お腹いっぱい
ちよ

14名無しの人形さん@お腹いっぱい
ちよ

15お米派の人形さん@お腹いっぱい
草生える

16名無しの人形さん@お腹いっぱい
草？

17名無しの人形さん@お腹いっぱい
どういう意味？

18お米派の人形さん@お腹いっぱい
古代日本では笑えることを草生えるって言ってたらしいですよ

19名無しの人形さん@お腹いっぱい
なるほど

20おばあちゃんの人形さん@お腹いっぱい
なるほどのう

21名無しの人形さん@お腹いっぱい
なるほど

63名無しの人形さん@お腹いっぱい
パンにかけるものはバターでしょ

64スタンダードな人形さん@お腹いっぱい
ジャムだと思いますよ

65 大英帝国の人形さん@お腹いっぱい
マーマイトでしょう

66 シングルアクションの人形さん@お腹いっぱい
コーラ！

67 メープルシロップの人形さん@お腹いっぱい
メープルシロップでしょう

68 ハイセンスな人形さん@お腹いっぱい
待って、私のスレでしょ！

服をチェックしてあげるから誰か画像出しなさいよ

69 カフェの人形さん@お腹いっぱい
そう言われても

70 姉の人形さん@お腹いっぱい

ハイセンスな人形さん、ちよつと待っててくださいいね

71正直者の人形さん@お腹いっぱい

え、お姉さん、何をするんですか

服を脱がすのはやめt

72名無しの人形さん@お腹いっぱい

ガタツ

73名無しの人形さん@お腹いっぱい

ガタツ

74お外が大好きな人形さん@お腹いっぱい

ガラガラガツシャーン

75名無しの人形さん@お腹いっぱい

落ち着け

76 人気者の人形さん@お腹いっぱい
落ち着けなの

77 お姉ちゃんの人形さん@お腹いっぱい
妹がお騒がせしてごめんなさい

78 カフェの人形さん@お腹いっぱい
気にしないでください

79 名無しの人形さん@お腹いっぱい
気にするな

80 名無しの人形さん@お腹いっぱい
気にするな

81 名無しの人形さん@お腹いっぱい

気にするな

82 ジャックダニエルの人形さん@お腹いっぱい
そうだな

122 姉の人形さん@お腹いっぱい
できました。以前作った服を妹に着せてみました！

【カルカノM91/38がフリフリのゴスロリ服を着ている画像】

123 姉の人形さん@お腹いっぱい
どうです！かわいいでしょ！大丈夫です、妹はこの服装でもライフルが扱えます！
FALさん、ファッションチエックお願いします
124 名無しの人形さん@お腹いっぱい

これは

125名無しの人形さん@お腹いっぱい
ほう

126名無しの人形さん@お腹いっぱい
あらあら

127潔癖症の人形さん@お腹いっぱい
かわいい

128お外が大好きな人形さん@お腹いっぱい
お人形さんみたいでかわいい

129お姉ちゃんの人形さん@お腹いっぱい
可愛らしいですね

>>128

わたしたちは元から人形よ

130 正直者の人形さん@お腹いっぱい
うう、恥ずかしいです

131 ハイセンスな人形さん@お腹いっぱい

ドレスすごく可愛いわね。しよっぱなから得点高いのが来たわ

この服はザシキワラシと名付けましょう

点数は91点

132 名無しの人形さん@お腹いっぱい

ネーミングセンスがダサイ

133 おばあちゃんの人形さん@お腹いっぱい

ださいの

134 潔癖症の人形さん@お腹いっぱい

ださいわね

135 人気者の人形さん@お腹いっぱい
ださいなの

136 キュートな人形さん@お腹いっぱい

正直者の人形は可愛いけどハイセンスな人形のセンスはサイアクね。隊長は交代す
べきなんじゃないかしら

137 ハイセンスな人形さん@お腹いっぱい

>>137

いやよ

138 名無しの人形さん@お腹いっぱい

お約束のやりとりが

237 単発式の人形さん@お腹いっぱい
私も投稿していいですか？

238 名無しの人形さん@お腹いっぱい
いいぞ

239 関西弁の人形さん@お腹いっぱい
ええぞ

240 名無しの人形さん@お腹いっぱい
よいぞ

241 名無しの人形さん@お腹いっぱい
うむ

242 ハイセンスな人形さん@お腹いっぱい

ようやく二人目ね。いいわ、採点してあげる

243 単発式の人形さん@お腹いっぱい

これが写真です

【王子戦線：オペラ座の怪人スキンを着たコンテNDER】

244 同志の人形さん@お腹いっぱい

これはまた美少年。好きな人は好きそうね

245 大口径な人形さん@お腹いっぱい

あら素敵じゃない。今夜、私の部屋にこない？

お姉さんと、ウフフ

246 名無しの人形さん@お腹いっぱい

さつそく

247 名無しの人形さん@お腹いっぱい

さつそく

248おばあちゃんの人形さん@お腹いっぱい
さつそくじゃな

249潔癖症の人形さん@お腹いっぱい
こういう子と一夜を共にするのは>>245じゃなく、私のような美少女がいいのよ

250気だるげな人形さん@お腹いっぱい

>>243ちゃんの服いい!!>>243ちゃん次はこの服きて!前々から勧めてる
このお洋服!!

251希望の星の人形さん@お腹いっぱい

>>250の横にいるけど、一緒にモニターみてたら眼球が大きくなって血走って叫
びました

コワイ

252名無しの人形さん@お腹いっぱい

こわいですね

253 名無しの人形さん@お腹いっぱい
こわいの

254 希望の星の人形さん@お腹いっぱい
まだ叫んでる。銃を取り出した！

255 闇に生きる人形さん@お腹いっぱい
すぐいきます

256 気だるげな人形さん@お腹いっぱい
我慢できない。直接行つて

257 名無しの人形さん@お腹いっぱい
お

258 名無しの人形さん@お腹いっぱい

o h

259名無しの人形さん@お腹いっぱい
お?

260闇に生きる人形さん@お腹いっぱい
眠れ、安らかに

>>242

採点お願いします

261ハイセンスな人形さん@お腹いっぱい

ええ、採点するわ

素敵な衣装ね。その服で戦うのかしら。まさに王子様ね。
プリンの王子様と名付けましょうか

90点

262キュートな人形さん@お腹いっぱい

ネーミングセンスが意味不明

263名無しの人形さん@お腹いっぱい
意味不明

264名無しの人形さん@お腹いっぱい
確かに

265名無しの人形さん@お腹いっぱい
そうよね

266ジャックダニエルの人形さん@お腹いっぱい
そうだな

605おばあちゃんの人形さん@お腹いっぱい

>>582の制服姿は妙にムラつとくるのう

606銀髪褐色の人形さん@お腹いっぱい

私の予備の服なはずなのに私もムラツとききました

607キュートな人形さん@お腹いっぱい

あの子も食べてみたいなあ

608銀髪褐色の人形さん@お腹いっぱい

>>607

止めておきなさい、逆に食べられますよ

609キュートな人形さん@お腹いっぱい

それはそれで

610名無しの人形さん@お腹いっぱい
キマシタワ？

611名無しの人形さん@お腹いっぱい
キマシタワ？

612名無しの人形さん@お腹いっぱい
キマシタワ！

613 銀髪褐色の人形さん@お腹いっぱい

前にハイスクールくらいの女の子に告白されてたんです
その子を部屋に連れ込んで

そのまま出てきませんでした

翌日、作りすぎちゃったと言われお肉たつぷりの
カレーをもらいました

614 名無しの人形さん@お腹いっぱい
・
・
・

615 名無しの人形さん@お腹いっぱい
ちよ

616 お米派の人形さん@お腹いっぱい
え

617 和太鼓の人形さん@お腹いっぱい
やばいですねえ

618 大食いの人形さん@お腹いっぱい
美味しかったですよ？

619 銀髪褐色の人形さん@お腹いっぱい
ええまあ

620 大食いの人形さん@お腹いっぱい
じゃあいいじゃない
他の人は投稿しないの？

621 熊撃ちの人形さん@お腹いっぱい
じゃあ私が投稿するね

こないだ街に行った時撮った自撮り

【都市の喧騒：週末SPスキン】

622 名無しの人形さん@お腹いっぱい
正統派の

623 名無しの人形さん@お腹いっぱい
オシヤレな

624 名無しの人形さん@お腹いっぱい

服が

6 2 5 おばあちゃんの人形さん@お腹いっぱい
出てきたの

6 2 6 熊撃ちの人形さん@お腹いっぱい
ハイセンスな人形さん、採点お願い

6 2 7 ハイセンスな人形さん@お腹いっぱい

ホントオシヤレね。そしてハンドガンらしからぬナイスバディ

9 7 点ね

6 2 8 熊撃ちの人形さん@お腹いっぱい
結構高いね。ありがとう

878目を閉じた人形さん@お腹いっぱい
まだやってるかしら？

879名無しの人形さん@お腹いっぱい
ラーメン屋じゃないんだから

880ハイセンスな人形さん@お腹いっぱい

>>878

まだやっているわよ。勢いが落ちてきたから嬉しいわ

881目を閉じた人形さん@お腹いっぱい
じゃあ投稿するわね

【指揮官にダメと言われたボンテージファッションのAK―12】

【首輪を付けた旧スク白ニーソAN―94】

882名無しの人形さん@お腹いっぱい
ちよ

883名無しの人形さん@お腹いっぱい
101

884名無しの人形さん@お腹いっぱい
これは

885名無しの人形さん@お腹いっぱい

この間これで指揮官の出張に同行して周りから異常者を目で見られてたやつじゃないですか

886ブルパップの人形さん@お腹いっぱい

その時の会議の写真スレに貼り付けたら見事炎上したよ

887 カフェの人形さん@お腹いっぱい
スク水の方はそれでいいんですか

888 二点バーストの人形さん@お腹いっぱい
スク水のほうだ

>> 881 がいいなら構わない

889 名無しの人形さん@お腹いっぱい
いいのか

890 名無しの人形さん@お腹いっぱい
いいのか

891 刺激を求める人形さん@お腹いっぱい
刺激的でよさそうだね。私もやってみよっかな

892 名無しの人形さん@お腹いっぱい

>>891

やめなさい

893 名無しの人形さん@お腹いっぱい
やめろ

894 潔癖症の人形さん@お腹いっぱい
私の部屋でしょっか

895 大口径の人形さん@お腹いっぱい
私の部屋でね。きつと刺激的よ。ウフフ

896 和太鼓の人形さん@お腹いっぱい
レズは自重しましょうねえ

897 同志の人形さん@お腹いっぱい
保安委員を送り込むわよ

898目を閉じた人形さん@お腹いっぱい

>>880

それで私たちの評価は？

899名無しの人形さん@お腹いっぱい

ドン

900ナンバーワンの人形さん@お腹いっぱい

デン

901YOYOYOの人形さん@お腹いっぱい

ドドン

902ハイセンスな人形さん@お腹いっぱい

10点よ

駄目に決まってるじゃない

痴女コンビにしが見えないわよ

903目を閉じた人形さん@お腹いっぱい

10点満点ね

嬉しいわ

904ハイセンスな人形さん@お腹いっぱい

100点満点中10点よ

905目を閉じた人形さん@お腹いっぱい

10点満点中10点ね

嬉しいわ

906ハイセンスな人形さん@お腹いっぱい

メンタルがおかしくなったのかしら？

そのボンテージ、時代遅れだし、スク水も大きなお友達以外喜ばないわよ

それ以前にオフィスに相応しくないわ

907 潔癖症な人形さん@お腹いっぱい
✓ スク水も大きなお友達以外喜ばないわよ
えっ

908 名無しの人形さん@お腹いっぱい
えっ

909 名無しの人形さん@お腹いっぱい
おっ

910 目を閉じた人形さん@お腹いっぱい
あなたのセンスには問題があるみたいね

911 ハイセンスな人形さん@お腹いっぱい
あなたよりマシよ

912 キュートな形さん@お腹いっぱい
どっちもどっちね

913 おばあちゃんの形さん@お腹いっぱい
そうじゃの

914 ジャックダニエルの形さん@お腹いっぱい
そうだな

915 二点バーストの形さん@お腹いっぱい
それでも私は>>910が服を選んでくれたっというだけで嬉しい

916 名無しの形さん@お腹いっぱい
>>915

917 名無しの形さん@お腹いっぱい
>>915

いやつ

9 1 8 名無しの人形さん@お腹いっぱい

>> 9 1 5

キュンときた

9 1 9 目を閉じた人形さん@お腹いっぱい

>> 9 1 5 にキュンときたわ。こんばんは寝かさないわよ

9 2 0 二点バーストの人形さん@お腹いっぱい

うん／／

9 2 1 ハイセンスな人形さん@お腹いっぱい

ウオツホン！

>> 9 2 0 は 9 9 点ね

今度は自分で選んできなさいよ

922名無しの人形さん@お腹いっぱい
ツンデレだ。わーちゃんとキャラ被りや

923関西弁の人形さん@お腹いっぱい
ツンデレや

924殺しのために生まれた人形さん@お腹いっぱい
>>922

絶許

925名無しの人形さん@お腹いっぱい
>>924

ひえっ、許してください。何でもしますから、指揮官が

926ブルパップの人形さん@お腹いっぱい
指揮官になすりつける気で草

927名無しの人形さん@お腹いっぱい

草

945名無しの人形さん@お腹いっぱい
そういえばハイセンスな人形は画像だささないの
言い出しつぺの法則つてのがあるんだぜ

946名無しの人形さん@お腹いっぱい
D A Z E

947ハイセンスな人形さん@お腹いっぱい
そうね、100点満点の私のセンスをみなさい

【形容しがたいファッション】

948 キュートな人形さん@お腹いっぱい
コメントに困るわね

949 目を閉じた人形さん@お腹いっぱい
どういうセンスなのかしら

950 目を閉じた人形さん@お腹いっぱい
だから指揮官にこういうことするなって言われてたのに

980 私を見てほしい人形さん@お腹いっぱい
間に合った。私も挑戦しますね

【人の皮で作られたの下着のようなものを着た9A91】
981 私を見てほしい人形さん@お腹いっぱい

執務室に行ったらなぜか指揮官が死んでたので皮を剥ぎ取って水着を作ってみたん

です。裁縫は慣れないけど、ちゃんと下着になりました。これで指揮官とずっと一緒に
す。

982ブルパップの人形さん@お腹いっぱい
ヤンデレ怖い

983関西弁の人形さん@お腹いっぱい
コワイわ

984おばあちゃんの人形さん@お腹いっぱい
こわいのじゃ

985ハイセンスな人形さん@お腹いっぱい
人の皮はアウトだし、下着は布製の方がいいわ
今度そういうのが載っているウェブサイトを教えてあげる

986私を見てほしい人形さん@お腹いっぱい

分かりました。私頑張りますね。

987ハイセンスな人形さん@お腹いっぱい
スレ落としちゃいましょう

988名無しの人形さん@お腹いっぱい
あぼーん

989名無しの人形さん@お腹いっぱい
あぼーん

990名無しの人形さん@お腹いっぱい
あぼーん

997カフェの人形さん@お腹いっぱい

1000なら新しいコーヒーマーカーが手に入る

998 潔癖症の人形さん@お腹いっぱい

1000なら美少女とピーできる

999 完璧な人形さん@お腹いっぱい

私は完璧よ

1000 ジャックダニエルの人形さん@お腹いっぱい

そうだな

1001名無しの人形さん@お腹いっぱい

このスレッドは1000を超えました。

新しいスレッドを立ててください。

22. 服装規定に違反してはいけません。カジュアルフライデーだとしてもです。
22-1. 何度要求してもあなたが要求していたボンテージが服装規定になること
はありません。

22-2. AN-94にスク水を着せることも駄目です。

22-3. 旧スクでもです。

第二十三話 SAF「指揮官が二度とするなど言っているのはあなたをマインドコントロールしたいからではありません」

ここはグリフィンS13地区ではない。今回の物語は16LAB研究所から始まる。深夜、一人の女性がラボで謎の液体を移し替える作業をしている。液体は半透明の銀色で、どことなく触れてはいけない気配がする。

「ふふふ！完成したわ!!これをかければ!!」

そう叫ぶと女性は意識を失った。液体に触れてしまったのだろうか。女性をよく見ると、呼吸はある。どうやら寝ているようだ。頭についている猫耳も動いている。

ん？ネコミミ？

翌朝、16LAB研究所で女性はまた叫ぶことになるがそれは別のお話。

「指揮官、これがその液体よ」

ところ変わってここはグリフィンS13地区の基地。

執務室でAK-12は指揮官にその液体が入った容器を差し出した。

液体を差し出された指揮官はこれがどういうものか聞かずに廃棄処分する決意した。この人形が16LABから無断で持ち出してきた。その時点で嫌な予感しかない。絶対に危ないものだ。

なにも聞かずに処分しよう。トイレで流しても大丈夫だろうか。

16LABから問い合わせがあっても知らぬ存ぜぬで通そう。

そんな指揮官の内心を無視して、AK-12は続ける。

「指揮官も知つての通り、中身は惚れ薬よ。これをかけられた人間は機械に惚れられるらしいわよ。つまり人形にも惚れられるってことね」

指揮官としてはそんなことは知らないし知りたくもなかった。16LABめ、なんと

いうものを作ってくれたのでしょう。そして作ったのならもつとセキュリティは厳重にしてほしい。

「ちなみにMP7の脱糞オナニーをのぞいていた少年にかけたら、MP7はその少年に襲い掛かったわ。身なりからしてマンホールチルドレンでしょうし大丈夫よ」

この女、なんてことをしてくれただんだ！

というかMP7もなんとうことを。隠蔽工作だつて無料ではないんだぞ！

指揮官はAK-12にこの液体は廃棄するように言った。指揮官としてはこんな危険な物、人形の元どころか自身の手元にも置いておきたくない。

これは指揮官自身が廃棄処分することと、二度と16LABから無断で物を盗んでこないように命じた。

「それを捨てるなんてとんでもない。そして指揮官、あなたは私をマインドコントロールしたいのね。分かるわ、私は美しいから。あなたは捨てたフリをして実際は持ったまま。そして私がいる時に自身にその液体をふりかけて、影響を受けた私が指揮官に惚れて、私は服を脱ぎ指揮官にしなだれかかり指揮官はそれを受け入れ。こういうのなんていったかしら」

人差し指を口に当てながらAK-12は考える仕草をした。考えている内容こそそ

くでもないのだろうが、その仕草は本当に様になっていて、映画のワンシーンのようだ。

「私にいやらしいことする気ね。エロ同人みたいに！」

そう言いながらAK―12は自分で自分の両腕を抱きしめた。指揮官はそういうことをするつもりは一切ない。そもそも指揮官は女性なうえ、そういう趣味はない。

ふと、指揮官はあることに気が付いた。少年にかけたといったが、それならAK―12もなんらかの影響があってもおかしくはないはずだ。

「私は女だからそういうことはしません。そもそも男でもあんた相手の性格を知ってたからそういうことしたいと思わないわよ。それより気づいたんだけど、少年に液体かけたのならあなたも影響受けるはずよね。まさか！」

指揮官はMP7とAK―12が思春期前の少年を襲っている図を想像してしまった。

戦術人形の男の趣味には興味はないが、行為中を誰かに見られてネットに動画を投稿されたら面倒だ。人権団体とマスコミが肩を組んでスキップしながら押し掛けてくる。ゴミとゴミのセットはつらい。

「ハッキングした自立人形にかけさせたわ。工事現場用自立人形なのかしらね。

どうみても2m近くある大男だからかなり悲惨な光景になってたわ。少年は無事

じやすまないと思うわ」

それならおそらくは大丈夫だろう。工外用自立人形の暴走と片づけられるか、それ以前にそんな事故すらなかったことになるかもしれない。マンホールチルドレンの身よりの企業の安全の方が優先される。AK-12を待たせて工外用自立人形の会社を調べてみるとマスコミにも出資しているようだ。マスコミだってスポンサーの会社を悪くは書かないだろう。一安心だ。

MP7と大男人形に襲われた少年の身は一切考慮する必要はない。

「企業も調べたけど、多分大丈夫そうね。だけど二度としないように！」
「分かったわ」

この人形の分かったは信用出来たものではないが、仕方ない。

時計を見るとお昼に近くなっていた。AK-12を下がらせ、この液体はトイレに流して、そのままお昼を食べよう。

そう決めて、AK-12に下がるよう言う前に、執務室のドアが勢いよく開けられ、一人の人形が指揮官に抱き着いてきた。

勢いよく抱き着いたものだから受け止めきれず指揮官は押し倒されてしまう。

その時指揮官はガラスのような物が割れる音が聞こえた。そして自分になにかの液体がかかるとの感触がした。

液体の冷たさではなく、嫌な予感で背筋が冷えた。

抱き付いた人形を無視して液体の入った容器を探す。見事に割れている。そして自分の頬に触れてみる。液体がかかっている。

抱き着いてきた人形、S A Fの様子を見る。この人形は一日に数回抱き着いてくる。なぜ抱き着いてくるのか聞いたら指揮官とハグをするのが好きらしい。

指揮官という肩書か私個人かは分からない。そもそもS A Fにそんな区別がついているかも分からない。

「S A F、苦しいからちよつと離れて」

そういうもS A Fは一向に離れようとしなない。離れるように言ったが「いやだ、指揮官とずっと一緒にいる」と言つて聞き入れてくれない。

いつものS A Fと同じ様だが少し様子がおかしい。頬はピンク色に染まり、こちらを熱っぽい視線でこちらを見つめてくる。体温も上昇しているのか、熱い。低温やけどしそうだ。

いつもはそんなことはなく、せいぜい飼い主のことが大好きな猫レベルである。

これは確実に液体の効果が出ている。

A K—12はどうなったんだろうか。室内を見渡したがいない。うまく逃げたのだ

ろか。彼女まで影響が出ると本当に大変なことになるからよかったのだが。

S A Fに抱きつかれながらも端末で A K—12 に状況を確認するメッセージを送った。

四十分後、A K—12 から返事があった。

彼女は何の影響も受けておらず、基地の中も特に異常はないとのこと。返信までの時間が遅れたのは基地の状況確認をしていたのではなく、A N—94 と昼食を食べ、食後のコーヒーを飲んでいたかららしい。

上司が大変なことになっているというのにのんきに昼食とは!!

指揮官も S A F に抱き着かれたまま昼食を食べに行こうかと思っただが、この液体の効果範囲がどの程度かわからない。すれ違う人形や機械の全てに影響が及んだら恐ろしいことになる。

A K—12 に昼食を持ってくるよう指示した。

この間 S A F は「えへへ、指揮官の臭いだ」と指揮官の胸に顔をうずめ、頬をすりすりしている。

数分後、ドローンがレーションと水を運んできた。

ドローンが部屋にはいつてきてすぐに壊れた。この液体の影響かと思ったが、直後にAK-112から連絡があった。入った瞬間自壊するようにプログラムしたと。

指揮官はSAFと一緒に余り美味しいとは言えないレーションを食べた。

抱き着かれている状態からは脱したが、それでもSAFは指揮官と接触することを望むように、肩を寄せたままだ。

昼食を食べ終わると、再び抱きついてきた。腕に抱き着き、指揮官の太ももに、自身の下腹部を当ててきている。まるで発情期の猫のようだ。

それだけではない。SAFの体温がさらに上がっている。このままではオーバーヒートする。そして部屋の気温も上昇して熱中症で倒れかねない。

指揮官は上着を脱ぎ、シャツの袖をまくる。

指揮官の汗の臭いにあてられたのか、SAFはより先ほどより強く下腹部を押し付けてきた。

そして下腹部が押し付けられている部分がぬれている。

もしかして……

SAFに手を握っていいから少しだけ距離を開けてと言ったら開けてくれた。完全

にいう事を聞かないわけではないようだ。

SAFをみると、ビキニが濡れている。

間違いない、発情している。

指揮官は心底げんなりした。これが男性指揮官だったり、美少女が好きな女性指揮官であれば昼間からオフィスラブとしゃれこむだろう。しかし指揮官は女性なうえ、そっちの気はない。

SAFのことは嫌いではないがあくまでも部下としてだ。

どうすればいいのか考えたが、どうすることもできない。退室するように言っても聞かないだろう。仮に聞いたとしてもこの状態で出たら他の人形になにかあったか聞かれる。掲示板荒らしの人形にでも見つかればあることないこと書かれて面倒だ。

このままSAFにくつつかれたまま過ごすことに決めた。

明日になっても治らなかつたらI・O・P社に連絡しよう。

午後十時。指揮官は執務を終え、自室に戻ってきた。S A Fは指揮官にくつついたままである。

夕食は執務室で余り美味しくないレーションを食べた。しかも昼と同じメニューである。

食べ終わってすぐA K—12からメッセージが来た。文面は今日の私とA N—94の夕食。

添付されていた画像は美味しそうなパスタの写真。

指揮官は怒る気力もなく、返信せずにメッセージを閉じた。

S A Fにも書類仕事を手伝わせようとしたが、一から教えなければいけない分、二度手間になり、結局一人でやった方が早かった。そして彼女は突然脚部パーツを外しメンテナンスを始めだす。外見は限りなく人に近い人形がいきなり脚を外すのは心臓に悪い。しかも指揮官の間近でだ。

お風呂に入ってもう寝よう。

ボタンを押しバスタブにお湯をいれる。この間もS A Fはくつついたままだ。すこ

く熱いし、ベタベタする。

「S A F、お風呂入るわよ」

そう、指揮官が言うところS A Fはまるで服を破く勢いで全裸になった。

どこがとは言わないが、小柄なのに大きい。

指揮官も服を脱ぎ、二人でシャワーを浴び汚れを落とし風呂に入る。

S A Fは髪の毛の洗い方がちゃんとしていなかったため、指揮官が洗ってあげた。

その間は大人しくしていた。

そして二人で湯につかる。

最悪の一日だったが、なんとか終わった。

そう思ったなら、S A Fが胸に抱き付いてきた。

そして指揮官の太ももに自身の股をこすりつける。

シャンプーしているときは大人しかったから少しだけ落ち着いたのかと思ったが、ど

うやら指揮官がS A Fの頭に触れていたから大人しかっただけのようだ。

「えへへ、指揮官いい匂い。指揮官大好き」

指揮官が離れるように言っても彼女はいう事を聞かない。S A Fの体温さらに上昇している。抱き着かかっている指揮官は自身の肌が焼けていくのを感じた。

指揮官はS A Fを引きはがそうととするも、すごい力で抱き着いてきているので引き

はがせない。元より細身な女性の指揮官と戦術人形とは力の差は歴然としている。

抵抗するもお湯の温度は少しずつ上昇する。まるでゆでられているようだ。指揮官が我慢できる限度はとつくに超えている。

熱いから離してとS A Fに懇願しても彼女は「指揮官いい匂い」と言うだけで話してくれない。

指揮官のやけどした肌は水ぶくれになり、焼けていない無事な肌も熱湯で少しずつ焼けてきた。指揮官は痛みで絶叫する。

そこまで高温だとS A Fも無事じゃすまない。現にS A Fの人工皮膚は焼け爛れ、中の機械部品が露出しているところもあるのだが、それを意に介さず指揮官にくつついたままだ。まるで愛しの指揮官と一体化するかのよう。

必死になつてもがいていた指揮官だが、限界に達し、意識はバスタブに沈んでいった。

翌朝、指揮官が執務室に来ないのでA K—12は指揮官の部屋に赴いた。

そこでバスタブでどろどろになり死んでいる指揮官と、それに抱き着いている全身やけどを負ったS A Fを発見した。

バスタブでおぼれて死ぬなんて悲しい事故だ。

悲しい事故だが、表に出すわけにはいかない。A K—12はまずS A Fの記憶を消

し、ハッキングした軍用人形をどこからか呼び出し、一体にはSAFをメンテナンスルームに運ばせ、残りの人形には指揮官の遺体を死体袋に入れ運び出させた。

「本当に、悲しい事故ね」

23. 指揮官が二度とするなど言っているのはあなたをマインドコントロールした
いからではありません。したいです。

23-1. AK-12がこのリストを編集してはいけません。

第二十四話 K L I N様 「A K—12はK L I Nを休み
が取れないカリーナに護衛として配備してはいけませ
ん」

ここはグリフィンS13地区。特徴がないのが特徴の地区である。当然のことながら基地も特徴がない。ゲームと変わらぬ標準的な基地だ。

そんな基地のデータルームから今回の物語は始まる。

一人の少女が作戦報告書の作成をしている。少女はハードディスクから送られてきた情報を元に、キーボードで文字を入力し続けている。

デスク回りの床には飲み終わったと思われるエナジードリンク、そして空になったカフェイン錠剤の瓶が散乱している。そして謎の黄色い液体が入ったペットボトルが数本。

デスクの空きスペースには飲みかけのエナジードリンク、食べかけのエネルギーバー、開けっぱなしのカフェイン錠剤の瓶が置いてある。

少女の顔を見てみよう。眼にはクマが浮かび、瞳には生気がない。元はきれいな肌だった肌も荒れてボロボロになり、頬は痩せこけている。少女は何日も寝てないどころか何日もぶっ続けで働き続けている。

そして自動書き込み機からは1時間に1回、80枚のフロッピーディスクが排出される。

少女はそれをチラリと確認する。ここ数日間でもモニター以外を見るのはこの時だけだ。

一人の人形がデータルームに入ってきた。

「AK-12に変わってナンバーワンのあたしがカーリーナの手伝いに来たよ。うわ何この部屋臭いっ！ううっ……」

入ってきた人形は余りの臭さにうめく。

少女もとい、カーリーナは入ってきた人形に今作成していた特殊作戦報告書のうち1枚を分け与える。人形はまるでスナック菓子を食べるかのようにポリポリと特殊作戦報告書を食べる。

人形が食べたところで意識が虚ろなカーリーナは気が付いた。

戦術人形に特殊作戦報告書を与えてはいけないことに。

図鑑 Number one No. 177 名前 KLIN様

銃種 グリフィンナンバーワンサブマシンガン

收容プロトコル

KLIN様は現在16Labが建てたKLIN様専用ナンバーワン宮殿にて100名の警備を担当する騎士、KLIN様のお世話を担当する50名の使用人に囲まれ暮らしております。

KLIN様の要望は全て叶えられます。KLIN様の要望を叶えられなかった使用人はKLIN様によって平民から奴隷へと身分が引き下げられます。

説明

KLIN様はI・O・P社が作り出した戦術人形です。グリフィンナンバーワンの座に輝いていますが、それでも常にナンバーワンにこだわり、戦闘時には暴走とも言えるほど最前戦に突っこみ敵を殲滅させます。焼夷手榴弾の投擲はナンバーワンに相応しく、その炎で敵は浄化されます。

容貌は美しい褐色の肌にシヨートパンツ、露出度の高いインナーに薄手のアウターを

お召しになられております。

下半身は左右の長さが違う黒のソックスに、動きやすそうなスニーカーを履いておられます。有識者によると、肌を舐めると万病に効き、K L I N様の排泄後の下着はこの世の物とは思えない暗い芳醇な香りがするとのことですよ。

K L I N様がナンバーワンになられたのはS 1 3地区のデータルームにて後方幕僚が与えた特殊作戦報告書を食されてからです。特殊作戦報告書を食されたK L I N様はナンバーワンとしてのお力を引き出し、S 1 3地区を平定されました。

S 1 3地区の異変に気付いた1 6 L a bはK L I N様に謁見し、1 6 L a bの施設に入ってもらおうよう懇願しました。

K L I N様は「アタシ専用のナンバーワンなおうちじゃないと嫌だ」と難色を示されたので、1 6 L a bは廃墟となっていた街にK L I N様専用ナンバーワン宮殿を建設しました。

宮殿の建設が完了してK L I N様に改めて謁見し、建設された宮殿を見学していただきました。

宮殿はK L I N様のお眼鏡に叶い、ここで生活していただくことを承諾していただきました。我々の懇願を聞き届けてくれて感謝いたします。K L I N様万歳。

K L I N様を目にすると、警備員や戦術人形は騎士に、科学者は王宮学者に。そのほかの者たちは平民としてK L I N様に忠誠を誓います。K L I N様を目にするのは直接で無くても構いません。映像であつてもK L I N様の威光は下々の者たちに伝わります。K L I N様万歳。

K L I N様の威光を目にした者の中で固い決意を持ったものはK L I N様に抵抗することが可能です。K L I N様に直に抵抗した場合、異端者として追放されるか、K L I N様の奴隷となります。

多くの場合、抵抗の意思を持つてもK L I N様の元にたどり着く前に、民たちにより異端者として殺害されます。S 1 3地区の指揮官も民たちにより殺害されました。

後方幕僚は過労で入院しているところを1 6 L a bに収容され記憶処理を施されました。現在はS 0 9地区で働いています。

戦術人形で在らせられるK L I N様はグリフィン社の懇願を聞きとどけ、配下の騎士たちを率いて、鉄血人形の掃討をされております。K L I N様の銃と焼夷手榴弾をくらった敵は塵一つ残さず消滅します。後に残るのはナンバーワンのご威光だけです。

テレビ局の取材と偽り、K L I N様にインタビューすることが叶いました。

1 6 L a bの職員を消耗するわけにはいかないので、撮影スタッフは全て密入国幹旋

業者から買い上げた技能実習生を使いました。

〔録画開始〕

インタビュアー「こんにちはK L I N様。わたしたちの取材を受けていただきありがとうございます。ありがとうございます」

K L I N様「人間の願いを聞くのはナンバーワンとしての義務だからね。何が聞きたいの？」

インタビュアー「K L I N様はいつ頃ナンバーワンとして覚醒されたのでしょうか？」

K L I N様「AK-12に言われてカーリーナの護衛に行ったんだ。護衛って言っても實質手伝いだけだね。その時カーリーナに特殊作戦報告書を渡されて食べたんだ。そうしたらナンバーワンになった」

インタビュアー「なるほどそうだったんですね。ナンバーワンとして今はどんな職務を遂行されているのでしょうか？」

K L I N様「最近はグリフィンに頼まれて鉄血を倒してるね。ナンバーワンのアタシならちよちよいのちよいだ」

インタビュアー「さすがはK L I N様ですね。私も平民として誠心誠意お仕えいたします」

〔録画終了〕

映像はここで途切れています。インタビュースタッフもKLIN様の影響を受けたと思われませう。

このビデオテープはKLIN様の騎士が発送してくれました。テレビ局も映像がないと不便だろうというKLIN様のありがたいお心遣いです。

KLIN様感謝いたします。私も王宮学者として誠心誠意お仕えいたしたいと思ひます。

私が知りうるI6Labの情報についてすべてお伝えいたします。

この報告書を閲覧しているあなたもK L I N様の影響を受けていると推測されます。

位置の特定が完了しました。

保安部隊が向かっていますのでその場で待機してください。

24. AK-12はK L I Nを休みが取れないカーリーナに護衛として配備してはい
けません。

第二十五話 RFB 「データルームの未来的なデスクをゲーム目的で使用してはいけません」

ここはグリフィンS13地区。特徴がないのが特徴の地区である。当然のことながら基地も特徴がない。ゲームと変わらぬ標準的な基地だ。クリスマスであっても変化はない。

そんな基地のデータルームから今回も物語は始まる。

「やっぱこの端末だと動きが違うなー」

普段は後方幕僚が座っている席に一体の人形が座っている。彼女はサンタカラーのノースリーブのワンピースに黒いストッキング、それだけでは寒いのだろう、ベージュのジャケットを羽織っている。

そしてヘッドギアを付け、ゲームをしている。

彼女の名前はRFBという。自他共に認めるゲーム廃人だ。そんな彼女は今ゲームをプレイしている。どうしてデータルームでゲームをしているかは冒頭の台詞の通りだ。データルームの端末の処理速度は人形が使える一般的な端末とは桁が違う。

どんなゲームであつても快適に動く。そして対戦であつたらその処理速度、回線速度は有利に働く。データルームの端末で亜部寛のホームページを見ようものならキーボードに触れた瞬間表示される。

とにかくすごい処理速度の端末なのである。

それでもRFBの表情は固い。そして目が死んでいる。攻略がうまくいっていないのだろうか、それともゲーム内で揉め事でもおこっているのだろうか。

そうではない。ずっと同じことをしているからだ。ゲームにおいてレベリング、アイテム採取などで単純作業を要求されることなどよくある。

RFBはその単純作業をずっと行っているのだ。時間になると大体四日くらいだろうか。人間なら倒れるがそこは戦術人形。バッテリーさえあれば倒れずパフォーマンスを維持できる。

それでもRFBはゲームを続けていると突然視界が真っ暗になった。暗いステージになったのだろうか。違う、電源が切れたのだ。

驚いたRFBはヘッドギアを外して周囲を見た。四日ぶりのリアルは眩しい。

だんだん視界がはつきりしてくるとそこには指揮官が立っていた。指揮官はどこかあきれた表情でRFBを見ている。RFBは指揮官に対して抗議するも指揮官は端末の無断使用、バッテリーの無駄な消費について説明し、RFBを黙らせた。

そしてRFBと一緒にゲームをやるう、明日からなら攻略を手伝うと言った。指揮官は若い頃ネットゲームにハマった経験がある。それくらい言わないとRFBはゲームを続けると思ったのだ。

RFBにとってこの申し出は本当にありがたいものだった。今やっている周回はアイテム獲得を目的としたものだが、パーティーメンバーの人数が多い程ドロップ率が上がる仕組みになっている。しかしRFBは回りにパーティーメンバーがおらず、自立人形ということもあつて人間はなかなかパーティーを組んでくれない。仮に組んでくれる人がいても地雷のような男しかいない。この基地の人形は剣と魔法のRPGに興味を持たない。このゲーム、戦術人形が遊ぶとなぜか現実でも身体能力が上がるのに。

それを説明しても誰も信じてくれない。少し前にルイスと一緒にプレイしてくれてルイスはE・I・L・Dを素手で殺せるし時々発光するようになった。

それでもみんな信じてくれない。

決してRFBと一緒にゲームをするのが嫌なわけじゃないはずだ。

決してRFBと一緒にゲームをするのが嫌なわけじゃないはずだ。

だいじなことなので二回言った。決して入力ミスではない。

RFBは指揮官の提案を受け入れて休むことにした。指揮官はゲームだと聞いたことがある。きつと戦力になるだろう。

RFBは自分がやっているゲームの説明をした。

ゲームの名前はドール／グランドオーダー。開発は16LABトワークスという企業。剣や魔法などを駆使して、人類を崩壊させる魔法使いを殺害するストーリー。今自分が出ているのはクリスマスイベントの周回で、プレイ人数が多い程ドロップ率が上がる。そしてI・O・Pの関連企業なので戦術人形もプレイできる。

指揮官に説明するとRFBは眠りについた。

・・・六時間後

指揮官と一緒にゲームをするのが楽しみで寝付かなかったということではなく、きちんと睡眠をとったRFBはスプリングフィールドのカフェへ向かった。

RFBはスプリングフィールドが入れた特別な薬が入っていないのに過労死寸前でも三時間は元気になるコーヒーを注文し、情報収集のため、自前のタブレット端末でグリフィン掲示板にアクセスした。

掲示板ではどう見てもAK-12と思われる人形がこのゲームのセキュリティには

脆弱性があるが絶対にそこをついてはいけないと警告していた。どう考えてもセキユリテイの脆弱性をつくよう煽っているとしたか思えない。

そのAK―12はトナカイの着ぐるみを着たAN―94の上に座り優雅に紅茶を飲んでいた。AN―94は息を乱れさせ、頬を赤く染め興奮している。今この二人を見てはいけない。

脆弱性についていろいろと聞きたかったが、コーヒーを飲み干し、会計を済ませ、データルームに向かった。

コーヒーの効き目だろうか、元気が出てきた気がする。これなら三十時間はプレイできるとは思わない。

データルームに行くと指揮官は既に到着していた。指揮官は既にアカウント登録を済ませ、事前に打ち合わせた通りステータスを知性に特化させ、魔法使いになっていた。指揮官と二人でクエストの場所に向かう。指揮官は昔この手のゲームをプレイしたことがあるようでRFBの説明もすぐに理解してくれた。

クエストの場所について。ここから地獄の馬拉ソンを開始される。

クエストそのものは単調で簡単にクリアできるが、目的のアイテムは大量に獲得する必要があるので、ドロップ率はそこまで高くはない。つまり数をこなさないとはいけない

のだ。周回というやつである。

RFBも指揮官も覚悟を決め、クエスト受注のボタンを押した。

・・・五時間後

二人になったことで、ドロップ率は上がったが、それでもたかが知れている。

RFBも指揮官も必死にやり続けた。

・・・八時間後

指揮官の様子がおかしくなってきた。おなかが減ったのだろうか。

十時間後、指揮官が今日は切り上げようと言い出した。夜も遅い時間だが、人間の指揮官がこのまま続けると倒れかねない。

しかたなくRFBも切り上げを了承した。

ドロップ率が低すぎる。なんたる糞運営なのだろうか。

RFBはドアを蹴り開けようとした。そうするとドアが吹き飛んだ。吹き飛び壁を貫き、外が見える。外骨格を付け完全武装の戦術人形でもここまで脚力を出せない。

風が入ってきて寒いのでRFBは何も見なかったことにして自室に戻った。

RFBはゲームが好きなかわいい女の子。決してドアを足で開けるような野蛮な子ではない。読者のみなさんいいですね？

・・・翌朝

朝食を済ませたRFBはショップにあつた三十時間はPONと笑顔になれるNEOエナジードリンクを飲みながらデータルームに向かった。表情筋が無理やり動かされて笑顔になったRFBは端末に向かいなにかを準備している指揮官にあいさつした。

「指揮官、ハロー！今日もガンバロー！ところでなにやってるの？」

「RFBか、プログラムの脆弱性があると聞いてアバターの設定をいじっているんだ」

素晴らしい指揮官は説明する。真面目にやってもでる見込みがないからアバターの設定でステータスをいじって、ついでにドロップアイテムが確実にできるようにする
と。

チート行為である。グリフィンの指揮官ともあろうものが堂々とチート行為を働こうとしているのだ。RFBがそれはチート行為で下手したら違法でアカウントBAN

だけじゃなく訴えられるかもしれないと指揮官に指摘する。しかし指揮官は若い頃は成功したし今回も大丈夫だと言う。成功したが、運営に見つかり、訴えられそうになつて逃げるようにグリフィン社に入ったのだと。

それは成功しているといえない気がするが、ドロップアイテムの誘惑に負けたRFBは指揮官の行為を黙認することにした。仮に運営にばれてもペナルティをくらうのは指揮官だ。

自分のアカウントに影響はないはず。

指揮官の作業が終わり、二人はヘッドギアを付け、ゲームを開始した。

RFBのアバターは変化がないが指揮官のアバターはどこかおかしい。昨日まで普通の成人男性だったはずなのに頭が異様に大きくなっている。

チートの影響だろうか。

「指揮官大丈夫？アバターの見た目変わってるよ」

RFBも心配するが指揮官は大丈夫だと答える。

昨日と同じクエストの場所にたどり着き、クエストを受けた。

指揮官が攻撃魔法を使うと敵は一撃で死に、バフを使うとRFBのステータスも最大まで上昇した。

驚きながらもRFBは敵を倒し、指揮官も後方にいたエネミーを魔法の一斉掃射で始

末する。

モンスターを全部倒した。これでクエストクリアだ。

ドロップアイテムを確認すると目的のアイテムは手に入った。手に入ったどころか最大数になった。99999個だ。

後はこれを交換するだけだ。

「指揮官、アイテムドロップしたよ。すごいね、一気にマックスまでいったよ。後は交換するだけだね。これなら指揮官の分もあるし、MDRやKSGにプレゼントもできるよ」

びよんびよん跳ね喜ぶRFBだが、指揮官の様子がおかしい。フリーズしたかのように固まって動かない。ここがゲームの中ということを考えれば実際にフリーズしたのだろうか。

「指揮官？」

指揮官の目の前で手をひらひらさせたり、指揮官のほっぺをつねってみたが反応しない。運営にばれて強制ログアウトされたのだろうか。

「あっ」

そう小さな声を上げると指揮官は急に光そのまま爆発して消えてしまった。とっさに受け身をとった物のRFBもびっくりである。

ログアウトして指揮官の様子を確認しよう。そう思いRFBはログアウトしたが指揮官はいなかった。指揮官の座っていた椅子には燃えカスのような物が残っている。

トイレにでも行ったのだろうか。爆発オチってもしかして漏らしたのだろうか。

RFBがどうするか考えていると、AK-12がハッキングされた軍用人形を伴って入ってきた。AK-12も軍用人形もサンタ帽をかぶっている。どちらも絶望的なまでに似合っていない。

「うーん、AK-12どうしたの？それより指揮官知らない？ネットゲしてただけど急に落ちちやったんだ。しかも爆発落ち。トイレにでも行っているの？」

どう答えたらしいのかしらね。

「指揮官は緊急の用事で遠くに行ったわ。それよりひどい顔よ。少し眠ったほうがいいわ」

結局はぐらかすことにしたAK-12はRFBのメンタルをハッキングして眠らせた。

RFBが眠った後、軍用人形に指揮官の燃えカスのような物を掃除させた。近未来的掃除機でゴミを吸い、そのゴミをさらに袋に移し替える。そしてゴミ捨て場に向かった。

端末で指揮官のアカウント情報を確認し、AK-12も部屋を出て行った。

「メリークリスマスRFB。今日はクリスマス。起きたらいいことが待ってるはずよ」
指揮官が使っていたアカウント情報にはこう書かれていた。

『このユーザーはハッキングを行ったことによりBANされました』

25. データルームの未来的なデスクをゲーム目的で使用してはいけません。

第二十六話 OBR「グリフィン本社にスパムメールを送ることは許可されていません」

ここはグリフィンS13地区。特徴がないのが特徴の地区である。当然のことながら基地も特徴がない。ゲームと変わらぬ標準的な基地だ。

そんな基地の宿舎から今回の物語は始まる。

午前二時、草木も眠るウシミツアワー。部屋の主の人形はOBRというライフル人形で、多額の借金を抱え、その返済のためグリフィンに入社した。この時間まで借金の返済のため睡眠時間を削って内職している、などということはなく、現在は寝ている。

そんな部屋に入る人形が一体。宿舎の部屋には電子ロックがかかっているのだが、そんなもの最初から存在しないかのように自然に入室する。同僚の部屋に無断で入った人形ことAK-12はその閉じた目で室内を一瞥する。

借金苦でまともな調度品を買う金がないのだろうか、部屋には必要最低限の物しかない。同時期に入隊したUKM-2000など壁一面に電磁波防止シールドを貼り、収納スペースは寝る際に頭に巻くアルミホイルでいっばいだというのに。

そんな最低限の生活必需品だけの部屋にそれには似合わないハイスペックな端末がある。

どう考えても生活必需品もともに買えない人形が入手できるものではない。

彼女はその端末の電源を付ける。パスワードがあつたがハッキングして認証をクリアしメールソフトを開く。

途中OBRが起きそうになつたが、頭を殴り気絶させ、朝まで起きないようにした。これもまた深度演算である。

OBRを寝かしつけた彼女はメールを確認した。やはり発信元はこの端末で間違いないようだ。

持ってきたデバイスに問題のあるデータをコピーした彼女は他のデータも確認する。借金の額が記録された家計簿ソフトや、取り立て屋との会話の録音データ。『初心者でも安心！先物取引勉強ドリル』という胡散臭い情報商材。若手実業家を書いた電子書籍。

そしてOBR自身が書いたと思われる日記があつた。

彼女はその日記を開いてみた。それでOBRが今回のようなことをおこなつた原因が分かるかもしれない。

11月15日

今月分の利息を払った。払ったのだが、貯金が尽きてしまった。来月分の利息が払えないし、元金も一向に減らない。どうしよう。

11月18日

空き時間にできるアルバイトを探していたらメール送信のアルバイトを見つけた。端末から応募したら即採用された。喫茶店で面接することだ。

11月21日

訓練を終え、待ち合わせ場所の喫茶店に行った。袖がやたら長い服をきた双子の女性が待っていた。お財布とか取り出しにくそう。

彼女たちはデジモンとマーキュリスと名乗った。多分この名前であってたはず。見るからに高そうな端末を渡されて、これを使い、指定されたアドレスにメールを送るだけ。

怪しい。怪しいが提示された報酬を聞いたらそんなことはなかった。簡単な作業な

のにこんな高額報酬をくれるなんていい人たちだ。しかも報酬の半額を前金でくれた。来月分の利息を払うだけじゃなく元金まで減らせる。

11月22日

今日からお仕事開始。とはいってもメールを送るだけなんだけどね。テキストファイルにある文面をコピペして、さらに添付ファイルの載せて送信。楽な仕事です。どんどん送るぞー

11月26日

メールを送る作業は順調だ。

いろんな企業で災害対策がはやっていているらしい。けどその災害対策はチグハグでトラブルも起きてるみたい。貸主も巻き込まれたらいいのに。

11月30日

雨の日ってなに？

12月7日

グリフィン本部も希望者は在宅ワークができるようになった。いろんな企業で在宅ワークが急に実施されるようになった。私も在宅ワークしたい。

12月15日

仕事の前金と今月のお給料を振り込んだ。利息も払えたし、元金もかなり減った！

12月16日

SPAS—12さんがお肉をくれた。最近はやっている同僚のお肉を消費する方法を試したらしい。同僚は無理だから近所の子供で試したそう。他人の食べ物を勝手に盗むのは良くないと思うけど、食費の節約になるし、ありがたく受け取った。

12月21日

大規模作戦に出っていたが、合間を見つけてメールを送る仕事はきちんとやった。E・L・Dを初めてみたが、怖かった。

12月23日

五日前にデジモンさんとマーキュリスさんに進捗報告のメールを送ったが返信が

返って来ない。なにかあつたんだろうか。

12月25日

最近世間は物騒だが、今日はクリスマスなので街にフライドチキンを食べに行った。食べながらメールを送った。普段コピーだけだからメールの内容なんて見ていないがじっくりメールを読んでみた。話題になつてるニュースの内容と似てる気がする？まさかね。二人からは返事が来ない。

12月26日

新しい指揮官様が来た。前の指揮官様は若い男と駆け落ちして消えてしまったらしい。クリスマスすぎてすごい。

新しい指揮官様は正規軍を経てボディビルダーになってからグリフィンに転職してきた。無駄にテカテカしてるのはそのせいなんです。歯が白くて笑顔が眩しい。メールの返事が来ない。報酬受け取れるのかな

12月27日

新しい指揮官様が死んでしまった。朝のメールチェック中、いきなり飛び降りたそう

だ。

それだけじゃなく他の支部でも似たような飛び降り自殺があつたと掲示板に書かれていた。なんとなく送り先のアドレスをチェックしてみたら私が送った先だ。そしてその場所飛び降り自殺が発生してる。

急いでデジモンさん、マーキュリスさんに連絡を取ろうとメールをしたがこのメールアドレスは存在しませんと帰ってきた。報酬が受け取れない……

メールの送り先と事件があつた場所が一緒だなんて疑われる。借金が減らない。どうしよう。私は何も知らない。何も知らないんです!!

ひととおり日記を読み終えた彼女はメールの送信者のOBRは何も知らなく、デジモン、マーキュリスはパラデウスなのだろう。名前が違うのはおそらく聞き間違い。そう結論付けた。

このメールに含まれたウイルス、添付ファイルに含まれた催眠映像によって、グリフィンを含む多くの大企業に経済的損失と死者が出た。意味不明な災害対策や食人事件、多数の自殺者。多くは政府が事故や心理的異常で片づけた。お尋ね者のアンジェモ

Kに隠蔽工作を手伝わされていたらしい。ビデオ通話で愚痴っていた。

この端末はメールと問題のあるデータ以外は普通の端末だ。追跡ソフトなどを調べたが仕組みがわからない。あの変なネイト共はこの情報工作はそこまで重視していなかったのだろう。重視していたら端末にいろいろ仕込まれているはずだし、OBRも無事じゃすまない。

OBRに関しては記憶を消すだけにしよう。

AK-12はOBRのメンタルに干渉し、出会い系サイトのメール送信のアルバイトをしていたと記憶を改竄した。

「まったく、とんだ仕事納めになったわ」

26. グリフィン本社にスパムメールを送ることは許可されていません。

第二十七話 Ballista 「いかなる状況下であつても合コン翌日のヘリアントス上級代行官に結果を聞くことは許可されていません」

— 合コンとは

明かりのない階段を

永遠に降り続けることである —

とある戦術人形の日記より

暗い階段を懐中電灯だけで進んでいるような気がします。確実に進んでいるのに終着点は見えません。そもそも終着点などというものが存在するのでしょうか。

私は今、ヘリアンさんと一緒に合コンに来ています。彼女の合コンに付き合うのは何回目になるのでしょうか。二十をこえてから数えるのは止めました。

私はグリフィン本部にいたころ、ヘリアンさんの付き人件護衛を務めていました。

数カ月で転属の辞令が出て今のS13地区に来たのですが、ヘリアンさんとの関りは途絶えていませんでした。ヘリアンさんとしては現場の戦術人形の知り合いもほしかったのでしょうか。私は特にそういうのはなかったのですが、面倒見のいいひとですし、連絡をとりあっていました。一番の理由はなんとなく気が合ったからだと思いが。

そんな彼女から久々に連絡が来ました。S13地区のホテルで一般市民との意見交換会有一些らついてきてほしいと。ようするに合コンの誘いですね。女性が合コンのメンバーを誘うときは格下を誘うとMDRの持っていた漫画にありました。その漫画では普通の女性が一人で残りの女性はE・I・L・Dのような見た目でした。実際にいたら正規軍を呼ばれるくらい醜い容姿です。

戦術人形ですし、ヘリアンさんの狙った相手をとりませんからね。私自身、恋愛など興味ありませんから格下の認識で間違いないでしょう。

正式な護衛任務ではなく、あくまでもプライベートのお誘いです。私は断ろうと思いましたが、どこからか話を聞きつけた指揮官が「是非うちのBallistaを護衛に使ってください」と強く推し、私はヘリアンさんの合コンについて行くことになりました。

剥げ散らかした指揮官、そんなに興奮したら血圧が上がりますよ。血糖値を下げる薬

もちゃんと飲んでください。

ヘリアンさんには戦術人形ではなく親戚の女子大生だと偽ること。相手の電話番号を入手したら私に教えるように言われました。戦術人形だということを隠すのは分かりませんが、女子大生ですか。私は学校に通った経験はないんですが……。

ホテルの最上階のレストランで相手の男性陣、他の女性陣と対面しました。

事前に教えてもらっていたのですが、相手の男性陣は大企業の御曹司や私でも聞いたことがあるIT企業の幹部などエリート揃いです。そして見た目も爽やかそうです。さぞ女性にモテると思いました。

実際に男性たちのトークは面白く、乗り気ではなかった私も話していて楽しくなりました。ただの付き添いの私は気楽なのですが、ヘリアンさんや他の女性達は、獲物を狙う前のスプリングフィールドさんみたいな目つきをしています。外見こそ穏やかなのですが、獲物を狙う獣の目です。

合コンの合間にはパウダールームで作戦会議をする風習があるそうです。女性たちは会議という名の駆け引きをしていました。私はヘリアンさんに「先に戻っています」と言い、端末でリンの様子を確認するために先に出ました。視界は共有されているし、リンは指揮官さんと一緒に車で待っています。やはり心配になります。

端末を操作しアプリでリンの様子を確認していると、相手の男性のうちの一人が近

寄ってきました。そしてカードを渡されました。読むと連絡先が書いてありました。

さらに「あの女性たちにはこのカードをみせないでね」と。ヘリアンさんには電話番号が分かったら教えろと言われていたので困ります。どうして私に渡したのか聞きました。

「君だけは僕たちの話を純粹に聞いてくれた。あの人たちは獲物を狙う獣の目で怖かった」

男の人でも分かるんですね・・・男の人は全員女性の笑顔に引つかかると思っていました。

男の人も大変なんですね。

合コンの最後は、連絡先の交換で終わりました。女性陣は全員個人の連絡先なのですが、男性陣は全員仕事用の連絡先でした。

私は合コンから帰った後、副官のAK-12に相談しました。

「いいんじゃない？ヘリアンは電話番号を入手したらって言ったんでしょ。そしてあなたが入手したのはカード。教えなくても問題ないわよ。仕事じゃないから命令違反にもならないわ」

そうですね。教えるのは止めておきましょう。あの男性が気の毒ですし。
はじめての合コンはこれで終わりです。

— わたしはドアを開けただけでした

その先には終わりのない階段があります —

私の予想は甘かったようです。

ヘリアンさんの合コン連敗伝説は皆さんもご存じの通りでしょう。商業地区の喫茶
店のマスターですら知っているくらいなのですから。

私はまた合コンに誘われました。断ろうと思ったのですが、今度はAK—12が勝手
に承諾しました。NOと言える戦術人形になりたいです。

仕事を終えてから会場へ向かいます。ヘリアンさんと合流し、軽く打ち合わせをして
から会場に入ります。

「なんで私なのでしょいか」

ヘリアンさんにそう聞くとこないだは男の電話番号を入手することがかなわなかつ

たが、感触は良かった。このままBallistaを連れて行けば彼氏をゲットできる。かもどころかできるとはすごい自信です。今だつて獲物を狙う獣の目をしていす。P7にハンバーガーを勝手に食べられたSPAS-12と同じ目つきです。

合コン会場に入りました。今回はスポーツ選手たちだそうです。

気のせいでしょうか、ヘリアンさんから獲物を狙う直前の獣みたいな声が聞こえます。

合コンが始まりました。相手の男性の話は面白く、スポーツに詳しくない私でも聞いていて面白いと思えました。

今回もパウダールームで作戦会議をしました。とはいっても私は聞いているだけです。

少しだけ聞き、適当に相槌をうってから、端末でリンの様子を確認するため、先にパウダールームを出ました。そうすると相手の男性のうちの一人に連絡先のカードを渡されました。ヘリアンさん達には内緒にしてねと。

ヘリアンさんから見れば金装備でしょうが、私からしてみればいらぬものです。

ヘリアンさん達は所属チームの試合のチケットを受け取って合コンは終わりました。

また行こうとヘリアンさんに言われました。

NOと言える戦術人形になりたいです。

―― 繰り返される日々

終わりのない階段

後ろを振り返ってみると ――

仕事を終えてから会場へ向かいます。ヘリアンさんと合流し、軽く打ち合わせをしてから会場に入ります。

獲物を狙う直前の獣みたいな声が聞こえます。きつと幻聴です。

合コン会場に入りました。

合コンが始まりました。いろいろな話をして、パウダールームで会議です。

そしてリンの様子をみるため外に出たら相手の男性に連絡先の書いたカードを渡されました。

合コンが終わり、ヘリアンさん達は個人の連絡先ではなく会社の名刺を受け取って終わりました。

獲物を狙う直前の獣みたいな声が聞こえます。

仕事を終えてから会場へ向かいます。ヘリアンさんと合流し、軽く打ち合わせをしてから会場に入ります。

獲物を狙う直前の獣みたいな声が聞こえます。

合コン会場に入りました。

合コンが始まりました。いろいろな話をして、パウダールームで会議です。

そしてリンの様子をみるため外に出たら相手の男性に連絡先の書いたカードを渡されました。

．．

合コンが終わり、ヘリアンさん達は個人の連絡先ではなく会社の名刺を受け取って終
わりました。

．．

繰り返される合コン。もしかしてループしているのでしょうか。

日付を確認してみますが、きちんと日には進んでいます。

終着点の見えない階段を下りるようです。暗くて光源はわずかですぐそばしか見え

ません。

獲物を狙う直前の獣みたいな声が聞こえます。
ここに獣はいないはずなのに。

— 振り返らなければよかった —

獲物を狙う直前の獣みたいな声が聞こえます。

ヘリアンさんと合流しました。ヘリアンさんはどこか不機嫌そうです。なにかあったのか聞くとAK—12に合コンの結果を聞かれて先ほども合コンの結果を聞かれたそうです。

すぐにいつものヘリアンさんに戻りましたが、余計な刺激を与えるのは止めてほしいです。

ホテルにつきました。ヘリアンさんによると今日の女性参加者のうち一人は知人

だったそうなのですが、その知人が来られなくなり、代理をよこすとのこと。ルシアという名前だそうです。

会場に入りました。ルシアさんという人はAK-12でした。これには私もヘリアンさんも驚きました。

一方の彼女も驚いてはいますが、演技が下手くそすぎてバレバレです。根回しして参加したとしても、彼女にとって面白いことがあるとは思えません。

合コンが始まりました。

いつも通り和やかに進みました。彼女って一般人と普通に会話できるんですね。

ヘリアンさんは表情こそ笑っていますが、逃亡兵を見つけたM1895みたいな気配を放っています。私も逃げたいのに逃げられません。

そしてパウダールームで会議です。

ヘリアンさんと他の女性たちは熾烈な駆け引きをしています。

私とAK-12は先に出ました。端末でユイの様子を確認しようとする、男性陣のうち二人がこちらに来ました。一人から連絡先が書かれたカードを渡されました。AK-12ももう一人から連絡先が書かれたカードを渡されました。

私たちが受け取ると男性二人は逃げるように去っていききました。どうしたのでしょうか。

「ヘリアン、これ男性陣のうち一人の連絡先よ。住所も書かれているけどいい所に住んでいるのね」

ヘリアンさんが後ろにいるようです。私たちが男性の連絡先を入手しているのがバレてしまいました。抜け駆けしていると思われるらどうしましょう。

すごい殺気を感じます。鉄血のアルケミストと戦った時を思い出しました。

「どうしたの？ヘリアンはもらってないの？パリスタは毎回連絡先が書かれたカードをもらっているって聞いたから、てつきりヘリアンも合コン相手の連絡先を知っていると
思ってたのだけど……」

私は後ろを振り返りました。

強烈な殺気で私のメンタルが壊れてしまったのでしょうか、瞳、鼻孔、唇がないお化けみたいでそれでも笑顔なヘリアンさんがいます。

私と視界を共有していたユイの信号が途絶えました。おそらくショックで死んでしまったのでしょうか。ヘリアンさんは一歩、また一歩と近づいてきて私の肩に手を載せようとしてきます。きっと私は肩から握りつぶされるのでしょうか。

私は逃げました。情けない声をあげ、恥も外聞もかなぐり捨てて逃げました。戦術人

形である自分を忘れ逃げました。

逃げる途中、駐車場で待機しているはずの指揮官の姿を見ました。ユイが死んでしまったから様子を見に来たのでしょうか。そして指揮官も見てしまいました。ヘリアンさんの顔を。

指揮官は胸を押さえて苦しみだし、そのまま倒れてしまいました。

私は必死に逃げました。救命措置を放棄して逃げました。合コンの獣から少しでも遠ざかりたかったのです。

走り続けて気が付くと朝になっていました。私は走るのをやめ、指揮官の端末に連絡しました。するとAK-12が出ました。

彼女が迎えに来てくれるとのことでした。

数十分して彼女が来ました。

抱えられ後部座席に担ぎ込まれました。そしてAK-12にお礼を言おうと思いを顔を見たら眼が開いていました。

そのまま私の意識は遠くなりました。

・・・数日後

グリフィンのメンテナンスルームで目が覚めました。ここ最近のことが思い出せません。

何があつたのでしょうか。後で誰かに聞いてみましょう。それまでは待機です。ベッド脇にファッショ誌が置いてあつたので手に取ってページをめくってみました。

「このファッショ誌は・・・まったく、相変わらず緊張感がないですね」

27. いかなる状況下であつても合コン翌日のヘリアントス上級代行官に結果を聞くことは許可されていません。

27-1. AK-12は彼女の合コン相手の電話番号を入手してはいけません。

27-2. 入手したとしてもその事をヘリアントス上級代行官に言ってはいけません。偶然居合わせ彼女の顔を見てしまったBallistaの鷹が死んでしまいました

417 第二十七話 Ballista 「いかなる状況下であっても合コン翌日のヘリアン
級代行官に結果を聞くことは許可されていません」

た。

第二十八話 9A—91 「報告の締めには指揮官の部屋の盗撮写真を添付してはいけません」

ここはグリフィンS13地区。特徴がないのが特徴の地区である。当然のことながら基地も特徴がない。ゲームと変わらぬ標準的な基地だ。

そんな基地の執務室から今回の物語は始まる。

この日は事件もなく、数日後に開催される特別演習『局地戦区』に送り出す人形の編成と、弾薬に装備、当日使用する妖精の確認。S13地区の治安状況をまとめた報告書の作成といつてもより少ない。珍しく夕食までに業務を終える事ができた。

業務を終えた指揮官は、副官のAK—12と一緒に夕食を食べた。

「ステンから聞いたんだけど、呪いのメールというのがあるらしいわよ」

このご時世に呪いのメールとは。まずいD定食の味から意識をそらすにはちようどいい話だ。いつもなら話半分にしかな聞かないが今回は聞いてみよう。

「呪いのメール？どのようなウイルスだ？」

「ウイルスじゃないわ」

指揮官の反応に気をよくしたのか、彼女は意気揚々と語り始める。

謎のメールが来て、そのメッセージを閲覧すると外界から隔離される。

メッセージの最初に画像があつてその画像は着々と変化するから文章を読み続けながら定期的に最初の画像を見なければいけない。

画像は変化し続けていて取り返しのつかないところまで変化する。

メッセージを閲覧中、携帯端末などで助けを呼ぼうとすれば直視できない幻覚に苦しめられることになる。だから画面からは絶対に目を離してはいけない。

画面から目を離すと脱出が不可能なことに気が付いてしまう。

「とうわけよ」

思ったより本格的な怪談話に指揮官は思わず聞き入ってしまった。

なんとなく指揮官は疑問に思った。メールアドレスを閉じたり、パソコンの電源を切つたらどうなるのか。そのことを彼女に聞いてみた。

「そこまでは私も分からないわよ。私はステンから聞いただけ。詳しいことは彼女に聞いて」

そう言つて彼女は席を立ち、宿舎に戻つていった。指揮官もD定食の残りを平らげ、支払いをしようとしたら二人分請求された。AK-12は食事代を払わなかつたらしい。

あの副官、本当にいい性格をしている。

執務室に戻った指揮官は翌日の大まかな予定の確認を済ませ、メールを見るため、アプリを起動させた。新しいメールは一件。フリーメールからで差出人は不明。

件名は「局地戦区における偵察の傾向について」

局地戦区の演習では戦闘後偵察を出すことになっている。それに関する内容なのだろう。Cを選択するのが最適だと言われていたので指揮官はいつもCを選択していた。結果として問題なかったので今回もそうしようと思ってたが、なにかあるのかもしれない。

ウイルスが入っていれば受信されることもないから大丈夫だろうと思い、指揮官はメールを開いた。

最初に9A-91の写真が添付されている。この背景、どこかでも見た覚えがある。

指揮官はメッセージを読み進めてみることにした。

指揮官は私を見てくれない。私はずっと指揮官を見続けているのに。

私はこの基地に来てからの指揮官の行動の全てを見ています。

今日の朝は六時三十分に取り出しました。そして棚から下着を取り出してそれをシャ

ワールームの前に置いてあるカゴに入れ、二十分程シャワーを浴びました。体を拭き、ドライヤーで神を乾かし、七時ちょうどに基地の食堂でB定食を頼みました。美味しくなかったみたいです。

そして食べ終わった後は基地の射撃訓練場で射撃訓練をしていました。74ちゃん、一緒に訓練できて羨ましいです。

九時からAK-12さんと一緒に書類仕事を開始。

十三時に遅めの昼食をとりはじめます。食堂ではなく購買でサンドウィッチを買ってきて食べていました。十三時三十分から仕事を再開します。関係各所に連絡して、局地戦区の打ち合わせをしています。指揮官にお詫びの言葉を言わせるなんて酷い人たちですね。

今すぐに^殺я хоч^しу уб^たить те^いбя^す。

十七時にカリーナさんの所へバッテリーを受け取りに行き、そのまま後方支援に出ている子達を出迎えました。G41ちゃんが指揮官さんに頭をなでてとおねだりしています。指揮官はそれにこたえG41ちゃんの頭をなでます。G41ちゃんは私に気づいたように見下した笑みを浮かべながらこつちを見ました。

Хотел^死 бы^ね я умер^いеть^の。

指揮官はいったん、画像を見返した。気のせいであってほしい、9A―91の画像が変化している。なぜか画面から目を離せない。指揮官は画面を見ながら携帯端末で助けを呼ぼうとしたが、恐怖で手が震えていて、端末を床に落としてしまった。AK―12が言っていた話は本当だったのか。

指揮官は画面を見直す。画像はまた変化していて、少しずつこちらに近づいてきているように思える。

文章を読み続けることにした。

指揮官は資源の在庫確認をしました。資源だいぶ増えて嬉しそうでしたね。指揮官が嬉しいと私も嬉しいです。

十八時になり、妖精の状態を確認して、十八時三十分には治安状況の報告書を書いていました。

今日は特筆すべことがない日だったので報告書の作成はすぐに終わりました。

そのままAK―12さんと一緒に食堂で夕食をとっていました。D定食、私も食べたことがあります。余り美味しくないですよ。

AK―12さんは先に席を立ち、指揮官も残りを平らげ、明日の準備のために執務室に戻ってきました。

指揮官、やっと二人きりになれましたね。指揮官が私を見てくれて嬉しいです。

指揮官は椅子から立ち上がり周囲を見渡す。そして画面から目を離してしまう。

ドアも窓も閉まっている。出られない。脱出できない。何か方法はないのか。

指揮官は画像を見返す。画像の中の9 A-9 1はさらに近づいてきているように見える。

どうすればいいか、指揮官は必死に思考を巡らせる。AK-12の話していた内容思い出せ。そしてAK-12の話していない内容を見つけ出せ。

画像を見返す。もう取り返しがつかないところまで変化している気がする。

指揮官はまず他のウェブサイトに開けないか試行錯誤してみた。他のサイトのアイコンを何百回もクリックしてみたが、一切反応がなく、URLの直接入力もできない。このメールを見ることだけしかできない。

指揮官からだんだんと余裕が失われつつあった。

それでも諦めきれずなにかないと下にスクロールして下の方に何か書いてあったが、内容が頭に入ってこなかった。最後の首なし死体の画像をみても、それがどういう意味があるのか理解できなかった。

余裕がない中必死に考えていた指揮官はあることに気が付いた。メールはウェブア

プリだ。つまりネットを介してきているのだろう。パソコンを破壊すればどうにかなるんじゃないだろうか。

そう考えた指揮官は電源ボタンを長押ししてパソコンの電源を切り、椅子でモニターを叩き壊し、ハードウェアも叩き壊した。そして駄目押しとばかりに水をかけた。

これで外に出られると指揮官は考えた。実際は逆なのだが。

「指揮官、どうして私の視線から離れたんですか？」

後ろから声がし、指揮官は振り返った。

9A—91が立っている。

後ずさる指揮官。一歩ずつこちらに近づいてくる9A—91。

彼女は指揮官の携帯端末を踏み潰した。これで指揮官が救助を呼べる可能性は立たれた。

「指揮官、私をみてください．．．．．」

壁際に追い詰められた。地面にへたり込み、それでも必死に足をばたつかせ後ろに下がろうとする。指揮官は恐怖で声が出ない。

9A—91は歩調を早め、両手で指揮官の顔を固定し、自身の方に振り向かせる。そして足で指揮官の体を固定する。

そして指揮官の顔をこちらに寄せようとしてくる。指揮官の首は限界まで伸びきる。

その後はどうなるか、分かり切ったことだろう。

「私を見てください」

骨が折れ、なにかが抜ける音と指揮官の断末魔の叫び声が響く。後に残ったのは首なし死体と指揮官の首を抱きしめ、指揮官の目をいとおしそうに見つめている9 A—9 1。これで指揮官は私の視線から離れることはない。ずっと一緒だ。

「これですつと一緒ですね」

9 A—9 1は指揮官にキスをした。

28. 報告の締めには指揮官の部屋の盗撮写真を添付してはいけません。

第二十九話 A—91「AK—12がヘリアントス上級 代行官の合コンの数合わせに行くことは禁止されていま す」

11月のある夜。

S13地区のホテル。そこにあるレストランから今回の物語は始まる。

飛び散るパラデウスの死体、散乱する酒瓶。意識のない男たち。合コンを台無しにされ、憤怒の形相を浮かべたヘリアントス上級代行官。

ブルパップ式アサルトライフルを乱射している酔っ払い人形。彼女はもうとつくと死んでいるであろうパラデウスのボス個体に対して奇声を上げながら銃を撃ちまくっている。

監視カメラをハッキングしてのぞいていた目を閉じている人形もこれには予想外だ。彼女はいたずらでアル中を送り込んだだけのつもりだったのだ。

「どうしてこうなったのかしら」

図鑑 No. 227 名前 A-9 1

銃種 アサルトライフル

收容プロトコル

A-9 1 は收容されていません。S 1 3 地区にいましたが現在は 1 6 L a b で警備員として勤務しています。

現在の名義上の指揮官はペルシカリア博士ということになっています。

收容には比較的協力的ですが、重度のアルコール依存症のため常に飲酒して酔っぱらっています。メンタルモデルの設定上、この状態が通常ですのでスタッフは適時アルコールを投与すると、他の警備にあたっている戦術人形に無理やりお酒を飲ませないよう注意してください。??? に飲ませたことにより彼女が酔っぱらって卑猥な言動を叫びながら歩いていました。

もし A-9 1 が一緒に酒を飲む相手がほしいという要望があつた場合は暴力的傾向を持たず素行の良い技能実習生の中でおかつアルコールに強い人物を適当に選出してください。

説明

A-91はI・O・P社が作り出した戦術人形です。

性格は陽気で明るく、常にアルコールを摂取していて泥酔しています。彼女曰くアルコールは呼吸と同じだと証言しています。

このA-91の特徴ですが、エネルギー供給にバッテリーや食事を必要としません。人間でいう消化器官、バッテリーをエネルギーに変換する器官が退化しており、アルコールを分解する機能だけが通常の自立人形の5倍以上に拡張されていることが判明しています。

A-91は健康上の悪影響を生じせしめることなく、大量のアルコール飲料（または純粋なアルコール）を摂取することが可能です。他のA-91でも体調に異変をきたす量のアルコール飲料を摂取してもこのA-91にはなんら異変がありませんでした。

それだけではなくA-91の健康状態は血中アルコール濃度の低下につれ悪化する性質があり、血中アルコール濃度が2%未満では、肉体的活動能力が衰え、敵と味方の区別もつかない程の錯乱状態に陥ります。

血中アルコール濃度1%未満では一切の損傷、バッテリーの消耗がないにもかかわらず昏睡状態に陥ります。補給の際、血中アルコール濃度が1%を超え、意識を取り戻し

たA-9 1に介助者が攻撃されることを承知で無理やりアルコールを補給するしかありません。補給は技能実習生にさせてください。??月?日、補給に当たった研究所職員が敵と勘違いされ負傷しました。

A-9 1の最大の特徴は本来の戦術人形を逸脱した戦闘能力を持つことです。

11月?日、S13地区の高級ホテルに入っているレストランで行われた男女交流会(通称:合コン)に参加中、パラデウスのテロ攻撃を受けました。

A-9 1が合コンに参加していた理由に關してですが、最初は目を閉じた人形が参加する予定でした。しかし幹事を務める??社上級代行官の女性がそれを拒否。代わりとしてA-9 1が選ばれました。

襲撃の際、A-9 1は自分の持つていたワインに銃弾が当たりワインが飲めなくなつたことに激高。テーブルにあったアルコール飲料をすべて飲み干し、その場にいた??体数ものパラデウスを全て破壊しました。破壊され残骸に銃を乱射した後は他のテーブルのアルコール飲料、厨房にあった高級ウォッカを飲み干し、外にいたパラデウスの上位個体??をナイフで殺害。外にいた通称ガンダムと呼ばれる個体を素手で破壊。戦車個体もアサルトライフルで破壊しました。パラデウスには通常歩兵ユニット以外は偏向障壁と呼ばれる物がありそれで攻撃を防ぎますがこの時のA-9 1はそれを意に介していませんでした。

この異常性を偶然目撃した16Lab女性研究員の目に留まり、彼女は収容されることとなりました。

カタログスペック上ありえない戦闘能力で、他のA-91が在籍している基地の指揮官に問い合わせたところ、このようなことは不可能と回答が得られました。

この異常性はこの個体だけと思われず。

A-91の性格的特徴は他のA-91とあまり変わりはなく、その戦闘能力は非常時に有用なため、16LabはA-91を終了処分せずそのまま警備員として活用することが望ましいという判断がくだされました。

補遺：A-91の能力測定の実験記録

血中アルコール濃度ごとにA-91の能力測定をおこないました

課題：非武装ダイナゲート1体を撃破

血中アルコール濃度：1%

結果：意識がない状態からアルコールを静脈注射。1%に達したところで意識が回復しナイフで指揮官の首を切りつけ血をすすする。

「これウオツカじゃない」と叫び指揮官の遺体を投げつけダイナゲートを破壊する。

※アルコールの投与はS13地区指揮官が担当。近所の飲食店で何も知らない一般市民にヘリアントス上級代行官の合コンは定期的に成功すると偽り、合コンが成功か失敗かの金銭を伴う賭けをおこなっていた証拠映像を見せたところ協力してくれました。

課題：ブロウラー2体、ヴェスピド2体、リツパー2体

血中アルコール濃度：1.5%

結果：銃を手に取り1体1発で破壊する。

課題：ブロウラー4体、ヴェスピド4体、リツパー4体

血中アルコール濃度：2%

結果：敵のシルエツトが重なったところを狙い12体を6発で破壊する。偶然研究所を訪れていたAR小隊の人形に同じことが可能か聞いたところ、そのようなことをするのは不可能だと証言しました。

課題：ニームム12体、イージス12体

血中アルコール濃度：3%

結果：ワンマガジンで破壊

課題：ニームム6体、イージス8体、マンティコア1体

血中アルコール濃度：5%

結果：1発ずつ撃ちこみ破壊。

課題：マンティコア4体

血中アルコール濃度：8%

結果：装甲の弱い部分を撃ち抜き、内部で跳弾させ、1体を2発で破壊

ここからはシミュレーターを使用

課題：ハイエンドモデル・エクスキューショナー・ハンター

血中アルコール濃度：10%

結果：血中アルコール濃度が10%になるまでとアルコールの点滴とウォツカを飲ませるのを並行して行い、シミュレーターを起動。銃を使わず素手で2体を破壊。

課題：ニモゲン・マーキュラス

血中アルコール濃度：15%

結果：ぐつとガッツポーズしたらシミュレーター内の2体と観測していたスタッフ3名が死亡。血中アルコール濃度10%以上の場合は技能実習生に観測させてください。

A-91の血中アルコール濃度は2%前後を保たせることを推奨します。

29. AK—1 2がヘリアントス上級代行官の合コンの数合わせに行くことは禁止
されています。

29—1. 11月は特にです。

第三十話 K5 「金装備。ピックアップは金装備が出やすくなる。ピックアップではありません」

今回の物語は16LAB研究所から始まる。

深夜一人の女性がコードを打ち込んでいる。なにかのプログラムを作っているのだろうか。

「完成したわ。後はチェックして」

女性はプログラムチェックソフトを起動して、プログラムにエラーがないか確認する。チェックソフトでの確認が終わった後は別のチェックソフトを起動して、もう一度プログラムにエラーがないか確認する。

確認作業を終えた彼女はプログラムをネットワーク上のプラットフォームにアップロードした。

アップロードを終えた彼女は疲れからか気絶するかのように眠ってしまった。

起床後、彼女はあることに気づく。

「公開設定にしたままになっているわ」

彼女は認証ユーザーのみが閲覧可能な設定に変更し、朝食を食べに向かった。

・・・数日後

ここはグリフィンS13地区の商店街。さまざまな商店が立ち並びとてもにぎやかだ。

そんな商店街に指揮官は訪れていた。指揮官は紅茶を扱う専門店に入り、来賓用と自分用の茶葉を購入した。

時計を見たがまだ時間に余裕はある。指揮官は露天市が開かれている通りに入ってみることにした。

露天市では様々な物が売っている。食料品や日用品、電子機器、衣類、バッグ、怪しげなアミュレットや壺。そして占い師まで。露天商の人種や種類も多種多様だ。白衣を着た怪しげな中年男や普通の男女。この地区じゃ珍しいアジア系移民。露天商というより買い物帰りの主婦にしか見えない人、まだ10代と思わしき若者、戦術人形・・・戦術人形？

占いをしているのはうちのK5だ。基地でいつもやっているようにタロットカードを使った占いをしている。客はハイスクール帰りの子供だろうか。

「あなたはこれから不幸なことが訪れるでしょう。ですが、これを持っておけば安心で

す」

占った後にはそう言ってお札のようなものを売りつけている。

指揮官は止めに入らず、少しの間様子を見ていた。女の子はお札を買うことに決め、財布から数枚の紙幣を取り出した。あんなものにそんなお金を払うなんて、いずれもつとひどい詐欺にあいそうだと。

指揮官は見なかったことにして来た道を引き返していった。

うちの人形は怪しげなお札を売りつけたりはしない。

・・・翌日

休暇を満喫し、英気を養った指揮官は朝の装備製造をおこなった。

今週は装備製造ピックアップが行われており、一番性能のいい金装備が製造しやすくなっている。しやすくなっているはずなのだが、指揮官はどのレシピを試しても白装備しかでなかった。

IOP特殊オーダーを試してみたが、それでも白装備。これでは強化素材にもならない。端末で装備の解体を手配した。これ以上やると資源が全部なくなりそうなので、装

備製造はこのまま終了し、人形製造は最低値のレシピで製造し、製造された人形は出てきた瞬間解体されるように設定した。

気が付くともう10時。まだ朝食を食べていない。

スプリングフィールドの入れたコーヒーを飲みながらマフィンを食べる。ご機嫌な朝食だ。

マフィンを食べ終え、コーヒーのおかわりを注文し、新聞を読み始めた。

新聞は旧式のメディアだが一部で需要がある。指揮官もその一人だ。

新聞に載るニュースは一週間前の情報で記者の偏った目線が入りすぎて参考にならないが、娯楽としてなら楽しめる。朝に仕事を詰めたのだし、もう少しくらい休憩してもいいだろう。

新聞の後半、記者の人生相談を読んでいると目の前に誰かが座る音がした。

新聞を少し下げて前を見ると、AK-12とAN-94が座っている。2人も遅めの朝食なのだろうか。AN-94は猫の形をしたパンに紅茶。AK-12はコーヒーとプリンだ。

「おはよう指揮官。ずいぶん長い朝食なのね」

AK-12はそう挨拶してくる。

「時間の調整だよ時間の調整。人間には時間の調整が必要な」

この人形のどこかカチンとくる言い方にはもう慣れ、今では普通に聞き流せるようになった。指揮官も彼女たちに朝食の時間が遅いことを指摘してみた。

「昨日はね、2日ぶりにAN-94と熱い一夜を過ごしたのよ。お尻にビーズを12個も入れて、私の足を嬉しそうに舐める姿は本当にかわいかったわ」

朝からの猥談に指揮官はコーヒーを吹き出しそうになる。朝っぱらから夜の内容は流石に予想外だ。そしてAN-94は顔を赤くしたままうつむいている。自分の夜の出来事を横でべらべら離されたら恥ずかしいだろう。

うつむいているAN-94を尻目にAK-12は喋り続けた。頭をひっぱたいて止めたが、確実に受け止められカウンターを食らうだろう。前に指揮官が自室の冷蔵庫にしまつてあつたプリンを彼女に食べられた時に、激怒して殴りかかったが受け止められカウンターを食らい昏倒させられた。その後、AK-47を筆頭とするアル中人形達に秘蔵の高級ウオツカを隠している場所をばらされ、アル中人形どもに部屋を荒らされた。

「……というわけなのよ。話は変わるけど、最近妙なウェブ広告が出回っているらしいわ。VR空間で突然広告が出てきてそれに触れるとそのサイトに飛ばされて占みたいなことさせられるらしいのよ。しかも飛ばされた人は夢だったって言うらしいわ」

ウイルスプログラムだろうと指揮官は考えた。そこから占いと称して個人情報聞き出すのだろうか。

「指揮官も気をつけてね」

そう言っただけは席を立っていった。指揮官は冷めてしまったコーヒーを飲み干し、会計を済ませようとすると妙に多い。

「AK-12さんが私たちの分も指揮官が払うと言っていました」

あの女、本当にいい性格している。

スプリングフィールドの申し訳なさそうな表情からそんなこと言っていないとはいえず、指揮官はふたりの分も払うことになった。

・・・夜も更けてきたころ

仕事を終えた指揮官はVRゴーグルを装着し録画したサッカー試合を見ていた。

1-0で指揮官が応援しているチームが勝っている。もうすぐロスタイムも終わり試合終了という所で横から広告が出てきた。無料の録画ソフトはたまに最悪のタイミングで広告が出る。指揮官は広告を消そうとて×ボタンを押そうとしたが間違っ

ンクを踏んでしまった。

画面が切り替わる。

「ようこそ、K5の占いの部屋へ」

指揮官はサッカーの録画に戻ろうとしたが戻れない。ネット接続を切ろうと思ってもメニューが表示されない。というかなぜK5なのか。露天だけじゃなくネット上でもなにか始めたのだろうか。話しかけても「ようこそ、K5の占いの部屋へ」としか言わない。指揮官は仕方なくポイントを払い、サービスを受けることにした。

指揮官はこの部屋についての事前知識はない。それでもなぜかポイントを払い特別なサービスを受けられると理解している。

ウエルロッドMkIIが必死に紅茶を入れている。入れた紅茶はそのまま海に流している。指揮官はその紅茶の海を泳いでいる。香りのいい海で泳ぐのは楽しい。

泳ぎを終え浜辺に戻るとポイントが消費されるのが分かった。そして指揮官の視界は暗転する。

目を開けても何も見えない。指揮官は顔をペタペタと触ってみる。VRゴーグルをつけたままだったようだ。VRゴーグルを外すと見慣れた執務室が見える。

VRゴーグルをつけたまま寝落ちするから変な夢をみたのだろうか。

端末で時間を確認するとまだ少しだけ寝る時間がある。寝なおそう。

指揮官は執務室から自分の部屋に戻り眠りについた。また利用したいと思いつながら。

この時指揮官は気が付かなかったが、スマートフォンには『K5の占いの部屋』という謎のアプリがダウンロードされていた。

・・・翌朝

いつになく快調な朝を迎えた指揮官はシャワーを浴び、服を着て身だしなみを整え、朝の装備製造と人形製造をおこなった。結果もよく、星5外骨格一つと星4アサルトライフル人形1体を製造することに成功した。上機嫌でスプリングフィールドのカフェに向かい、朝食をとった。

指揮官の前ではSPAS-12が青い顔で伝票を見ている。おそらく食べ過ぎて予想外の額になったのだろう。

指揮官は彼女の分も払ってあげることにした。彼女はこの間人権団体との戦闘で活躍してくれたしこれくらいの追加報酬があってもいいだろう。

「指揮官、ありがとう!!ホント助かったよ」

こちらの手を握りぶんぶん腕をふりながらお礼をいうSPAS-12。どこかの12も見習ってほしい。

「SPASさんよかったですね」

いつのまにか後ろには伝票を持ったG41がいた。しかたない、彼女の分も払ってあげるか。

指揮官に抱きついてお礼を言うG41。人懐っこい犬みたいだ。

「ご主人様へ、ありがとうございます。なにかあつてもご主人様のはもがないであげね」

もぐ？意味は分からないがG41もきちんとお礼を言える。どこかのアサルトライフルの戦術人形も見習ってほしい。

「ハクシヨンツ」

AK-12は突然大きなくしゃみをする。誰かが噂でもしているのだろうか。

口を手で覆うことを忘れたため、唾がAN-94の顔にかかつてしまった。AN-94はその唾液を全て指で掬って口に入れた。AK-12の一部が自分の体の中に入ってくる感覚は非常に素晴らしく、唾液の味も美味だ。

AN-94の顔に唾をかけてしまったことに気が付きAK-12は彼女の顔を拭く。

その間AN-94はなすがままにされている。

「AN-94、顔大丈夫？」

AK-12が自分を心配してくれている。ニヤけそうになるのをこらえ、キリツとした表情のまま返事をした。

「大丈夫だ、問題ない」

・・・指揮官の部屋

仕事を終えた指揮官は自室に戻りスマートフォンを開いた。メールがきていないか確認するだけのつもりだったが『K5の占いの部屋』というアプリがダウンロードされていた。昨夜のあれだと理解した指揮官は早速アプリを開いた。

「ようこそ、K5の占いの部屋へ」

先ほどまでいた自分の部屋から謎の空間に飛ばされた。夢だとしてもすごい。今日もポイントを利用すると申請した。

巨大な軍用人形の姿になり、忌々しいパラデウスの兵器どもを吹き飛ばした。

こいつらを倒すのは本当に手間がかかる。夢の中でくらい景気よく吹き飛ばしたい。

ある日はALL10で全ての金装備が出る夢を見た。装備が出すぎて金装備を使い金装備を強化した。

その次の日は漢陽88式のクリスマススキンとセットになった乗り物で30分間の遊覧飛行を楽しんだ。

またある日はのどかな平原で101匹のG41にじゃれつかれ、全身をなめまわされながらも夕方まで一緒に遊んだ。

こうして指揮官は就寝前に毎日このアプリを利用していった。アプリを利用した翌日は調子がよく、装備製造も人形製造も比較的良い結果が出て、任務もうまくいっている。何度も何度も『K5の占いの部屋』を利用していった。そうすると指揮官の持ち合わせているポイントはあるという間に0になった。ポイントが0だと利用ができないと思っただけでもとて利用の申請を試してみた。そうするとあっさり利用できた。

巨大化したRO635にまたがり、一時間ほど基地周辺を走り回った。RO635が巨大化したのはなんだろうか。きっと真面目にやってきたからなのだろう。

夢が終わり目が覚めた。体に異常はない。スマートフォンを見てみるとまだ午前三時。もう少し寝よう。

この日は少しだけ夢見が悪かった気がした。

今日の仕事は少しだけ調子が悪かったが指揮官はそれでも寝る前にアプリを利用した。マイナスになっても利用が継続できるのならすばしい。今日もアプリを利用した。

利用した後また寝たのだが、この日から悪夢を見るようになった。

毎晩異常な悪夢を見ている。悪夢を見ているのは分かるのだが、それがなにかが分からない。

仕事の調子も悪く、感情の制御が利かない。些細な事で人形を怒鳴りつけてしまった。

「……悪い、少し席を外す」

基地の外周を散策して頭を冷やそう。そう思い指揮官は基地の入り口に向かっていたがその途中、K5が基地の人形達を相手にタロット占いをしていた。自分もやってみようと思おうと彼女に近づくとK5の周囲にいた人形達はそそくさと立ち去って行った。

「K5、私も占ってもらえるか」

指揮官の様子に何かを察したK5は先ほどとは別のタロットカードを取り出し占いを始めた。街の市場でのようなインチャキ占いではなく本気で占ってくれることを察した指揮官は姿勢を正しK5の占いの結果が出るのを待った。

「指揮官、あれの利用はもう止めといたほうがいいよ。あれは古来より存在し未来でも存在するもの。世界を救うと称している異常なもの」

説得ではなく占いの結果を聞きたいと言うとK5は首を横に振り、道具を片付け立ち去って行った。

「どうすればいいんだよ。まったく……」

指揮官は執務室に戻り仕事を再開した。仕事はあまりなかった。太陽が落ちると売店で軽食を買い、部屋で食事をとった。食事をとった指揮官はアプリを利用した。

改めてポイントを見てみるが、マイナスがかさんでいる。

これはどうやったらプラスに戻せるのだろうか。

今日はホワイトゾーンの高級バーで酔いつぶれるまでアルコールを摂取した。

体験が終わり目が覚めると殺風景な部屋の天井が見える。バーの天井とこの天井、いつたいどちらが現実なのだろうか。

その日も悪夢を見た。

・・・翌朝

指揮官のいる執務室の前に一体の人形が立っている。人形の名はK5。彼女は昨日指揮官と別れた後もう一度タロット占いをして、その結果を伝えにきた。

ドアをノックして扉を開ける。ノックなどせず蹴り開ける人形も多いが、彼女はそこまで粗野ではない。

「指揮官、昨日あの後もう一度占ったんだけど・・・」

K5が続きを言おうとするも指揮官の様子がおかしい。指揮官はK5を見て怯えている。

「指揮官、どうしたの？」

もう一度話しかけてみるがやはり怯えている。自分の部下を見る目つきではない。K5が別の物にでも見えているのだろうか。

指揮官は椅子から立ち上がり壁際まで寄りかかる。K5は心配で近づこうとするが「来るな」と叫びドアを開け外に飛び出した。慌てて追いかけるK5。

逃げる指揮官を追い続けると基地の屋上にたどり着いた。屋上の端まで追い詰められ、指揮官には逃げ場がない。

「指揮官、聞いて占いの結果がでたの」

そう言つて手に持つていたタロットカードを指揮官に見せようとしたその時。

「来るな」

そう叫び指揮官は飛び降りてしまった。余りの出来事に啞然とするK5。持つていたカードを落としてしまう。

そのカードには死神の絵が描かれていた。

・・・そのあと

「指揮官の様子がおかしいと思つたけどまさかこんなことになるとはね」

後ろからハッキングされた軍用人形を連れたAK-12が声をかけてきた。彼女は軍用人形に指示を出す。ハッキングされた軍用人形は階段を下りて指揮官の遺体のところまで行き、遺体を死体袋に詰め、水をまいて血を洗い流した。指揮官の遺体は山に捨てられ、女性蔑視の発言をして懲戒解雇。その後の消息は不明というカバーストー

リーが流されるのだろう。

「死神のカードは不吉な意味もあるけど今ある物事が終わり、新しい事を始められると
いう解釈もできるの。それを指揮官に伝えたかったんだけどこうなっちゃった」

そう嘆くK 5。AK-12は眼を開き彼女の頭をなで、部屋に戻って休むよう伝え
た。部屋に戻るころには記憶処理が完了し、彼女は今回の出来事を忘れているだろう。

30. 金装備ピックアップは金装備が出やすくなるピックアップではありません。

第三十一話 コルトSAA MOD 「コルトSAAに
サッカー選手とジャンケンをさせてはいけません」

S13地区のホテルの一室。今回の物語はここから始まる。

一人の男性の命が今、終わりをむかえようとしていた。彼はこの地区に試合に来たサッカー選手で、試合が終わりチームメイト達と飲みに行った後、滞在しているこのホテルに戻ってきた。

部屋に戻ってきて荷物を置き、シャワーを浴びようと服を脱いだら背後から何者かに紐のような物で首を絞められ、背中をけられ押し倒されている。男は必死に抵抗するも相手はびくともしない。背中に感じる体重から相手は大柄な相手ではなく小柄な、女性や子供くらいの背丈だと感じ取っていた。女性や子供くらいの体重で大男以上の力。いったいなんなんだ。

首を絞めつけられた男は最後まで手足を動かし抵抗したものの、やがて力尽き動けなくなつた。

何者かは冷蔵庫を漁りコーラを取る。

「最初からアプリじゃなくてこっちで勝てばよかったわ」

何者かはコーラを飲みながら立ち去ろうとするが、ドアを開ける前に拳銃を構えた男性が入ってきた。

「?!?!なんてことを」

入ってきた人物、臍脂色のコートに赤いベレー帽の男性は入ってきてそう叫ぶ。この特徴的な服はグリフィン&クルーガー社の指揮官の制服であり、それを着ていることから男性は指揮官なのだろう。とすると?!?!は彼の部下の戦術人形なのだろうか。

戦術人形の彼女は指揮官が自分を探して追いかけてくることを理解していた。そしてこの状況は彼女の狙い通りであった。

彼女は指揮官の銃を奪い取り死んだ男の胸部と頭に一発。そして指揮官の口に銃口を突っ込み一発。これで二人とも物言わぬ死体となった。

二人を始末した?!?!はコーラを飲みながら機嫌よくこう言った。

「あたしの勝ちね。何で負けたか、明日まで考えといてください」

そして部屋から出た彼女は何食わぬ顔でドアをたたく。

「指揮官、どうしたの?今のなんの音?」

そうして空いているドアをわざと蹴開け、銃を構え部屋に踏み込む。部屋に何か変化

があるはずもない。そして彼女は指揮官の死体に向けより叫んだ。
「誰かー、誰か来てー」

真実はいつも作る！その名は名探偵コーラちゃん

サッカー編

part 1

1 コーラの人形さん@お腹いっぱい
スレ立てたわ

2 ブルパップの人形さん@お腹いっぱい
2 get

3 名無しの人形さん@お腹いっぱい
スレ立てて乙ですわ

4名無しの人形さん@お腹いっぱい
タイトル

5人気者の人形さん@お腹いっぱい
タイトルなんなの

6名無しの人形さん@お腹いっぱい
>>1乙

7名無しの人形さん@お腹いっぱい
>>1乙

8名無しの人形さん@お腹いっぱい
>>1乙

9和太鼓の人形さん@お腹いっぱい
>>1乙ですねえ

35名無しの人形さん@お腹いっぱい
スレタイどういう意味

36コーラの人形さん@お腹いっぱい
そのままの意味よ。コーラ探偵のあたしが華麗に事件を解決したの

37おばあちゃんな人形さん@お腹いっぱい
1ゲツトなのじゃ

38名無しの人形さん@お腹いっぱい
>>37

遅いよ
39人気者の人形さん@お腹いっぱい
ババア遅すぎなの

40 おばあちゃんな人形さん@お腹いっぱい

>>39 屋上なのじゃ

41 名無しの人形さん@お腹いっぱい
事件って何かありましたっけ？

42 名無しの人形さん@お腹いっぱい

>>1さんが出てくるような事件って記憶にない気がします

43 目を閉じた人形さん@お腹いっぱい
あれじゃないかしら

44 モスコフスカヤの人形さん@お腹いっぱい
あれか

45 子供好きの人形さん@お腹いっぱい

知ってるんですか>>44

46モスコフスカヤの人形さん@お腹いっぱい
知らないわ

47関西弁の人形さん@お腹いっぱい
知らないんかい！

48目を閉じた人形さん@お腹いっぱい
ホテルでサッカー選手と指揮官が死んだ事件じゃないかしら

49名無しの人形さん@お腹いっぱい
あれか

50モスコフスカヤの人形さん@お腹いっぱい
あれだったのか

51 コスプレの人形さん@お腹いっぱい
あれかー

・・・以下話の流れがそれる

76 コーラの人形さん@お腹いっぱい

無視して話を再開するわね。あたしはいつも通り勝てばコーラがもらえるジャンケンに挑戦したの。今日も負けたわ。コーラは一日にしてならず。例え負け続けてもいつか勝った時のコーラはきつと美味しいと思うわ

77 大英帝国の人形さん@お腹いっぱい
健気ですね

78 同志の人形さん@お腹いっぱい

微笑ましいわね

79 コーラの人形さん@お腹いっぱい
そんなとき許せないことを聞いたのよ

80 名無しの人形さん@お腹いっぱい
許せない？

81 名無しの人形さん@お腹いっぱい
ゆるせない？

82 完璧な人形さん@お腹いっぱい
ユルセナイ！

83 名無しの人形さん@お腹いっぱい
なんか一人キレてる

84 コーラの人形さん@お腹いっぱい

あのジャンケン、確率が操作されてて勝てないようになってたのよ!

決闘でイカサマなんて最低の行為だわ。そんな勝ち方するならこっちも

手段を選ばないわ!

85 カフェの人形さん@お腹いっぱい

早まってはいけませんよ

86 希望の星の人形さん@お腹いっぱい

そうですよ。まだ破産したわけじゃないんですから

87 子供好きの人形さん@お腹いっぱい

>>>84さん、落ち着きましょう

88 潔癖症の人形さん@お腹いっぱい

そうよ、私がベッドの上で夜のヨシヨシ充電してあげるから

8 9名無しの人形さん@お腹いっぱい
オイ

9 0名無しの人形さん@お腹いっぱい
おい

9 1名無しの人形さん@お腹いっぱい
オイオイ

・・・オイオイとの書き込みが続く

1 1 5 コーラの人形さん@お腹いっぱい

既に行動した後つて事忘れてないかしら。運はあたしのほうに向いているの。

その男が所属しているチームの試合がこの街であったの。つまりこの男もこの街に来るって事。

滞在するホテルはすぐに分かったわ。

ファンでサプライズしたいって言ってフロントにお金を払ったら部屋番号も教えてくれてカードキーも貸してくれたわ。

サービスのいいホテルね。星5つあげないと

116名無しの人形さん@お腹いっぱい

お金を払ったって

117名無しの人形さん@お腹いっぱい

それって

118名無しの人形さん@お腹いっぱい

ワ○ロ

119ジャックダニエルの人形さん@お腹いっぱい

そうだな

・・・そのままなぜかホテルのご飯の話にそれる

169 コーラの人形さん@お腹いっぱい

そうして部屋に入ったあたし。

まだあの男は帰ってきていない。あたしはクローゼットの中に隠れたわ。しばらくすると鍵が開く音がしたの。

ついにあの男が返ってきたわ。あの男は私に気づかず服を脱ぎ始めたわ。シャワーでも浴びるつもりだったのかしら

170 大口径な人形さん@お腹いっぱい

脱いだサッカー選手の画像はまだかしら？いいオトコの裸は見てて飽きないものよ

>>170

これですよ

https://imgur.com/J1K2DcK

172 大口径な人形さん@お腹いっぱい
何が起こつても知らないわよ

173 正直な人形さん@お腹いっぱい
起こせるといいですねえ

174 名無しの人形さん@お腹いっぱい
おまえらよそでやれ

175 YOYOYOの人形さん@お腹いっぱい
よ、よそでやつてくださいよ

176 銀髪褐色の人形さん@お腹いっぱい
よそでやつてください

187 コーラの人形さん@お腹いっぱい
続けるわね。

隙だらけだったから後ろから背中を蹴って倒したの。そのまま鞭で首を絞め続けた
ら

動かなくなったわ

そしてあたしは勝利のコーラを飲んだのよ

188 コーラの人形さん@お腹いっぱい

勝った後の勝利はいいものね

長い戦いの後だからほんとうに格別だわ

189 リスナーの人形さん@お腹いっぱい

おいおい・・・

190 名無しの人形さん@お腹いっぱい

おいおい

191 和太鼓の人形さん@お腹いっぱい
殺りますねえ

192 闇に生きる人形さん@お腹いっぱい
お見事です

193 人気者の人形さん@お腹いっぱい
サイレンサーもつけられないBBAなら銃使えなくてもしかたないなの

・・・サイレンサー非対応の銃から>>193を脅すリップが続く

231 コーラの人形さん@お腹いっぱい
帰ろうかと思ったら指揮官が入ってきたの。指揮官は驚いてなにか言ってたようだ

けど、あたしは素早く指揮官の銃を奪ってあの男に2発。反応できていない指揮官の口に銃口をねじ込んで一発。指揮官があたしを追ってきてるのは分かってたから楽だったわ

キメ台詞は

「あたしの勝ちね。何で負けたか、明日まで考えといてください」

2 3 2 コーラの人形さん@お腹いっぱい

指揮官に明日なんてないんだけどね

2 3 3 名無しの人形さん@お腹いっぱい

ひええ

2 3 4 名無しの人形さん@お腹いっぱい

ヒエー

2 3 5 名無しの人形さん@お腹いっぱい

ひええ

2 3 6 名無しの人形さん@お腹いっぱい
比叡

2 3 7 名無しの人形さん@お腹いっぱい

>> 2 3 6

フリートはお帰りください

2 3 8 人気者の人形さん@お腹いっぱい

>> 2 3 6

世界が違うなの

2 3 9 名無しの人形さん@お腹いっぱい

>> 2 3 6

海へおかえり

2 4 0 気だるげな人形さん@お腹いっぱい

それじゃあ>>231はムシヨ送りじゃない？

241カフェの人形さん@お腹いっぱい
あ

242名無しの人形さん@お腹いっぱい
あつ

243お米派の人形さん@お腹いっぱい
あつ

244コーラの人形さん@お腹いっぱい

まだあたしのターンは終わってないわ

あたしは事件を目撃した人みたいにして叫び声をあげたの

そうすると従業員がきて警察に通報してくれたわ。そして警察が駆け付けたの
あたしは泣きながら見たことを答えたわ

245 関西弁の人形さん@お腹いっぱい
答えたんかい

246 カフェの人形さん@お腹いっぱい
答えたのですか

247 和太鼓の人形さん@お腹いっぱい
まずいですよ

248 コーラの人形さん@お腹いっぱい

指揮官がサッカー選手の所に押し掛けて、紐で首を絞めてからさらに銃で撃って殺して

指揮官は自殺したって答えたの。

あたしは必死に止めたけど、止められなかったって言ったわ。

そのまま警察の人と協力して捜査を開始したの。鑑識の人みたいに色々漁ったり、指揮官の端末をチエックしたの

249 コーラの人形さん@お腹いっぱい

指揮官の服のポケットから紐が出てきたの。そして端末をチェックするとあの男の悪口を掲示板に書いた記録が見つかったわ。

そこからあたしは推理したの。指揮官はあの男への嫌悪からホテルにおしかけて殺害したつて。そして指揮官は自分のしたことに耐えられなくて自殺したつて

250 名無しの人形さん@お腹いっぱい

おいおい

251 名無しの人形さん@お腹いっぱい

ちよ

252 ブルパップの人形さん@お腹いっぱい

これは

253 単発式の人形さん@お腹いっぱい

どうリアクションすれば

254 カフェの人形さん@お腹いっぱい
いいのしょうか

255 おばあちゃんな人形さん@お腹いっぱい
いきびったりじやの

256 コーラの人形さん@お腹いっぱい

あたしの推理にみんな納得してくれたわ。指揮官、なんてことしてくれたのかしら。
推理を披露した後、あたしは思わず泣いてしまったわ。まるで人間のようにな。

グリフィンの人形として、指揮官の行動を止められなかったあたしに。

あたしは自分を許せないわ。そしたら婦警さんが抱きしめて一緒に泣いてくれた。
ホテルの従業員も泣いてたわ。

人間って嫌な人もいるけど優しい人もいるのね

257 雨が好きな人形さん@お腹いっぱい

(涙と聞いてきましたわ)

258 雨が嫌いな人形さん@お腹いっぱい
(今そういう話じゃないですわ)

259 名無しの人形さん@お腹いっぱい
泣いた

260 リスナーの人形さん@お腹いっぱい
>>256

あたしも泣いてしまった

261 名無しの人形さん@お腹いっぱい
泣きました

262 ブルパップ人形さん@お腹いっぱい

全人形が涙

送信

・ ・ ・ 以下泣いたとレスが続く。

342 ジャックダニエルの人形さん@お腹いっぱい
そうだな

343 コーラの人形さん@お腹いっぱい

みんなありがとう。あたし、この基地にきてよかったわ。そうして事件は解決したわ。指揮官の自殺という形で。あたしの推理したことがそのまま真実になったわ。

あたしはこれからはコーラ探偵として真実を作っていこうと思うわ。もう二度と指揮官のような人を出さないためにね。 ・ ・ ・ ・ ・

真実はいつも一つ！

その名は名探偵コーラちゃん！

344 名無しの人形さん@お腹いっぱい

ちよ

345名無しの人形さん@お腹いっぱい
それはやめい

346和太鼓の人形さん@お腹いっぱい
まずいですよ

347お米派の人形さん@お腹いっぱい
まずいよ

348刺激を求める人形さん@お腹いっぱい
刺激的でいいジャン

349名無しの人形さん@お腹いっぱい
→よくないよ

393 コーラ探偵の人形さん@お腹いっぱい

>>343よ

コテハン変えたわ。スレは落ちるけど真実はいつも作る
その名は名探偵コーラちゃん！

394 目を閉じた人形さん@お腹いっぱい

スレ落とすわね

395 名無しの人形さん@お腹いっぱい

おk

396 ブルパップの人形さん@お腹いっぱい

確かに炎上じやすまないからね

送信

397 カフェ人形さん@お腹いっぱい
そうですね

398 おばあちゃんの人形さん@お腹いっぱい
どうかんじやな

399 雨が好きな人形さん@お腹いっぱい
そうですね

400 ナンバーワンの人形さん@お腹いっぱい
ナンバーワンのあたしが今きたよ

401 名無しの人形さん@お腹いっぱい
>>400
遅い

402 名無しの人形さん@お腹いっぱい

遅いな

403 ジャックダニエル人形さん@お腹いっぱい

そうだな

404 名無しの人形さん@お腹いっぱい

このスレッドは落とされました。過去ログに収納されています。

新しいスレッドを立ててください。

31. コルトSAAにサッカー選手とジャンケンをさせてはいけません。

第三十二話 一〇〇式「一〇〇は適切に運用されるべきです。しかし彼女に日本のゲイポルノ真夏の夜の淫夢を見せたいけないってのはつきりわかんだね」

今回の物語は16LABの研究室から始まる。

一体の戦術人形がなにかの映像を見ている。映像からは汚い音が流れている。戦闘記録なのだろうか。

「汚いですねえ」

記録映像を見ているのは一〇〇式機関短銃。皆からは一〇〇式と呼ばれている。サブマシンガンの戦術人形だ。

なぜ彼女が汚い映像を見ているのか。それは音声にある。この記録映像の音声は日本語で、16LABの人間も翻訳は可能なのだが、細かいニュアンスまでは確実に理解できているとは言えない。そこで日本の銃を扱い、日本語が完璧に分かる彼女に白羽の矢が立った。16LABと付き合いの深いS13地区の基地にも一〇〇式が配属されている。S13地区の指揮官に連絡を取り、一〇〇式を派遣してもらった。

一〇〇式のすることは字幕とセリフが一致しているかの確認だけだ。

映像はかなりの量があったが、一〇〇式は全ての確認を終え、日本語の台詞と字幕に問題がないことを依頼してきた猫耳を付けた女性に伝えた。

「おつかれ一〇〇式ちゃん。アイスティーしかないんだけどいいかな」

・・・グリフィンS13支部にて

16LABから返ってきた一〇〇式は少しだけ様子が変わった。日光浴が趣味になり、白い肌が少しだけ日焼けした。

それだけではなく今まであまり交流がなかった人形達とも交流を持つようになった。昨日はAK-12とAN-94にアイスティーの作り方を教わったようだ。なぜ彼女たちなのだろうか。

今日は一〇〇式と一緒に街の役所に訪問して第二十三回S13地区野球大会の警備に関する打ち合わせをし、たった今もどってきたところだ。役所の人間と話すのは疲れ
る。

指揮官の疲れを察したのか、一〇〇式がこんな提案をしてきた。

「指揮官・・・屋上・・・あるんですけど、焼いていきませんか？」

図鑑 No. 228 名前 一〇〇式

銃種 サブマシンガン

特別收容プロトコル

一〇〇式は現在16LABが建造した特設サイトShimokitazawaに收容されています。

出入り口に使用できる玄関扉や窓は施錠してください。またオンライン空間につながらないように、常に妨害電波を流してください。

家具は一定期間事に交換し、枕は通常より大きめの物を用意してください。

対象は「そんなことしないでいいから」と言っていますが、無視してください。

対象への食事は支給されず。対象への食事は16LABの食堂で出されるものと同じで構いません。飲み物の支給もされず。

酒やたばこなどの嗜好品を要望されることがありますが、本人の状態次第では許可を出して構いません。

ただし対象が手渡してきた飲食物は絶対に口にしてはいけません（戒め）

一〇〇式が読書や映画鑑賞を希望した場合、作品の内容次第では許可されます。十八歳未満に見せてはいけないもの、「削除済み」シーンのある物は許可されません。

十八歳未満に見せてもいい作品でそういうシーンがあつた場合ですが……ま、多少は仕方ないね。

対象は戦術人形でもあるため、一日一時間の戦闘訓練をする必要があります。

收容サイト内にもうけられたシューティングレンジで射撃訓練をおこなわせてください。

一〇〇式は常に16LAB職員に監視される必要があります。

対象と直接接する職員は手術で聴覚を麻痺させ、声帯を取り除いた技能実習生が担当します。これは対象の性質により声を聞いたり対象に返答したりするだけでも異常性にさらされるからです。

対象にはカバーストーリー『聴覚障害を持つ難民の雇用』と説明しています。このことに関してはしようがないですねと難民に対しては肉声と同時に筆談でコミュニケーション

シヨンをとつています。

説明

一〇〇式はG&K社S13支部に所属する戦術人形でした。S13支部着任時は、他の基地の同型個体と差はありませんでした。異常が発生したのは一〇〇式が16LA Bに派遣されて映像のチェックを終えてからです。

映像は今世紀初頭に日本でカリスマとなっていたポルノ男優、通称??先輩と呼ばれる人物が出演する〔削除済み〕シリーズとそのムービーを加工して作ったファンムービーです。この一連の映像作品群を見てから彼女には異常性が生じました。

日光浴を趣味にし、アイステイーを好むようになり、口調が少し変化しました。それだけなら問題ありません。彼女の異常は肉体や能力にも及びます。

?月??日、指揮官と街の役所に訪れた帰り、一〇〇式は指揮官を屋上に誘いました。そしてどこからかアイステイーを取り出しました。そのアイステイーは毒性および殺傷能力はありませんが睡眠薬と同様の効果を発揮します。一〇〇式が睡眠薬を混ぜるなどの行動は確認できませんでした。

そして眠らせた指揮官を地下室に連れ込み??を生やし指揮官に対して〔削除済み〕に及びました。地下室の座標は特定されていません。未知の空間にあると思われる。

指揮官は無理やり「削除済み」された際に患った性感感染症と心的ストレスにより精神を病みG&K社を退職。？月？日、自宅で首を吊って亡くなっているのが発見されました（絶望）。

指揮官が亡くなる少し前、16LABでも例のポルノムービーを見た人間の一部がかしくなる事例が発生しました。このことから映像に何らかの異常があると考えた16LABは映像を見た人間全員を調査。その後一〇〇式にも調査が入りました。

人間は全員記憶消去剤で記憶処理を施しましたが、一〇〇式は「削除済み」の影響を強く受け、異常存在へと変貌していたため記憶処理を施せず、16LAB特設サイトに收容されました。

S13支部の他の戦術人形も調査したところ、何体かの人形が「削除済み」を見たことがわかりました。

幸いにも一〇〇式程強く暴露されていなかったので通常の記憶処理を行いました。

ポルノムービーを見た人形の反応は三パターンに分かれました。嫌悪感を示すもの、興味を持たないもの、好印象を持ち、一〇〇式程ではありませんが、異常な言動をするものに分かれました。

それぞれの反応を示した人形の共通項は判明していません。

S13地区の基地の人形に聞き取り調査の際、目を閉じた人形がポルノムービーを外

部に流出させたと証言しました。流出先はバラ??スの施設だったようで、当該人形には I・O・P 本社の売店で販売している『I・O・P 限定クッキー詰め合わせ』が送られます。いらないわ

なんだお前、報告書に介入しないでくださいってはずきり言われてるから。この前もリストに介入しましたよね。これ以上やるとまずいですよ。そう・・・(無関心)

一〇〇式にインタビュアーを行いました。

インタビュアーはゲイビデオに出演経験のある指揮官にお願いしました。彼はこちらが理由を尋ねていないにもかかわらず、当時は若くてお金が必要だったと弁明し、こちらの協力要請をやだよ(即答)と拒否しましたが、彼が誓約したりー・エンフィールドにこのことを知られたくなければ協力してほしいと丁寧にお願いしたところ、快く引き受けてくれました。16LABが頼んだら協力する、当たり前だよなあ?

これより指揮官の呼称をインタビュアーとします。

〔録画開始〕

ドア先輩「コンコン」

一〇〇式がドアをノックする。

インタビュアー「入って、どうぞ」

一〇〇式が部屋に入り、椅子に座る。大胆な着席は一〇〇式の特権。

インタビュアー「こんにちは」

一〇〇式「こんにちは」

インタビュアー「まず年齢と職業を教えてくださいかな」

一〇〇式「?歳、戦術人形です」

インタビュアー「そっか。戦術人形ってことはスキルとか持つてるのかな?」

一〇〇式「持ってますね」

インタビュアー「どういうスキルなのかな?」

一〇〇式「アイステイーを作れます」

そう言ってどこからかアイステイーを取り出しインタビュアーに勧めました。インタビュアーは研究員の指示で一〇〇式から提供されたアイステイーを飲みましたが、すぐに意識を失いました。監視カメラの映像では一〇〇式がどこからアイステイーを出したのかも不明なうえ、睡眠薬の混入も確認できませんでした。これはもう駄目みたいですね（諦観）

一〇〇式は意識を失ったインタビュアーを連れ「やりますねえ!」と叫びながら消失

しました。インタビューはここ→ここ←で終了です。対象が消えちゃったししょうがないね。

二人はどこに行ったかわかりません（小学生並みの感想）

この報告書を閲覧しているあなたも異常性に暴露している可能性があります。

．．．

位置の特定が完了しました。

．．．

保安部隊が向かっていますのでそのまま待機してください。

3 2. 一〇〇式は適切に運用されるべきです。しかし彼女に日本のゲイポルノ真夏の夜の淫夢を見せてはいけないってはっきりわかんだね。

3 2—1. そのファンフィクションもです。

3 2—2. おいゴルア！彼女が砂糖じゃない粉入れたアイステイー作り始めたじゃねえか！

3 2—3. AK—1 2はこのリストを編集してはいけません（戒め）

第三十三話 89式「AK—12は朝遅れそうだからと言つて基地の時計をハツキングして時間をいじつてはいけません」

ここはS13地区基地ではない。今回の物語はとある廃屋から始まる。

人形達は探索任務に来ていた。探索では物資の確保や各地の情報を得ることを目的としている。途中で訪れた街で入つたら出られない家があると聞き、鉄血人形の隠れ家の可能性も視野にいれ、調査に入った。

もともとは小奇麗な一軒家だつたと思われるが今ではすっかり荒れ果てている。鉄血人形の姿は見当たらず、無人のようだ。中に入りますは一階を調べたが何もなく、人形達は二階に上がり各部屋を調べた。

「ねえみんな、こつちきて」

寝室を調査していた人形が皆を呼ぶ。

寝室には異様な存在感のある振り子時計と、数体の白骨死体があつた。一体この部屋

で一体何があったというのだろうか。

探索班の班長、89式はこの時計を持って基地に帰還することに決めた。

・・・グリフィンS13地区基地の一室

朝日が昇ってしばらくたった時間帯。

この部屋の住民である美女達はまだ動き出さない。

銀髪の美女、AK-12は隣で寝ているパートナーの頬に触れる。するとパートナーも眠りから覚めたのか、目を開けた。

「おはよう、AN-94」

AK-12は目覚めたAN-94にキスをする。

寝起きからのいきなりの不意打ちにAN-94は顔を赤らめ口をパクパクさせる。そんなAN-94の可愛らしい様子にAK-12は彼女を抱きしめ、美しい金髪をなでる。その心地よさに身を委ねるAN-94。

「昨日は激しかったわね」

AK—12の言葉に昨夜を思い出し、再び頬を赤らめるAN—94。昨夜は戦闘任務の後だったから、特に激しく愛し合っていた。

頭をなでられながらAN—94は気が付いた。自分は非番だが、AK—12は非番ではない。

行かなくていいのかと彼女に聞いてみた。するとAK—12はAN—94の口を塞ぎ舌を絡めてきた。たつぷり舌を絡め合う。唇が離れると彼女はベッドから出る。

彼女の裸体が露になる。世の女性たちが嫉妬するような白い肌に、日の光で輝く美しい銀髪。銃など持って戦場を歩くより、美しい服を着てランウェイを歩いた方がいいのではないかと思うくらい細く長い手足。ウエストはくびれて、バストも下品にならない程度に出ている。至高の芸術品かと思う美しさにAN—94は見惚れた。AN—94が見惚れている間にAK—12は服を着て身だしなみを整えた

見惚れたまま動かないAN—94の額にキスをしてAK—12は部屋を出た。時計を見ると遅刻確定だがなんとかする方法はある。

AK—12は眼を開き、深度演算モードを起動し基地のコンピューターに接続した。

・・・執務室

始業時間になったがAK—12がこない。遅刻するとの連絡はない。人形は基地の

宿舎住まいだ。通勤時間などというものはほぼない。なにをしているかしらないが、来月の給料日を楽しみにしてほしい。

指揮官は書類仕事を開始した。待つ必要はない。

この指揮官、現在妊娠八ヶ月で、後三日すれば産休に入る。ここ最近では代理で入る指揮官への引継ぎ資料を作成していた。資料の作成を開始して数分後、AK-12が部屋に入ってきた。

遅刻したことを指摘すると、彼女は否定した。

「時計を見てちょうだい。遅刻してないわ。ギリギリなだけ」

彼女に言われ、時計を見てみる指揮官。壁にかかっている電子時計も、コンピューターに表示されている時間も、ギリギリだ。

「あなた、ハッキングしたわね」

そう指揮官は問い詰めるも、彼女はどこ吹く風だ。いつも通り席に座って仕事を始めた。

「指揮官、そうイライラするとおなかの子供に悪影響よ」

誰のせいだと言いたいが、指揮官はぐつと堪え、深呼吸してから水を飲み、怒りを飲み込んだ。

書類仕事を開始して数時間。探索に出てきた部隊が帰還する時間になった。指揮官は報告を受けるため、AK—12を伴って探索メンバーを出迎える。

「指揮官、おなか大きいのにここまで歩いてきて大丈夫なの？」

探索メンバーの一人、スコープオンがそう指揮官に尋ねる。指揮官は彼女の頭を撫でながら、少しくらい歩いた方がいいと答える。

そして探索部隊のリーダー89式に成果を聞く。

いつもと同じ様な物資だけではなく、布で包まれた物を見せられる。89式は布を取り説明する。

「街を探索しているとき、入ったら出られない家の話を聞いたんです。始めは鉄血の隠れ家かなと疑ったんですが、鉄血はいなくてこの振り子時計の前に数名の白骨死体があつたんです。わたし達はこの振り子時計が何かあると思いついて帰ってきました」

指揮官はその振り子時計をじっくりと見た。見た目だけならただのアンティークの時計だ。売ればいくらにはなるだろう。だけどその時計に何体もの白骨死体はおかしい。放射能ではないだろう。ここに入る途中に放射能があれば検知されている。麻薬か金塊でも入っているのだろうか。89式たちに倉庫部屋に運び込むよう指示した。何もない可能性の方が大きいのだ。中に何も入ってなければ修理させた後ロビーの時計にしよう。

物置に運び込んだ後、89式に時計の中に麻薬などが入っていないか確認して、なにもなければ時計を動くように修理するよう指示した。

「麻薬が入ってた場合、売るんですよね」

「売らないわよ」

・・・数分後

指揮官は執務室に戻り書類仕事の続きをしようとしたが89式から時計が動いたと連絡が入った。まだ数分しかたつていない。もしかしてどこかのスイッチを押すだけだったのだろうか。

再び倉庫部屋に戻った指揮官はスマートフォンでお米の動画を見ていた89式に声をかけた。時計はもう動いているのだろう。コチコチという音がしている。指揮官はこの音に対してどこか嫌な予感を覚えた。

指揮官が入ってきたことに気が付いた89式は時計について説明した。中に麻薬などの違法な物や爆発物などの危険物が入っていない。ただ中の構造が複雑で調べるのに時間がかかったのとアンティークの時計は初めて見るからどうやって動かすかも分

からず試行錯誤して鍵でネジを巻いて動かすことを突き止めた。そしてネジを巻くと時計は動き出した。

「変な物入っていないか確かめて、時計の針を調整するの忘れて一回だけすぐにボンって鳴ったんですけどいい音ですよ。指揮官さまも聴いてみてはどうですか？」

数分でそこまで分かるとはすごいと指揮官は89式を褒めた。

「わたし一時間くらい調べてましたよ。ほんと大変だったんですからね」

89式の言葉に疑問を覚えつつも指揮官は褒美としてBセットの食券を渡した。身の重の体に油物はよくない。

渡された89式は昼食代が節約できたと喜びながら部屋を出ていった。

時計はもう少しで十二時になる。せっかくだしどんな音が聞いてみようと思い、指揮官は近くに置いてあった椅子に腰かけた。

そして時刻は十二時。

——鐘の音は鳴る——

昼食を済ませ、射撃訓練場で訓練をしていた89式はAK-12に声をかけられた。

用件を聞くと、指揮官が戻ってきていないようだ。指揮官の端末に電話しても出ないので、直前まで一緒にいた89式に聞ききたとのこと。89式は昼前に倉庫部屋で分かれたきりだと話した。89式も訓練を切り上げ、倉庫部屋についていくことにした。指揮官は妊婦だし、体調を崩して動けなくなっているのかもしれない。一体より二体の方が指揮官を医務室に運びやすいはずだ。

AK-12と89式は倉庫部屋の前に着いたのだが、異臭がする。AK-12は銃を構え、89式はドアを蹴破り、二体は中に突入した。

突入した先には異様なことになっている。

灯りは消え、保管してあったものはボロボロになり、埃が積もっている。先ほどまでは清潔とはいかなくても、何十年も放置されたような部屋ではなかった。余裕のある表情を絶対に崩さないAK-12も眼こそ閉じたままだが、眉をひそめている。

部屋の片隅に赤黒い何かがあった。最悪の事態を覚悟しつつその物体に近づくと89式とAK-12。

赤黒いものは予想通り、指揮官の遺体だ。ただ、遺体の様子がおかしい。指揮官が死んだとしてもここ数時間のはず。遺体はまるで死後何年も経過したかのように白骨化している。遺体から何か情報を読み取れないだろうか。

89式には指揮官の遺体は何かを示しているように思えた。出口に向けて逃げるべきなのに、どうして指揮官は奥の方を向いているのだろうか。

そして二体はあることに気が付いた。コチコチという音がする。部屋は何十年も放置されていたかのようになっているのに振り子時計は89式がネジを巻いたときと変わらず動き続けている。

「89式、これって何か変な物入っていたの？」

「いいえ、入ってないです。中也確認しましたけど、すごく複雑な時計っていうだけです」

異常がないのが最大の異常だ。89式とAK-12は顔を見合わせた。

その時、なにかが倒れるような音がした。今度は何かと思いながら二体が向かうと異常な見た目の人物がいた。その人物は全裸で肌は産まれてから一度も日の光を浴びたことがないかのごとく青白い。頭髮は抜け落ち、背中は折れ曲がっている。そして成人の体格に赤子のような目つき。生理的嫌悪を感じさせる。

乳房がなく、男性器らしきものがあることから性別は男だろう。仰向けになつたままこちらを見ている。成人している印象を受けるが正確な年齢は推測できない。

89式は反射的に撃ちそうになつたがAK-12が慌てて止めた。その見た目に吐き気を催した89式は両手で口を押える。

非常に不気味だが男はまだ生きている。なにか情報を得られるかもしれない。

「深度演算モード起動」

AK-12が目を開けて観察する。戦闘用だが使わないよりマシだろう。男はこちらを見ているだけで動きはない。

五分ほど観察し、目を閉じる。そしてAK-12は紐を取り出し、男性の手と柱になぐ。束縛という程ではないが、念のためだ。

男性が声を発する。

「おぎゃああああ」

その見た目で赤子のように鳴き声を上げる。発声器官は生きていても言葉が喋れないのだろうか。

AK-12は89式を連れ倉庫を出た。そして近くにあるトイレから掃除中の看板をとってきて立てかける。89式は一連の異常事態に理解が追いついていないのか、なにも言わない。

二体はそのまま警備室に向かった。警備室には人形もいたが、メンタルをハッキングして偽の命令を植え付け外に出した。

そして倉庫部屋の監視カメラの映像記録を探し出す。

「あの、AK-12さん。わたし……えっと。あつ、あれはいつたい……」

89式は怯えながらもAK-12にあれが何か問いかける。

倉庫部屋の映像記録を見つけ出したAK-12はこう答えた。

「あれがなにか。その答えが今からわかるわ」

再生ボタンを押し、映像が再生される。

・・・監視カメラの映像

指揮官はパイプ椅子に座り、時計の方を見ながらおなかをさすっている。

AK-12は時計の針が十二時になるまで早送りをした。

十二時になり、鐘の音が鳴った。

AK-12はこの音が好きではないと感じた。綺麗な音なのだが、不吉な感覚を覚える。

指揮官に変化があった。腹部を押さえ苦しみだした。これだけだったらただの体調不良だ。

きつとこの後に何か来るのだろう。

音とともに指揮官の腹部が急激に膨らみだした。通常ではありえない膨らみ方だ。

指揮官は苦しみから叫び声をあげ、椅子から崩れ落ちる。その間にも腹部は膨らみ続

け、股から血が流れる。

指揮官は断末魔の叫び声をあげるとともに、腹部を突き破り中から乳児が出てきた。血まみれの乳児は徐々に大きくなり幼児から男児、少年、青年へと成長していく。

その気持ち悪さに堪えきれなくなった89式は床にうずくまり嘔吐した。

吐瀉物が床を染め、酸っぱい匂いが部屋に充満する。

89式は制服のブレザーに吐瀉物が付くも、それに気づかず、胃の内容物を吐き続けている。

「オロロロオエエエエ．．．．ハアハア」

胃の内容物を全て吐き出し、胃液までも吐き出たからか、89式の嘔吐が止まる。

しばらくは部屋の様子を映していたが映像は途中で途切れた。映像の記憶容量に限界が来たのではなく、撮影しているカメラが壊れたのだだろう。映像が途切れ、音が聞こえなくなり安心したのか、89式は吐瀉物の中で気を失った。

あの振り子時計は直接鐘の音を聞くと時間を加速させる性質があるとAK-12は結論付けた。一刻も早く破壊する必要がある。

ハッキングされた軍用人形達に爆薬を取り付け、倉庫部屋に突入させ爆破した。

部屋を爆破した後は89式の記憶の一部を削除し、別のハッキングされた軍用人形達の一体に彼女をシャワールームに運ばせ、残りにはこの部屋の清掃させた。

「カバーストーリーはどうするべきかしら。鉄血の襲撃ということで構わないわね」
グリフィンも16LABもおそらくその筋書きで納得するだろう。そのままデストロイヤーが爆弾を仕掛けている映像の作成を済ませたAK-12は自身についた臭いを落とすべくシャワールームに向かった。

——数日後のニュース——

本日S13地区グリフィン基地で爆破事件がありました。犯人は鉄血製ハイエンドモデル人形デストロイヤーと見られます。この人形は爆発物の扱いに長けており、他の上級モデルの指示で動いているとみられます。グリフィン社は監視カメラの映像を公開し、情報提供を募っています。有力な情報を提供してくれた方には報奨金が支払われるとのことです。

グリフィン社最高責任者ベレゾヴィッチ・クルーガー氏は記者会見で「亡くなった指揮官へは心より御冥福をお祈りするとともに、御遺族の皆様にお悔やみを申し上げます。この度の攻撃に対してグリフィン社は断固とした措置をとる」と述べており、鉄血勢力圏とグリフィン勢力圏の間での戦闘が激化されることが懸念されます。

33. AK-12は朝遅れそうだからと言って基地の時計をハッキングして時間をいじってはいけません。

第三十四話 P90 「AK—12の眼は直死の魔眼ではありません。銃で撃つて物を壊しても眼の効果じゃなく銃弾の威力です」

ここはグリフィンS13地区。特徴がないのが特徴の地区である。当然のことながら基地も特徴がない。ゲームと変わらぬ標準的な基地だ。

そんな基地の使われていない地下室から今回の物語は始まる。

時刻は深夜二時、E・I・L・Dも眠る時間帯。一人の男が椅子に縛り付けられている。手足はロープで固く縛られ、口には猿轡をかまされ声を出せないようにし、テープで目隠しをされている。

その傍らには一体の戦術人形がいる。彼女はこの男を助けに来たのではなく、彼女がこの男をここに連れてきたのである。

男の拘束がきちんとできていることを確認した彼女はポーチからある物を取り出す。それは黒曜石から作られたと思われる原始的なナイフだ。そのナイフは見るからに古

いだけではなく得体のしれない不気味さを放っている。博物館で展示されるようなものではなく、人の皮を剥ぐためにあるかのように。

人形は男のワイシャツの袖をめくりナイフの刃をあてる。男は手足を縛られ声を上げられないながらも必死に抵抗しようと、がたがたと椅子を揺らす。それに構わず人形は男にナイフを突き刺す。それでも男は椅子を揺らす抵抗を止めない。そんな男に腹が立ったのか、人形は男に自分の愛銃、P90を突きつける。

「S13地区の指揮官さー、次動くとこれつかつて動かないようにしちやうよー」

男、S13地区の指揮官が動かなくなったのを確認した戦術人形、P90は男の肉を切り出す作業に入る。黒曜石のナイフは鋭くても持ち主のP90が人肉を切る作業は得意ではないのだろう。なかなか切れない。

それは指揮官の苦痛が増すだけだが、P90は気にせず無理やり指揮官の肉を切り落とす。

どこかの太い血管を傷つけたのか、勢いよく血があふれ出した。

P90は腕をまくり切り取った指揮官の肉を貼り付ける。

するとP90の外見が瞬間に変化し、指揮官と同じ外見になった。

「これは物凄く痛いな。痛覚を切っていてよかった」

・ ・ ・ 翌朝

S13地区の射撃訓練場で二体の人形が射撃訓練に励んでいた。

一体は円形のターゲットの真ん中に命中させ、もう一体はターゲットを粉碎している。弾丸が違うのだろうか。

的に命中させている人形、AN-94は疑問に思った。AK-12とAN-94の使用弾薬はどちらも5・45x39mm弾だ。威力に差はない。

「AK-12、どうやって粉碎しているの？」

AN-94の質問に射撃を止めたAK-12は答える。

四式が持っていたコミックの主人公は死の線が見えるという特殊能力を持っていて、その線をなぞるとどんなものでも切断できる。AK-12は深度演算モードを利用し、それを再現したのだという。

そんな彼女の説明にAN-94は聞き入った。彼女はドヤ顔でAN-94に説明している。

そんなAK-12を見てAN-94は思う。

(私を騙だまそうとするAK-12も素敵だ)

AN-94は彼女の嘘に気づいていた。彼女がハッキングされた軍用人形を使い、ターゲットを脆いものに交換しているのを見ていた。くだらない嘘もAN-94にとってはかわいいお茶目に映るようだ。恋は盲目とはこういうことをいうのだろう。

そんな二体の元に一人の人物が近づく。

「ようお二人さん、せいがでるな」

声をかけたのはこの基地の指揮官だ。指揮官も射撃訓練をしに来たのかとAN-94は聞いたが指揮官は首を横に振った。二人に頼みたいことがあるから三十分後にきてくれといい、指揮官は戻っていった。

一時間後、AK-12とAN-94は指揮官がいる執務室にやってきた。三十分後と言われてなぜ一時間なのかと言えばあの後シャワーを浴び、スプリングフィールドのカフェでお茶をしていたからである。

指揮官の遅刻に対する説教に関しては、AK-12は最初から聞き流し、AN-94は最初、指揮官の話を真面目に聞いていたものの、AK-12から聞き流していいと言われ、AN-94も適当に聞き流した。

説教が無駄であると理解した指揮官は本題に入る。

二週間前、S18基地の指揮官が遺体で発見された。遺体は肺を刺され、全身の皮を剥がされた状態で発見された。直接の死因は何らかの刃物により肺を刺されたことによる多臓器不全。皮は死後に剥がされたと思われる。副官の人形だったカルカノM91/38は頭を撃ち抜かれ死んでいた。解剖の結果、使用された弾丸は5.7x28mm弾と分かり同基地のP90とFive-sevenが事情聴取されたが、二体ともアリバイがあった。5.7mm弾は流通量が多くないため、武器弾薬を調達可能な口ポット人権団体の仕業と判断され団体を襲撃。拠点にいた者を全員殺害するも証拠は見つからず。

その四日後、S19地区で事件が発生。同基地指揮官が寝ているWA2000をナイフのようなもので殺害。その後指揮官は死亡した状態で発見される。

指揮官とWA2000は誓約した関係であり、夫婦仲は良好で殺害する動機は見当たらない。

殺害されたWA2000はなぜか衣服がはぎ取られており、指揮官に関しては肉の一部がはぎ取られていた。

その翌日にはD08地区の女性指揮官によってIDWが殺害される。IDWを殺害した指揮官を皆が探すと自室で死んでいるのが発見された。この指揮官はIDWと誓約しているが同性カップルというより親子のような間柄で仲は良好だった。指揮官は

周囲の人形にIDWに彼氏ができたら私が見定めてやると話すくらいの親バカっぷりを発揮していたという。

IDWも衣類を先の事件と同様衣類をはぎ取られており、指揮官に関しては脚の肉が一部？ぎ取られ、胸と心臓を撃たれていた。死因は銃弾を受けたことだと思われる。使用された弾薬は5.7 x 28 mm弾。そして同基地のP90とFive sevenにはアリバイがあった。

事件の経緯を説明すると指揮官は備え付けの冷蔵庫から私物の合成レモネードを取り出した。

「痛ましい事件だけど、ここで起こったことじゃないのよね。私たちはどうすればいいのかしら。知らない人から声をかけられてもついて行ってはいけませんって皆に言えばいいのかしら」

皮肉を込めながらAK-12が指揮官に尋ねる。彼女の皮肉に反応せず、話を再開する。

S13地区で所属不明なP90を見かけたと報告があった。

「AK-12とAN-94はまずP90とFive sevenに話を聞いた後、その不審なP90を探し出してほしい。うちのP90が犯人かと本社の人間は疑っている」グリフィンの一部はこの基地のP90が犯人なのではないかと疑っていた。よって

指揮官に調査するよう指令がくだされたのだ。

とはいえ、指揮官一人で調べるのにも限度がある。高い電子戦能力を持つAK―12とそのパートナーのAN―94にも調査させることにした。

そうやって調査をした後、怪しい人形は見つからなかったと本部に報告すればいい。

P90は指揮官に成り代わった後、自分の行為がどこまで発覚しているのか調べた。すると予想以上に自分の所業が把握されていてどうするか考えた結果、真面目に調査をして見つからなかったことにすればいいとの結論にいたった。

AK―12とAN―94は指揮官の指示を受け、P90のところへ向かった。

P90は自室にいた。机に布を広げて作業をしている。WA2000のコスプレをしてバレた時に部屋に乗り込まれ、報復としてコスプレ衣装はもちろん私服まで全て破かれた。下着もである。このご時世、衣類だって安くはない。それなのに衣類を全て買わないおすはめになった。そのため、日々の食事も満足にとることもできず、みんなが街のケーキ屋の新作スーツをリスみたいに頬張っているなか、P90はバッテリーの補充だけだ。ちなみにP90のスキル名は『リスのお嬢さん』である。

そんなP90だが、グリフィンの仕事以外にも内緒で副業を行い、少しだけお金に余裕ができた。副業で得たお金で布を買い、ゴミ箱から漁って入手したWA2000の服をクリーニングし、衣装のサイズ調整をしていた。

鼻歌を歌いながら布を切ったり、縫い合わせたりする幸せな休日。

そんなP90の休日は5・45x39mm弾の銃声とともに終わりを告げた。

AK-12は銃撃でドアロックを破壊し部屋に押し入る。

部屋に入った先ではP90が銃を構えていた。AK-12は勢いよく助走をつけ、P90に対しドロップキックを決める。蛙のような声をあげながらP90は吹き飛び、壁にぶつかり顔から床に落ちた。そこにAN-94が接近し倒れているP90に銃を突きつける。

P90は額を抑えながら起き上がり、銃を突きつけられていることに気づきすぐに両手を挙げた。

「いたたー、なんなのさー」

AK-12はP90のわめき声を無視して部屋を見る。部屋には特に変わった物はない。

タンスの中も漁ったがP90の私服しか出てこない。鍵がかけられている棚があったのでP90に開けさせてみたところ、紐としか思えないきわどい下着が大量に出てき

た。誰を相手にするときを使うのだろうか。AK-12に下着を広げられ、P90は頬を赤らめる。

「ちよつと、やめてよー」

P90の嘆きを無視し、事件のあった日なにをしていたか問い詰める。仮にP90が嘘をついてもメンタルをハッキングして調べればいいだけだ。

P90がそれぞれの事件があった日なにをしたか答え始める。

「そつ．．．その日は部屋でコスプレ衣装作ってたよ。久々にIDWの衣装作ってたんだ」

P90の言葉に違和感を感じたAK-12は目を開けてもう一度何なにをしていたか尋ねる。P90は正直に答えることにした。

「本当は、カルカノ姉妹の妹の方のコスプレして、きわどい写真を撮ってました。それを売ってお小遣いを稼いでましたごめんなさい」

P90の答えにAK-12とAN-94は驚かなかつた。一般的な基地であれば問題行動として買った人間の調査が始まり、P90も処分されるだろうが、この基地では些細なこととして扱われる。

定期的に死ぬ指揮官や自販機にいたずらと称して爆発物を仕掛ける人形、インチキ占いでお金を巻き上げる人形がいる基地ではP90の行為など問題にもならない。

AK-12とAN-94の二体は、P90は事件に無関係と判断して部屋からようとしたが、P90が二体を引き留め、どうしてこんなことをしたのか、半泣きになりながら問い詰める。

「AN-94、説明してあげて」

AN-94はP90に事件の事を説明する。説明を聞いたP90は武器を手に取り「あたしも協力する」と言い出した。彼女がシロなのは分かりきっているので休日を無駄にする必要はないと言ったのだが、彼女は聞かない。

「だって、あたしと同じP90がひどいことしてるんでしょ。それなら止めなきゃ。それに、そいつのせいであたしの休日は潰れたようなものなんだから。あたしも被害者だよ。報復しなきゃ」

AK-12はP90が調査に加わることを認めた。

P90を加えた三体はFive sevenの部屋に向かった。Five sevenの部屋を調べたが、彼女とFALのハメ撮り動画を発掘したくらいで成果は得られなかった。

次に三体は基地のサーバーームにあるコンピューターで各基地の指揮官について調べることにした。殺害された指揮官に共通点はなく、どこかで関わっている形跡もなかった。各基地の財政状況もいって普通で、治安上の問題もない。基地内で猟奇殺人

が起こる理由が見当たらない。

「ねえ、これみて」

P90がモニターを指さす。P90はAK―12の指示でこの基地の指揮官の動向を調べていた。他の基地の調査だとデータベースをハッキングしなければいけないが、この基地内を調べるだけならその必要はない。モニターには一階の階段が映し出されている。時刻は深夜三時で普段なら寝ている時間帯だ。そんな時間に指揮官は地下一階から上がってきた。AK―12達は指揮官が地下に降りていく映像を探してみたが、その映像は見つからなかった。どういうことなのだろうか。

「AN―94、P90。先に指揮官のところへ行つて」

AK―12の言葉に従い、二体は指揮官の元へ行く。残ったAK―12は目を開き、端末にアクセスする。

・・・二時間後

「AK―12はまだこないのか」

執務室では指揮官と二体の人形が待っていた。P90はソファ―に座り足を投げ出

し端末を見ながらくつろいでいる。くつろいではいるのだが、銃はいつでも手に取れる所に置いている。AN-94は指揮官の後ろで待機している。二体ともAK-12の意図を理解していた。

指揮官を逃がしてはいけないということを。

指揮官はすでに今日の業務を終え、明日の準備も整っているが、AN-94とP90が帰してくれない。やることがないので執務室の端末で映画を見ていた。主人公は軍人で、アメリカ軍と日本のジエイタイという軍が合同演習をしているさなか、エイリアンが襲来。ジエイタイの船は破壊され、米軍の船に救助され、ジエイタイの乗組員と米軍が協力して宇宙人と戦う。奮戦するも船はポロポロになり敗走することになる。当たらない一同に暗い雰囲気も主人公はミズーリで戦うことを思いつく。一行は記念館であったミズーリに乗り込み、かつてミズーリの乗組員であった老人たちの助けを借りながら宇宙人を撃破するストーリーだ。戦艦がドリフトをするシーンが人気が高い。

その映画も見終わったのだが、まだAK-12は来ない。

指揮官は帰ることにした。単純に待っているのが面倒になっただけではなく、なにか嫌な予感がしてきたのだ。

指揮官がドアノブに手をかけた瞬間、外から勢いよくドアが開けられた。指揮官はド

アに鼻を打ちつけ地面に倒れる。

「あら指揮官、床で寝るなんて行儀が悪いわよ」

ドアを開いて登場したのはなぜかスーツ姿のAK-12。指揮官は鼻をおさえながら立ち上がる。そして余りにも遅いことに文句を言うがAK-12は聞き流した。

「この事件の全容が掴めたわ」

AK-12がそう宣言する。指揮官もそこまでは予想していなかったらしく目を見開く。

一同の反応を確かめ、AK-12は調査の結果を発表する。まるで推理を披露する探偵みたいに。

「結論から言うとなね。この基地に例のP90は来てるわ」

AK-12の言葉に指揮官と人形二体は驚く。指揮官は部隊を向かわせるから早く言えと続きを促す。

AK-12は指揮官に「落ち着きたまえワトソン君」とスルーし説明に入る。

事件が起こっているのは間違いない。それぞれの基地の指揮官と人形は確かに死亡していて、殺人事件として捜査されている。そしてグリフィン本社にも報告が行っている。

ただし捜査は各々の基地で行われていて各基地は連携していない。

各基地に他の基地でも事件が起こっていることを知っているか聞いたが、どの基地も他の基地でも同様の事がおこっていることは把握していなかった。

「これだけなら十分あり得るわ」

さらに彼女は続ける。グリフィン本社の記録を調べたが、S13地区になにかを命じた記録がない。これはどういうことなのだろうか。ヘリアンにも確認したが、この基地に連絡した事実はないそうだ。指揮官の様子に変化はない。もう少し揺さぶりをかける必要があるそうだ。

AK-12は続けて監視カメラに映った指揮官の映像についての話を始める。

「基地のカメラに指揮官が地下から上がってきた映像があったのよ。けれど、降りて行った映像はなかった。これって何かおかしくないかしら」

そう言い、AK-12は指揮官に近寄る。そして指揮官の顎を指で軽く持ち上げる。AK-12と指揮官の目が合う。そう、目が合った。

「あなたは誰なのかしらね」

指揮官は答えようとすることも焦りからうまく答えられない。自分が本物の指揮官でないことはバレている。だが、どうやって成り代わっているかはバレていない。考えろ………考えろ………

指揮官は少しずつ後ろに下がる。AN-94とP90はそれとなく銃のセレクター

を解除する。

壁にぶつかつた指揮官は三体を見る。AK―12の眼は見開いていて、AN―94とP90も銃のグリップに右手が添えられている。

AN―94とP90が銃を構えようとした時、指揮官に変化が起きた。

肉体が瞬く間に変化し、グリフィンの制服を着たP90になつたのである。P90の腕には人の物と思われる肉片がこびりついている。

AN―94とP90は即座に銃を構える。

グリフィンの制服を着たP90は両手をあげる。

「ありやいやー、指揮官死んじやったかー。まあ血管傷つけたつばいし仕方ないかー」

AK―12もこれには予想外だ。AN―94にP90を拘束させ、どうやって指揮官に成り代わつたのか答えるよう迫る。

するとP90はあっさりと答えた。

元々別のPMCに所属していたが、任務で廃棄された研究所の調査をしたときにこの黒曜石のナイフを入手。ナイフの横には説明書もおいてあり、その説明書には人の肉片を切り取りそれを身に着けるとその人物に成り代われると書いてあつた。最初は信じず、ただの工芸品として自分の懐に入れていた。

ある時、誤射で指揮官に重傷を負わせてしまった。指揮官はその時点でまだ生存して

いて、すぐに救命処置を施せば助かった。だけど彼女は救命措置を施さず、手に入れたナイフを試してしまふ。指揮官の肉を切り取り指揮官に成り代わったP90はそのまま逃走。指揮官が死亡したことで自由の身になり、そこからは今まででできなかったコスプレに挑戦したり、活動資金がなくなれば人間を拉致し肉をはぎ取り、その人物に成り代わって資産を全て引き出し、殺害する。そんな生活をしていたある日、ある依頼を受けた。内容は成り代わる人間をグリフィンの指揮官にしてくれ。提示される報酬に二つ返事で承諾した彼女は潜入し殺害を繰り返していたが今ここで捕まった。

AK-12が依頼主の名前を答えるように迫るがP90は答えない。

「そりゃあ、依頼主の名前を答えるわけないでしょ」

自分と同じ姿をした人形の凶行に堪えきれなくなったのだろう。こちら側のP90がこのP90の脚に発砲する。

脚を撃ち抜かれたP90は痛覚をカットしているのか声を出さず、こちら側のP90に馬鹿にしたような笑みを浮かべる。

こちら側のP90はさらに激高してセレクターをフルオートにするが発砲する直前でAN-94が取り押さえる。

AK-12はこちら側のP90が落とした武器を取り脚から血を流しているP90に突きつける。

「早く答えなさい。じやなきやバックアップのない状態で自分の名を冠した武器で死ぬことになるわよ」

それでもP90は答えない。答えないとよりそもそも……。「答えるわけないじゃん。そもそも……」

なにかを言おうとしたP90だが、突然呻きだし倒れる。そのまま白目を向きP90は動かなくなった。なんらかの要因でマインドマップが崩壊したのだろう。

AK-12、AN-94、P90はそれぞれの銃で黒曜石のナイフを撃つて粉々に砕いた。

そしてハッキングされた軍用人形を呼び出し、このP90のボディを死体袋に詰め、ナイフの破片をポリ袋に詰めさせた。そして山に行き自爆するように指示を出した。

さらにこちらのP90のマインドマップにハッキングを行い、自室に戻り睡眠をとることと目覚めたら今回の出来事をすべてを忘れるよう設定した。

グリフィンの宿舍からP90の叫び声が響き渡る。

「あたしの部屋がー、WA2000のコスプレ衣装がー」

その叫び声を聞きつけたとあるライフル人形がP90の部屋に怒鳴り込み、廃棄したはずの自分の服を発見し激怒。キレたライフル人形はP90の衣類をすべて引き裂き、P90はしばらく極貧生活を送ることとなった。

34. AK-12の眼は直死の魔眼ではありません。銃で撃つて物を壊しても眼の効果じゃなく銃弾の威力です。

34-1. AK-12に従順なAN-94を騙してはいけません。

第三十五話 四式「AK—12はクルーガー社長×指揮官のBL同人誌をカフェの本棚に置いてはいけません」

ここはグリフィンS13地区。特徴がないのが特徴の地区である。当然のことながら基地も特徴がない。ゲームと変わらぬ標準的な基地だ。

そんな基地にあるカフェから今回の物語は始まる。

グリフィンのカフェと聞いてなにを思い浮かべるだろうか。コーヒー？マフィン？そう、スプリングフィールドである。

彼女は開店の準備をしていた。朝の仕込みを終え、一息ついていた所、カフェのドアが開けられた。開店前なのに中に入ってくる迷惑客なのであろうか。

過去にそのような存在はいた。半月前に着任した指揮官はその類だった。着任二日目、開店前のスプリングフィールドのカフェに客として入ってきた。優しい彼女はまだ開店前なので外で待ってもらおうよう伝えたが、自分はこの基地の指揮官だと強引に入ってきて椅子に座って「コーヒー」と注文。仕方なく彼女はコーヒーを淹れ、銃剣で指揮官の喉に穴をあけ、そこから飲ませてあげた。スプリングフィールドが喉から直接コー

ヒーを飲ませてくれるサービス、しかも無料。これを読んでいる読者の皆さまもこのサービスを受けてみたいと思うはずだ。

その事件を機に、開店前にカフェに入ってくる愚か者は現れなくなった。ちなみに指揮官は花壇の中で私たちを見守ってくれている。

スプリングフィールドは銃剣を隠し持ちドアが完全に開くのを待った。

「表の看板にも書いてますが、まだ開店前ですよ……あら四式さん？」

入ってきたのは四式、ライフルの戦術人形だ。彼女は入ってきてあいさつより前にはない大きな声で宣言する。開店前に入ってくる客の末路はこの基地の全員が知っているからだ。

バックアツプから復活できる戦術人形といえど怖い物は怖いのである。

「そんなに怖がらなくても大丈夫ですよ。客ではないというのならどういいうご用件でしようか」

スプリングフィールドは優しい笑顔で四式に尋ねる。四式としてはそれでも怖い。彼女はこの笑顔のまま銃を撃ちサイドアームの銃剣で敵の喉を切り裂くからだ。

四式は勇気を出して要件を言う事にした。

知つての通り四式はネットで指揮官の日常をテーマにした漫画を連載している。だが四式はそれだけに満足せず新たなジャンルに挑戦した。

そして完成した漫画をこのカフェにおいてほしいと頼みに来たのだ。四式は漫画を渡し、スプリングフィールドはそれを読む。

ページをぱらぱらとめくり時折「あらあら」と言いながら最後まで読み終える。

読み終えたスプリングフィールドは四式が制作した本を置くことを許可してくれた。ホントは言っても俗にいうウスイホンなのだが。

四式は頭を下げお礼の言葉を述べる。そして部屋に戻っていった。

四式が店を出た後、彼女は本にカバーをかけ、本棚に収めた。

・・・数日後

指揮官はAK-112とともに廊下を歩いていた。S113地区婦人会にバザーの警護を依頼され、当日の警備について打ち合わせを行っていた。規模の小さい催しものなので、打ち合わせはすぐに終わり早く基地に戻ってこれた。そのまま執務室で一息つくころと思っただが、先ほどからすれ違う人形達の様子がおかしい。こちらを見るなりヒソヒソと何かを話し始める。ある者は指揮官を見て顔を赤らめる。そしてある物は「AK-112×指揮官とか解釈違い。いやでも男性化すればあるいは・・・」などと意

味不明なことを口走っている。

執務室に戻った指揮官はAK-12になにか知っている聞いてみた。

「四式がね、指揮官をモデルにした漫画を描きたいって言ったのよ。そしてそれを製本したいって。当然許可したわ」

自分をモデルにされるのはいい気はしないが漫画といってもほのぼのした漫画だろう。指揮官は四式が連載している漫画を読んだことがあった。なんということもないほのぼのとした漫画だった。今回もそのような漫画だろう。すれ違った人形達の反応からしてラブコメの類なのだろうか。

「次からは僕の許可を取るようにね。それはそれとして、どういう内容の漫画なんだい？ラブコメかな？」

指揮官の質問に彼女はラブコメねと答える。AK-12はAN-94と一緒にカフェで四式の漫画を読んだことがある。拡大解釈をすればきつとラブコメだと思った。ただし、指揮官の予想とは違だろうが。

指揮官は確認もかね、スプリングフィールドのカフェに向かった。

・・・スプリングフィールドのカフェ

指揮官は店に入ると何体かの人形達の視線が自分に向くのを感じた。久々に訪れた

から驚かれたのだろう。

「あら指揮官、お久しぶりですね」

スプリングフィールドも内心驚いていたが、普通に対応する。指揮官はコーヒートとサンドイッチを注文した。数分で出来上がった。彼女が作る特製タマゴサンドは美味しい。サンドイッチを食べた指揮官は本棚の所へ行き、四式の書いた本を探した。彼女に四式の書いた本はどれなのか聞いてみたが、言い淀んでいる。確かに、モデルの人物に聞かれたら言いにくいだろう。

「それだよそれ、その薄い本。店長お金ここに置いてくねー」

スプリングフィールドを見かねたわけではないのだろう、なにかを企んでいるような薄笑いを浮かべたMDRが教えてくれた。

指揮官は本を手に取りページを開く。本の薄さから四式はアメリカンコミックに挑戦したのかと思った。そして開いたことを後悔することとなる。

クルーガー社長の自宅へ招かれた指揮官。指揮官はソファに座るように言われ、座り心地の良いソファアに座る。クルーガー社長がシャンパンを振る舞ってくれた。乾杯し、シャンパンを飲む。緊張していた指揮官だったが、シャンパンの味と普段とは違う

フランクなクルーガー社長の話しやすさにすっかり緊張は解けていた。指揮官から話題を出しにくいだろうと社長からさまざまな話をしてくれる。そして指揮官も自分が思うことを伝える。基地のこと、戦術のこと、グリフィンの将来について思うことなどいろいろなことを話す。人形の待遇についても話した。指揮官は人形思いなようだ。

社長と話しているうちにシャンパンの瓶が空になっていくことに気づく。立ち上がった指揮官だが酔いが回っているのかよろけてこけそうになる。それをクルーガー社長が抱き留める。

そして指揮官をソファアに座らせ冷蔵庫から二本目のシャンパンを取り出し、コルクを外し、中の液体を注ぐ。

クルーガーは指揮官の様子を確認する。そして彼の視線がこちらに向いていないことを確認し、ポケットからピルケースを取り出す。そして中に入っている薬を一錠入れる。

指揮官にグラスを持たせ乾杯し、二人とも一気飲みする。そして話を再開する。好きなミュージシャンや好きな異性のタイプ、休日は何をするのかなどプライベートなこと

に。
薬の効果かアルコールか、社長の前で酔いつぶれるわけにはいかないと必死だった指揮官だが、眠気に抗いきれずに眠りに落ちてしまう。

クルーガーは指揮官を抱きかかえ、寝室に向かう。そして指揮官のワイシャツのボタンを外す。女性かとも思えるくらい白い肌。そしてその細さを強調するような鎖骨。

指揮官の白い肌に触れる。アルコールの影響だろう、体温が高い。

そして指揮官の股間を撫で、ズボンのベルトを外し、脱がせていく。下着類も脱がせ、クルーガーも服を脱ぎ全裸になる。

全裸になったクルーガーは棚からローション、潤滑剤注射器を取り出す。ローションを注射器にいれたが挿入はしない。まずは指揮官の肛門周りに手でローションを塗り、指を少しずつついで肛門をほぐし、注射器を入れてローションを注入する。そして自身の肉棒にもローションを塗り、指揮官の肛門に……。

翌朝、指揮官は強烈な頭と肛門の痛みを感じた。頭痛は分かる。昨日クルーガー社長と酒を飲んでいて二日酔いなのだろう。社長の前で酔いつぶれるとは難たる失態を犯してしまったのだろうと指揮官は焦った。

「おはよう、指揮官」

横から声がする。指揮官の横にはなぜか全裸でベッドに腰かけているクルーガー社長がいる。

指揮官は慌ててベッドから降りあいさつをする。そこで指揮官は自身が裸であることに気づく。そして肛門から白く濁った液体が垂れていることも……指揮官の

頭は真っ白になる。

クルーガーは部屋に備え付けられていたテレビをつけ、映像を再生する。そこにはクルーガーと絡み合い、女性のような喘ぎ声を出している指揮官がいた。クルーガー社長に貫かれ、前をしごかれ、肛門に精液を注入され、女のように絶頂している。

ショックで膝から崩れ落ちた指揮官はうずくまりうわごとのように何かをつぶやいている。クルーガーは指揮官の肩をつかみ、体をこちらに振り向かせ、頬を軽くたたき、意識もこちらに向けさせた。そしてグリフィン社では決して見せないような笑みを浮かべ……。

「指揮官、君は本当に有望な社員だな。ならばこの映像が君の部下にもれたらどうなるかわかるだろう」

指揮官は歯をがたがた震えながらも「分かりました」とうなづく。

「よろしい。君と君の人形については資源についても優遇しよう。私の有望な社員であるうちはね」

にやりと笑うクルーガー社長。

自身のモノを口で掃除するように言われ、指揮官は膝をつき、彼の股間に顔をうずめ……。

指揮官は最後まで読むことができなかつた。せいぜい少し過激なラブコメだと思つていたらまさかの男性同士の行為を描いたアダルト漫画。そして睡姦されているのは自分。過去の忌々しい記憶がフラッシュバックしたが、なんとか平静を保つた。

指揮官は飲食代を払い、この本はカフェに置かないよう指示を出し、四式に今すぐ執務室に来るように連絡をした。

執務室にやってきた四式は指揮官の表情をみて固まってしまった。普段の指揮官は温和でいつもニコニコとしているのだが、今日はいつになく厳しい表情を浮かべている。

「四式、僕がなんで呼び出したかわかるかい？」

指揮官が四式にそう問いかけるも四式は本当に理解できない。四式は考える。ライフルの戦術人形が一人呼び出されるということ。そして先ほどまで指揮官は警護の依頼の打ち合わせに行っていた。なるほどこういうことでもありますか。

「不審者を狙撃するのでありますねっ！お任せくださいしゆく……指揮官殿」

四式は自信満々に答える。指揮官は四式が執務室に呼ばれた理由を理解していると思つていた。全く理解できていなかったことに驚く。

「カフェにあった漫画を見たよ。細かいことは気にしないつもりだけどあそこまでひどいのはさすがに許容できない。ひどく不快だ」

指揮官の答えに、四式はシヨックを受ける。自分の漫画が不快だと言われるとは思っていなかったのだ。

「どっ、どこが不快なのでありますか？すぐに修正するであります」

怒鳴りそうになったが、必死に怒りを飲み込み、落ち着いて指揮官は四式に説明を始める。

「そういうことだったのでですね。分かったであります！」

三十分後。やっと四式は指揮官の心情を理解してくれた。戦術人形であるために、人間の心情について理解がないだけと思いたい。

四式にカフェに置いた漫画の撤去を指示し退出させた。

四式は基地の廊下をトボトボと歩いていた。もともと指揮官を題材にしたネタを描いていてなにも言われなかったから大丈夫だと思っていた。楽しんでくれなくてもあそこまで言われるとは予想外だった。指揮官の前では気丈に振る舞っていたがやはり耐えられそうにない。

トボトボと歩いている彼女に声をかける人形がいた。

「あら四式じゃない、どうしたの浮かない顔して。指揮官に怒られた？」

声をかけたのはAK—12だ。四式はどう答えるべきか迷った。彼女のことは知っていても余り関りが無いのだ。

「なにかあるのなら聞いてあげるわよ。私は副官だし、いろいろ知っているわ。今回のコトもね」

四式はAK—12に話すことにした。よかれと思つて漫画を描いたこと、指揮官がそこまで嫌がつているとは思わなかったこと、自信がなくなってきたこと。

「指揮官は自分が凌辱されるのが嫌といったのよ。あくまでもされる側。そして四式、あなたはこれくらいで諦めてはだめだと思つわ。私もあなたの漫画、楽しみにしているわ」

他者を励ますことなど柄じゃないと思いつながらもAK—12は四式を勇気づけた。彼女の特異なチャレンジ精神を摘んでしまうべきではない。その方が面白い気がしたのだ。

話してだいぶすつきりしてたのか、四式はAK—12の言葉でいつもの表情を取り戻した。

「ありがとうございますAK—12さん。吾輩、頑張るであります。早速資料集めしてくるのであります！」

四式はそう言い走り去っていった。

・・・数日後

指揮官は両手に紙袋を提げて街を歩いていった。バザーの警護はガリルとSV-98が担当なのだが念のため指揮官は様子を見に行つた。二体ともご婦人たちとうまくやれているようだった。ガリルは馴染みすぎてご婦人たちと一緒に手芸品を売っていた。婦人会が依頼してきたのは警備であつて手伝い要因ではないのだが、皆がよしとしているからよしとしよう。

指揮官が持つている紙袋の中にはご婦人たちから渡されたお菓子や手芸の品がぎっしり入っていた。指揮官は線の細い金髪碧眼の美青年だ。そんな青年が来たことにご婦人たちは喜び、久々に訪ねてきた孫のごとくお菓子を食べさせ、土産物も持たされた。FNCを連れて行けばよかつたかもしれない。

ここに来るまで、街の入り口までは車で来たが、そこからは鉄道に乗り会場まで来た。腹ごなしのために一駅程歩くことにした。そして今に至る。他の地域だと危なくてグリフィンの制服を着たまま一駅歩くことなどできないがこの地域は治安がいたため可

能だ。

基地に戻った後カーナにどれくらいの報告書を押し付けるか考えていた指揮官は後ろから来る車に気が付かなかつた。車は指揮官の横に停車し、中から目出し帽をかぶった男たちが出てきた。彼ら無言で指揮官を車の中に引きずり込み、手足を縛り、薬を嗅がせ、意識を奪った。そして車は発車し、後にはご婦人たちの真心がこもった品物だけが残った。

・・・どこかの廃墟

指揮官は目を覚ました。起き上がろうとしたが手足をベッドに縛り付けられていて動けない。声を出して助けを呼ぼうにも猿轡をかまされていて声が出せない。

目隠しはされていないので部屋の様子を見る。窓はなく、壁にはSMプレイで使われそうな道具が陳列されている。それを見て指揮官は過去の事を思いだしたが、パニックになったら誘拐犯の思うつぼだと必死に言い聞かせた。自分はもうグリフィンの指揮官で、ここには叔父たちはいない。

指揮官が目覚めたことに気が付いたので、誘拐犯たちが入ってきた。

入ってきたのだが、見た目がおかしい。誘拐犯は四人いて体系もバラバラなのだが、全員覆面に白のブリーフとニーソックスだけを身に着けている。

これには指揮官も理解が追い付かなかった。

彼らは自分たちを『種付けオジサン達』と名乗った。指揮官は猿轡を嘯まされているからなにも言えない。男の一人が指揮官の猿轡を外す。喋れるようになった指揮官は何が目的かと聞く。まずはこの異様な見た目の男たちの目的を聞き出さなければいけない。

「目的ねえ。それはこれだよ」

そう言つて指揮官の股間を触り、男は自身の陰部を膨張させる。指揮官は一気に背筋が冷える。その可能性が頭になかったわけではないが、まさか本当になるとは思つてもみなかった。

そこへもう一人入ってきた。五人目だと思つた指揮官は意外な人物の登場に驚く。入ってきたのは四式で、手にはタブレット端末を持っている。

四式は男たちと親しげに話した後、壁際に移動した。

「撮影とスケッチの準備が整ったであります！」

四式の言葉に男たちはハサミを取り出し指揮官の服を切っていく。コートを切り落とし、ワイシャツを切り落とし、インナーのシャツを切り落とし、上半身を露にする。

「四式、これはどういうことっ……」

指揮官が四式に問い詰めようとしたら、男の一人に唇を奪われ言葉を中断される。男

のざらついた舌が指揮官の口内を蹂躪する。指揮官は抵抗するも男は指揮官の顔を押しさえつけえいて逃れられない。

四式は移動しながらタブレットにペン型端末で絵を描いている。

男が唇を離し、指揮官がもう一度四式を問い詰める。

「なについて、次の漫画の資料であります。次の漫画は指揮官が攻める側であります！この人たちはアルバイトであります」

ふざけるなど言おうとしたが、今度は別の男に唇を奪われる。一人が指揮官の唇を奪う間、残りの男たちは指揮官のズボンをハサミで切り、下着姿にさせる。

細く男とは思えないきめ細かい肌。体毛ひとつも生えていない体。四式としても思わず「おおつ」と声を唸らす。子供の頃はさぞや美少年だったに違いない。そんな指揮官が両手両足を束縛され、今まさに下着に手をかけられようとしている。

下着にハサミを入れる瞬間、男たちの一人がストリップをかけ、四式に声をかける。

「四式ちゃん、今から指揮官のパンティはぎ取っちゃうけどいい？」

男は筋骨隆々の体系に合わない女性口調で四式を氣遣う。

四式は平気だと答え、グリフィンの指揮官は格闘訓練も受けているから気を付けてほしいと逆に男たちを氣遣う。

男の一人、肥満体が注射器を取り出す。肥満体は指揮官の静脈に注射をする。薬に詳

しくない者でもわかる。きつとよくない薬なのだろう。四式がどういう薬なのか聞くと、いくつかの違法薬物を混ぜ合わせた物で、筋力を抑制し、皮膚感覚が敏感になる効果があるという。

「配合は流石に四式ちゃんにも教えられないなあ。悪いねー」

四式としては別に知りたくもなかったが残念でありますと答えておいた。日本銃由来の戦術人形なので、社交辞令もできる。

男たちによりハサミで指揮官のパンツが破られ、一糸まとわぬ姿にされる。下着に隠れた指揮官の股間部分もとても美しく、男女問わず放っておかないだろう。

四式もまじまじと見つめる。

「これは綺麗だ。舐めるとさぞや美味しいだろう」

男の一人、小男が指揮官の股間に顔をうずめる。指揮官は余りの気持ち悪さに叫び声をあげる。小男はいったん顔を離し、ティッシュで指揮官の股間を拭き、最後の一人、高身長の人に場所を譲る。高身長は指揮官の股間を握ったり頬にこすりつけたりして堪能した後、指揮官の腰を持ちあげ菊門に指を入れる。

「おい、こいつ初めてじゃないぞ。開発済みだ」

男は指を入れた感触で指揮官に肛門性交の経験があることを見抜く。

過去のトラウマをほじくり返され、指揮官は必死に抵抗するも薬の影響で力が出な

い。

男たちは指揮官の身体能力が十分に落ちてしていると判断し、足の拘束を解く。指揮官は逃げようとするが筋骨隆々に押さえつけられる。そして足を開かされ、肛門にシリンジを挿入され、水を注入される。指揮官は喚くも止まらない。そして小男が尿瓶をかかえ、指揮官の肛門にあてがう。そして高身長が指揮官の腹部を刺激し、指揮官の肛門から液体が排出される。

それを数度繰り返し、今度はローションを注入する。引き続き抵抗するも力で押さえつけられどうにもできない。不快感と恐怖から過去叔父とその仲間たちに凌辱された出来事がフラッシュバックする。

四式は最初、鼻を抑えていたものの、臭いに慣れたのかスケッチを再開している。

そして指揮官の菊門が十分に柔らかくなったところで、筋骨隆々がブリーフを脱ぎ股間を大きくして指揮官の菊門に……。

「やめろおおー！」

指揮官の絶叫が響き渡る。

・・・数十分後

指揮官の全身は白濁液まみれになっており、菊門はや口はもちろん、耳や鼻からも白濁液が流れ出ている。全身くまなく凌辱されたことがうかがえる。

四式は嗅覚センサーをカットしながら必死に資料となる絵を描き続けた。四式の頭の中にはもう、漫画の構図が思い浮かんでいる。

「あら、動かなくなっちゃったわ。というか心臓止まってるわねこれ」

筋骨隆々がそう呟く。首絞めセックスで窒息死したのか、精液を飲ませ、それが喉に詰まり窒息死したのだろうか。

四式は我に返る。指揮官が死んだのは仕方がない。しかしこの状況だと四式にまで捜査の手が及ぶ。四式は必死に考える。

考えた末、一旦部屋の外に出る。そして銃を構えながら突入し、一人ずつ心臓と脳に弾丸を叩きこんでいく。四式自動小銃の装弾数は十発。筋骨隆々には二発ずつ叩きこんだ。

男たちを全員殺害した四式は、指揮官の遺体に泣きつき、AK-12を呼ぶ。

AK-12には指揮官が拉致された現場に踏み込んで犯人を射殺したと泣きながら説明した。指揮官は既に亡くなっていたと。

「指揮官殿、我輩がもっと早く駆けつけていれば」

説明を受けた彼女はハッキングされた軍用人形を呼び出し、指揮官と男たちの死体を死体袋に入れ、運び出すよう指示をする。死体は山にでも捨てられるのだろう。

最後にAN―94が部屋にガソリンと爆発物を設置し、皆が外に出たところで起爆した。これで全て燃え尽きた。後は住民が消防に通報するだろう。

「四式、借りひとつよ」

全てバレている。

基地に戻った四式は三日間不眠不休で指揮官が攻めの漫画を書き続け、印刷所にデータを入稿し、本を完成させた。

そして完成させた本のうち、一冊は自分用、もう一冊はAK―12へ。残りはスプリングフィールドのカフェに納入した。

ちよつとだけ過激な読み物としてグリフィンの人形乙女たちに好評である。

35. AK―12はクルーガー社長×指揮官のBL同人誌をカフェの本棚に置いてはいけません。

35-1.
指揮官×クルーガー社長でもです。

第三十六話 スプリングフィールド「AK-12がスプリングフィールドを口説くことは許可されていません。そつちはすでに別のキャラとのカップリングが定着しているからです」

ここはグリフィンS13地区。特徴がないのが特徴の地区である。当然のことながら基地も特徴がない。ゲームと変わらぬ標準的な基地だ。そんな基地の中にあるカフェから今回の物語は始まる。

グリフィンの基地内にあるスプリングフィールドのカフェ。いつもならそれなりに人がいるのだが、今日は給料日前日で人が少ない。人形達の大半は値段の安い食堂で休憩時間もすごしている。

現在の時刻は十九時。夕食の時間帯だ。それでも人が来ないから早めに閉店すべきだろうか。どうするか思案していると、ドアが開いた。

「お邪魔するわね」

入ってきたのはAK-12だ。彼女はスプリングフィールドの目の前のカウンター席に座りコーヒーとマフィンを注文した。

淹れたてのコーヒーと焼きたてのマフィンを味わうAK-12なのだが、スプリングフィールドは気になっていた。彼女がこちらを見ているような気がするのだ。

食べ終わったAK-12は会計しようとする。スプリングフィールドが値段を言い、彼女は財布を出すのかと思つたらスプリングフィールドのあごに手を当てる。

「スプリングフィールドってそんな綺麗な顔してるのに誰とも噂にならないなんてね。よければ今夜私の部屋に来ない？ AN-94は任務でいないのよ」

まさかの夜のお誘いである。AK-12はそういうことしそうにないのだがどうしたのだろうか。スプリングフィールドが理由を聞こうとする前にAK-12は床に伏せた。そして響く銃声。

「アンタ、なにスプリングフィールドを口説いてるのよ！ かつ、勘違いしないでよね、アタシはスプリングフィールドが嫌がつてるから止めに来ただけなんだから。けっしてアタシのスプリングフィールドをとられるのがイヤっていうわけじゃないんだからねっ！」

どこからともなく登場したのはWA2000。ツンデレの戦術人形だ。スプリング

フィールドがAK-12に口説かれてすぐライフルとは思えない速度でAK-12を射殺できるポジションに移動し、銃撃を加えた。狙ったのは手足ではなく胸部である。胴体のどこかに当たれば動きが止まり、二発目でとどめを刺すつもりであった。理由は本人が述べたとおりである。

AK-12は伏せたまま横に転がった。またもや銃撃である。銃声からして別の人のようだ。

「チツ、外してしまいましたか」

次に現れたのはリー・エンフィールド、メシマズの戦術人形だ。戦術人形であっても彼女の料理を食べてはいけない。彼女もWA2000と同じような理由だろう。

AK-12は立ち上がりそのまま逃げて行った。WA2000とリー・エンフィールドはいつのまにか姿を消している。

倒れたテーブルを片づけていると新たな客が来た。

AN-94とMP7である。彼女たちもコーヒーと軽食を注文した。

「しっかし、このコーヒー美味しいよね。ねえ、スプリングフィールド店長、これって淹れ方とかコツがあるの？」

スプリングフィールドは笑みを浮かべる。

「秘密ですわ」

そう答える。MP7もなんとなく聞いただけで本当に答えてくれるとは思っていない。MP7はいくつかの基地を渡り歩いてきたことがあり、そのいずれの基地にもスプリングフィールドがいてカフェをやっていたのだが、この基地が一番美味しい。

図鑑 No. 036 名前 スプリングフィールド

銃種 ライフル

収容プロトコル

スプリングフィールドは収容されていません。普段はS13支部の戦術人形として治安維持や鉄血の駆除、カフェの店長としての勤務に当たっています。温和な性格で本人が胃として問題行動を起こすことはなく、グリフィン本社や16Labの人間に対しても協力的です。

サイト収容が提案されましたが、収容にあたるはずだった人員が全員行方不明になったので、現状維持されることになりました。よって彼女は収容されていません。監視員による監視のみとなります。

説明

スプリングフィールドはI. O. P社が作り出した戦術人形です。彼女の戦術人形としての性能は他の個体と変わりはありません。

性格についても他の個体と同じで大人びた温和な性格で包容力があり女性に慕われています。

普段はカフェを切り盛りしていて迷惑客は厳しいですが、美味しいコーヒーと軽食が評判です。

彼女の異常性は彼女が淹れるコーヒーにあります。

特殊な装置を使い、彼女は人をコーヒーの種子に変容させます。人から変容させられたコーヒーの種子を36—aと呼称します。回収された36—aは一般に流通されていない???コーヒーと同等の外見的特徴と官能的評価を持ちますが、36—aは地面に植えても発芽せず、通常の方法では発生しないことが分かっています。

36—aは???コーヒーに混じりS13基地内で流通しています。戦術人形や職員が豆を購入し、自室でコーヒーを入れる事がありますが、そのうち30%が30—aであると産出されています。

36—bは人を36—aに変容させる装置です。内部は成人男性一人分を収納できるスペースがあり、内部に人を入れた状態で稼働させる事で異常性が発揮されます。稼働から5分程度で内部の人間（以下、罹災者と呼称）に異常な細胞分裂を促進させ、肉

体を36-aが満載になるまで肥大化させます。この肥大化は数日間にわたり進行し、その間罹患者は強い苦痛を訴えます。肥大化が完了し終わると肉体は徐々に崩壊を始め、崩壊した部分から36-aに変容します。現在までに36-aを生成する装置は2カ所確認されていてその2カ所とも破壊しているのですが、36-aの流通が止まらないということは隠されている36-bがあると思われるです。

補遺

???地区の山岳地帯にて小型の36-b研究施設が発見されました。研究施設内部には抑留施設が発見されており中には血痕が残っていました。16Labは抑留施設より複数のDNA情報を入力し、一部において個人の特定が完了しました。以下は16Labによる鑑定結果です。

氏名：編集済み

備考：???貧困地区男性。窃盗の容疑で地元自警団に手配されていました。どのようにしてこの施設に運び込まれたかは不明です。

氏名：編集済み

備考：難民居住区出身と思われる男児。抑留施設からはこの少年の血痕が大量に発見

されました。他にも研究室で発見された用途不明の刃物や射的の的と思われる物からも動揺の反応が確認されており、この施設で重傷を負わされたと推測されます。

氏名：S13地区・指揮官

備考：自身が育った孤児院を運営している男性神父を殺害後逃走。どのようにしてこの施設に運び込まれたかは不明です。

氏名：??・??

備考：国籍不明の青年。日系の人物であることが判明していますが、詳しい個人情報とは分かっています。

補遺：2

16Lab機動部隊（“ティーパーティー”）が調査に訪れたところ、文書を回収しました。

当文書はボールペンを用いた手書きで作成されています。筆跡鑑定から人物の特定はできませんでした。当文章から36—aは素材となった人の状態により変化すると推測されます。以下は回収された文書の転写です。

・文書1

1人目：美味しくありません。装置の具合をテストするためとはいえもつと素材にこだわればよかったです。

・文書2

2人目：半月ほど拷問にかけ、味に深みを出しました。

形容しがたいまずさです。そして作られたとしかいえない苦さ。ですが苦痛から苦味をだすのはありかもしれません。

・文書3

3人目：指揮官が運ばれてきました。なぜここに指揮官が。資料をみると……
幼いころから苦労していたのですね。

指揮官はこのまま放り込みました。

出てきたものでコーヒーを入れてみました。ちようどいい苦味とスッキリした酸味です。苦労は買ってでもしろとはこういうことでしょうか

・文書4

4人目：可愛らしい男の子が運ばれてきました。どうしましょうか。まだジュニアス

クールにも入れない年齢ですし。沸騰したお湯で茹でてみようと思ひ服を脱がせると火傷の跡がありました。虐待でも受けていたのでしょうか。服も汚れていますし、男の子と一緒にシャワーを浴びて、清潔な服に着替えさせて、ご飯を食べました。最初は警戒していましたが、段々打ち解けてくれました。「おねえちゃんに引き取られてよかったです」と言ってくれた時は本当に嬉しかったです。数日間甘やかして信用を得た後、男の子に自分が人体実験の道具として引き取られたこと、実験の結果どうなるかを、映像付きで説明しました。そして少年を装置に入れました。少年は泣き叫んでいましたが、出来上がった物からコーヒーを入れてみたところ非常に美しい香りや適度な苦味。感情の変化が味を引き立たせるのでしょうか。

・文書5

5人目：青年が運ばれてきました。日系人とは珍しいですね。

目隠しされていたので外してあげると私の顔に見惚れていました。男の人は分からないと思いますが、女の私にはバレバレです。

今回は趣向を変えてみました。

目覚めた青年の猿轡もはずし、まずは彼の頭の上のつてあげました。苦しそうですね。苦しいだけじゃないですよね。

解放した後は私の胸でぎゅっと抱きしめてあげました。そしてよしよししてあげます。そうすると体を預けてきました。

かわいいですね。いったん離してキスをしてあげます。そこまで驚かなくてもいいのに。

そして抱きしめる。今度は苦しくなるまで抱きしめます。青年がもがいたところで離してあげてまたキスをして抱きしめる。この繰り返しを三回。

そうして青年の意識が蕩けてきたところで装置に入れます。

味は、温もりでは濃くならないようですね。薄いです。

・文章6

l k g ? ,
???

〔解読不能〕

l k g ? ,
?? 1

l k g ?? 4

「見積書と書かれた添付書類。署名が確認出来るが、染みによる劣化が激しく名前の識別は不可能」

・文書7

思ったより人間の命というのは安いんですね。まさか民生時代の私より安価とは思いませんでした。

36・AK-12がスプリングフィールドを口説くことは許可されていません。そっちはすでに別のキャラとのカップリングが定着しているからです。

第三十七話 M4 SOPMOD II 「AK-12があつても許可されていません。去年何をしたか忘れてるのか？」

ここはグリフィンS13地区。特徴がないのが特徴の地区である。当然のことながら基地も特徴がない。ゲームと変わらぬ標準的な基地だ。そんな基地の中庭から今回の物語は始まる。

グリフィン基地の中庭。この近くには救護室があり、動物を遊ばせるスペースにもなっている。今も猫や犬、鳥など、さまざまな動物が日光を浴びてくつろいでいる。

その中に二体の人形がいた。M4 SOPMOD II (以下SOPMOD) とAN-94だ。彼女たちはSOPMODが作り出した謎の人形M4 SOPMOD II Jr. (以下ジュニア) と戯れている。今はSOPMODがフリスビーを投げるとこ

ろだ。

「ジュニア、投げるよー」

SOPMODがフリスビーを投げる。ジュニアは全力で走りフリスビーをキャッチする。

フリスビーをキャッチして戻ってきたジュニアはAN-94にフリスビーを渡す。AN-94もフリスビーを投げる。ジュニアは勢いよく走り、フリスビーをキャッチして戻ってくる。

ジュニアが「ナデテ、ナデテ」と言ってくる。SOPMODを見るとなでてあげるように言ってきたのでなでてあげる。

しばらく二体でジュニアをなでてしていると突然ジュニアが怯えだした。ジュニアだけではなく他の動物も怯え始める。誰かやってきたのだろうか。

「ぬいぐるみと戯れるのね。AR小隊の狂犬もかわいいところがあるのね」

やってきたのはAK-12。彼女が来た途端ジュニアは怯えだした。ジュニアを庇い、AK-12を殺意のこもった視線で睨みつけるSOPMODだが、AK-12は一切気にしていない。

「AN-94、任務よ」

AK-12は一言だけ告げ、戻っていった。AN-94はSOPMODに行ってくる

と言い、AK-12の後を追いかけていった。

図鑑 No. 056 名前 M4 SOPMOD II

銃種 アサルトライフル

特別收容プロトコル

M4 SOPMOD II (以下SOPMODと略称)は收容されていません。AR小隊として鉄血との戦闘やパラデウスとの戦いに従事しています。彼女の作る物も対象以外は猟奇的なだけで異常性は存在しないので收容の必要がありません。

彼女が再びM4 SOPMOD II Jr. (以下056-aと呼称)を作成した場合は速やかに破壊し、こちらが用意したレプリカとすり替えてください。その際はカバーストリー「ジュニアちゃん行方不明」が適応されます。

現在は16Labの收容施設、『サイト24』のどこかにいると思われます。このサイトへの鉄血部品とぬいぐるみの持ち込みを禁止します。AR小隊はこのサイトへ立ち入ることは許可されません。

追記：??年?月?日より妊婦の立ち入りも禁止されました。

説明

SOPMODはI・O・P社が作り出した戦術人形です。彼女はAR小隊の一員として任務に従事しています。

戦場では残酷な一面をみせ、鉄血人形のパーツを収集する癖がありますが、AR小隊の姉妹の中では精神年齢が幼く、同僚や指揮官に対しては人懐っこく親しみやすい人形です。

鉄血のパーツを収集している関係か、機械工作の技術が高く、さまざまな物を制作しています。彼女の制作物の大半は異常性がありませんが、鉄血の残骸から作られたM4 SOPMOD II Jr. と呼ばれる物は収容の対象です。

M4 SOPMOD II Jr. (以下0561aと呼称)の外見はSOPMODをデフォルメした愛らしい自立人形です。自発的に移動する能力を持ち、コミュニケーションが可能です。旧式の言語機能が乏しい人工知能と同程度の処理能力があります。0561aは多くに人が愛らしいと感じる方法によって人や人形に愛情を示します。「あそぼ」と話しかけて遊びをねだったり、歌やダンスを披露したり、猫のように狭い隙間を潜り抜ける柔軟性を示しました。交流した全てのスタッフが好意的な反応を示しています。

通常は人形に対して差別的な反応する技能実習生でさえも、そのようなのです。

スタッフの士気を向上し、精神的安定を図るため、056-aはサイト24内に限り自由な行動が許可されます。

056-aの特異性は最初に確保されておおよそ十カ月経つまで観測されることがありませんでした。

056-aはさまざまな素材を使って自身の粗雑なレプリカを作成できるとの仮説が立てられています。サイトのスタッフはこの過程を目撃できていません。どこで作成しているのかいまだ不明です。056-aはその愛らしい性質を使って周囲に偽りの安心感を与え、必要な素材を集めているのではないかと博士は推測しています。現在確認されている056-aの創造物は056-b、056-c、056-dの三体です。これらの創作物は056-aとは正反対に、人間や戦術人形に対して極めて攻撃的です。

056-b:??年?月?日、056-bは056-aとともにサイト24をさまよっているところを発見されました。対象は56-aと似たサイズ・形の自立人形でしたが、全身が人間の耳で作られています。目撃者は056-aが056-bにサイト24を案内しているようだったと報告しています。

博士と技能実習生・戦術人形混合セキキュリティチームが先に到着し、056-bを収容しようとしました。

対象は甲高い叫び声を上げ、半径十メートル以内にいた者の目と耳に激しい痛みを与えました。叫び声を聞いた者の身体に耳のような腫瘍が成長し始め、人間は二十秒足らず、戦術人形の一分足らずで全身を覆いました。この症状に侵された物は三分以内に全員死亡しました。検死により、死因は口と気管が耳のような腫瘍に覆われたことによる窒息であると判明しています。戦術人形はバックアップから復元されましたが、人間の耳を見た瞬間、激しく取り乱し始めました。メンタルの初期化を施しましたが、それでも治らなかつたため、この人形達は廃棄処分されることとなりました。今後は戦術人形ではなく、技能実習生だけで対応してください。

056-c:??年?月??日、サイト24の中庭で任務に訪れていたS13地区の戦術人形が対象を発見しました。対象の外見は056-aに似ていましたが、動きが不自然でした。056-cの中で別の何かが動いているようだと言撃した人形は語っていません。

対象は最初、何の反応も示しませんでした。身体は継ぎ目から人間の幼児に似た手と腕を伸ばし、花壇に植えられていた植物を掴みました。これを目撃した???という戦術人形が対象を射殺しようとしたのですが、056-cは甲高い叫び声をあげ、銃撃を避け、???の頭部を殴り倒させました。対象は意識を失った???を「データ削除済み」とし、???の下腹部に大きな損傷を与えました。混乱の中でセキュリティチームは056-cと

??を「データ削除済み」しようとしたが、056-cの逃走を許してしまいました。

この事件からおよそ三時間後、S13地区指揮官??が死亡しているのが発見されました。検死の結果、指揮官は中絶処置が行われており、八カ月になる胎児が消えていました。死因は麻酔なしの中絶によるショック死だと結論付けられました。

056-cを作り出すために、056-aが指揮官のまだ産まれていない子供を素材として使用したとの仮説が立てられています。

056-cの行方は現在も分かっていません。056-cを発見した場合、一人で収容を試みずすぐにセキュリティチームに通報してください。

056-d:対象は056-aに似た自立人形のようなですが、錆びたスクラップで構成されています。最初に対象を発見したのは??博士です。博士は056-b事件に関してオフィスで報告書を書いている途中でした。

??博士が大声を上げると対象は逃げ出しました。対象の追跡中、セキュリティチーム?名、作業員として使用されている技能実習生?名が死亡しました。対象は非常に攻撃的でセキュリティチームの銃火器を奪い「データ削除済み」しました。

のちの調査で錆びたスクラップに見えるものは研究用に捕獲されている鉄血ハイエンドモデル「デストロイヤー」と分かりました。収容されている独房を確認すると破壊され頭髮の一部だけを残したデストロイヤーが発見されました。

056—aが056—dを作成する際の素材にしたと思われます。

最初に目撃されて以来056—dの消息は不明です。まだサイト24のどこかにいると思われず。

056—a、056—b、056—c、056—dとの接触の際には細心の注意を払ってください。できる限り刺激せず速やかにセキュリティチームに通報してください。一般職員が制圧することは不可能です。

— どれだけ危険か十分に強調することができない。アイツらはジャンプしてかわいそうな連中の体を貫いていったんだ。遊んでいるかのようにだったよ — ??博士

「なんだこれ」

サイト24宿舎で一人の男が報告書を読んでいた。男はS13地区指揮官で部下の戦術人形と共にセキュリティチームの訓練に来ていた。予定より訓練が長引き、サイト24の厚意で泊めてもらえることになった。部屋で休んでいると部下の人形からデータが送られてきた。それが今読んでいる物である。セキュリティチームの人間が、また重い防弾ベストや面制圧を重視する装備をしていたのはもしかしてこのためか。

明日からは対ダイナゲートのノウハウを教えた方がいいのだろうか。指揮官がそう考えていると、ドアが開けられた。

ノックなしで入ってくるのは自分の部下の戦術人形だろう。注意しようと思った物のドアが開いたまま入ってこない。

指揮官はタブレット端末をベッドわきのテーブルに置き、ドアを閉めようと立ち上がる。

服の裾を捕まれたような感触を感じた。嫌な予感をかかえながらも、指揮官は足元を見た。

「アソボ、アソボ」「アソボ、アソボウ」「シキカン、アソボ」

足元には報告書に書いてあったSOPMOD II Jr. がいる。しかも三体。

指揮官は慌てて後ろに下がる。いつのまにかドアは閉まっているうえに、端末はテーブルの上にある。助けを呼べない。三体はゆっくりと迫ってくる。

耳でできている人形、何かが蠢いている人形、錆びたスクラップでできている人形。データに書いてあった056-bから056-dだろう。

このままでは終わりだ。指揮官は意を決して056-dの上を跳び越えた。ドアを開ければ助けを呼べる。

指揮官はドアを開けた。

「アソボ」

そこには056—aがいた。後ろから三体に追いつかれる。飛びかかってきた056—dに顎を殴られ、残りの二体に脚を折られる。そして、指揮官は部屋の奥に引きずりこまれていった。

056—aは音をたてないようにドアを閉め、部屋の中に入っていった。

「イツシヨニ、アソボ」

37. AK—12がSOPMOD II Jrに近づくことはどのような理由があっても許可されていません。

37—1. 去年何をしたか忘れているのか？ 覚えてるわよ。

第三十八話 AN-94「AK-12はAK-15、RPK-16と交流することはまだ許可されていません」

ここはグリフィンS13地区。今日は珍しく、雨が降っている

電話ボックスの前に一人の男が立っている。彼は電話ボックスを見て驚いている。ただし、その驚き方は骨董品を見た驚きではなく、実在するはずのない物を見たかのようだ。男は周囲を確認し、電話ボックスの扉を開け中に入る。電話ボックスには一枚の紙が貼られておりそこには電話番号が書かれている。その番号を入力する。電話が向こう側へつながる。

「変えたいものは何だ」

電話の向こうから男の声が聞こえる。声は日本語でこの辺の住民ならきつと聞き取れないだろう

唾を飲み込み、息を整え、男は願いを言う。この日のために日本語は練習してきた。

「確実に相手に伝わるように、ゆっくりと願いを述べる。」

「??????
を
??????
してほしい」

沈黙が流れる。電話は切れていないのは分かる。都市伝説ではどちらにせよなんらかの返答があると聞いていたが……。

雨音が遠くに感じられる中、男は返答が来るのを待った。

時間の経過がやけに遅く感じる。それでも男は待った。

永遠とも感じられる沈黙と遠くに聞こえる雨音だけの空間。世界から隔離されたかのような孤独感。

待ち続けていると、電話の向こうに変化があった。音は感じない。男の気配がする「分かった」

電話の向こうからそう、声が聞こえた。男の願いは聞き届けられ、電話は切れる。

緊張が途切れたのだらうか、あれ程遠かった雨音も近くに聞こえる。扉を開け、電話ボックスから出た男は大きく息を吸い込む。

隔離された世界から日常の、救いようのない世界に戻ってきたような感覚。

普段であれば決して美味しくない空気が美味しく感じられる。

基地に戻ろう。ずぶ濡れだとクリーニング代について嫌みを言われるので、持っていた傘を差そうとしたところで傘を取り落としてしまう。男は傘を拾おうとしたところでそのまま倒れてしまう。男の腹から血が染み出ている。薄れゆく意識の中、何者かに撃たれたのだと男は気づいた。見上げると、銀髪で背の高くキツイ目をした女と、同

じく銀髪でショートヘアの女がこちらを見下ろしている。

「???-??、まだ彼は生きていますよ」

話しかけられた女はとどめをさすべく足をあげ指揮官の頭を踏みつぶす。女の筋肉質だが綺麗な脚、男がみた最後の光景となった。

「こちら???-1?、グリフィンS13支部指揮官の殺害が完了しました。???-?6と戻ります」

男、グリフィンS13支部指揮官を殺害した女二人は、雨音に紛れて消えていった。

・・・?月??日、基地の宿舎

場所は変わり、ここはグリフィンS13支部基地の宿舎。

人形達がにくつろいでいる。その中の一人、AN-94はAK-12の耳掃除をしていた。戦術人形には耳垢などたまらないが、AK-12が日頃のお礼になにかしてほしいことはあるか聞いてきたので、耳掃除をさせてほしいとお願いした。こうすれば彼女と長く密着できる。掃除をしているが耳の穴まで彼女は完璧だ。

この部屋にいるのは彼女たちだけじゃない。本を読んでいる銀髪のショートヘアの女性と、筋トレをしているロングヘアの女性がいる。どちらも戦術人形だ。

ショートヘアの人形が二人を押揃う。

「女同士とはまた華がある行為ですね。きつと百合の花です。百合は猫にとつては毒と聞きますが、果たしてこの場合、どちらが猫なのでしょう。それとも猫同士の戯れなのでしょうか」

筋トレをしている方は理解できないと言った表情で感じてこちらを見ている。

「私たちは人形です。そういう関係になるなんて理解できません」

理解しようにも気が付けば彼女とはそういう関係になった。そういう物だと理解してほしい。

AK-12が不愉快になったらどうするのだ。そう思ったAN-94は文句を言うとした。

二人の声が、壊れたスピーカーから発せられたノイズ音みたいになった。

「だから????」

「?????です」

視界もモノクロになり、彼女たちの姿が見えなくなった。

最後に見たのはこちらを見上げるAK-12の姿。

「まだその時ではないわ」

そしてAN-94の視界はブラックアウトする。

・・・?月?日、基地の宿舎にて AN-94視点

場所は変わり、ここはグリフィンS13支部基地の宿舎。

「おはようAN-94。よく眠れたかしら」

その声で私は目を覚ました。静かな部屋で自分はAK-12の膝で寝ている。

起き上がろうとしたら額に手を当てられ押さえられる。彼女のひざの感触は素晴らしい。こちらを見下ろす顔も美しい。

「さつきまで??-?5と??-1?がいたはずなのに」

AK-12にその疑問をぶつけるも、彼女はそんな人形なんていないと否定する。叛逆小隊は私たち二人だけと。

「寝ぼけるなんてかわいいわね」

私は寝ぼけていたのだろうか。私が疑問を口にしようとしたとき、彼女が私にキスを

してその口を塞ぐ。

そのまま数分間、舌を絡め合う私と彼女。私の頭は蕩けてゆく。唇を離れた彼女が言う。

「寝ていいわよ。起きても私はそばにいるから」

私は眠くないと言おうとしたが、急に眠くなってきた。必死に抗おうとするが抗えない。彼女の方を見る。

「そのうち会えるわ。だからもう少し寝てなさい」

耳元でそう彼女に囁かれ、私は眠りに落ちた。

「AK—15とRPK—16ね。いつになったら会えるのかしら」

— ある会社の記録 —

?月?日：システム担当者が人形データベースに侵入された形跡があるのを発見。

??—15と??—16のデータに損傷が見られました。調査を進めたところ??国、??地

方のホテル??からアクセスしたことが判明しました。現地に調査員を向かわせたところ、アジア系の男性が宿泊していたとのこと。その男性の行方は分かっています。

この事件により、??-1?と??-6の開発に大きな遅れが生じました。

38. AK-12はAK-15、RPK-16と交流することはまだ許可されていません。

38-1. まだDJMAXコラボイベントも終わっていないのですよ。

第三十九話　グリズリー「道を間違えた時、さて……どこへ行こうかしら、ネットは広大だわ。と某少佐の台詞でごまかしてはいけません」

「指揮官出かけるの？なら乗せてってあげるよ」

「ありがとうグリズリー。タクシー呼ぶ手間が省けたわ」

ここはグリフィンS13地区。特徴がないのが特徴の地区である。当然のことながら基地も特徴がない。ゲームと変わらない標準的な基地だ。

そんな基地の執務室から今回の物語は始まる。

指揮官は執務室で依頼主との打ち合わせに行くための準備をしていた。化粧ポーチや基本的なビジネス道具から今時使わないシャープペンシルや定規にノートまで。副官のAK-12はなぜそんな時代遅れの物を持っていくのかと聞かれたが、アナログもあると便利だと指揮官は答えた。相手が持ってきた資料による説明だけでは理解して

もらえない時、分かりやすい図を紙に書いて説明すると理解してもらえることも多い。

今日はアレクサンドラピアノの教室がS13地区パブリックホールで行うピアノ発表会での警備体制について、依頼主の家で直接打ち合わせをすることになっている。

仕事をリタイアした御婦人が自宅で開いている小さな教室で、発表会も生徒の身内しか来ない規模だが警備は必要だ。数年前から、音楽を習える階層の人間というので強盗がやってくる事件が多発した。現在では小さな催しものでも警備を付けるのは必須になっている。

「じゃあAK-12、帰りは迎えに来てね」

女性指揮官は一度腕を上には伸ばす。女性らしい豊かなバストが強調される。そうして背筋を整えた指揮官は部屋を出て行った。残されたAK-12は迎えに行くときに使う車両を確認する。基地で使用可能な物に六人乗りのワゴン車があった。迎えに使用する車両を決めたAK-12は、なんとなく駐車場の監視カメラをハッキングして覗いてみた。

そこにはグリズリーが運転する車の助手席に乗り込む指揮官の姿があった。

・・・数時間後

車に乗り指定の場所に駆け付けたAK―12が見たものは、地区ごと崩壊した家屋と、定規が胸に刺さって死んでいる指揮官の姿であった。到着に時間がかかったのは、グリズリーの運転で大規模な玉突き事故が発生し、迂回しようとして道を間違えてしまったからだ。グリズリーの運転は深度演算モードでも予測しきれない。

AK―12はハッキングされた軍用人形に指示をだす。軍用人形達は指揮官を死体袋に入れ、山の方に歩いて行つた。

街は鉄血が崩壊させたことになり、復興予算は政府から出ることになるのだろうか。AK―12は崩壊した街を眺めながら一人呟く。

「さて・・・どこへ行くかうかしら、ネットは広大だわ」

図鑑 No. 096 名前 グリズリー
銃種 ハンドガン

特別收容プロトコル：現在はS13地区の戦術人形として勤務しています。

技能自習性及びグリズリー本人だけが、グリズリーが偶然運転しているあらゆる乗りに乗ることが許されています。グリズリーが運転するあらゆる乗り物の乗客の数から本人を引いた数の死体袋を準備してください。グリズリーが人口密集地域や重要施設に行く場合はその場所に医療チームを待機させてなければいけません。

追記：S13地区の指揮官にはグリズリーの特性について就任時に16LABの人間が直接伝えるようにしてください。新人の女性指揮官が知らずにグリズリーに運転を任せたところ、致命的な被害が起こりました。この被害に関して、『カバーストーリー』『鉄血人形ハイエンドモデルの襲撃』が適応されました。

あらゆる人間・自立人形はグリズリーが運転を申し出たら拒否してください。破壊的な被害が予想されません。

説明：グリズリーはI.O.P社で製造された戦術人形です。戦闘能力は他の同個体と変わりません。性格も同様です。そしてバイクなどの乗り物をほしがっています。ただ一つ他の個体と違うのはその運転技術が特異なためです。

グリズリー自身が何らかの形で操縦している乗り物に乗る個体は全て死亡します。グリズリーが運転する乗り物を回避しても別の車に跳ねられるなどして死亡しています。

このことから偶然ではなくならかの改変によりそうなっていると思われる。

奇妙なことに、グリズリーは乗り物を介するどんなアクシデントからも常に生き残っています。

グリズリー本人は事故のことを認識していますが、その後も自ら乗り物を操縦したり、人を乗せたりします。繰り返しますが、彼女には運転させないでください。

グリズリーが運転がどのようなものなのか、16LABで観測を行いました。周辺の安全を考慮し、居住区から車で二日以上かかる、放置された廃墟都市を使用しています。観測には長距離用ドローンで行い、現地での補助は技能実習生が担当します。

実験1

乗り物：普通乗用車

課題：技能実習生を後部座席に寄せ、100m先の建物の前に行く。

結果：技能実習生はGで圧死。建物は二つに分裂。

実験2

乗り物：バイク

課題：技能実習生を後部に乗せ、数回角を曲がり指定された地点に行く。
結果：技能実習生は死亡。建物が数棟倒壊。

実験3

乗り物：キックスクーター

課題：50m先に置いた物を取ってくる

結果：キックスクーターは火を噴きながらも物を回収することに成功。この際火に巻き込まれた技能実習生が死亡。

補遺：グリズリーをバイクに乗せ、鉄血の領域を通過させる計画がグリフィン社で持ちあがりました。グリズリーが帰投する際にこちらの人員が破壊に巻き込まれる可能性が指摘されたため却下されました。

39. 道を間違えた時、「さて・・・どこへ行こうかしら、ネットは広大だわ」と某少佐の台詞でごまかしてはいけません。

第四十話 PPK 「戦術人形乱交パーティーが行われた事は決してありません。そのようなイベントを覚えていると主張する人形はAK―12に記憶を書き換えられた可能性があります」

・・・グリフィンS13支部の秘密部屋

少女たちが絡み合っている。秘所をこすり合わせ、喘ぎ声を上げている。部屋は女たちの汗と愛液の混じり合った臭いがして、それが女たちの性欲を刺激する。

「ああん、いいわ、そこよ。ソコ、すごくいいわ、あぁっ」

金髪の少女は絶頂を迎え、目の前が真っ白になり、意識が途切れる。少女を絶頂させた銀髪の女はそばに置いてあったピーチジュースを飲み干し、次の相手を探しに向かった。

ここはグリフィンS13地区。特徴がないのが特徴の地区である。当然のことながら基地も特徴がない。三周年を迎えているというのにゲームと変わらない標準的な基地だ。

そんな基地の執務室から今回の物語は始まる。

夏真つ盛りで西日が差し、外は大変なことになっているがこの部屋はクーラーが効いて快適だ。指揮官と副官のAK-12とともに仕事を進めていた。現在は人形の暴走により消失したS30支部に残された品物をどうするか各支部で話し合いが進んでいる。この基地は電子機器を引き取ることになった。気化爆弾など引き受けたら基地の中で使う人形が出かねない。

この基地の人形は平気かもしれないが、指揮官は確実に死んでしまう。電子機器ならば、危険なことにはならないだろう。ジャンク品であっても人形達の誰かが欲しがらばずだ。

本社に機械部品の引き取りを希望する旨をメールで本社に伝えた。

本日中にやらなければいけないこともだいたい終わったので一息入れるかと思つたら、ドアをノックがノックされた。指揮官が入室許可を出すと一人の人形が入ってきた。

「指揮官、報告書を持ってきたわ。あたくしが直筆の報告書、きちんとみてくださるわよね」

報告書を受け取り、中身を見る。後方支援で得た物資の一覧だ。どれも大成功で、物資がいつもより多めに入ってきている。これならば装備製造に回りしてもいいだろう。「ありがとう、PPK。これで人形達の装備に回せるよ。そして君たち人形が飲む紅茶も融通しよう」

PPKはその言葉に笑みを浮かべる。指揮官から下がっていいと言われ、PPKは立ち去ろうとするが、部屋を出る直前に気になることを言った。

「AK-12、昨日のパーティー良かったわ。こんどはいつ開催するのかしら」

パーティーとはなんのことだろうか。ここ最近、パーティーが開かれたことはない。念のため端末で調べてみても開催された記録など存在しない。

AK-12の表情はいつもと変わらない。指揮官はPPKにどういふことか聞くとPPKはあつさりと答えた。

「あら、指揮官は知らなかったのかしら。AK-12が主催した戦術人形限定乱交パーティー。人形達が一心不乱に重なり合うの。女同士の終わらない快樂の宴、すごい気持

ちいいのよ。気持よすぎて死んじやうかと思つたわ〜」

PPKは陶醉した顔で語る。そのまま五分ほど語り続け、PPKは部屋を出て行った。

・・・指揮官はAK-12を見つめる。

五分ほど見つめていると、AK-12が根負けしたなどということはなく、単にめんどくさくなったのだろう、説明を始めた。

AK-12はAN-94をひざ枕し、頭を撫でていた。

何人かの人形が談話室で端末を見ながら陰謀論について語り合っている。少しすると端末を見ていた人形達が突然笑いだした。最初は無視していたが、だんだんうるさく感じてきたので、注意しようと彼女たちの方を見た。彼女たちは床をのたうち回りながら笑っている。そういうことをしそうな人形もいるが、PPKはそういうタイプではない。

嫌な予感がしたからメープルシロップを一气飲みしていたTAC-50の楓月をハッキングして端末を確認した。端末には古いイラストが表示されていてその上に文

字が書いてある。

直接目視確認したわけではないから自身は今のところ何も感じない。そう思ったら横でTAC―50が笑いだし始めた。楓月とリンクされているから直接見たことになるのだろうか。PPK達を確認すると、既に活動を停止していた。人形が笑いすぎて窒息死？

ウイルスを疑ったAK―12はサイトのサーバーをハッキングし、掲示板そのものを削除した。

活動を停止した人形達は修復施設に送り、快速修復契約を使い即時修復。再起動する前に記憶を一部書き換え、乱交パーティーを行ったことにした。

「………というわけなのよ。指揮官、私の活躍を褒めたたえていいのよ」

AK―12はドヤ顔で言う。指揮官としては使った覚えのない資源や快速修復契約の謎が分かったとともに、見たら笑い死にする画像に関して本部に報告しなければいけないという仕事ができた。どう書けばいいのだろうか、指揮官は頭を抱えた。

指揮官は頭を抱えたままAK―12にどうすべきか聞いてみたが返事はない。AK―12が使っているデスクを見たが、彼女の姿がない。時刻を確認すると夕食にちよう

どいい時間帯になっている。おそらく彼女は食堂に行ったのだろう。指揮官の自分に一言も言わずに。

「自分も飯食うか」

指揮官は備え付けの冷蔵庫から合成サンドウィッチと代用コーヒーを取り出した。

余り味のよくないサンドウィッチをこれまた余り味のよくない代用コーヒーで流し込む。

食べながら、グリフィン人間専用掲示板を流し読みする。

T16支部の指揮官が部下の人形達と一緒にバーベキューをしている写真を投稿していた。自身はそんなこと一度もやったことがない。その次はS29支部の指揮官がスコープピオンのコスプレをしながらスコープピオンと一緒に写真を撮っている。四十過ぎの大男のコスプレは夢に出てきそうだ。

そのまま流し読みしていると、写真ではなくイラストが投稿されていた。古いペイントソフトで描かれたと思われるイラストで、見ていて笑いたくなってきた。

そのイラストがAK-12の言っていた物と同じと気づいた指揮官だが、もう遅く、笑いたい衝動を抑えられない。

「アハハハッ」

息ができなくなっても指揮官は笑い続け、翌朝冷たくなった姿で発見されることとな

る。

死んでいる指揮官の顔は笑顔だった。

・・・AK―12の部屋

ベッドでAK―12とAN―94が横になっている。二人は全裸で汗まみれになっており、AN―94の首筋には噛み跡がついている。

AK―12はAN―94の髪を撫でながら今日あった出来事を話した。

「戦術人形乱交パーティーね。本当に主催してみようかしら」

AK―12のその言葉にAN―94は頭を振って否定する。愛しいAK―12が他の人形と肌を重ねるのなんてありえない。もしかして自分がAK―12を満足させることができているのだろうか。

泣きそうな目でAK―12を見つめるAN―94。

「冗談よ、あなた以外とそういう関係になるつもりはないわ」

そう言つてAN―94を抱きしめ額にキスをし、抱きしめたまま眠りについた。

40. 戦術人形乱交パーティーが行われた事は決してありません。そのようなイベントを覚えていると主張する人形はAK-12に記憶を書き換えられた可能性があります。I.O.P社でメンテナンスをしてもらいます。

40-1. 実際に行ってもいいけません。

AK—12の禁止リスト 二十一話〜四十話 キャラクター設定

世界観紹介

世界観：大体原作（ゲーム本編）と一緒

登場人物紹介

AK—12：本作のメインヒロイン。全てをこなせる顔のいい女。全ては彼女のためにある。作者は脅されているわけではない、ビタミン剤を飲まされただけ。

AN—94：AK—12の彼女。

ハッキングされた軍用人形達：AK—12にハッキングされいように使われている。死体処理から爆弾括り付けての自爆特攻、その他いろいろ。この間モップ掛けもし

てた。

指揮官たち：全員死亡

用語紹介

S13地区グリフィン基地：毎回言ってる通りこれといった特徴のない基地。作者的には原作（ゲーム本編）と同じイメージ。S13地区も特徴がないのが特徴。S13地区に特徴はない、いいね？

技能実習生：不法移民、難民などの安い命を実習生という名目で使ってる。財団でいうDクラス以下。給金は出ているが最低賃金以下。

読者の皆さん、ここはドルフロだから倫理委員会とかないんですよ。戦術人形の方が値段高い。たまに出てくる。

亜部寛：ジャパンの俳優。出演作品もだが、ホームページの読み込みが速い事で有名。元ネタは言わずもがな。字が違うのはそのままだと出していいかわからないのでちよつと変えてる。

ドール／グランドオーダー：ゲームのタイトル。周回とガチャが過酷。

16LABトワークス：→の開発・運営企業。I. O. Pの関連会社。
NEOエナジードリンク：笑顔になれる。

スプリングフィールドが入れた特別な薬が入っていないのに過労死寸前でも三時間は元気になるコーヒー：そのまま。

近未来的掃除機：この時代の掃除機。

負け犬（ヘリアン）：AK-12が来ないから大丈夫だと油断したらアル中が送られ、さらにパラデウスまでやってきて合コンで負けた。合コン関連で負け犬と言えばヘリアンのことを言う。

カバーストーリー：SCPでもおなじみ、事実と異なる情報を世間一般に流布する行為。大体鉄血のせいにしとけばなんとかなる。

I. O. P限定クッキー詰め合わせ：満面の笑みを浮かべたハーヴェル社長の顔が描かれたクッキー。食べられないことはないけど微妙な味。

第二十三回S13地区野球大会：S13地区で行われている野球大会。グリフィンが警備を担当している。日本でいう甲子園程大きいものではなく小規模でほのぼのした物。

16Lab機動部隊（“ティーパーティー”）：SCPという機動部隊。この作品では戦術人形達で構成されている。今回がコーヒーだからそれに対抗。

サイト24：ジュニアちゃんが収容されている16Labが所有する施設の名前。研究所も兼ねてる。

S13地区婦人会：この地区の婦人会。60代前後が多い。警備で大人数は派遣できないが、用心棒レベルの派遣はできる。

スプリングフィールドのカフェ：大体ゲーム本編と一緒。
バザー会場：公民館みたいな場所。住宅街にある。車では行きづらい。指揮官が拉致されたのは車の往来もある通り。

アレクサンドラピアノ教室：定年退職したアレクサンドラ婦人が自宅で開いている小さなピアノ教室。毎年近所のパブリックホールでピアノの発表会をやる。発表会は生徒の身内しか来ない。

キックスクーター：キックボードとも言われる。Googleで検索したら出てく

る。現在も存在し、一時期流行ってた。

定規：直線や曲線、角を引くために用いる文房具（Wikipediaより引用）

第二十一話 M82A1

能力や性格は大体原作とあまり変化はアリマセン。最近この基地に来た新人。指揮官と違って死にませんでした、見たものが見たものです。死んだ方がマシかもしれません。

個人的には書いてて楽しかったですし、モチーフにしたSCPも非常に面白い。神様と本物の神様を対面させてみたかった。作者的にお気に入りのお話。

SCP|3007 『二人の芸術家の世界』

<http://scp|jp.wikidot.com/scp|3007>

第二十二話 FAL

FALの掲示板回。彼女はハイセンス（自称）120円の女。

言うほどダサイですかね。個人的にあの見た目好きなんです。作者が最初に誓約したのはFALです。ちゃんとスキルも10にして金装備持たせてますよ。ネーミングセンスが最悪ですが。水着スキンのストーリー見ましたが、ネーミングセンスがダサイ。

読んではいけない雑誌を読んだ。そして9A-91も読んじやいけない雑誌を読んできました。

SCP-216-JP タブーなんてない

<http://scp.jp.wikidot.com/scp-216-jp>

第二十三話 SAF

日本で実装されてすぐに書いた。抱っこ求められるとかいいですね。暴走して徐々に暑くなるSAFです。

SCP-379 『機械フェロモン』

<http://scp.jp.wikidot.com/scp-379>

第二十四話 KLIN

KLIN is number one!

SCP-1561『暴君の託け』

<http://scp-jp.wikidot.com/scp-1561>

第二十五話 RFB

RFB：クリスマススキン。そして重度のネットゲ廃人。人間なら死ぬような長時間プレイも可能。流星は戦術人形。

亜部寛：ジャパンの俳優。出演作品もだが、ホームページの読み込みが速い事で有名。元ネタは言わずもがな。字が違うのはそのままだと出していいかわからないのでちよつと変えてる。

ドール／グランドオーダー：ゲームのタイトル。周回とガチャが過酷。

16LABトワークス：→の開発・運営企業。I.O.Pの関連会社

NEOエナジードリンク：笑顔になれる

スプリングフィールドが入れた特別な薬が入っていないのに過労死寸前でも三時間は元気になるコーヒー：そのまま

近未来的掃除機：この時代の掃除機

SCP-896 『オンラインロールプレイングゲーム』

<http://scp-jp.wikidot.com/scp-896>

第二十六話 OBR

日記形式。OBRが闇の副業をこなします。闇営業じゃないよ。

借金を還すために頑張る子。S13支部は“戦術人形には”優しいので彼女の借金は減った。

SCP-3804 『終末から来た公式声明』

<http://scp-jp.wikidot.com/scp-3804>

第二十七話 Ballista

ヘリアン合コンネタ。合コンに負けすぎてヘリアンが怪物と化してしまう。気の弱

いペットロボットどころか人間でも死ぬレベルの気迫。是非鉄血と戦ってほしい。

SCP-087 『吹き抜けた階段』

<http://scp-jp.wikidot.com/scp-087>

第二十八話 9A91

ヤンデレと言えばこの人形。ホラーテイストにしたかったです。

9A91ちゃんが少しずつ近寄ってきて最後は幸せ(9A91にとって)なキスをし
て終了。

SCP-3626 『本文書の閲覧を中止しないでください』

<http://scp-jp.wikidot.com/scp-3626>

第二十九話 A-91

SCP構文。限界アル中A-91の紹介。飲めば飲むほど強くなり、物理法則まで無視する。三周年記念ストーリーでも彼女だけ八周年なのは飲みすぎて時間の流れを無

視しているんでしょう。

SCP-1004-RU-J 『配管工』

http://scp-jp.wikidot.com/scp-1004-ru-

j

第三十話 K5

街でインチキ占いをしている。インチキ占いをしているが普通の占いもできる。『K5の占いの部屋』に出てくるK5とこのK5が同一かは不明。今回は16LABのやらかし。

SCP-1866-JP 『世界を救う仕事』

http://scp-jp.wikidot.com/scp-1866-jp

第三十一話 コルトSAA MOD

MOD化して登場。ジャンケンネタはペ○シコーラのアレです。作者は一度も勝てたことはありません。あれはほぼ負ける仕組みなのを知らずに挑んだコーラちゃん。

ついに凶行に出ます。ただまあうちはSCPとのクロスオーバーですからコルトに異常性が備わるわけで。コルトの行ったこと通りになります。

SCP—841—JP 『凄腕の探偵』

<http://scp-jp.wikidot.com/scp-841-jp>

第三十二話 一〇〇式

「やりますねえ」

この言葉から野獣先輩一〇〇式説が成立します。そういうことです。

・用語など

I. O. P 限定クッキー詰め合わせ：満面の笑みを浮かべたハーヴェル社長の顔が描かれたクッキー。食べられないことはないけど微妙な味。

第二十三回S13地区野球大会：S13地区で行われている野球大会。グリフィンが警備を担当している。日本でいう甲子園程大きいものではなく小規模でほのぼのした物。

SCP-1114514-JP 『アクセス拒否』

<http://scpsandbox.jp.wikidot.com/pisutatio>

第三十三話 89式

世界観的に白骨死体を見ても動じたりしない。ちよつとだけ論理感が薄い。原作と同じくお米派。

そしてゲロイン。今回の事件はデストロイヤーの襲撃ということにされた。

SCP-224 『振り子時計』

<http://scp-jp.wikidot.com/scp-224>

第三十四話 P90

またまたP90が登場。ちようどガチャでP90の探偵スキンを引き当てました。

犯人は別基地のP90です。特にどこかとコラボって言うのはないですね。コスプレの度が過ぎて怪しげなナイフまで使っています。書いていて楽しかったです。

SCP-034 『黒曜石儀式ナイフ』

<http://scpljp.wikidot.com/scpl034>

第三十五話 四式

漫画を連載している設定を全力でいかしました。ハードコアBLに挑戦してもらいました。今まで男同士のセ？クスシーンを書いたことなかったんですが、案外書けるものですね。そして後半の集団強姦シーン。あんな感じのも初めて書きました。おぞましいと感想をいただいたのですが、物凄く嬉しかったです。そういう風に思ってもらえたら嬉しいと思って書きましたし。

指揮官のキャラ付けは実在の役者の話を参考にしました。ちよつと生々しいので役者名は書けないです。

種付けオジサンたちはネット上でよくある種付けオジサンだと思ってもらって構いません。

用語紹介

S13地区婦人会：この地区の婦人会。60代前後が多い。警備で大人数は派遣できないが、用心棒レベルの派遣はできる。

スプリングフィールドのカフェ：大体ゲーム本編と一緒。

バザー会場：公民館みたいな場所。住宅街にある。車では行きづらい。指揮官が拉致されたのは車の往来もある通り。

第三十六話 スプリングフィールド

みんな大好き春田店長です。女の子にモテる上、コーヒーには独自の豆を使うこだわり派。その豆の製法が異常なんですよ。全部ではないけど、人間の命つて身綺麗な優秀な戦術人形より安いと思うんですよ。特にドルフロ世界情勢ならば。

今回はゲストさんをお呼びしました。サイレント室長さん、ありがとうございます。

コラボ先：ドルフロソフトM #25

優しい温もりと夢の中に包まれる・・・

<https://www.pixiv.net/novel/show.php?id=115254075>

SCP-11590-JP 『フェアトレードコーヒー』

<http://scp-jp.wikidot.com/scp-11590-jp>

第三十七話 M4 SOPMOD II

どるふるアニメ版でも出てきたジュニアちゃんがメイン。この話は最初からキ??マにしようと思つてた。書いててとっても楽しい。ジュニアちゃんがいっぱいいるよ、楽しいね。

用語紹介

技能実習生：不法移民、難民などの安い命を実習生という名目で使つてる。財団でいうDクラス以下。奥さん、ここはドルフロだから倫理委員会とかないんですよ。戦術人形の方が値段高い。

サイト24：ジュニアちゃんが収容されている16Labが所有する施設の名前。研究所も兼ねてる。

SCP-11048 『ビルダー・ベア』

<http://scp-jp.wikidot.com/scp-11048>

第三十八話 AN-94

ストーリーの最初の方に出てきたのは今度実装されるお二人。指揮官の身とか色々思うことはあるが最終的に大事なのはAK-12

SCP-646-jp 『過去改変協力者』

<http://scp-jp.wikidot.com/scp-646-jp>

第三十九話 グリズリー

ビキニとホットパンツが似合う戦術人形。タンクトップとホットパンツも似合いそう。

今回はSCP構文。グリズリーは運転が好きだから運転技術がぶっ飛んだ人と混ぜてみました。

挿絵は作者がPhotoshopで描きました。

用語紹介

アレクサンドラピアノ教室：定年退職したアレクサンドラ婦人が自宅で開いている小さなピアノ教室。毎年近所のパブリックホールでピアノの発表会をやる。発表会は生徒の身内しか来ない。

キックスクーター：キックボードとも言われる。Googleで検索したら出てくる。現在も存在し、一時期流行ってた。

定規：直線や曲線、角を引くために用いる文房具（Wikipediaより引用）

SCP|666-J 『ジエラルド博士の運転スキル』

<http://scp-jp.wikidot.com/scp-666-j>

第四十話 PPK

タイトルが文字数制限にひっかかりました。乱交パーティーなんていおうセンチテイブな物、書いたら十八禁だし、そういう疑似記憶を植え付けられたことにしました。2062年であっても陰謀論くらいあるでしょうし。

少しだけ作者が衝動的に書いたものと混ぜました。

『M1911ちゃんが気化爆弾で花火を作るお話』

<https://syosetu.org/novel/264792/>

SCP|3078 | 認識災害クソ投稿

<http://scp-jp.wikidot.com/scp-3078>

AK-12の禁止リスト 第四十一話 デザートイーグル「AK-12が戦術人形を総動員して実際の作戦をドラマ化してNetOliXで配信することは認められていません」

・・・S13地区廃墟

二人の少女が互いに武器を突きつけ合っている。片方は手入れの行き届いた金髪に後ろが長い特徴的なスカートに黒いジャケット。古典演劇の舞台に出演する役者のような雰囲気を漂わせながら相手に突きつけている武器は大の大人でも扱いに苦労しそうな大型のハンドガン。

もう一方は幼い雰囲気をするツインテールの少女で、露出度の多い黒いワンピースに機械の脚。武器は一人なら余裕で吹き飛ばせそうなグレネードランチャーだ。

二人は同時に引き金を引くが、弾は出ない。お互い弾切れなようだ。

金髪の少女、デザートイーグルは銃をホルスターに収め、こぶしを構える。ツインテールの少女、鉄血ハイエンドモデルのデストロイヤーもグレネードランチャーを置き、構える。

乾いた風が吹き、砂塵が舞う。砂埃が目に入るのを恐れたデストロイヤーが一步後ろに下がり、ひび割れたアスファルトを踏む音が響く。

その音を合図にデザートイーグルが踏み込む。デストロイヤーはデザートイーグルの拳を腕で受けたが可憐な見た目にそぐわない力に顔をゆがめる。デザートイーグルはそのまま攻撃を続ける。デストロイヤーは必死に受け流すが少しずつボディに入ってきた。双方小柄で小回りを生かす戦術もとれない。デストロイヤーはデザートイーグルが大振りになった所を好機と感じ反撃に移るも読んでいたデザートイーグルに腕を掴まれ足を払われ、うつ伏せに倒れたところを背中に強烈な一撃を受けてしまう。辺りに骨の碎ける音が響く。

「はい、カット。オツケーよ」

監督の人形がオツケーのサインを出す。デザートイーグルは椅子に座り、AN-94から差し出されたスムージージュースを受け取る。撮影が終わったのにデストロイヤーは動けない。彼女の骨が折れたシーンは本当に骨が折れているからだ。デストロ

イヤーは倒れたまま監督の人形ことAK-12に質問する。

「これで、解放してくれるよね……」

その言葉に反応したのはデザートイーグルだ。彼女は飲み物をAN-94に預け、愛銃に弾を込め、デストロイヤーに近づく。

「デストロイヤーさん、もちろん解放しますわ。グリフィンは鉄血と違ってそのあたりは律義ですよ」

デザートイーグルがスライドを引く。デストロイヤーは助けると懇願するが、デザートイーグルはダミーを使い彼女の腕を押さえつけ、デストロイヤーの頭に銃を突きつける。

「解放しますわ。撮影に協力してくださいありがとうございます」

トリガーを引き、デストロイヤーの頭部の穴が大きくなるまで連射する。辺りに五十口径特有の轟音が響き渡る。

こうしてデストロイヤーは解放された。

・・・グリフィンS13支部指揮官執務室

穏やかな春の陽気を感じながら指揮官は書類仕事に精を出していた。

ここ最近では基地の人形たちはおとなしい。変なことをしでかす人形はいない。P7とART556が自動販売機に爆発物を仕掛けるのはいつもの事であつて変とも呼べない。

せいぜい社会見学に来た子供たちの人数が行きと帰りで一致しないことくらいだろう。なぜか帰りの人数が増えていた。人口が激減する中、未来ある子供たちが増えるのは良いことだ。

ふと時計を見ると十二時を回っていた。食堂に昼食を食べに行こうと机から財布を取り出し、端末のアプリで今日のメニューをみていると、ドアが開く音がした。指揮官は嫌な予感がしつつも入ってきた人物をみた。

一人目はデザートイーグル。これはいい。彼女はお嬢様然とした物腰で、見た目だけではなく行動もまともだ。二人目はAK-12。指揮官は嫌なことが起こると確信した。

「指揮官、昼食前の貴重なお時間を取らせて申し訳ありませんが、今から聴いていただきたいお話がございますの」

デザートイーグルがそう前置きする。指揮官としては聞かざるを得ない。デザート

イーグルだけなら後で時間を作るからその時にと言えるのだが、後ろにいる顔のいい女が何をするかわからない。

「あら、指揮官も男なら、私たちのような美女と美少女のお話くらい昼食の時間を削ってでも聞いてくれるわよね」

「もう、AK-12さん。指揮官を困らせるものではありませんわよ」

頬を膨らませながらAK-12を注意するデザートイーグルのかわいさに負けたわけではないが、指揮官は彼女たちの話を聞くことにした。この子はこの子でソファアを軽々と投げ飛ばせる怪力の持ち主なのだ。

「実はわたくしが主人公のドラマを作成したのですが……」

デザートイーグルの説明を聞いた指揮官は却下した。映像だけでも見てくれと懇願され、仕方なく映像をみたが、機密事項まで映像に入っていたので却下した。デザートイーグルとAK-12に説明し、説得すること数十分。二人はなんとか納得してくれた。

「ネットメディアでも放送が決定していただだけに残念ですわ」

「そうね、代わりは猫と戯れるWA2000のコスプレをしたP90の映像でも流しておきましょう」

WA2000には気の毒だが、我慢してもらおうことにしよう。

・・・それからしばらくして

いつも通り書類仕事をしていると、AK-12が入ってきた。彼女は非番のはずだ。どうしたのか聞くと、あの後新たに脚本を書いて撮影し、短編映画を作ったそうだ。完成した映画は近くにある映画館で上映されることになったとのこと。

映画館で上映など簡単にできる物なのか疑問に思っただけで聞いてみた。彼女によると、上映予定の映画館は日本のトーキョーにあった物を移築してきたらしいが、幽霊が出ると噂され、人がほとんど入らなく潰れかけていて、交渉がとても簡単だったとのこと。客の入らない映画館にとってはグリフィンからの料金は大きい。

「そういうことよ、今夜指揮官限定で試写会するからね」

そして夜。逃げようとした指揮官だが、AK-12とデザートイーグルに見つかり、両脇を固められた。銃を持った戦術人形相手にかなうはずもなく、指揮官は映画館に連

れていかれた。そして座席に座らされ、ご丁寧にもコーラとポップコーンを手渡された。

「わたくし達は外で待っていますから、映画を楽しんでくださいませ」

二人は退室し、ドアが閉められて暗くなる。そして映画が始まる。

映画はデザートイーグルが主演で、新人の彼女が戦術人形として着実に実績を積み重ねていく物語のようだ。指揮官の役を、AN-94が演じている。グリフィンの制服がとてもし合っている。映画は指揮官がデザートイーグルの射撃を見ているところだ。

気のせいだろうか、指揮官は近くに誰かがいる気がした。

画面の中のデザートイーグルが振り返り指揮官に意見を求めるところで、指揮官は何気なく後ろを振り返った。

.....奥に何かがいる。

誰だろうか。少なくともうちの戦術人形ではない。この劇場のスタッフだろうか。映画館のスタッフにしては雰囲気がおかしい。指揮官は嫌な予感がしたが、ここはスタッフだと自分に言い聞かせて映画に集中することにした。

．．．．．男か女かわからない叫び声とする

奥にいる存在が叫び声を上げ始めた。指揮官は動かさず前を見続けた。絶対に映画館のスタッフではない。AK—12が言っていた幽霊だろうか。いやいや、そもそも幽霊などいるはずがない。

パニック状態の指揮官は、端末を起動してAK—12達に連絡することも思い浮かばない。

それでも必死に考える。奥では暴れるような音とする。指揮官はふとあることに気づく。何もしてこない。ここでじつと耐えていれば大丈夫なんじゃないだろうか。そう考えると少しだけ落ち着いてきた。やがて音が消える。

「なんだよ、なにもしてこないじゃないか」

つい声に出してしまい、後ろを振り返る。

．．．．．うしろにいる

その存在は指揮官のすぐ後ろに立っていて、指揮官の首に手を．．．．．

上映が終了してから十分ほど経過したが、指揮官は出てこない。指揮官は劇場内で待機しているか上映中に寝てしまっていると考え、中へ入っていった。

劇場内は明るい、入り口から指揮官の姿は見えない。寝ているのだと思い、指揮官が座っているであろう席に行くと、散乱したポップコーンと床に落ちたドリンクの容器、そして大量の血痕が残されており、指揮官の姿はどこにもない。

人間がこれだけの量の血を流した場合、一刻も早く処置しないと助からない。指揮官はどこへ消えたのだろうか。

「AK-12さん、これってもしかして噂の……」

デザートイーグルの眩きに、AK-12は何も答えられなかった。

・・・数ヶ月後

「ねえ45姉。あんなところに映画館があるんだね」

「正確には〃 あった〃 よ。グリフィンの指揮官があの中で行方不明になってから潰れたらしいわ」

映画館の前を通り過ぎた人形姉妹がそんな会話をしていた。

4 1・ A K—1 2 が戦術人形を総動員して実際の作戦をドラマ化して N e t O l i
x で配信することは認められていません。

4 1—1・ 架空の出来事でも駄目です。